

が改正せられたが、その要旨は左の通りである。

- 一 生産検査及び精米検査の簡易荷造を正規荷造に改めた場合、検査員の承認を廃止し、更に検査を受けなければ輸送せしめざることを
- 二 生産検査雑穀俵入の正規荷造の場合、縦繩を横繩總てに引掛けることを
- 三 黍、稗、玉蜀黍、荏及び除蟲菊の生産検査等級の四等及び五等を廢止すること
- 四 玉蜀黍の移輸出検査を施行すること
- 五 馬鈴薯移輸出検査包装を二重包装としたこと
- 六 馬鈴薯に階級（大玉、中玉、小玉）及び有効期間を定めたこと
- 七 馬鈴薯の選別を命じたこと
- 八 階級區別に對する異議あるとき

馬鈴薯に階級を定めたが検査に際し、これが區別決定に誤謬なしとは斷じ得ないから、異議あるときの再検査申請を認めることとした、この場合

その手續の他は検査等級に異議ある場合と同様である

○米穀統制團體 昭和十三年七月における米穀統制團體は代行販賣組合が百十七、代行販賣組合聯合會は北海道信用購買組合聯合會だけ、米穀商統制組合は小樽米穀商統制組合だけである。

○八雲煙草販賣所 昭和十二年九月十五日から、函館出張所區域の一部をもつて新設された。

肥料營業者の數

輸入	一〇、四五六
移出	一六、三三三
計	二六、八〇三

（昭和十一年度）

市場規則勵行要望 北海道卸賣市場協會では、昭和十三年五月十二日、札幌市において定時總會を開いたが、市場規則勵行に關し、左の決議を可決した。

本道卸賣市場規則は、國民生活必需品たる生鮮食品の合理的配給機關の重要性に鑑み制定公布せられたるものにして、現行の規則は貴重なる

經驗に基き、幾多の改竄を履み、稍、完璧に近きものたるを失はず。

而して卸賣市場業及び所屬仲買人は脊々之を遵奉し、監督官廳、亦、之に據り其の機能の發揚に善處しつゝある秋に當り、規則の根本精神に背反するが如き販賣機關の進出を見、業界の混亂を招來せんとするの情勢にあり。

吾人は當局に之を取締を要望し、嚴肅なる法規の尊嚴を保つと共に、確固不動の經濟原則の堅持に努めんことを期す。

○北支中支直通航路 小樽商工會議所では昭和十三年二月、小樽港を起點とし、本道主要港を経て北支並に中支へ直通する航路に對し、適當なる補助をされ度いと、關係廳に陳情した。

○古平煙草販賣所 昭和十二年九月十五日から廢止され、小樽出張所區域に編入された。

家畜市場振興意見 北海道畜産組合聯合會では、家畜市場の振興に關し、昭和十

三年六月、北海道廳へ左の陳情をした。

- 一 家畜市場の總括的振興策として、現狀においては販路に支障なきが如きも必然展開すべき將來の對策として府縣樞要の地に、誘導的任務を擔當する駐在員を常置し、本道馬匹の消流宣傳、紹介及び斡旋機關を設置せられ度し
- 一 家畜市場の出場成績優良なる畜産組合支部又は實行組合を表彰せられ度し
- 一 代表的家畜市場に對しその設備費（市場建設、厩舎、馬繋場、簡易宿泊所、附屬放牧場）助成の途を講ぜられ度し
- 一 牛に關する市場については將來畜牛五十二萬頭増殖に備へ、消流慣行の馴致と畜牛所有者の福利増進に資するため、道廳において毎年實施する補助牝牛購買を、樺太並に道内一般購買等も同時に施行する様、市場開設に盡力され度し

貿易

貿易

事變と貿易

輸出復活の兆見ゆ

支那事變の對支貿易へ與へた影響は大體左の通りである。

昭和十一年において輸出は六百萬圓輸入は三百萬圓で、更に同十二年は既に上半期において輸出二百八十萬圓（前年同期百七十萬圓）、輸入百十萬圓（前年同期百四十萬圓）を算し、引續き順調な推移を辿るかに見えた時、後半期の輸出最盛期に當面して日支事變の突發となつた。

輸出においては事變當時の七月中は、未だ我が帝國の戦局不擴大方針下にあつた爲、船腹獲得難に喘ぎつゝもなほ契約品の積出は順調に行はれ、輸出四十萬圓を擧げて前年同期に倍する活況を呈し、兎も角も命脈を保持したが、その後、戦火擴大し更に上海に飛火するに至つて、新規契約は勿論、既契約品も陸

揚地における荷役難と船腹不足とにより、積出中止を餘儀なくされて八、九兩月は輸出杜絶を呈し、十月には平津地方は早くも平靜に復した爲、昆布、鹽鱈等が輸出されて挽回の兆を思はせたが、十二月までに至る下半期の輸出總額は四十九萬一千圓で僅かに上半期の一割八分、前年同期の一割二分に過ぎず、實に慘憺たる記録を留めた。

昭和十三年は、一月の石油十七萬五千圓、二月における小麦粉四萬三千圓の一時的な輸出を除き、依然として不振に推移し、遂に丸太材をはじめ、支那大衆の需要を目安とする乾魚介類は事變後殆ど輸出杜絶の状態を續けたが、臨時政府の關稅改正、北支各海關の接收、冀東特殊貿易の廢止等によつて生じた好影響は三月頃より片鱗を現すに至り、更に三月末南京に維新政府の成立と共に、少額ながら

輸出の普遍的進出を招來して三月の輸出額は十八萬五千圓、前年同期の四割二分を擧げ、四月十九萬一千圓にして同じく八割六分の好調を辿り、輸出復活の機に在るを思はせるに至つた。

一方、輸入は豆粕が滿洲國の獨立後全然輸入を見ぬため、近年は専ら鞍山鐵礦石及び開平炭の二品に盡き、前者は價格昂騰により昭和十二年五月以降は輸入されず、開平炭は製鐵上不可欠の炭質を有するもので、昭和十二年七月及び十三年二月、四月に中斷した外輸入を見、これが十二年下半期の輸入額は八十二萬八千圓で、前年同期の六割二、三に達し、三月はそれより前年同期を凌駕して、輸出とはまた別個な推移を辿つたものである。

四十二年根室、更に降つて昭和十三年留萌と順次開港を見、本道六大貿易港として逐年繁盛に赴き、今日に至つた。

顧るに明治六年、僅に輸出入合計五十萬圓に過ぎなかつた對外貿易も、道内の開拓及び各種産業の發達と共に、商團も逐年擴張して輸出及び輸入共に増加し、昭和四年の如きは實に八千六百萬圓に達し、異常なる進境を示したが、爾來、世界的不況及び關稅障壁に累せられて漸減の傾向に陥り、昭和六年には三千九百六十三萬圓に激減するに至つた。然るに七年より漸次商況は回復し、輸出入總額として増加は見ないが、輸入減少、輸出増加の傾向が強く現はるゝに至つた。

即ち最近數年間における本道の貿易狀勢を概観するに、歐洲大戰當時より年々進展の一途を辿つたが、昭和四年は金解禁の結果として輸入手控の思惑及び輸出の急増となり、輸出入頗る好調を示し、海産物の需要地たる中華民國における政局の小康

と、日貨排斥運動の漸退並に本道官民の積極的努力の結果、支那、南洋、フキリツピン等において新市場の開拓を見るに至つた爲、輸出は急速に進展して同年は輸出總額四千九百萬圓に達するの活況を呈した。

昭和五年においては、金輸出解禁の斷行によつて、外國貿易は俄然梗塞不振を來し、昭和四年の輸出額に比し一千餘萬圓を減するに至り、昭和六年においては世界的不況の影響いよゝく深刻となり、更に前年の金輸出解禁による爲替動搖のため、貿易額は著しく低下を示し、加ふるに同年は滿洲事變の突發を見續いて上海事變の勃發するや、對支及び對滿輸出の海産物は全く杜絶するの狀態に陥つた。更に世界各國の關稅引上による鎖國の自衛策は、輸出貿易の一大障害となり、尙に對支貿易のみならず南洋及び歐米貿易においても輸出梗塞の悲運を見るに至つた。

禁止したる結果、對外爲替の低落に伴ひ輸出は漸く有利に轉じ、又、一般物價も昂騰して近年産業及び貿易界は漸次活況を呈するに至り、昭和十一年の輸出總額は既往の記録を破り、六千五百九十七萬餘圓に飛躍するの好調を見るに至つた。

元來本道における對外貿易は普通貿易及び漁業貿易の二であつて、普通貿易は海外諸國との一般商取引をいひ、漁業貿易は漁業用具及び食糧等を仕込み(輸出)、勘察加、オホーツク、ニコライエフスク、サガレン及び沿海州方面に出漁し、漁獲物を積載して歸航(輸入)するものであつて、普通貿易外に一系統をなす特殊のものである。

重要輸出入品別
輸出品
大豆、隱元豆、澱粉、昆布、乾鰯、海鼠、乾貝柱、鹽鱈、煉乳、蟹罐詰、鮭罐詰、鱈罐詰、鱈罐詰、魚油、除蟲菊、硫黃、薄荷腦、セメント、硫化鐵鏡、ベニア板、鐵道枕木、檜枕材、丸太及び割材類、魚粉

硝酸曹達 智利
硫酸加里 獨逸
硫酸 滿洲國
磷礦石 海峽殖民地、埃及
石炭 中華民國、佛印支那
機械類 英吉利、獨逸、亞米利加合衆國
混合飼料 滿洲國、關東州
穀類 滿洲國
豆糟 滿洲國、關東州
貿易港と主要輸出入品との關係は左の通りである、

△函館港
輸出 乾鰯、乾鱈、鹽鱈、蟹、魚粉(再輸出品)、生鮭、鱈、鱈罐詰、鹽鱈、筋子及イクラ
輸入 食鹽、生ゴム、磷礦石、豆糟
△小樽港
輸出 豌豆、隱元豆、澱粉、玉葱、乾貝柱、海鼠、煉乳、魚油、除蟲菊、薄荷腦、石炭、ベニア板、檜枕材、丸太及び割材類、魚粉
輸入 豆類、食鹽、生ゴム、機械類、豆糟、マニラヘン

△室蘭港
輸出 硫黃、石炭、木材
輸入 石炭
△釧路港
輸出 豆類、澱粉、昆布、魚油、鐵道枕木、檜枕材、魚粉
△根室港
輸出 澱粉、昆布、海鼠
△留萌港
輸出 丸太及割材

次に所謂漁業貿易は函館及び小樽港を主要港とし、就中、函館港は本貿易の策源地としてその大部分を占め、輸出品は漁網、小舟、鐵、木材、藻製品及び米その他食糧品で、輸入品は鹽鱈、鹽鱈、諸罐詰及び鮮魚等である。

五ヶ年の消長
昭和八年以降同十二年に至る五ヶ年間の貿易趨勢を次に示す。
昭和八年 輸出 三、七六、七元

貿易品の内譯
輸出 函館港 (十二年)
品名及國名 價額
馬鈴薯 關東州 一、七〇、五二
關東州 一、七〇、五二
香 關東州 一、七〇、五二
其 關東州 一、七〇、五二
昆布 關東州 一、七〇、五二
關東州 一、七〇、五二
中華 關東州 一、七〇、五二
其 關東州 一、七〇、五二
乾鰯 關東州 一、七〇、五二
關東州 一、七〇、五二
中華 關東州 一、七〇、五二
其 關東州 一、七〇、五二
海峽 關東州 一、七〇、五二
其 關東州 一、七〇、五二
香 關東州 一、七〇、五二
海峽 關東州 一、七〇、五二
比 關東州 一、七〇、五二
律 關東州 一、七〇、五二
其 關東州 一、七〇、五二
鹹 關東州 一、七〇、五二
關東州 一、七〇、五二
關東州 一、七〇、五二
關東州 一、七〇、五二

中華民國	七五、二六〇	佛蘭西	八七、九六三	再輸出品たる外國産は左の如し	
香港	五、六六〇	白耳義	一、〇五四、一三四	生鮭及び生鱒	三五五、六〇〇
其 他	一一、一四八	和 蘭	四三〇、四九一	其 他	二六三、〇〇〇
乾貝柱	一〇七、二一八	阿弗利加	一七三、三三四	鮭罐詰	九三、六〇〇
關 東 州	五、四三六	其 他	三〇五、四三三	其 他	一八、〇八八
中 華 民 國	三六、八八〇	暹 羅	一、〇七三、六八〇	英 吉 利	一、八三六
香 港	一〇、一〇七	海峽植民地	二七、三五〇	英 吉 利	一、三三〇
海峽植民地	一六、五〇三	比 律 賓	一五、四四七	英 吉 利	一、〇九六、八二二
中 華 民 國	一八、五三四	英 吉 利	一九三、六六九	獨 逸	三、三三五
香 港	三三、一六八	蘭 領 印 度	三三、一九一	亞 非 利 加	一八、四四七
滿 洲 國	一五、一五九	白 耳 義	三〇〇、八三三	其 他	一〇三、八四八
關 東 州	二四、六七五	阿 弗 利 加	七三、八八元	關 東 州	四一八、六九七
中 華 民 國	二四、八三四	其 他	五〇、八七〇	中 華 民 國	四一八、六八五
蟹 罐 詰	一、二四〇、一七三	魚 油	二六、六八〇	鹹 鮭	三
英 吉 利	五八、四六九	關 東 州	一三、八七六	關 東 州	六五、三三三
白 耳 義	四四、五九八	獨 逸	三〇、六六三	中 華 民 國	四三、六七三
北 米 合 衆 國	一〇九、五三三	其 他	三三、四一一	筋 子 及 ビ イ ク ラ	一八一、五六一
其 他	一〇三、八八四	船 舶	九三、九四四	佛 蘭 西	一五、〇五一
鮭 罐 詰	一七、〇四四、六三〇	露 領 亞 細 亞	一七、九三三	獨 逸	五、六二四
英 吉 利	一五、一六六、九〇〇	魚 粉 (鱈)	三六、〇〇〇	北 米 合 衆 國	一〇、一五七
白 耳 義	一六四、二四九	魚 粉 (其 他)	九〇、八三六	其 他	九、四一八
和 蘭	一四三、二二七	獨 逸	一五、八二二	薄 荷 腦	四〇九、六八一
濠 太 刺 利	一、一五七、〇六七	北 米 合 衆 國	七〇、八八八	其 他	三六、五一一
其 他	四三三、一七七	其 他	四、一三三	北 米 合 衆 國	一三、一七一
獨 逸	四、七三三、五八五	魚 粉 (其 他)	三三、四四五	石 炭	二、二八五、九一一
英 吉 利	一、九〇三、三三一	獨 逸	三三、四四五	其 他	七〇〇、八九四

碗豆	四、二九九、一六六	乾貝柱	二、八九六	諾 威	六四〇、八八一
英 吉 利	四、三三、九四三	關 東 州	四六六、七六七	其 他	七三、三六一
北 米 合 衆 國	六五、三二六	中 華 民 國	三九三、七三五	除 蟲 菊	一、二七三、四三三
其 他	四、三三九	海峽植民地	四九、三三八	獨 逸	三〇、三〇一
隱元豆	七、五九六	其 他	三三、八六三	北 米 合 衆 國	一、一八七、七七七
關 東 州	四、三三三、八九六	煉 乳	一、〇三〇、七一九	其 他	五九、三三三
比 律 賓	七七、三五九	關 東 州	六〇〇、五〇三	薄 荷 腦	四〇九、六八一
獨 逸	六三、九三四	暹 羅	一四三、二九四	其 他	三六、五一一
英 吉 利	三三、九三四	海峽植民地	六九、九三三	北 米 合 衆 國	一三、一七一
和 蘭	一、七〇〇、一七三	英 領 印 度	三六、〇七三	石 炭	二、二八五、九一一
北 米 合 衆 國	四七、六四三	比 律 賓	一四、〇六七	其 他	七〇〇、八九四
其 他	八八、〇三六	蘭 領 印 度	三〇、九〇三	海峽植民地	四三、五八五
濠 太 刺 利	二七、四〇八	其 他	三三、九三三	比 律 賓	一、〇九一、三〇三
滿 洲 國	一、〇九二、二二六	關 東 州	一、六八〇	其 他	四九、六二〇
關 東 州	三七八、五五五	其 他	一、四	英 吉 利	八八、一八一
中 華 民 國	五五五、四四〇	薄 荷 油	一、九四七九	南 阿 聯 邦	三、〇〇、〇九八
其 他	三三、三三七	英 吉 利	一〇、一四九	其 他	三、三二二
英 吉 利	二九、三七九	其 他	九、三三〇	南 阿 聯 邦	三、三二二
北 米 合 衆 國	一一、八九五	魚 油	一、六八九、五五五	其 他	九、五〇三
其 他	一、六八八、八九	獨 逸	二六八、九五〇	箱 用 板 (ベ ニ ア)	二八六、四七七
關 東 州	二五、七三四	英 吉 利	二六〇、九五〇	佛 領 印 度	八八、三三五
中 華 民 國	七九	其 他	六七〇、一六〇	海峽植民地	一〇〇、七五七
比 律 賓	四八、五五〇	和 蘭	三三、三二二	英 領 印 度	九三、七九五

獨 逸	四三、八九三	白 耳 義	四〇七、七四七	魚 粉 (鱈)	一、一八六、九九
和 蘭	四七、三三九	其 他	五七、三三九	中 華 民 國	一、一八六、九九
丁 抹	四三、六八三	獨 逸	三三、五九四	丸 太 及 割 材 (針 葉 樹)	一、一八六、九九
諾 威	三三、〇五七	北 米 合 衆 國	一〇九、一〇九	其 他	一、一八六、九九
北 米 合 衆 國	二五、〇四一	南 阿 聯 邦	一四、八八九	丸 太 及 割 材 (闊 葉 樹)	三六、〇〇九
南 阿 聯 邦	二九四、八四六	其 他	七五、七五一	關 東 州	一〇九、一〇九
莫 薩 尼 比 克	五三、七〇〇	中 華 民 國	一四、三九九	英 吉 利	三三、五九四
濠 太 刺 利	二五、七七六	獨 逸	七、〇〇一	白 耳 義	三三、五九四
新 西 蘭	六三、四八一	英 吉 利	一、四〇〇	和 蘭	一、四〇〇
其 他	一〇九、〇九一	其 他	五五、五九三	北 米 合 衆 國	二、四〇〇
英 吉 利	三三、〇六七	獨 逸	一、四〇〇	其 他	五五、五九三
北 米 合 衆 國	一四、八九九	關 東 州	一、四〇〇	丸 太 及 割 材 (針 葉 樹)	一、一八六、九九
南 阿 聯 邦	一、九三三	其 他	一、四〇〇	中 華 民 國	一、一八六、九九
其 他	七五、七五一	丸 太 及 割 材 (闊 葉 樹)	三六、〇〇九	魚 粉 (鱈)	一、一八六、九九
關 東 州	一〇九、一〇九	英 吉 利	三三、五九四		
中 華 民 國	一四、三九九	獨 逸	七、〇〇一		
英 吉 利	三三、五九四	白 耳 義	三三、五九四		
和 蘭	一、四〇〇	北 米 合 衆 國	二、四〇〇		
其 他	五五、五九三	其 他	五五、五九三		
丸 太 及 割 材 (針 葉 樹)	一、一八六、九九	丸 太 及 割 材 (針 葉 樹)	一、一八六、九九		
中 華 民 國	一、一八六、九九	中 華 民 國	一、一八六、九九		
魚 粉 (鱈)	一、一八六、九九	魚 粉 (鱈)	一、一八六、九九		

貿易

Table of trade data including categories like 獨逸 (Germany), 北米合衆國 (USA), 魚粉(其他) (Fish meal), etc., with values in yen.

Table of trade data including categories like 石炭 (Coal), 硫黃 (Sulfur), 獨逸 (Germany), etc., with values in yen.

Table of trade data including categories like 昆布 (Kombu), 乾鰯 (Dried salmon), 魚油 (Fish oil), etc., with values in yen.

Table of trade data including categories like 和蘭 (Netherlands), ビートパルプ (Beet pulp), 北米合衆國 (USA), etc., with values in yen.

仕向・仕出先別

昭和十二年外國貿易重要輸出入額を各仕向先及び仕出先別に示せば左の通りである。

Table of trade data by destination, including 亞細亞洲 (Asia), 滿洲 (Manchuria), 關東洲 (Kanto), etc.

Table of trade data by destination, including 英吉利 (UK), 佛蘭西 (France), 獨逸 (Germany), etc.

Table of trade data for 北洋の漁利 (North China Fishing Profit), including 函館港 (Hakodate), 小樽港 (Oshima), etc.

Table of trade data for 輸出重要品 (Export Important Goods), including 炭田 (Coal), 漁場 (Fishing grounds), etc.

北洋貿易輸出入調

品名	昭和十一年	昭和十二年
場	七、五九六、三三三	一五、九三三、七六六
同	八、二九三、〇六九	一七、〇四四、六三三
田	六、七、五九五	九、四九六
同	六、四、六四四	一、五四、九三五
田	七、六、〇八七	三三、五七五
同	七、四、七三三	一七、五九

筋子及びイクラ 二、〇三三、七九
炭 五七、八八八
石の諸品 四〇、三三四
持戻品 一、三九七、七三三

除蟲菊直輸出

除蟲菊直輸出数量は左の通りである(十二年は昭和十三年四月までの累計)

年	数量
昭和八年	一六六、〇〇〇
同 九年	二一〇、〇〇〇
同 一〇年	四〇七、〇〇〇
同 一一年	三二一、〇〇〇
同 一二年	三、四八、〇〇〇
平均	二九〇、〇〇〇

澱粉の販路

未曾有の生産を見た十二年産の澱粉は、その販路を海外に求めざるを得ない状況にあるが、昭和十二年九月以降同十三年四月までの直輸出高は次の如く十五萬二千袋に達し、前年同期の二倍近くに及んで居り、概して順調に推移してゐる。仕向先は大連が大半を占め、ボンベイが第二位にある。而して英領印度における一ヶ年の需要量は三萬噸乃至三萬二千噸であつて、大部分は綿布糊付用に使用せらるゝもので、従つて紡績工業の盛んなボンベイ地方の需要は全體の六、七割に達するものゝ如くであつて、凡て輸入品に俟つの状況である。

その種類及び割合はセーゴ(五〇%)コンスターチ(三〇%)馬鈴薯澱粉(一五%)デキストリン(五%)で馬鈴薯澱粉は我國及び和蘭、獨逸から輸入されるものである。

仕向地	数量
大連	一三、二六
營口	五、〇五
安東	六、五一
圖們	三、〇〇
ハルビン	七、七
牡丹江	一、五
新吉(局子街)	二、〇〇
延海	三、七
上海	三、〇〇
天津	三、〇〇
ボロン	三、一三
カルカタ	三、一三
ロンドン	七、七
ランズクロナ	三、〇
比較増減	一五、六〇七
前年	八、二二三
比前	七〇、四四

六港貿易順位

昭和十二年における六港の輸出入順位を示せば左の通りである。

品名	輸出	輸入
函館	三、三〇	八、六
小樽	三、一三	七、六
釧路	二、九	三、六
室蘭	二、三	三、三
根室	一、六	留萌
留萌	三、六	留萌

肥料輸入(昭和十一年度)

品名	金額
動物質肥料	一三、八八五
鯨魚搾粕	八、二二三
鯨魚搾粕末	三七、五三八
鯨魚搾粕	一一、七四五
蟹殼粕	一九、八四三
植物質肥料	九一、二三四
落花生油粕	二〇、六七五
大豆油粕	四二八、五九二

上半期は出超

昭和十三年上半期、函館、小樽、室蘭、釧路、根室、留萌の六港外国貿易高は、

品名	数量
總計	三、三三、四六六
輸出	一、八、六七四、〇九七
輸入	一、三、九八八、三〇九
出超	四、七、七六五

更にこれを六港累月計に示すと次の通りである。

品名	数量
函館港	九、三三、一七四
小樽港	一、七三、四九一
室蘭港	四、九三、二七一
計	一六、〇〇、四六六
輸出	一〇、三九、七四六
輸入	六、六四、六九四
出超	三、六九、〇五二

各港各月別に表示すれば左の通りである。

品名	数量
函館港	三、〇一、八五一
小樽港	一、〇一、〇九四
室蘭港	一、一八、四六八
計	五、〇一、〇四三
輸出	三、〇一、八五一
輸入	一、〇一、〇九四
出超	二、〇〇、七四九

各港各月別に表示すれば左の通りである。

品名	数量
一月	三、七五、二九七
二月	一、八九、七〇〇
三月	一、〇八、二四七
四月	二、七五、二九七
五月	一、八九、七〇〇
六月	一、〇八、二四七
計	一三、〇六、五八七
輸出	七、〇一、〇九四
輸入	三、〇一、八五一
出超	三、九九、二四三

昭和十三年上半年、函館、小樽、室蘭、釧路、根室、留萌の六港外貿易船舶の出入状況は

月	出港	入港	出港	入港
四月	輸出 二〇、四七三	輸入 二〇、四七三	輸出 二〇、四七三	輸入 二〇、四七三
五月	輸出 二〇、四七三	輸入 二〇、四七三	輸出 二〇、四七三	輸入 二〇、四七三
六月	輸出 二〇、四七三	輸入 二〇、四七三	輸出 二〇、四七三	輸入 二〇、四七三
合計	輸出 六〇、四一三	輸入 六〇、四一三	輸出 六〇、四一三	輸入 六〇、四一三

前半船舶出入

月	出港	入港	出港	入港
一月	輸出 二〇、四七三	輸入 二〇、四七三	輸出 二〇、四七三	輸入 二〇、四七三
二月	輸出 二〇、四七三	輸入 二〇、四七三	輸出 二〇、四七三	輸入 二〇、四七三
三月	輸出 二〇、四七三	輸入 二〇、四七三	輸出 二〇、四七三	輸入 二〇、四七三
四月	輸出 二〇、四七三	輸入 二〇、四七三	輸出 二〇、四七三	輸入 二〇、四七三
五月	輸出 二〇、四七三	輸入 二〇、四七三	輸出 二〇、四七三	輸入 二〇、四七三
六月	輸出 二〇、四七三	輸入 二〇、四七三	輸出 二〇、四七三	輸入 二〇、四七三
合計	輸出 一二〇、二八三	輸入 一二〇、二八三	輸出 一二〇、二八三	輸入 一二〇、二八三

月	出港	入港	出港	入港
二月	輸出 二〇、四七三	輸入 二〇、四七三	輸出 二〇、四七三	輸入 二〇、四七三
三月	輸出 二〇、四七三	輸入 二〇、四七三	輸出 二〇、四七三	輸入 二〇、四七三
四月	輸出 二〇、四七三	輸入 二〇、四七三	輸出 二〇、四七三	輸入 二〇、四七三
五月	輸出 二〇、四七三	輸入 二〇、四七三	輸出 二〇、四七三	輸入 二〇、四七三
六月	輸出 二〇、四七三	輸入 二〇、四七三	輸出 二〇、四七三	輸入 二〇、四七三
合計	輸出 一二〇、二八三	輸入 一二〇、二八三	輸出 一二〇、二八三	輸入 一二〇、二八三

重要輸入品三箇年貿易額

品名	昭和一〇年		昭和一一年		昭和一二一年	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額
豆類	八三、一六三	一、八〇、三五	七三、二三三	一、三三、四六	四八、八八	一、四三、九八
生ゴ	一〇、〇四	一、二四、五七	一、二四、五七	一、二四、五七	一、二四、五七	一、二四、五七
硝酸曹達	一〇、〇四	一、二四、五七	一〇、〇四	一、二四、五七	一〇、〇四	一、二四、五七
硫酸加里	一〇、〇四	一、二四、五七	一〇、〇四	一、二四、五七	一〇、〇四	一、二四、五七
硫磺	一〇、〇四	一、二四、五七	一〇、〇四	一、二四、五七	一〇、〇四	一、二四、五七
燐石	一〇、〇四	一、二四、五七	一〇、〇四	一、二四、五七	一〇、〇四	一、二四、五七
石炭	一〇、〇四	一、二四、五七	一〇、〇四	一、二四、五七	一〇、〇四	一、二四、五七
機械類	一〇、〇四	一、二四、五七	一〇、〇四	一、二四、五七	一〇、〇四	一、二四、五七
混合飼料	一〇、〇四	一、二四、五七	一〇、〇四	一、二四、五七	一〇、〇四	一、二四、五七
穀類	一〇、〇四	一、二四、五七	一〇、〇四	一、二四、五七	一〇、〇四	一、二四、五七

港別に見た貿易船舶

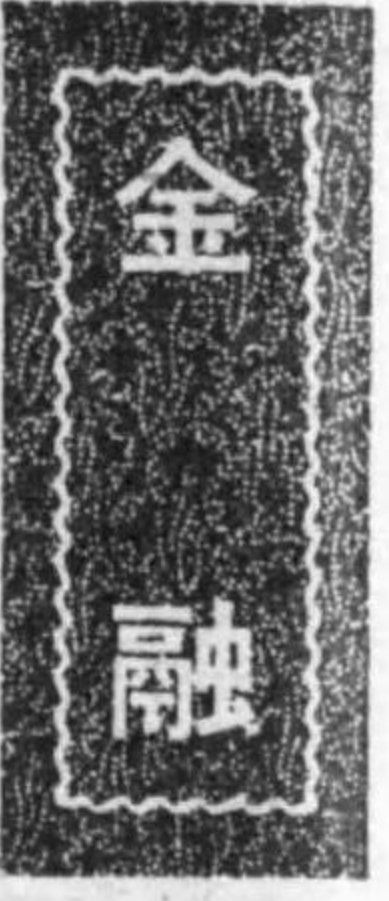
港名	昭和一〇年		昭和一一年		昭和一二一年	
	隻数	噸数	隻数	噸数	隻数	噸数
函館港	二五	六、七、九	二五	六、七、九	二五	六、七、九
小樽港	二五	六、七、九	二五	六、七、九	二五	六、七、九
室蘭港	二五	六、七、九	二五	六、七、九	二五	六、七、九
釧路港	二五	六、七、九	二五	六、七、九	二五	六、七、九
根室港	二五	六、七、九	二五	六、七、九	二五	六、七、九
留萌港	二五	六、七、九	二五	六、七、九	二五	六、七、九
合計	一五〇	一、五〇〇	一五〇	一、五〇〇	一五〇	一、五〇〇

梅太千島へは
郵船で

小樽惠須取急行便(梅太西海岸廻)
西館青森小樽大泊真岡線
西館北千島線

管口丸
花咲丸
使用船五隻

近海郵船



財界頗る活況

統後の經營強化す

本道は今尚、開拓の道程にあるため、經濟事情は未だに内國植民地の域を脱しない。よつて大いに資本と努力を移入して、これが開發を圖るは刻下の急務である。就中、資金の充實は事業の勃興と發展を促進せしめ、施設を整備完成せしむる原動力であるから最も急を要するものである。即ちその金融機關の中樞は銀行にして、移動資金の大部分を取扱ひ、經濟界の活動を左右し、その他、無盡會社、信用組合、質屋等の庶民金融機關は傍系機關として銀行の金融的機能を補充し、又、國家公共團體等の資金運用、例へば大藏省預金部資金の融通及び簡易保險積立金の貸付等は、専ら公共的な公益金融として特筆すべきも

金 融

のである。上記の各種金融機關體系は、先には北海道殖産銀行の設立により、後には歐洲大戰當時における産業經濟界の躍進的發展に促されて著しく整ひ、全道各地に金融機關網が張られ、地方的産業の發達及び地方經濟界の開發に寄與せるもの尠くはない。由來本道はその經濟的事情に應じ、各種事業企畫の旺盛なるものあり、農工商及び水産業各方面の資金需要は年々漸増しつつある。而して現在において不動産、漁業權、工場財團及び鐵道財團等を抵當とする長期資金は専ら北海道殖産銀行の供給に俟ち、短期商業資金は各地普通銀行、北海道殖産銀行及び無盡會社等がこれに應じてゐる。金融調節は地方的事情によつて相違はあるが、鯨漁業及び遠洋漁業等の著業仕込資金、即ち漁業資金、肥料、薄荷及び雜穀等の農業資金、或は造材資金並に本道特殊事業資金(製紙、石炭、麥酒及び製麻)等を通じ、大體八、九月より翌年四、五月

頃までが金融の繁忙期である。而して金利は府縣に比較してやゝ高率である。尙、北海道殖産銀行が株主總會に報告した昭和十三年上半期の經濟概況は次の如くである。本道及び樺太經濟界も初期以來、軍需産業は活況を續け、一般物價は騰貴し、外國貿易は前年同期に比し輸出減少輸入増加を見たが、金融界にあつては貯蓄運動着々と成果を收め、預金の増勢著しく、公債の消化頗る良好となり、他方、資金の需要漸増し、好況裏に越期することが出來た。

漁業界 近年衰頹の一途をたどる春鯨漁業は、本年漁獲高僅に一萬八千石で、始ど皆無に等しく、樺太の漁獲も九萬餘石に過ぎなかつたので、古來地方漁界の王座を占めた斯業も、今や昔日の面影なく、鯨漁業も前年に比し著しく不振を呈し、たゞ、沿岸鮭鱒等は各地とも概して豊漁を見、一方、海洋漁業も好況で、露領沿岸、公海、北千島方面等いづれも前年に優る成績を

農産界 本道樺太ともに融雪期早く播付順調にして、その後、一部に降霜、暴風等あつたが、被害は比較的輕く、又、農家は全力を擧げて統後の經營に努め、あるので、努力の不足も著しき支障を惹起することもない。なほ、畜産界は時局の影響により、馬匹の價格昂騰し、頗る活況を呈してゐる。

木材界 樺太材積出は初航以來期初までに五十四萬石、前年同期に比し二十六萬石の減少で、相場は概して強調を待し、又、道産材はバルブ用坑木用等の増加により、市價昂騰し、消化良好であるが、たゞ輸出ナラ材は前年の活況に反し、仕向先英國との商談振はず、積出減少してゐる。

鑛業界 引續盛況で、就中炭鑛業は事變の進展に伴ふ需要の激増に應ぜんがため、道内及び樺太各礦山いづれも設備の擴張、努力の増加に腐心しつつあり、又、採金、硫黄その他の鑛業も好況である、更に工業界に

四〇九

あつては軍需関係諸工業、バルブ工業等引續き活潑にして、醸造業、乳製品工業、罐詰工業も成績悪からず、只、非軍需工業中には、例へばゴム工業の如き、原料配給減により、操短の止むなきに至りたるものある。

輸出 金融方面について見ると、當期中の本道及び樺太對外貿易は輸出二千五百五萬三千圓、輸入二千二百九十五萬二千圓で、これを前年同期に比べれば、前者は二二・七%の減少、後者は四四・六%の増加となり、從來常に輸出超過をもつて推移せる道樺貿易も、こゝに初めて入超を見るに至つた、然して輸出不振の原因は、一方諸外國の不況による購買力減退及び對日感情悪化に基く取引手控へと、他方、國內諸物價の昂騰に伴ふ關係、商品相場の上り等で、輸出減少の主なるものは、歐米向豆類、支那向水産物、魚油、魚粉木材等であるが、輸入の増加は各種軍需資材の購入増加によるものである。

ひ、資金取扱高増加し、貯蓄運動の進行に伴ひ、預金激増し、期中道内五市(札幌、函館、小樽、旭川、室蘭)手形交換高は枚數六九八〇九五枚、金額六〇六、六五三、二七三圓にして、前年同期に比しそれ〇・五・三八〇%の増加となり、期末道樺銀行預金高は四五〇、九三三、〇〇〇圓にして、前年同期末に比し一五・八%の増加に當り、一方、期末道樺銀行貸出残高は四〇四、七六六、〇〇〇圓にして、前年同期末に比し八・五%の増加に當る、尙、期末道樺郵便貯金残高は一三四、八八二、〇五五圓で、前年同期末に比し一八・八%の増加を示した。

組合銀行残高

Table with 2 columns: 預金, 貸出. Rows for 札幌, 函館, 小樽, 旭川, 釧路, 根室, 野付牛, 室蘭.

負債整理の爲め特別融通をする

昭和十三年、政府は、農村負債整理の目的で、資金の特別融通をなすことに決し、農村の金融機關としての北海道拓殖銀行を通して融通することになつたから、現在、他から高利で、土地を抵當にして借入れてある向きは、年四分一厘の本資金を簡單な手續で借替が出来ることになつた借入資格は

- 一 農山漁村に居住せる者
二 現在の負債は昭和十二年十一月三十日以前に生じた田畑宅地等の不動産を擔保として在るものに限る
三 負債整理組合員又は組合に加入してゐないが負債整理につき長官の承認を受けた者
貸付條件は
一 一人の貸付金額は五千圓まで、負債整理組合員は組合よりの借入金と合して五千圓以内
二 利率は年四分一厘
三 原則として二十年以内の年賦償還
本資金の年賦償還金高を表示する、但しこの表は金一千圓の分だから、二千圓の場合は二倍、五千圓の場合は五倍にすることになる。
五ヶ年賦 二二三・二四
六ヶ年賦 一八九・七〇
七ヶ年賦 一六五・八八
八ヶ年賦 一四七・八八
九ヶ年賦 一三四・〇〇
一〇ヶ年賦 一二二・九〇
一一ヶ年賦 一〇一・三・八六

Table with 2 columns: 同, 同. Rows for 一二, 一三, 一四, 一五, 一六, 一七, 一八, 一九, 二〇.

市では各組合銀行において交換の業務を執つてゐる。その業績を見るに、商取引の繁榮は逐年交換高の増加を齎し、小樽、函館、札幌、旭川、室蘭の各手形交換所における昭和十二年中の交換高は百四十五萬三千四百七十七枚、金額十二億四千四百九十一萬六千六百圓にして、これを前年に較べると、枚數は七萬八百四十二枚、金額は二億七千三百五十九萬四千八百八十二圓を何れも激増し、經濟界の活況を示してゐる。

恩給 金庫出張所

北海道、樺太を地區とする恩給金庫出張所は、昭和十三年七月一日から小樽市に開設され、初代出張長として江口實氏が任命された。

銀行勘定(十三年六月末)

Table with 2 columns: 定期預金, 當座預金. Values: 二四四、〇八六, 五七、〇〇五.

簡易保險の普及が目立つ

本道の簡易保險契約高は左表の如く、昭和十三年三月末現在で、件數百貳拾七萬件、保險金額約一億九千七百萬圓に達し、その普及状況は、人口千人當り四百九人、一世帶當り保險

Table with 2 columns: 加入者人口千人比, 保險金額. Rows for 石狩, 渡島, 檜山, 後志, 空知, 上川, 留萌, 宗谷, 網走.

手形の交換高

手形交換所は、大正二年函館及び小樽兩市に設置されたるをはじめとし、同五年には札幌市に、同九年には旭川市に、更に昭和三年には室蘭市に設置され、又この外、釧路及び帯廣兩

不動産 一〇三、二八〇
信用 一八四、〇八三
計 三六〇、五五九
— 昭和十二年末 —

海産物資金の貸出残高

合計 一一、一一八
魚肥 食料品 其他
倉庫證券 九八、一八五
荷爲替 九三三、二四六
其他 六三三、四七三
計 二、四六九、四七三
(昭和十二年十二月末現在)

擔保別貸出

三市組合銀行
十三年六月末
商 品 小樽 札幌 旭川
有價證券 六、〇九〇
國債 五二六
株券 五、五三三
其他 二、〇〇一
債權證書 一、九四四

爲替の取扱高

銀行爲替の取扱高は、産業の進展と商取引の繁盛によつて逐年増加の趨勢にあるが、近年不振を示せる金融界においては、之等の銀行業務にも影響を及ぼし、久しく沈滞の状態を續けて来たが、昭和七年以降漸く活氣を帯び、茲にも一般經濟界好轉の兆を見る事が出来る。昭和十一年中、爲替を通じて道外に流出せる金高は、
送金爲替 三九五、八五六
普通電信 三三三、二〇〇
割引手形 九六、三〇三
荷付爲替手形 一七、四八三
其他 一六、八九四

手形交換(十三年)

次に爲替を通じて道内に流入せる金高を示す。
送金爲替 三九一、六九七
普通電信 三九七、七〇四
割引手形 九五、〇二八
荷付爲替手形 一三、九三三
其他 一九六、九三三
計 九三三、一三五
小樽 二七四、〇〇五
函館 一八四、八九〇
札幌 一六三、〇三三
旭川 六六、九七四
室蘭 四三、三三三
計 七三二、一三七
小兒保險契約
札幌選信局管内の昭和十三年三月末現在、小兒保險は契約二十四萬二千四百六十三件、この金額三千三百七十九萬二千五百二十二圓であつた。

郵便年金(十三年)

即時
掛金額 一、六五四、九三五
年金額 一二〇、七五二
据置一時拂 五、四九五
掛金額 一、四八三、三六一
年金額 三五五、五五〇
据置分割拂 六、八四五
掛金額 三〇四、四〇七
年金額 九一三、二四二
計 一三、四六三
契約件數 三、四四二、七〇三
掛金額 一、三八九、五四四
一件平均年金額 一〇三、二二
人口一萬人ニ對スル件數割合 四二、四一
〇海産物の荷爲替 昭和十二年
中における海産物の荷爲替取組高左の通り。
道内仕向 一、〇五〇、〇〇〇
道外仕向 三、七九七、〇〇〇
計 四、八四七、〇〇〇
簡易生命保險

組合銀行職業別貸出

— 昭和十三年四月末 —
契約件數 一、四七、七六六
保險料 一、〇六五、四〇一
保險金額 三二四、三二、一五五
米 雜穀 商 小樽 札幌 旭川
肥料、海産物商 五、三三九
砂糖、麥粉商 四、〇〇六
織物、洋品商 一、五〇一
金物、漁具商 三、五七二
木材商、製材業 一、七、二二二
電氣業 一、〇八四
釀造業 一、九八〇
金屬機械工業 四、八八元
諸製造工業 六、五五五
水産業 一、三六六
倉庫運輸業 八、五八四
倉庫業 二、七四九
金融業 四、三三四
證券業 一、六二〇
公共團體、組合 一、三三九
官吏、會社員 五、五五九
雜貨、荒物商 三、二五三
請負業 一、七、五二九
其他 一、八、〇四八
計 九三、〇九五
— 昭和十三年六月末現在 —

組合銀行手形交換

〇銀行出入金額 本道各銀行における既往の出入金額は、大正四年を最高として以後は漸減の一路を辿りつゝ、あつたが、昭和八年來や、頽勢を挽回し、昭和九年においては近年に例なき活況を示し、昭和十一年においては出入金額は六百七十九萬餘圓の入金超過となつてゐる。
〇小額紙幣の引換 大藏省令第廿二號(昭和十三年六月一日公布)小額紙幣發行及び引換規程
昭和九年 同一〇年 同一一年 同一二年
小樽 枚數 四四〇、六一四 四七七、八五〇 四八二、五七七 五〇五、八〇五
函館 枚數 三三七、一四一 四一四、三三三 四七八、七三三 六四〇、六四〇
札幌 枚數 三三三、三三三 三六四、六九八 三八八、六六七 三九八、二二二
旭川 枚數 二〇四、七七五 二二二、七四七、八〇六 二四三、四三六、〇〇〇 二八八、六三三、〇三三
室蘭 枚數 一三三、〇八八 一三三、五九六、三三三 一七四、四三二、四三二 二二二、七〇八、五五五
計 枚數 一、二四九、九五五 一、三三三、〇三三 一、三八二、三三三 一、四五三、一四七
金額 七四、八四〇、九五三 八二四、二四一、五七六 九七二、三三三、八八四 一、三四九、九〇、〇三六

色彩等に依り真正の小額紙幣と認めたるもの亦同じ
 小額紙幣の細片を合し其の各片相吻合し又は吻合せざるも同一紙幣の紙片なることを認めたるものに付ては前項の規定を適用す
 前二項に該当するものと雖も紙質又は色彩の變化其の他の原因に依り眞偽鑑定し難きものは之が引換を爲さず

○臨時通貨法 法律第八十六號(昭和十三年五月卅一日公布)
 第二條 臨時補助貨幣の種類は十錢、五錢、一錢の三種とす
 第三條 十錢及び五錢の臨時補助貨幣は五圓まで、一錢の臨時補助貨幣は一圓までを限り法貨として通用す
 第五條 政府は必要ある時は臨時補助貨幣の外五十錢の小額紙幣を發行することを得
 小額紙幣は十圓までを限り法貨として通用す
 ○府縣より金利高し 本道における預金及び貸金の趨勢は、財界の變動によつて時に消長はあつたが、道内産業の振興並に經

全道内各地銀行預金殘高

計	八年末	九年末	一〇年末	一一年末	一二年末
定期預金	一六、三六一	一九、一七七	二〇、三〇八	二四、五五三	三〇、三〇六
當座預金	三、四九五	四、〇一六	三、五四二	三、九六五	五、二七九
特當、貯蓄預金	七、〇四六	七、七三〇	九、五六一	八、四三三	一〇、九五四
通知預金	四、五三三	六、六二九	四、九一一	五、一一一	七、四三七
其他	一〇、七〇四	九、五二六	一一、〇二五	一一、五〇五	一、三六三
計	三九、〇四二	四七、一七〇	五〇、一六六	五二、四六六	五五、八二七

全道内各地銀行貸付殘高

計	八年末	九年末	一〇年末	一一年末	一二年末
證券貸付	一六四、一六〇	一五八、七五一	一五二、四四五	一五二、九六六	一四六、一八九
手形貸付	七〇、七二五	七〇、一八七	六八、一〇九	七〇、三二九	八四、四五三
當座貸越	一七、九六六	二〇、四五二	三三、六六一	二四、四四四	二四、五〇三
割引手形	五七、七〇一	六五、〇〇九	七三、三三四	六六、九二三	九六、一三六
荷爲替手形	七、七七七	六、九六三	六、五〇八	八、八五八	九、二九〇
計	三〇五、三三〇	三二二、一六一	三三四、七六七	三三九、四三七	三六〇、五五九

濟界の進展に伴つて増加を示し、昭和十一年末の預金及び貸金殘高を昭和元年末と比較する時は、前者は約一・七倍、後者は一・二倍に當る。更に第一期拓殖計畫樹立當初の明治四十二年末と比較すれば、實に前者は

約十五・二倍、後者は約十六倍の増加であつて、本道拓殖事業の發展と富力増進の一面を窮ふことが出来る。而して本道は尙、拓殖民事業の道程にあるをもつて、投資の事業多く、従つてこれが資金の需要頻繁なる

ため、常に預金に比し貸金超過の趨勢であつて、その利率の如きも最近概して中央の狀態に追隨し、やゝ低下の歩調を辿つてはゐるが、府縣に比しては尙、高率なるを免れない狀態である。

契約高 貳仟八百萬圓

小樽無盡株式會社

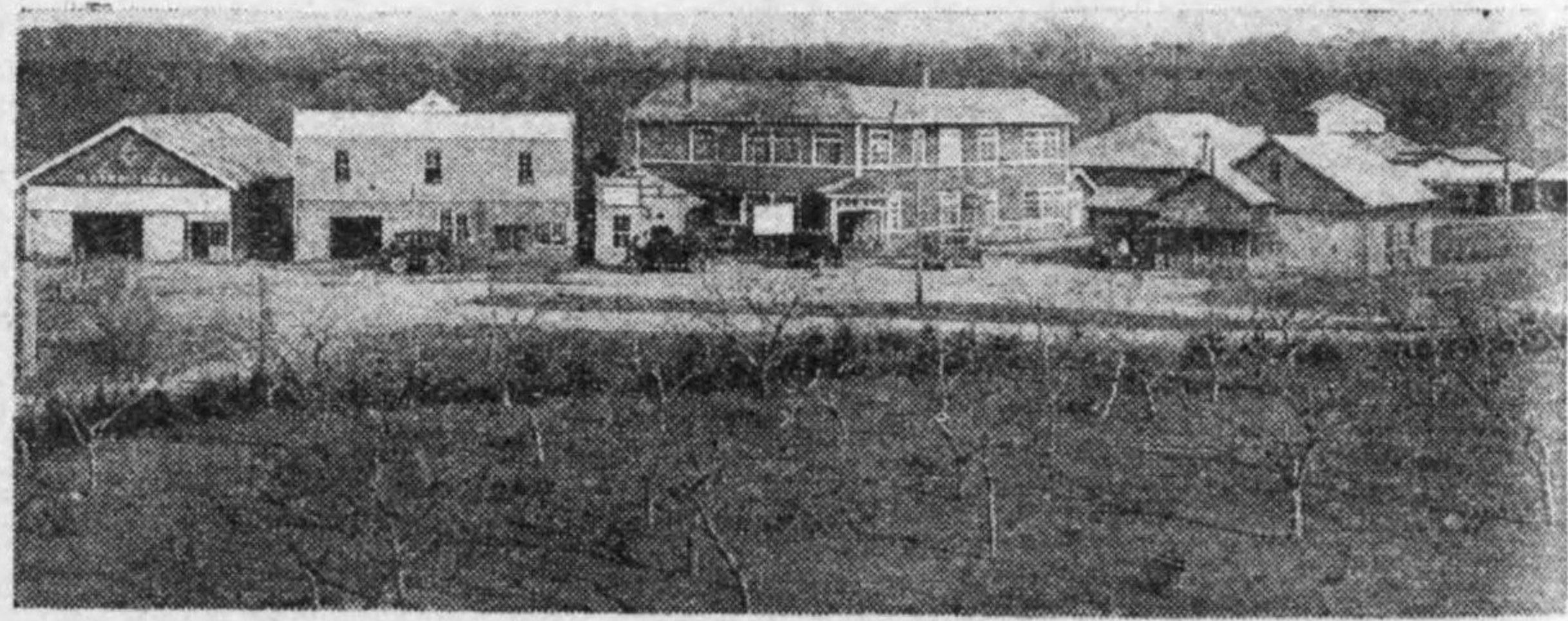
小樽市花園町西三丁目一番地
 代表電話三七六〇番
 支店 札幌・室蘭・瀧川
 旭川・深川・苫小牧・岩見澤・江別・余市・壽
 出張所 都・夕張・岩内・當別・幌泉
 代理店 俱知安・黒松内・栗山・上砂川

虻田郡喜茂別村

保證責任喜茂別信用購買利用組合

組合長理事 遠藤昌光

北海道道廳認可 北海道協立自動車學校



本社營業所 東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地 電話牛込(34)代表二五二〇番
 櫻町營業所 東京市牛込區櫻町七番地 電話牛込(34)代表二四四〇番
 銀座活字 東京市京橋區銀座七丁目四番地 電話銀座(57)代表〇〇七四番
 販賣店



大日本印刷株式會社

大阪出張所 大阪市北區西堀川町三四
 神戶代理店 神戶市神戶區榮町四丁目三六
 滿洲國代理店 奉天市鐵西區中央路二二

物價

物價を調整す

委員會の活動

北海道地方物價委員會では昭和十三年七月、物價調整委員會を開き、小賣物價最高價格決定のため、左の方針によつて物價調査をなすことに決めた。

一 調査擔當機關
 イ 市、商會議所、市役所、各種組合、商工團體、百貨店
 ロ 町村商工會、町村役場、各種組合、商工團體
 ニ 調査品目
 イ 中央物價委員會及び北海道地方物價委員會決定品目
 ロ 市 現行物價調査(卸賣小賣共)
 ハ 町村 四十種(小賣)
 三 調査方法
 イ 時期 卸賣一、日十一日、

二十一日、各一日の平均價格、小賣毎月十六日現在
 ロ 調査先 信用ある卸賣業者乃至小賣業者
 四 調査員
 商會議所、市役所、商工會及び各種商工團體の關係者を物價調査員に任命し夫々調査せしむ

北海道地方物價委員會の委員は昭和十三年六月十四日左の通り發表された。

△會長
 北海道廳長官 石黒 英彦
 △委員
 北海道廳經濟部長 遠山信一郎
 北海道廳警察部長 土肥 米之
 北海道帝國大學名譽教授 高岡 熊雄
 第七師團理部主計中佐 中村定治郎
 北海道會議長 村上 元吉
 札幌市長 三澤 寛一
 北海道町村會會長

物 價

吉田 寛一

岡田 信

大瀧甚太郎

小林米三郎

小林 篤一

岩崎國治郎

阿部 良夫

五十嵐康二

家庭燃料問題

北海道地方物價委員會では、昭和十三年七月、家庭用燃料炭價問題に關し、燃料専門委員會を開いた結果、左の通り可決した。

家庭用燃料石炭の價格に關し當専門委員會は、昭和石炭株式會社の揭示に係る左の如き引下價格を審議の結果、四圍の狀態に鑑み、これが實施は止むを得ざるものと認む、尙、

各種専門委員會

北海道地方物價委員會は、燃料専門委員會、食料専門委員會、縫維品専門委員會、化學工業専門委員會、雜品専門委員會、金屬品専門委員會等の部門にわかれて物價調整について研究、それら意見を定むるところあつた。

最高販賣價格

北海道地方物價委員會は七月三十日札幌市に開催され、各専門委員會の答申に基き審議の結果、綿製品二十三品目、麻製品百十二品目、皮革製品十九品目、工業藥品十一品目、ゴム製品十五品目、金屬品八十四品目の本道標準最高販賣價格を決定したが、これを中央標準價格と比較すれば、大體同値で、安値のものには綿製品十七品目、皮革製品十一品目で、なほゴム長靴及び軍手は、本道の特殊事情を考慮し、新たに規格を追加し、それぞれ決定を見た。

期米相場(小樽中物)

昭和三	三・八八	昭和八	三・〇〇
同	四・三五	同	九・三三
同	五・三〇	昭一〇	六・六六
昭	六・七六	同	二・七三
同	七・三〇	同	三・二七

農作備貸銀

事變勃發以後、勞力不足に伴

つて著しい賃銀の昂騰を見たが、これは一時的の現象と稱すべく、よつて、昭和十一年度の農業労働状況を紹介する。

常備賃銀 賄付の年額賃銀について調査したもので、雇傭期間に主として四月より十一月までのもの多く、その賃銀は全道平均男一人當り百四十八圓、女一人當り八十七圓を示してゐる。これを支廳市別に見ると男では宗谷の二百五圓最高を示し小樽市の百八十七圓、釧路國の百七十五圓、上川の百六十九圓これに亞ぎ、帶廣市の百二十圓、石狩の百二十二圓、釧路の百二十四圓が低位を示し、女では宗谷の百十八圓、上川の百十二圓、釧路國の百六圓高額を示し、空知の九十七圓、網走の九十五圓、十勝の九十四圓これに亞ぎ、石狩、渡島、膽振の七十九圓、根室、旭川市の七十五圓、檜山の七十四圓が低位で、室蘭市の六十圓が最低を示してゐる。尙、契約金額支拂の外に、三圓乃至二十圓程度の現金或は現物を盆、正月等に給與する地方が多

い。
季節備貸銀 農作業の繁閑に依り、各季節間に賃銀の高低あるのは當然で、全道平均では男において春十九圓三十六錢、夏十九圓六十九錢、秋二十一圓二十五錢、冬十三圓九十二錢、女では春十二圓九十三錢、夏十二圓八十二錢、秋十四圓十二錢、冬八圓三十七錢で、男女とも秋の收穫期が最も高額を示してゐる。又平均を見ると男では十八圓五十三錢、女では十二圓十二圓五分内外低い。

尙、本雇傭において 十勝、釧路國支廳管内には契約賃銀の外に、契約終了後二圓乃至三圓の衣類その他の物品或は現金を給與する慣行が存してゐる。
日備賃銀 賄なし日額を四季別に見ると、男では春一圓二十二錢、夏一圓二十一錢、秋一圓二十七錢、冬一圓四錢、女では春、夏八十二錢、秋八十五錢、冬六十五錢にて秋、夏最も高く、四季平均にては男一圓十八錢、女七十九錢で、兩者の差額は六

體秀節備の場合と同じ割合を示してゐる。

尙、支廳市別に見ると、男では釧路市の一圓五十錢、宗谷の一圓二十七錢、小樽市の一圓二十五錢、上川の一圓二十一圓二十五錢を示し、旭川、膽振、檜山の一圓八錢、後志の一圓五錢が低位にあり、女では空知の九十一圓、網走の九十圓、上川の八十九圓、留萌の八十八圓高額を示し、渡島の六十八圓、旭川市の六十三圓が低位にある。

労働者使用 家族従業者の労働能力のみをもつてしては、自己經營の農作業を自足し得ぬため、雇傭労働者の使用を必要とする農家につき、本雇傭労働者を一人、二人、三人及び四人以上を使用する農家戸數、後者を三十八日以内、三十日以上、五十日以上及び百人以上以上の延農業労働日數を使用する農家數とに細分して見るに、先づ常備を使用する戸數は全道で一萬六千九百七十戸にして、この内譯は一人使用一萬二千三百六十

五戸、二人使用三千二百一戸、三人使用は千八百八戸、四人以上を使用する農家戸數は二百九十六戸で、一人使用のものは最も多く、全體の七割三分を占めてゐる。これを支廳別に見ると上川の四千八百八十三戸が最高で、十勝の二千八百九十三戸、空知の二千七百二戸これに亞ぎ、檜山、宗谷の百三十六戸、根室の百十戸が少い。

農業労働従事者 常備に従事する戸數は全道合計一萬七千三百三戸、この内譯を見ると、一人従事者戸數六千二百九十六戸、二人は二千五百五戸、三人以上は一千二百二十戸である。これを支廳別に見ると、上川の一七千四百八十八戸が最も多く、次いで十勝の一千四百九十九戸、空知の一千三百二十戸、網走の一千八百四十四戸、根室の六十九戸が最も少い。

三戸で、空知の二千八百八十八戸が最も多く、次いで渡島の一千八百六十六戸、十勝の一千八百十三戸、網走の一千六百七十六戸、上川の一六千四百四十二戸が多い。

移動労働者 自管内のみの雇傭労働能力にて不足を來す場合、管外(他町村)より移動し來つて出稼をなし、或期間農作業に従事する移動労働者の數を見ると、全道合計男一萬二千五百七十七人、女一萬一千九百七十二人、計二萬四千四百八十九人である。これを支廳別に見ると、後志の五千五百四十五人最高を示し、次いで上川五千四百六十六人、空知五千五百五人が平均しく、網走の二千八百四十六人、石狩の二千七百七十二人これに亞ぎ、以下は比較的少數である。

賃銀を日給に換算して 全道平均を見ると、男一圓二十五錢、女九十一圓で、日備日額よりも幾分高額を示してゐる。地方的に見ると十勝一圓五十八錢、網走一圓四十二錢、宗谷一圓四十

供給地を概括すると、各地方共に留萌、増毛、天鹽、濱益等北部日本海沿岸の漁村地帯より出稼が大部分を占めて居る。又、空知、釧路、渡島、根室地方には道外の宮城、青森、秋田縣より相當数の移動ある點を見逃し得ない事實である。その他は近接町村よりの移動に依り充足してゐる。

魚油相場の動き

Table of fish oil market movements with columns for product types (鯨油, 鯊油, 鱈油) and prices for various grades (大正元, 同五, 同十, etc.).

卸賣物價指數

商工省の發表した昭和十三年六月の十三都市卸賣物價表には、北海道から小樽市だけが採

Table of wholesale price indices for various goods including wheat, beans, oil, and other commodities.

平均勞銀累年調

小樽市における累年(昭和十一年-昭和十二年)の勞働者賃銀實額は左の通りである。但し昭和九年四月乃至翌十年三月の一ケ年平均賃銀を百とす。

Table showing average wage trends for various occupations and industries over time.

公定米價決る

昭和十二年産米の公定標準米價は米穀統制委員會において、左の通り決定した。一 昭和十二年十二月において公定すべき米穀統制法第二條最低價格及び最高價格の決定に用ふべき標準最低價格及び標準最高價格を左の通り決定すること。標準最低價格二十七圓三十錢。標準最高價格三十五圓四十錢。

米穀統制法第九條の規定による米及び粗の輸入税は現在の上記の期間を一箇年間延長するの手續を執ること。三 米穀統制法第四條の規定により、昭和十二年産米の買入をなし得る數量の限度は内地米朝鮮米及び臺灣米を通じ三百四十五萬石とす。後米穀事情に應じ適當にこれを定めること。標準最低價格 昭和十一年と同様、米穀生産費十八圓より三十八圓未満までの總平均二十六圓四十三錢に、運賃諸掛一圓二十二錢を加へたる金額二十七圓六十五錢と、物價斟酌値の下値二割二十六圓九十四錢とを平均すれば二十七圓三十錢となる、仍て標準最低價格を二十七圓三十錢と決定した。標準最高價格 昭和十二年度家計調査の結果により、平均月収五十圓以上八十圓未満の階級につき副食物費その他の合計額七分を白

米代に加へて家計米價を算定せば三十四圓三十五錢となる、尙、同年の物價斟酌値の上値二割は四十圓四十錢となる、以上を斟酌して標準最高價格を三十五圓四十錢に決定した。昭和十三年一月以降各月の最低價格につきては左記の取扱ひをなすことになつた。一 昭和十三年一月の最低價格は本表の最低價格に金十四錢を加算したる額とす。二 昭和十三年二月の最低價格は本表の最低價格に金二十八錢を加算したる額とす。三 昭和十三年三月より昭和十三年十月までの各月の最低價格は本表の最低價格に金四十二錢を加算したる額とす。昭和十二年本道産内地米公定價格(東京市における價格)は左の通りである。

Table of public rice prices and wage trends for different regions like旭川支所管内 and 瀧川支所管内.

職業別利用者	二七、一七六
勞働者	七、九七五
俸給生活者	三、八四七
小工業者	一〇、一九七
小商人	五、四四三
農業者	三、九〇八
漁業者	一、二〇六
其他	七〇、六〇九
計	點數
△質物種類	七、二六九
債券	一七五
業務用具	一〇、二二三
家具	一四、一三一
裝身具	二四八、二一三
衣類	四二、一九五
其他	三二二、二〇六
計	三二二、二〇六
貸付金辨濟額は左記七十六萬	
八百八十八圓四十六錢、貸付金	
に對する利子収入額は、四萬八	
百一圓七十四錢である。	
△職業別利用者	
勞働者	二六、三五八
俸給生活者	七、三九四
小工業者	三、六二八
小商人	一〇、五〇三
農業者	五、七六四
漁業者	四、六二六

其他	一一、七六三
計	七〇、〇二九
△質物種類	點數
債券	七、三七六
業務用具	一四三
家具	一〇、六一八
裝身具	一四、一六八
衣類	二五八、一四三
其他	五六、五九五
計	三四七、〇四三

この期間中に流質したるものは口數七千二百五十七點數一萬九千二百五十七で、流質物を處分したるもの、内、賣却したものは口數一千八百七十七、點數五千二百三十七であつた。

住宅組合貸付

住宅組合法による住宅組合は昭和十三年七月末現在で百二組合千七十五人、既建設住宅數は千七百五、住宅建設費は百七十三萬三千二百七十六圓、組合貸付金は百十六萬七千五百五十九圓である。

函館	組合	組合員
	一三	一八

圖書館の利用

約四十餘萬の大衆に利用せられる圖書館の中、主なるものを左に示す。

行啓記念北海道廳立圖書館
△所在地 札幌市△大正十三年三月創立

小樽圖書館
△市立△大正五年八月創立

函館圖書館
△市立△大正十五年九月創立

室蘭圖書館
△市立△大正十二年四月創立

御成婚記念釧路圖書館
△所在地 釧路市△市立△大正十三年十二月創立

帶廣市
△市立△大正九年十二月創立

大興記念帶廣圖書館
△市立△大正九年十二月創立

栗澤圖書館
△村立△昭和八年十月創立

網走圖書館
△町立△大正十三年七月創立

枝幸圖書館
△村立△明治三十六年二月創立

杏形圖書館
△村立△明治四十五年五月創立

札幌市教育會附屬札幌圖書館
△所在地 札幌市△私立△大正七年五月創立

財團法人下村育英財團下村文庫
△所在地 旭川市△大正七年十一月創立

空知教育會附屬圖書館
△所在地 岩見澤△私立△明治三十九年八月創立

一巳簡易圖書館
△私立△大正十二年十一月創立

俱知安圖書館
△私立△昭和七年十一月創立

清部文庫
△大正十一年八月創立

日高記念館附屬圖書館
△所在地 浦河町△私立△昭和七年九月創立

節婦

昭和十三年二月十一日紀元の佳節に表彰、木杯一組を授與された節婦は左の通り。

石狩郡常別村	森田たつい
札幌郡江別町	佐藤シカ
夕張郡由仁村	集守イサヨ
雨龍郡納内村	津田リユ
空知郡江部乙村	保谷よね
空知郡岩見澤町	森末キメ子
上川郡劍淵村	山田ウの
増毛郡増毛町	小野寺マツエ
天鹽郡天鹽町	森イチ
天鹽郡幌延村	五福キノ
枝幸郡頓別村	畑野ミサキ
白老郡白老村	志賀ミサヲ
虻田郡洞爺村	平井サヨ
幌泉郡幌泉村	池田とよ
浦河郡浦河町	佐々木さの
様似郡様似村	林アサ
河東郡音更村	中井ほな
河東郡鹿追村	尾崎きぬ
函館市眞砂町	大塚リノ

寫眞聯盟展覽

全北海道樺太寫眞聯盟の會員は昭和十三年九月末現在で、左記加盟團體員その他を合せて八百餘名に達してゐる。

小樽寫眞研究會、小樽寫眞協會、北門ベスト會、小樽寫眞友會、小樽寫眞同好俱樂部、小樽カメラ俱樂部、素人社、(小樽)札幌電影光會、サン、クラブ、札幌寫眞俱樂部(札幌)、厚田光畫俱樂部(厚田)、寫眞聯盟支部(岩内)、函館寫眞研究會、北光寫眞研究會(函館)、狩太寫友會(狩太)、アマチュア俱樂部(俱知安)、廳立岩見澤中學校寫眞部、岩見澤寫眞同好會(岩見澤)、尙影社、夕張カメラ俱樂部(夕張)、室蘭カメラ俱樂部、サンエー俱樂部、日本趣味寫眞俱樂部室蘭支部(室蘭)、釧路カメラ會、釧路市寫眞師會(釧路)、北陽俱樂部、羽吹光畫會、麗光畫莊(根室)、落石影光會(落石)、寫眞聯盟支部(留萌)、旭影會(旭川)、帶廣光畫會(帶廣)、栗山寫眞俱樂部(栗山)、コロナクラブ、オーロラカメラ會

(野付牛)、厚岸寫眞研究會、厚岸、幌泉カメラ會(幌泉)、砂川寫眞俱樂部(砂川)、稚内白映會(稚内)、光藝會(池田)、落合寫友會(樺太落合)、平取カメラ俱樂部(平取)、影友會(茂尻)

第十五回(昭和十二年度)募集の印畫は審査會において入選を決定したるもの、内、特選、准特選及び佳作は左の如くである。

△特選 冬の夜 石垣 金太郎 (小樽)

△准特選 壹席 汽船の印象 笠原倉吉(函館) 同貳席 或る日の静物 金井昇陽(野付牛) 同參席 港内寸景 坂本直人(小樽) 同四席 漁港の夕 武藤あき子(網走) 同五席 青空に働く 進藤常治(野付牛)

△佳作 壹席 夏の姿 小嶋五男(小樽) 同貳席 光と緑と影(同人) 同參席 收穫 溝口清一(根室) 同四席 若葉となる頃 井上壽次郎(旭川) 同五席 休日の午後 坂口好

都市對抗辯論

北海道青年辯論聯盟及び小樽新聞社共催の札幌、小樽對抗辯論大會は、昭和十三年五月十三日、小樽市議事堂において開催、銃後の若人が、熱烈な愛國の叫びをあげた。審査の結果、總得点においては札幌軍に凱歌があり、個人入賞は左の如く、小樽側の勝利に歸した。

一等 (小樽) 龜山 豊
二等 (札幌) 津田 一壽
三等 (小樽) 廣地 正治

因に當日は、さきに同聯盟から派遣され、全國青年競辯大會に

入賞した高橋熊夫、渡邊三男兩氏の左記番外論もあつた。農村更生の眼目 高橋 熊夫 愛郷の鐘をつく者

二 家庭學校

明治三十二年十一月、留岡幸助氏は東京郊外巢鴨村に家庭學校を設立したが、大正三年八月、北見國紋別郡遠輕村に約一千町歩の原始林下附を受け、そこに分校及び附屬第一農場と第二農場とを設けた、分校は遠輕驛附近の下社名淵にあるので、社名淵家庭學校として知られ、爾來、感化教育に偉績を印した。

三 大沼學院

大沼學院は大沼村に在つて、大正十四年三月北海道廳立札幌學院と北海道廳立大沼學院を合併し、昭和九年十月少年救護法が實施されて北海道廳立少年救護院となつたものである。大沼學院は十四歳に満たない少年で不良行爲をなし、また不良行爲をなす虞があつて社會、學校、家庭において救護、誘放、不能な者に對し、周到な監護、養育を

加へて、道徳教育及び國民教育の基礎並びに獨立自營に必要な知識技能を授け、少年の資質の改善向上を圖ることを本旨とし、特に在院生徒の性能に應じて、日常生活の訓練、指導に留意するを目的とするものである。昭和十三年七月末の在院生徒は八十名である。

小賣市場百六十一

昭和十三年七月末日における小賣市場は百六十一ヶ所である。札幌 五〇 小 樽 一六 函 館 一六 旭 川 三三 室 蘭 四 釧 路 五 帶 廣 一〇 石 狩 四 空 知 五 上 川 五 留 萌 二 宗 谷 二 網 走 四 十 勝 一 根 室 四

聖徳讚仰塔

札幌市では、昭和十三年度豫算で、大通道遙地内に、聖徳讚仰塔を建設。聖徳讚仰塔は十四米五〇平方の池中に、鐵筋コンクリートで

判所出張所

民事部長を置く

司法省では、民事案件審理の迅速を期すべく、全國十七地方裁判所に、專任の民事部長を置くこととなり、昭和十三年八月廿七日、大臣訓令を發した。うち關係の分は左の通り。札幌地方裁判所、函館地方裁判所

小作爭議發生

昭和十二年一月より十二月まで滿一ヶ年間の小作爭議發生總件数は、三百七十七件で、最近五ヶ年間の消長は、昭和八年が二百三十九件、九年が三百十八件、十年が三百三十五件、十一年が三百五十四件、十二年が三百七十七件で、發生件数は年と共に増加の傾向にあり、これを市支應別に示せば左の如し。

Table with 2 columns: 發生件數, 發生件數. Rows: 石狩 三三, 網走 三, 渡島 七, 小樽市 一, 檜山 五, 膽振 五

區裁判所出張所

昭和十三年十月一日より左の區裁判所出張所が新設された。△北海道枝幸郡中頓別村名寄區 裁判所中頓別出張所 △北海道廣尾郡大樹村帶廣區裁

（三一件）小作料値上を原因とするもの（三〇件）小作料高率を原因とするもの（二六件） 次に爭議の結末状況を觀るに、解決したるもの（三六〇件）未解決のもの（一七件）にして、解決の内容は次の如し。妥協成立したるもの（二八七件）要求貫徹したるもの（五一件）要求撤回したるもの（一四件）自然消滅したるもの（八件）

近年土地返還の爭議は年々増加の傾向にあり、昭和十二年中においてその件數二百二十五件を算し、總件數の約六割の多きに達した、これが地主の土地引上の理由を見るに、小作地賣却を理由とするもの（五一件）小作料滞納（五一件）地主自作を理由とするもの（三九件）小作人變更（三一一件）新地主自作（一五件）契約期間満了（二三件）其他（二五件）となる、これに對し小作人の要求を見るに、

小作契約繼續を要求するもの（一七七件）小作權賠償、作離料支給を要求するもの（二六件）小作地買受を要求するもの（一八件）其他（四件）その結末を示せば左の如し。小作契約繼續をなせるもの（九四件）金錢賠償を受け返地したるもの（四八件）小作地の一部を返地したるもの（二七件）小作人において小作地を買受けたるもの（一四件）其他（三七件）未解決（五件）

三十九町八反歩、その他一千七百二十六町八反歩、合せて三千七百九十八町五反歩で、爭議單位件數一件當り面積十八町一反歩餘を示した。爭議單位件數二百九件中、昭和十三年六月末現在において未解決のもの五件を除き、他の二百四件は既に終了したるもので、調停委員會において調停成立せるもの百四十件、調停取下の上調停委員會によらず解決せるもの六十一件、調停不成立又は却下せるもの三件である、地主申立の要求事項は、土地返還を求むるもの（二二一件）小作料の支拂並に土地返還を求むるもの（四件）其他（一件） 小作人申立の要求事項は、小作契約繼續を求むるもの（一〇五件）小作料一時的減額を求むるもの（一九件）小作權賠償又は作離料支給を求むるもの（一七件）小作地賣渡を求むるもの（一四件）小作料の永久的減額を求むるもの（七件）其他（二一件）

後志 八 旭川市 二 空知 三〇 日高 二 上川 五 室蘭市 一 釧路國 一 十勝 三 留萌 一 右爭議に關係せる地主、小作人數は、地主中在住地主二百三十九人、不在地主百七十九人、計四百十八人、小作人千五百五十五人にして、爭議一件當り地主一・一人強、小作人四一人強の割合である。又、爭議全體の關係土地面積は田二千八百七十町歩、畑一千九百九十九町歩、その他一千七百六十四町歩、合せて六千六百三十三町歩で、爭議一件當り面積は十七町六反歩餘である。 爭議の原因は多岐多様にし、而も互に錯綜し居るをもつて簡單に要約し難きも、その主要なるものにつき件數の多き順序に列記すれば、 小作權關係又は小作地引上に原因するもの（二〇九件）風水旱害病虫害その他の不作を原因とするもの（四一件）小作料滞納を原因とするもの

調停成立せるもの百四十件につき調停條項の内容を見るに次の如し。

小作契約繼續(七一件) 小作權の賠償及び作離料の支給(三八件) 小作料分割支拂(二二件) 小作料一時的減額(二二件) 小作料一部返還(二二件) 小作料永久的減額又は改定(八件) 小作地賣渡(五件) 其他(三八件)

最近二ヶ年間の労働争議とその調停件数は左の如くである。

罷業	九	五
非罷業	五	五
人員	二、三、四、五	二、三、四、五
調停数	一、二、三、四	一、二、三、四

時の功勞者 中央氣象台、生活改善中央會から、昭和十三年六月十日時の記念日に際し、時の功勞者として表彰される者は左の通りである。

- △上川郡富麻村富麻工業株式會社
- △利尻郡鬼脇村 玉岡 信立
- △中川郡本別町 上面 喜平

屈斜路湖畔の地震

昭和十三年五月廿九日午前一時四十三分頃、阿寒国立公園の静寂を破つて、屈斜路湖畔附近に地震があつた。震源地は釧路國弟子屈村屈斜路サツキナイ附近から和琴半島附近にかけた一帯で、その邊の湖底は太古の噴火口跡と稱せられ、百米以上を示してゐる最深個所である。

餘震は午前四時頃まで續き、ためにサツキナイ丸山の丘陵から登音頭を経て、弟子屈方面へ通ずる觀光道路は、札友内附近まで、數ヶ所に斷層を生じ、それが又八尺も喰ひ違つて、地上の木柵は移動し、沿道の釧路川は山崩れの土砂で半ば埋められるなど、全く學界にも珍らしい火山地帯の異變だつた。

△幌別郡幌別村 藤田 詮城
○族稱の記載を廢止 學校の學則その他の規程をもつて生徒及びその父兄又は保證人等より提出せしむる入學願書保證書、入學在學に關する書面並に學校より授與する卒業證書、修了證書、在學又は卒業に關する證明書等に、生徒及びその父兄又は保證人の族稱若しは族籍を記載する書式を規定せるものは、昭和十三年七月から、華族以外の族稱又は族籍は記載せざることになつた。

夥しい變死者

故意殺	一	二
過失殺	六	七
自殺者	六	六
難船	一	一
燒死	七	四
凍死	一	一
鐵山事故	一	一
汽車	一	一
其他	六	七

雨龍村市街の火事

昭和十三年六月十九日午後三時五十分頃、雨龍郡雨龍村市街地鍛冶職竹内明方風呂場の煙筒から發火したが、折柄西北の強風が吹きすさみ、猛火は四方に延焼した。雨龍消防組にはこの時、ガソリン唧筒一、腕用一の設備だけで、火勢に壓倒されてゐたが、懸て附近町村十一ヶ消防組の應援あり、五十五戸、四十四棟を焼いて、午後五時三十分鎮火した。この總損害廿四萬七千圓、原因は、前記竹内明方の者が、強風を顧慮せず風呂場の火を焚つけたため、火の粉が隣家伊藤等良方柱屋根に飛火して大事に至つたものである。

熊の被害と捕獲

熊の被害は、田畑の被害のみで二萬町歩、百萬圓に達した。○熊の被害と捕獲 熊の被害は年々減じてゐるけれど、昭和十

二年においてなほ次の如き被害があつた。因に熊の捕獲頭数は、昭和十年百九十六、同十一年百十、同十二年百八十八頭にのぼつてゐる。

○彌生礦市街地火事 昭和十三年五月十七日午後四時十分頃、空知郡三笠山村大字幾春別、彌生炭山街地菓子製造業佐藤利世方から發火し、折柄の強風に煽られて、戸數百七十戸の市街地は忽ち全滅し、火の手は更に彌生礦業所の一角に延びたが、岩見澤消防組その他十組の消防組員が必死防火に努めた結果、午後五時四十分に至り漸く鎮火した。

棋力審査の碁會

小樽新聞社主催の棋力審査園碁大會のうち、小樽は昭和十三年五月一日花園町「大關」において、又、札幌は同年六月廿六日薄野「喜久一」で開催、今井三段の審判長、若狭四段の顧問で審査の結果、次の如く入賞、希望者には日本棋院の免狀を贈呈した。

人	一	死	五	傷
馬	一	一	六	四
牛	一	一	三	五

- 甲組入賞者
 - 一 等 菊地國次郎(五級)
 - 二 等 物田 一郎(三級)
 - 三 等 橋本 圓吉(七級)
 - 四 等 三ツ野孝一(同)
- 乙組入賞者
 - 一 等 岸川 隆次(七級)
 - 二 等 川瀬 外二(七級)
 - 三 等 鹽田進之輔(九級)
 - 四 等 堀内奈良治(五級)
 - 五 等 野口 鷹雄(九級)
 - 六 等 中野 忠一(九級)
 - 七 等 渡邊源一郎(十級)
 - 八 等 飯田卯三郎(九級)
 - 九 等 石谷 勇(九級)
 - 十 等 大和 七郎(九級)

- 甲組入賞者
 - 一 等 佐藤 一二(三級)
 - 二 等 高桑 達三(四級)
 - 三 等 清水 英長(二級)
 - 四 等 加藤 英治(四級)
 - 五 等 星川 弘一(同)
 - 六 等 藤野 高常(三級)
 - 七 等 山上 孝(初段)
 - 八 等 塚本 義雄(五級)
 - 九 等 木村 重次(初段)
- 乙組入賞者
 - 一 等 花岡 安二(六級)
 - 二 等 野村 省吾(六級)
 - 三 等 奈良 武一(二級)
 - 四 等 堺 正三(四級)
 - 五 等 永井 信次(二級)
 - 六 等 追田 早苗(五級)

十勝の旋風被害

昭和十三年六月四日午前六時半頃、十勝國西部山麓地方に、突如旋風と共に、ダスト・ストーム(塵埃の嵐)が起り、新得、鹿追、清水、御影、芽室、川西、幕別、大正、大樹諸地方の亞麻、甜菜をはじめ、豆類、馬鈴薯、麥、燕麥その他農作物の幼苗に大損害を與へ、住家および非住家の倒壊破損四百餘棟に達し、農家は種子の蒔直して騒いでゐる時、又復、同月十四日朝から夕刻にかけて、鹿追村美蔓原野を中心に再び旋風が起り、黄塵の被害は、鹿追、清水、芽室の三ヶ村に及び、前後二回

乙組入賞者

- 十等 山内 英尙(二級)
- 九等 添田 俊雄(十級)
- 八等 石川 惣平(九級)
- 七等 山田武之助(六級)
- 六等 佐野久三治(九級)
- 五等 片岡森太郎(八級)
- 四等 太田 英男(十級)
- 三等 市川 次郎(七級)
- 二等 隅田健太郎(八級)
- 一等 伊東 榮(十級)
- 吉野 義勝(八級)

△小樽の山草盆栽會 小樽山草盆栽會主催の第九回高山植物陳列會は五月十四、十五兩日開催、出品數約二百數十點、審査の結果左の通り入賞した。

普通花 一等 佐藤與四郎
競技花 一等 佐藤 俊藏
實生 一等 音喜多直助

△高山植物陳列會 北海道山草會では北海道大學植物園内において、昭和十三年五月二十七日から同二十九日までの三日間、第十四回高山植物陳列會を開催した。出品四百點、參考圖、寫眞百點で東京、京都、大阪、滿洲國からの出陳もあつた。入賞

は左の通り。

- △競技花(ハクサンチドリ)
- 一等 太田 弘一(深川)
- 二等 音喜多直助(小樽)
- 同 杉山 幾吉(札幌)
- 三等 熊坂 退治(同)
- 同 眞島甚太郎(小樽)
- 同 相田 寛二(札幌)
- △實生 一等 白花コマクサ
- 工藤謙(仙臺)エゾクモマクサ
- 熊坂退治(札幌)二等 コマクサ
- サ 戸塚新太郎(小樽)ミヤマムササキ
- ムササキ 杉山幾吉(札幌)
- △推賞花 ヒメクモマクサ行方民三(小樽)エゾツツジ戸塚新太郎(小樽)シソバスマレ
- 佐藤與四郎(小樽)シロバナヒメシヤクナゲ馬島廣(札幌)ムシトリスミレ眞島甚太郎(小樽)マシケゲンゲ菅原福次郎(札幌)ユウバリタウヒレン相田寛二(札幌)イハヒゲ華園康次(札幌)エゾギンバイサウ太田弘一(深川)トチナイサウ熊坂退治(札幌)シユミツトサウ内海重左衛門(札幌)レブンサウ白花五十嵐成八(深川)フタナミサウ

釣

工藤謙(仙臺)ウスエキサウ吉野博吉(札幌)サラサダウダン野瀬英祐(前田)カラフトビランジ伊藤政吉(札幌)ロードヒボキシスバウレイ赤花鈴木吉五郎(横濱)タカネナデシコ白花高橋博一(大阪)魚釣個人競技大會は小樽新聞社及び札幌釣魚聯盟主催、北海道鐵道會社後援の下に、昭和十三年七月二十三、四兩日にかけて、山女魚釣のためには千歳川上流第四發電所よりネシコシまでを第一會場として参加者五十二名、鮎黨のためには千歳川下流舞鶴橋附近一帯を第二會場として参加者百一名の下に開催、この日天候は快晴風は微風程度にて申分なく、第二會場は島松驛より各自自轉車を飛ばして參集するなど盛會を極めた、審査の結果

- △第一會場 一等小田島英雄三
- 八點、二等西川正男三四點、三等古海一男三三點、四等佐々木武二郎二八點、五等江釣子參郎二七點、六等橋本、七
- 等森、八等高野、九等島中、十等弘中
- △第二會場 一等瀬戸敏男二三
- 五點、二等依谷能一二〇四點、三等篠崎一九八點、四等森西一八五點、五等小熊竹治一八二點、六等加藤、七等山本、八等加納屋、九等山野邊、十等高橋
- 以上の如く入賞し、小樽新聞社寄贈のメダルは各一二等へ、北鐵及び北鐵釣友會寄贈のカツプは各一等にそれぞれ授與された。尙、當日釣揚魚の自眉は、茨城氏の山女魚八寸、小熊氏の鮎九寸二分であつた。
- △小樽長命會主催第廿九回魚釣競技會は、昭和十三年六月十九日、小樽第一防波堤において開催、審査の結果左の如く入賞、優勝旗は一等持田氏が獲得した。因に優秀長尺は一等一尺四寸二分(アブラコ)花月内田、二等一尺三寸六分(同)持田、三等一尺三寸二分(黒鯉)佐藤氏だつた。
- 一等 二・三〇〇 持田
二等 二・二五〇 佐藤(徳)

商店法實施さる

第七十三議會を通過した商店法は昭和十三年十月一日から實施された。右法規は、商店員(理容業も

含む)の保健上生まれたもので、料理店、飲食店、露店を除く一般商店は、原則としてその營業時間を午後十時限りとし、特にその筋より指定された盛り場乃至停車場の賣店等、夜十時の閉店困難なものは、地方長官の許可を要することになつてゐる。なほ午後十時の閉店後と雖も負傷、疾病、災害その他緊急の事由を提示した顧客には、物品を販賣し得るといふ條項もあり、又店員の休日および休養時間の如きも、業務の繁忙期には、地方長官の許可を受けて、適宜處置出来るといふ弾力性を持つ商店法である。

△畫展の入選者 第十六回春陽會展、第十三回國展は昭和十三年四月九日から上野東京府美術館に開催された、本道入選者は左の通りである。(△印は新入選)

白鷺城址の一部 石黒平三郎
天主閣への道 同 秀雄
馬小屋 同 西田 秀雄
雪の教會堂 同 西田 秀雄

△道展審査總會 第十四回北海道展審査總會は昭和十三年九月十七日午後二時から札幌薄野喜久一において開催

野瀬、塚田、菊池(精)、竹田
本間(昭)、兼平、能登、伊藤
(洋畫)、北山、高木、小濱、本間(完)(日本畫)

氏等約二十名出席直に審査に入り次ぎの如く受賞者を決定發表次いで新會員に洋畫三名、新會友に日本畫一名、洋畫五名を推薦終つて戦時下における美術家態度を明確にし會員、會友の結束を堅め一丸となつて美術報國を目指して邁進する事となり午後五時閉會引續き別室において懇談會を開いた。

△受賞者 △市長賞(洋畫)森松治(伊達) △協會賞(日本畫)新谷照子(札幌) △フコロレンス賞(洋畫)伊能喜良(小樽)小川信一(小樽)角野誠治(小樽)若松正明(札幌)

△難波賞(日本畫)渡邊松風(小樽)

△新會員 △洋畫澁谷政雄(小樽)國松昇(小樽)東政雄(函館)

△新會友 △日本畫安藤瀧埠(小樽) △洋畫池田兼徳(小樽)野口俊一(札幌)大江正美(札幌)菊池又男(札幌)金子幸正(函館)

家庭經濟に健康強健に ライオン歯磨

今や齒磨は
ライオン歯磨の
潤製時代！

時局は今や愈々國民體位の向上と物心兩面の總動員を強化されつゝある折柄、舉國一致ライオン齒磨の御愛用を切に冀ひ上げます。



紹介

國營に移さる

改正職業紹介法はいよいよ昭和十三年七月一日より實施されその結果、次の如く札幌、小樽、函館、室蘭、旭川、釧路の六市及び岩見澤に國營職業紹介所、札幌、函館、小樽の三市に國營労働紹介所を設置し、森、余市、瀧川、名寄の四町には各出張所が設けられた。

職業紹介所が國營となつたのは、我國現下の情勢に鑑み、一般勞務需給の調整をより適切に、より積極的に遂行せんとするにあるが、就中、今次事變下における軍需勞務の充足に敏速的確を期し、時局に隨伴して生ずる離職者の職業轉換を圓滿にし、歸郷軍人、傷痍軍人の就職斡旋に萬全を期すると共に、生産力擴充計畫の遂行に資せんと

紹介

するところに重大なる根拠があるのである。

- 一 札幌市及石狩支廳管内（石狩郡、札幌郡、厚田郡、千歳郡）を區域とする札幌職業紹介所を札幌市に設置
- 二 函館市及渡島支廳管内（龜田郡、松前郡、上磯郡、山越郡、茅部郡、瀬棚郡）を區域とする函館職業紹介所を函館市に設置し森町に出張所を設置
- 三 小樽市及後志支廳管内（小樽郡、忍路郡、高島郡、余市郡、岩内郡、虻田郡の一部、美國郡、積丹郡、古平郡、島牧郡、壽都郡、磯谷郡、歌葉郡）を區域とする小樽職業紹介所を小樽市に設置し余市町に出張所を設置
- 四 旭川市及上川支廳管内（上川郡、勇拂郡の一部、空知郡の一部、中川郡）を區域とする旭川職業紹介所を旭川市に設置し名寄町に出張所を設置
- 五 釧路市及釧路國支廳管内（釧路郡、白糠郡、阿寒郡、川上郡、厚岸郡、足寄郡）を區域とする釧路職業紹介所を釧路市に設置し
- 六 室蘭市及膽振支廳管内（幌別郡、有珠郡、虻田の一部、勇拂郡の一部、白老郡）を區域とする室蘭職業紹介所を室蘭市に設置
- 七 空知支廳管内（空知郡の一部、夕張郡、樺戸郡、雨龍郡）を區域とする岩見澤職業紹介所を岩見澤町に設置し、瀧川町に出張所を設置

勞力饑饉時代

土木勞働者の需給調整に關し北海道廳においては、昭和八年以來業者自身の勞働者募集行為を禁じ、職業紹介所及び北海道土工殖民協會の手で専らこれが統制を圖つて來たが、時局の影響から各種事業が旺盛を極め、勞働者の需要が頓に増加して勞力饑饉時代を現出し、往年の自由募集を容認せよとの聲が起つたが、自由募集への還元は、監獄部屋再現の恐れありといふので、道廳では躊躇してゐたところ、昭和十三年七月、職業紹介法の改正により、總べての紹介事業は、地方廳並に國營紹介所の許可を要する制度となり、結局、民間の自由募集は、事實上出來ぬことゝなつた。

土工雇傭條件

昭和十三年度に於ける職業紹介所扱土工夫の雇傭修付は左の如くである。

一 訓練期間

旅行中の疲勞恢復と、稼働訓練のため、現場到着の翌日より十日間を訓練期間とす、訓練期間の賃銀は左記によること

- イ 自三月一日、至十一月十五日 一圓六十錢
ロ 自十一月十六日、至二月末日 一圓五十錢

二 賃銀及び使用方法

イ 自三月一日至十一月十五日、普通能力を有するもの一圓七十五錢以上、普通能力よりや、低下せるもの總員の一割以内一圓六十五錢以上

ロ 自十一月十六日至二月末日、普通能力を有するもの一圓六十五錢以上、普通能力よりや、低下せるもの總員の一割以内一圓五十錢以上

時半、内休憩時間一時間半、正味労働時會十時間

- ハ 自十一月十六日至二月末日、午前七時至午後四時、内休憩時間一時間、正味労働時間八時間
六 時間外勤務
七 旅費
八 前貸金

往路旅費及び満期歸郷者の旅費は雇主の負擔とす
但し就勞三箇月(九十日)未滿にして退職する場合は、往路旅費は本人の負擔たること

港灣労働就勞

小樽港では諸貨物は活潑な動きを示し、就中、船舶による積出も前年に比較すれば三割方の増加を見てゐるが、之等の輸送に當る船舶は左の諸原因によ

り、石炭積取船を除く外、入港隻数少く、昭和十三年一月以降七月現在の二千十三隻に比し、千六百隻で、二割方の減少を示してゐる。然しながら入港船體は前年に比しいづれも大型であるから、その積載量は寧ろ増大してゐると云ふことが出来る。

- 一 事變による船腹の不足
二 船運賃は鐵道運賃に比較し高率を示す
三 輸送系統の變革、直接取引の増加
四 木材界の不振

右の如く船舶少きため、荷役上圓滑な作業は行はれないが、たゞ大型船比較的多く入港するため、補はれてゐるに過ぎない。

解、仲仕部等の一部常夫を含み約三百名の出稼者に達してゐる。昭和十年以降關係勞務者數を擧ぐれば左の如くある。(各年一日の就勞者數調)

連絡委員定數

北海道廳では昭和十三年七月、職業紹介所の連絡委員定數を左の通り定めた。

Table with columns for Hokkaido Prefecture (札幌市, 石狩市, etc.) and their respective numbers of liaison committee members.

Table listing various municipalities and their numbers of labor introduction offices.

Table listing various municipalities and their numbers of labor introduction offices.

Table listing various municipalities and their numbers of labor introduction offices.

物資動員 失業防止

物資動員によつて生ずる失業者の防止並に救済に關して、北海道廳は、昭和十三年八月四日各支廳長、市長村長および職業紹介所に左の如く手配した。

方針

- 一 物資の使用制限乃至禁止に關する政策により影響を受くべき産業については、事業の轉換、就業時間の短縮若しくは休日制の採用等の方法により、成るべく離職者を出さしめざること
- 二 已むを得ず離職者を出す場合は、少くとも三週間前に業者は、その時期及び人員を道廳及び所轄職業紹介所に申出さしむ、尙、職業紹介所は事業主と協議し、大量一齊解雇を避けしむること
- 三 軍需工場その他にして二十名以上従業員を雇入れんとする者は、豫めその雇入の時期、職種別並に體性別人員を

長官に通報し、これが採用に關しては、特別の事由なき限り、所轄職業紹介所を通じ採用せしむること

- 四 道廳は職業紹介機關の中心機關として職業紹介所、支廳、市町村等を督勵し、關係産業團體と、緊密なる聯絡を圖り、これが目的達成に努むること
- 五 職業紹介所に職業相談部を設け、關係業者及び離職者の相談に當ること

趣旨の普及

- 一 道廳においては左記方途を講じ、これが趣旨の普及宣傳に努むること
- イ 職業紹介所關係者の會議を開催し、その活動を促すこと
- ロ 新聞、リーフレット又はラヂオ放送等により趣旨の徹底を図ること
- ハ 主なる業者に對し、文書をもつて趣旨の徹底を図ること
- ニ 關係業者の懇談會を地方別に開催すること

二 主要都市職業紹介所は、官民共同の失業対策協議會を組織し、定期又は臨時に會合し、失業の防止救済に關する各般の調査をなし、若はこれが實行方法を協定し、目的達成に努むること

登録と調査

- 一 解雇申出ありたる場合は勿論、必要に應じ、職業紹介所は當該事業の従事者につき體性、年齢、現職希望職業、移動の能否、家族の状況等轉職に必要な調査、登録すること
- 二 解雇者の調査、登録については職業紹介所は離職者の轉職を容易ならしむる様、分類整理し置くこと
- 三 自營業者にして轉職を必要とする者については、當該同業組合と緊密なる聯絡をとり、聯絡委員を督勵し、これが調査登録に努むること

求人開拓

- 一 職業紹介所は軍需關係諸事業に對し、概ね左の方途により積極的に求人開拓をなすこと

- イ 文書開拓をなすこと
- ロ 求人者懇談會を開催すること
- ハ 求人開拓班を編成し組織的開拓をなすこと

聯絡

- 一 雇入通報ありたる場合、道廳これを取纏め、關係職業紹介所に通報すること
- 二 職業紹介所は他地方より採用適當と認むる未紹介求人口を取纏め、毎旬状況を道廳に通報すること
- 三 職業紹介所は轉職斡旋を要するものにして、管内において斡旋困難と認むるものは、速に連名簿を作成し、道廳に通報すること
- 四 道廳において前二項の通報をそれら、取纏め、關係方面に通報すること

就職斡旋

- 一 就職斡旋をなす場合は、求職者の體格、經驗、家庭事情、希望職業等を參酌し、適材を適所に斡旋すること
- 二 歸農を適當と認むるもの

(主に女工)は成るべく歸農せしむること

- 三 土木、建築關係の労働者又は土工日傭方面に轉職せしめ得る者は、成るべく時局關係各種土木工事に就勞せしむる様斡旋すること

職業輔導

一 離職者にして直に轉職を斡旋し得ざる者、若は坐業者、小賣業者、高齢者等にして轉職困難なる者に對しては、差當り既存職業輔導施設を擴充してこれを收容し、又は學校、試験所その他適當なる箇所に委託し、若は軍部その關係方面と連絡して職業輔導を實施すること

求人と求職

男女別求人求職

求人	男	女
求職者	二、四三六	四、四五一
就職者	七、八九六	二、一〇四
業別求人求職		
工業鐵業	求人 一、八〇四	求職 三、五三〇

紹介

土木建築 八、三三三 一、六三四

商業	二、八四六	八九三
農林業	一、八六四	三三四
水産業	二、七六三	六、〇三四
通信運搬	三、四三二	七、九六
戸内使用	一、一八九	一、〇〇〇
雜業	八、七五〇	一、〇六一
計	五、三六〇	一三、五八五
右の内の十八未滿	五、三六〇	一、五〇四

(十三年五月分)

○土工殖民協會轉身 往年監獄部屋の絶滅を期して、労働者の斡旋、配給のために生まれた北海道土工殖民協會は、昭和十三年七月、職業紹介法の改正實施と共に、爾來専ら労働者の保護機關として轉身した。

表彰

北海道職業協會では職業紹介所事務職員として滿五ヶ年以上勤続し、その成績優良なる次の四名を、昭和十三年二月十二日に表彰し、記念品として青銅花瓶一個を授與した。札幌職業紹介所 杉若フイ子 釧路市 同 清水 久由 室蘭市 同 高橋 茂 函館市 同 野田 長助 ○出稼労働者の保護 北海道廳

では、昭和十三年、出稼労働者保護規則を制定公布したが、その目的は左の如くである、

- 一 業務上の危険に際する共濟
- 二 雇傭條件の改善
- 三 素質の向上を図るための教養、娛樂その他の施設
- 四 家族の保護救済

紹介所出張所業務

北海道廳では昭和十三年七月、職業紹介所出張所業務擔當區域及び業務の範圍を左の通り定む。

- △業務擔當 函館職業紹介所 森出張所 茅部郡、山越郡 小樽職業紹介所 余市出張所 余市郡(大江村、赤井川村を除く)、古平郡、美國郡、積丹郡 旭川職業紹介所 寄出張所 旭川郡、天鹽郡、和寒村、劍淵村を除く、中川郡 岩見澤職業紹介所 瀧川出張所 空知郡の内砂川町、瀧川町、江部乙村、音江村、芦別村、歌志内村、赤平村、樺戸郡

(月形村、浦臼村を除く) 雨龍郡

- 一 求人求職の申込受付紹介
- 二 求人開拓及び求職開拓
- 三 その他本所より命ぜられたる事項

失業者が減る

昭和十三年七月十日現在の失業者は、俸給生活者三千五百餘名、日雇労働者二千八百餘名、その他二千五百餘名を合せて僅に八千八百餘名に過ぎず、彼の歐洲大戦後の二萬五千餘名に較べると著しい減少ぶりである。

○船員職業紹介 昭和十一年度の成績は甲板部は就職者三百七十三人、就職未済者二千四百四十七人で、機關部は就職者五百十八人、就職未済者二千四百三十三人、また事務部の就職者は三百六十五人、就職未済者は一千二百六十六人、合せて就職者は一千二百五十六人、就職未済者は五千九百六十六人であった。

LAIT FOOD

輕快ノ端正ノ紳士の身嗜み



一滴………ホノリ
とお顔を色白くする
レイトフードは、殺菌
力強く、小ジワを解消
して、お肌をいきいき
と收斂見違へる様な健
康美を發揮します。
御婦人の薄化粧にも最
適です。

色白・色肌

東京・平尾賀平商店

ケヒ判りの殺菌水リム

ドーフトール

厚生

心身鍛錬運動

左記、國民心身鍛錬運動實施要項により、全道一齊に、實施した。

一 趣旨 國民精神總動員の趣旨に則り、心身を鍛錬し、旺盛なる精神力と強靱なる身體を育成し、銑後國民の責務を全うせんとす

一 期間 昭和十三年自八月一日至八月二十日

一 實行要目 本年度は主として左の諸項に重點を置いた

イ ラヂオ體操の獎勵

1 官公署、學校、銀行、會社、工場、商店、鑛山その他團體においても、ラヂオ

厚生

體操の會を設け、所屬の參加を獎勵した

2 學校においては勿論、神社、佛閣の境内、公園、海岸、廣場にも會場を設く

3 市町村は、各家舉つて最寄會場に参加する様、市町村民を督勵した

4 在郷軍人、青年團、婦人會員は參加の上、會場の整理指導等に當る

5 各會場においては出席簿を備へ、又は、ラヂオ體操參加の章を授與する等の方法により參加者の増加を圖つた

6 會期中の施設を更に延長して、これを生活化し、一年中繼續實施するやう指導した

7 ラヂオ體操の會に關聯し早起會の普及を圖り、早起を獎勵した

ロ 徒歩の獎勵

1 官廳、銀行、會社、工場、商店等の勤務者に徒歩通勤學生徒、兒童に徒歩通學を獎勵した

2 學校、青年團において遠足、登山、長距離行軍等を行ふ

3 都市における家庭婦人に徒歩の勵行を圖つた

ハ 集團的勤勞作業の獎勵

1 作業は統制ある組織の下に、勤勞精神の涵養體力向上を目的として行ふ

2 作業は土地の狀況に應じ、軍需品の供出、應召家族の勞力援助、開墾、植林、埋立、河川、堤防の修築、築磯、磯掃除、運動場、小公園、防空施設等の設置、道路の修繕開設等適當なるものを行ふ

3 作業の後には簡單なる體操遊戯を行ひ、親睦を圖ると共に、明朗潑刺たる氣分を與ふ

ニ 武道水泳の獎勵

1 學校、道場等において一般の參加を求め柔道、劍道、弓道、薙刀等の土用稽古を實施す

2 武道講習會、武道大會等を開催す

四四一

3 熟練者には遠泳、操槽等を獎勵す

4 海、河川、湖沼にありては、その土地の情況により、周到なる注意をなし、危険防止に努むると共に、水泳地の消毒及び掃除に努めた

厚生省誕生と道廳

國民體位の向上並にその福利増進をめざして、昭和十三年一月十一日から厚生省が誕生した。官制の公布と共に初代厚生大臣の親任式が舉げられ、同時に勤任以下の人事が發令になつて、内務省の一隅に店びらきをした。

厚生省は次の如く五局と一外局より成り、従來の内務省衛生局及び社會局の所管事務を根幹とし、それに各省に分屬してゐた關係事項を綜合統轄する制度であるが、北海道廳では、直に組織の改廢を行はず、従前の機構でその所管事務を行つてゐる。

△體力局 △衛生局 △豫防局 △社會局 △労働局 △保險院

保健所を建つ

北海道廳では、昭和十二年七月十五日から施行された保健所法に基づき、同十三年四月一日より取敢へず旭川市に保健所一個所を開設したが、爾後、年々一個所乃至數個所づゝ道内各地に設置し、衛生思想の涵養、榮養の改善、飲食物の衛生、衣服、住宅、その他の諸問題、妊産婦及び乳幼児の衛生、疾病の豫防、健康の増進等に關する指導を行ふこととなつた。

體育施設の大衆化

國民體育の現状に鑑み、一般體育運動施設の公開又は利用の簡易化を圖るため、昭和十三年七月、北海道廳では左の手配をした。

- 一 公共的一般施設にして使用者、使用日時、使用方法等に關する制限又は使用料金につき、公衆の普遍の利用に不便なる状態に在るものについて、成るべく之等制限の撤廢若は緩和又は使用料金の低下を圖ること
- 二 營業的施設については、經營者と交渉の上、經營に支障を來さざる範圍において、料金の低下を圖る外、例へば日時、施設の種別、利用の團體等を限定して、特に無料公開の途を講ぜしむる等、利用の普遍化につき配慮すること
- 三 官廳、團體、會社等においてその職員、團體員又は使用人の體育運動のため設くる施設についても、施設者と交渉の上、その施設目的に支障を生ぜしめざる範圍において公開方につき配慮すること
- 四 學校施設の團體的使用については、團體の規律統制に留意し、成るべく適當なる指導者を附せしむると共に之等指導者の訓練においても考慮すること
- 五 利用者の便宜を稽へ、經費その他の事情これを許せば、施設の夜間使用についても相當考慮すること
- 六 適當なる體育運動團體の結成を促進する等、施設の利用に便ならしむること

一萬人に七人の醫師

昭和十三年一月現在における醫師その他營業關係者の数は次の如く、醫師の分布は人口一萬について七人の割合になつてゐる。

醫師	二、一〇〇	男	二、一〇〇	女	〇
齒科醫師	七三	男	七三	女	〇
藥劑師	五八	男	五八	女	〇
產婆	一	男	一	女	〇
藥種商	八〇	男	八〇	女	〇
製藥者	一四三	男	一四三	女	〇

母子保護法

第七十一議會を通過した懸案の母子保護法案は、昭和十二年三月三十一日公布され、同十三年一月一日から實施になつた。北海道廳社會課の調査によれば昭和十二年末現在の貧困母子は、母一千七百一十一人、子三千九百三十三計五千六百二十四人で、そのうち母子併せて一千五百二

拓殖醫と産婆

昭和十三年度における拓殖醫並に拓殖産婆の繼續設置個所は次の如くである。

- △石狩 石狩郡當別村字ポイント一ベツ
- △空知 札幌郡廣島村字輪厚
- △上川 雨龍郡幌加内村字朱鞠内
- △上川 勇拂郡占冠村字占冠中央
- 上川郡江丹村字上江丹別
- 同郡温根根本線市街
- 同郡下川村字瑞瑠
- 同郡上士別村字奥士別
- 同郡美瑛村字ルベシベ
- 同郡風連村字風連御料七線
- 同郡清川村字立牛
- 斜里郡小清水村字札鶴
- 同郡斜里村字東朱園
- 網走郡網走町字上モコト
- 同郡同町字卯原内
- 同郡同町字女滿別二九線
- 常呂郡常呂村字手師學
- 同郡置戸村字上置戸
- 同郡留邊蘆町字武華三七號
- 同郡置戸村字上訓子府
- △宗谷 枝幸郡枝幸村字上幌別六線
- 同郡同村字上幌別二七線
- 同郡同村字志美字丹
- 同郡中頓別村字小頓別
- 宗谷郡稚内町字沼川
- 同郡猿拂村字淺茅野
- △留萌 天鹽郡幌延村字北澤
- 同郡同村字目梨別
- 同郡同村字問寒別
- 同郡同村字兜沼
- 同郡遠別村字上遠別
- 苫前郡苫前村字上古丹別
- △空知 拓殖産婆
- 雨龍郡幌加内村字添牛内
- △上川

- 中川郡美深町字ニウヅ
- 同郡同町字恩根内
- 同郡中川村字志文内
- 同郡常盤村字吹來
- △後志 壽都郡黒松内村字來馬
- 歌棄郡熱郭村字白井川
- 虻田郡壽都村字旭野
- 磯谷郡南尻別村字昆布
- 島牧郡西島牧村字千走
- 余市郡赤井川字赤井川
- △渡島 山越郡八雲町シヌクルトシナイ
- △檜山 瀬棚郡利別村字日進
- 太櫛郡太櫛村字若松
- 爾志郡乙部村字突符下町
- △膽振 勇拂郡穂別村字上穂別
- 有珠郡德舜警村字德舜警
- 同郡壯警村字久保内
- 白老郡白老村字ホロケナシ
- 虻田郡豊浦村字美和
- △日高 沙流郡右左府村字右左府
- 同郡平取村字荷負
- 同郡門別村字正和

- 幌泉郡幌泉村字庶野
- 様似郡様似字新様似
- △十勝 河東郡鹿追村字ウリマク
- 同郡上士幌村字上士幌
- 同郡士幌村字下居邊
- 同郡同村字士幌
- 河西郡芽室村字上美生
- 同郡大正村字上札内
- 同郡同村字更別
- 中川郡幕別村字奥楳内
- 同郡西足寄字村芽登
- 同郡同村字上トマム
- 同郡同村字稻牛基線二番地
- 廣尾郡廣尾村字豊似
- 同郡大樹村字尾田
- 十勝郡大津村字生花苗
- 河西郡御影村字御影
- 同郡川西村字戸葛
- 十勝郡浦幌村字上浦幌
- △釧路 阿寒郡鶴居村字中雪裡
- 同郡同村中幌呂
- 同郡阿寒村字微別四九線
- 川上郡標茶村字久著呂
- 同郡同村字虹別
- 同郡同村字阿歴内
- 同郡弟子屈村字弟子屈

- 白糖郡白糖村字上庶路
- 同郡同村字縫別
- 同郡音別村字二股
- 足寄郡足寄村字上足寄
- 厚岸郡中村字茶内
- 同郡太田村字中茶安別
- △根室 標津郡標津村字中標津
- 同郡同村字川北
- 同郡同村字古多楳
- 同郡同村字計根別
- 同郡同村字武佐
- 同郡同村字養老牛
- 同郡同村字茶志骨
- 野付郡別海村字西別
- 同郡同村字上風連
- 同郡同村字中春別
- 同郡同村字上春別
- 同郡同村中西別
- 同郡同村字西春別
- 同郡同村字別海
- 同郡同村字尾岱沼
- 根室郡和田村字厚床
- △網走 紋別郡遠輕町字白瀧
- 同郡瀧上村字瀧ノ上
- 同郡下湧別村字計呂地
- 同郡同村字上バロ

- 同郡清川村字立牛
- 斜里郡小清水村字札鶴
- 同郡斜里村字東朱園
- 網走郡網走町字上モコト
- 同郡同町字卯原内
- 同郡同町字女滿別二九線
- 常呂郡常呂村字手師學
- 同郡置戸村字上置戸
- 同郡留邊蘆町字武華三七號
- 同郡置戸村字上訓子府
- △宗谷 枝幸郡枝幸村字上幌別六線
- 同郡同村字上幌別二七線
- 同郡同村字志美字丹
- 同郡中頓別村字小頓別
- 宗谷郡稚内町字沼川
- 同郡猿拂村字淺茅野
- △留萌 天鹽郡幌延村字北澤
- 同郡同村字目梨別
- 同郡同村字問寒別
- 同郡同村字兜沼
- 同郡遠別村字上遠別
- 苫前郡苫前村字上古丹別
- △空知 拓殖産婆
- 雨龍郡幌加内村字添牛内
- △上川

勇拂郡占冠村字占冠中央
 同郡同村字トマム
 上川郡下川村字一ノ橋
 同郡同村字珊瑚
 中川郡美深町字仁宇布
 上川郡美瑛村字瑠邊藥
 同郡多寄村字風連御料地七線
 中川郡中川村字志文内
 上川郡上土別村字奥土別二五線
 空知郡富良野町字麓郷
 △後志
 島牧郡島牧村字千走
 虻田郡留壽都村字旭野
 磯谷郡南尻別村字昆布
 歌棄郡熱郭村字白井川番外地
 余市郡赤井川村字赤井川
 △檜山
 太櫛郡太櫛村字若松
 瀬棚郡東瀧棚村字苔谷地
 △膽振
 勇拂郡穂別村字上穂別
 有珠郡徳舜警村字徳舜警
 白老郡白老村字ホロケナシ
 虻田郡豊浦村字美和
 有珠郡壯警村字久保内
 △日高
 沙流郡平取村字荷負

同郡右左府村字右左府
 同郡門別村字正和
 △十勝
 河西郡川西村字上清川戸葛市街
 同郡大正村字上更別
 中川郡西足寄村トマム幹線一〇〇
 廣尾郡廣尾村字豊似
 同郡大樹村字上當縁北三線三八號
 河東郡鹿追村字ウリマク西一九線二五號
 同郡上土幌村字居邊東一三線四七號
 同郡同村字青更基線四五號
 △釧路國
 厚岸郡濱中村字茶内市街
 同郡同村字姉別市街地
 同郡太田村字中茶安別
 川上郡標茶村字久著呂
 同郡同村字沼幌原野基線一九
 同郡同村字上オンソツベツ原野
 同郡同村字阿歴内原野南一線一三九
 阿寒郡阿寒村字徹別
 同郡鶴居村字中雪裡市街
 同郡同村字中幌呂

白糠郡音別村字上二股
 足寄郡足寄村字上足寄市街
 川上郡標茶村字紅別
 △根室
 標津郡標津村字中標津
 同郡同村字川北
 同郡同村字計根別
 同郡同村字茶志骨
 同郡同村字養老牛五三線
 野付牛郡別海村字西別
 同郡同村字上風連
 同郡同村字上春別原野四八線
 同郡同村字上春別原野五七線
 同郡同村字中春別
 同郡同村字中西別
 同郡同村字西春別市街地
 標津郡標津村字古多糠
 根室郡和田村字厚床
 標津郡標津村字俣落
 △網走
 網走郡網走町字卯原内
 同郡津別村字本岐
 紋別郡遠輕町字支湧別
 同郡清滑村字中立牛
 同郡西興部村字上藻興部
 同郡下湧別村字上芭露
 同郡同村字計呂地
 同郡瀧ノ上村字瀧ノ上原野二

一綜
 常呂郡留邊藥町字武華原野
 同郡同町字上佐呂間五三號
 同郡置戸村字オケトウンナイ
 (上置戸)
 斜里郡斜里村字江蔦
 網走郡網走町字女滿別二九線
 同郡同町字上モコト
 紋別郡瀧ノ上村字オシラネツ
 常呂郡野付牛町字上仁頃
 △宗谷
 枝幸郡枝幸村字シビウタン
 同郡同村字上幌別二七線五三
 六
 宗谷郡稚内町字上勇知
 同郡同町字沼川
 枝幸郡頓別村字安別
 枝幸郡中頓別村字小頓別
 △留萌
 天鹽郡遠別村字ウエンベツ
 同郡幌延村字エペコロベツ
 同郡同村字メナシベツ
 同郡同村字問寒別
 同郡同村字上サロベツ東五線
 一六一
 同郡天鹽町字雄信内
 苫前郡苫前村字上古丹別

體操場を開放

國民體位の現状に鑑み、國民の體育運動を奨励するため、公立學校の體操場を一般國民に使用せしめ、體位の向上を圖ることは現下喫緊の要務とあつて學校教育及び管理上支障なき限り、左記要項により使用せしむること、昭和十三年七月、北海道廳で手配した。

一 公立學校の屋外體操場は男女青少年團體、在郷軍人會、體育團體、會社、銀行、工場等の職員、従業員、銀行、工場俱樂部等にして、學校管理者において適當と認むる團體に對し、これを使用せしむること

二 公立學校の屋外體操場の使用については、その團體の代表者をして當該學校管理者の承認を受けしむること、右承認については、學校長をして

これを取扱はしむる等便宜の方法を講ずること

三 前項の屋外體操場使用の承認は休業日、放課後等、學校の授業又は諸行事に支障なしと認むる場合に限りこれをなすこと

四 屋外體操場、運動用器具、機械その他學校設備を使用せしむる場合において、必要と認むる事項に關しては、學校管理者において豫めこれが規程を設けること

五 屋内體操場、武道場、プール等の特殊設備の使用については、學校管理者において、團體に適當なる指導者ありと認むる場合に限り、前各項を參酌し、なるべく本文趣旨の實現を期する様配慮すること

六 私立學校については、前各項に準じ、成るべく本文趣旨の實現を期する様設立者と協議すること

△結核療養所
 收容定員 一六一人
 市立札幌結核療養所 五六
 同 函館同 六〇
 同 旭川同 四五
 この他、市立小樽結核療養所も昭和十三年度中に建設された。尚、結核療養所における患者の入退状況(昭和十一年調査)は左の通りである。

市立札幌療養所
 入院八二、退院四一、在院中死亡四七、入院患者延人員一九、七八七

市立函館療養所
 入院七八、退院三五、在院中死亡三八、入院患者延人員八、七五一

△結核病床を有する病醫院
 北大附屬醫院 三八
 札幌鐵道病醫院 一五
 天使病醫院 一六
 札幌協會病醫院 二五
 旭川市日本赤十字社支一部病醫院 一四
 洞爺轉地療養所 一六
 愛國婦人會北海道支部

洞爺湖温泉病醫院 三〇
 市立室蘭病醫院 二〇
 日本赤十字社野付牛療醫院 七
 市立釧路病醫院 五
 町立岩見澤病醫院 五
 計 一九一

△健康相談所
 札幌、函館市の外、聖旨奉體記念事業として地方費をもつて昭和十二年末までに小樽、旭川、室蘭、釧路、帯廣の五市に開設された。先に開設された相談所の昭和十二年中取扱状況は左の通りである。

札幌健康相談所
 新來 九、六六〇人
 再來 一一、三七三
 計 二二、〇三三

函館健康相談所
 新來 四、七三二
 再來 五、四二七
 計 一〇、一五九

△保健所
 結核のみならず、その他の慢性急性的傳染病の豫防、榮養、體育、上下水道、汚物處理等に至るまで、保健衛生萬般の指導をなすための保健所は、昭和十

三年度中に旭川市に本道最初のものが開設され、漸次全道に三十ヶ所の本所と六十ヶ所の支所が設置される。

肺結核累年表

道民を蝕む肺結核は年々増加し、その死亡者累年表は左の如くである。

昭和七	三、七〇〇	七二
同八	四、二〇三	八二
同九	四、一六八	八五
同一〇	四、五〇九	九四
同一一	五、二五六	九七
人口一萬人當り肺結核の死亡者数を見るに次の如くである。		
和人	一三・三	四五・二
和	一四・八	五一・五
同八	一四・五	五一・九
同一〇	一四・八	五一・四
同一一	一七・三	五八・七

簡易保険健康相談

昭和十三年一月十一日、厚生省の告示により札幌市に札幌簡易保険支局が置かれた、受持區域は北海道一円で、事務取扱の

青年徒歩旅行

體位向上を目差して、徒歩旅行が奨励されてゐるが、北海道廳においても、青年徒歩旅行と名稱して、指定宿泊所を設け、これが奨励をなしてゐる。

目的 男女青少年をして、簡素にして規律ある徒歩旅行をなさせしめ、自己の觀察により、光輝ある我が國土を正しく認識して愛國心、愛郷心を振起せしめ、情操教育、志操涵養、心身鍛錬の源泉たらしめんとするものである。

形式 男女青少年が五人以上（團員五人、指導者一人計六人を最少限度とす）一團となり、責任ある指導者の引率の下に、一つの目的を達するに指定されたる行路を、規律ある徒歩により旅行するもので行路の途中にある指定の宿泊所に宿泊し、所長の指導のもとに簡素な生活をなすものである。

資格者 一 大日本聯合青年團員

厚生

範圍は左の通り定められた。
一 簡易生命保険及び郵便年金積立金の貸付に關する事務
二 簡易保険健康相談所その他被保険者保健施設に關する事務

農村食の改善

北海道農村生活改善協會では健康、衛生、能率増進など六大スローガンの要諦たる農村食の改善に先づ全力を挙げ、講習會をひらいて食物の知識を普及し榮養「なめ味噌」の調理法や食物の調理の宣傳をしてゐる。別表は即ち協會で調査發表した主要食品の成分と熱量である。

病院と診療所

昭和十三年一月現在における病院数は左表の如くである。なほ診療所数は、市部二百八十四、町部八十四、村部五百十、合計九百七十八個所である。

食品の成分と熱量

食品名	百瓦中の栄養素の總瓦量			百瓦の利 用熱量 カロリー
	蛋白質	脂肪	炭水化物	
動物質食品				
牛乳	三・四	三・七	五・〇	六七
鶏卵	一・五	二・九	七・六	六四
鶏肉	一・四	一・〇	〇・五	七・三
豚肉	二・三	一・〇	〇・五	一五・九
牛肉	一・七	一・五	〇・三	二五・三
植物性食品				
果	〇・四	〇・四	一・三	三・七
ホーレンソウ	三・四	〇・四	一・三	三五
小松菜	二・五	〇・〇	一・二	二二・五
馬鈴薯	二・〇	〇・〇	九・六	四九
大人參	一・〇	〇・〇	三・七	二四
葱根	〇・七	〇・〇	四・三	一八
胡瓜	一・〇	〇・〇	七・一	二四
大豆	二・三	〇・〇	〇・〇	一四
豌豆	三・四	〇・〇	〇・〇	二五
白米	七・〇	〇・〇	〇・〇	一四二
白飯	一・三	〇・〇	〇・〇	四一
小麦粉	一・一	〇・〇	〇・〇	二五
小麥	一・三	〇・〇	〇・〇	二五
油	一・七	〇・〇	〇・〇	二二

赤痢 脳脊髄膜炎

計 五、四四 七〇四

兒童を檢診す

聖旨奉體記念事業中、三大運動の一つである健康運動として、本道尋常科六學年在籍兒童約七萬人中、各市、支廳において指定校を選定し、一萬七千六百九十七人に對して、市においては、廳立健康相談所がこれに當り、町村に對しては道廳より醫師、レントゲン技術員、看護婦各一名をもつて一班を組織し、それぞれ健康を調査した。方法は、マントー氏反應、赤血球沈降反應を檢査し、疑はしいものには更にレントゲン檢診、喀痰檢査等を施行した、その結果は

患者	一、三六五	死者	三〇〇
陽チフス	二、六六三	患者	三〇〇
チフス	二、三七七	患者	三〇〇
バラチフス	一、〇八一	患者	三〇〇
猩紅熱	一、〇八一	患者	三〇〇

四四七

者率によつて、各市町村別に見れば左の通りである。

札幌市	二・三%	戸井村	二・八%
小樽市	五・二%	浦河町	二・三%
厚岸町	三・五%	狩太村	二・五%
八雲町	三・〇%	弟子屈	二・〇%
池田町	三・六%	瀧ノ上	二・〇%

健康

週間

北海道廳では銃後國防の萬全を期すべく、道民の健康を増進し、體位の向上に努めるため、昭和十三年五月十七日から二十三日まで、左の要綱を示して健康週間を實施し、各市町村はそれぞれ實踐項目を定め、適切な行事をやつた。

- △第一日 清潔整頓の日
 - △第二日 榮養改善の日
 - △第三日 結核豫防の日
 - △第四日 チフス豫防の日
 - △第五日 心身鍛錬の日
 - △第六日 民族浄血の日
 - △第七日 健康感謝の日
- 札幌衛生會館 札幌市聯合衛生組合が總工費五萬五千圓を投



防空防

鐵壁陣

北海道廳では、全道空の護りを堅むるために、昭和十三年五月中

- △第一方面（札幌、圓山、豊平、小樽、高島、朝里、室蘭、苫小牧、夕張、上白石）
 - △第二方面（釧路、厚岸、根室、帯廣、鳥取、齒舞）
 - △第三方面（旭川、留萌）
 - △第四方面（函館、湯川、上磯、龜田、稚内）
- 以上四方面において、先づ準備的演習を行ひ、更に同年八月九日から四日間互に、第七師團および津輕要塞司令部援助の下に、全道的な防空演習を實施した、その主眼は、
- 一 警報傳達、燈火管制、消防、防毒警護、配給、工作、通信連絡、監視

じて北二條西一丁目に建築した札幌衛生會館は新装も華やかに昭和十三年八月十四日落成式を舉げた。同館は札幌聯合衛生組合が昭和十一年の陸軍特別大演習並に地方行幸の記念事業として計畫建築したもので、木筋コンクリートの三階建て、健康相談所をはじめ、太陽燈、レントゲン室、傳染病、結核豫防等の標本参考資料陳列室等がある。

○理髮保健組合總會 北海道理髮保健組合の第十二回總會は昭和十三年六月十七日定山溪に開會、永年勤続組合員小林氏（函館）外四十餘名を表彰したが、關係官廳へ陳情する事項の内、主なるものを示す。

△理髮業者健康診断の件（業者は春秋二回に互に健康診断を實施してゐるため、一般接客業者に行はるゝ検診より除外されたし）
△理髮營業取締規則改正方請願の件（内地各府縣で實施されてゐる理髮試験制度を本道にも實施し一定資格を制定す

るやう規則改正されたし）
△浴場において剃刀使用禁止の件

○衛生組合聯合會 北海道衛生組合聯合會第十五回定期總會は昭和十三年七月二十三日苫小牧町において開會、先づ出征將士に聯合會の名において慰問感謝文を贈る件可決され、引續き議案を審議した。

○旭川療養所の落成 旭川市が保健都市として發展せんとする第一施設ともいはれる市立旭川療養所（結核）は、本建築並に室内設備暖房装置、醫療器具等萬端整備して、昭和十三年八月十八日開所式が舉行されたが、職員顔ぶれは、所長佐藤醫學士、調劑師北島藥劑師、書記外に看護婦五名、使丁二名、兼務醫師一名の十一名であり、病床は最初三十五臺だったものを更に十臺追加して四十五臺となつた、背後に近文山を背負ひ、南南方はからりと開けた田畑を経て石狩川にのぞみ、絶好のサナトリウムで、將來附近の遊歩場施設の完備を見れば、全道にもほこ

事項

新警察罰令

北海道廳の警察罰令は明治四十二年十月、舊刑法の改正當時これに準據して定められたもので、爾來三十年、其間數次の改正が加へられたが、三年越し検討の結果、昭和十三年七月一日新たに「北海道廳警察罰令」を制定公布し、同年八月一日から施行した。即ち舊令廿八項目中八ヶ項目を削除して、時代に即した取締項目七項を加へた全面的な大改正である。

改正の主なる點は先づ街の不良分子を一掃すべく、闇の女への手びき、朦朧車夫などを嚴重取締るは勿論、觀光客へ不當の報酬を要求する者へ鐵槌をくだしてゐる。銃後に躍る三百行爲も嚴罰に處し、又、公安の見地から飲料水並に火防用水の愛護ラヂオ聴取の妨害取締、深夜十二時以後の歌舞音曲禁止など注目すべき條項が多い。

- 一 者は拘留又は科料に處す
- 二 濫に官公署名又は他人の名義を利用したる者
- 三 本籍、住所、身分、職業氏名又は年齢を詐稱して法令の規定に依る帳簿に記入し、若し記入せしめ、又は雇傭せられたる者
- 四 法令の規定に依るものを除くの外、濫に訴訟其の他の紛議に關與して、紹介、鑑定、代理、和解、仲裁又は之に類する行爲を爲し、財産上の利益を得、又は得んとしたる者
- 五 人の秘密を公にせざること、又はせざりしことに關し、金錢、物品其の他財産上の利益若し是應の供與を促し、又は情を知りて其の供與を受けたる者
- 六 密賣淫の爲又は婦女をして密賣淫を爲さしむる目的を以て人を誘致し、又は誘致せんとして徘徊したる者
- 七 住所、氏名又は處分権を有すること詳ならざる者の依頼を受け、不正品の賣却

るに足る療養所とならうと云はれる。

○學校衛生研究會 國民精神總動員健康報國の振興充實を期して、北海道聯合學校醫會では、昭和十三年四月三十日、札幌市において札幌市各小學教員約八十名、金子石狩支廳學校醫會長外五名並に道廳側大演習醫務課長、松井學校衛生技師、鹽谷助手、市側筒井教育課長、烏市醫外二名招待の下に、學校衛生研究會を開催、宮城逸拜、君が代合唱、祝辭に次で、學校衛生の新指導方針並に學童の結核問題と題して松井博士が先づ壇上に立ち、それより學童の保健養護施設に關して烏博士の講演があり、終つて學校衛生に關する意見發表交換をなし、座談會を終り、札幌市學校醫會の招待會を開き、種々参考意見の發表があつた。

- 七 質入、交換等を爲したる者
- 八 物品を販賣する目的を以て客に假装し、又は假装せしめ、濫に購買心を唆るが如き行爲を爲したる者
- 九 賭博の場所に參集し、又は濫に其の場所に在りたる者
- 十 物品若しは旅客を運送し、又は名勝地、遊覽地等の案内を爲す者にして、不當なる賃銭其の他の報酬を要求したる者
- 十一 水地震災其の他の異變に際し衣類、寢具類、履物類、米穀類、副食物類、薪炭炊事用品類、建築材料、疊建具敷物類其の他日常生活に必要な物品を買占め、賣惜み、濫に其の代價を昂騰せしめ、又は不當の利を圖り、若しは圖らんとしたる者
- 十二 通行人に對し惡戯又は嫌忌すべき言行を爲したる者
- 十三 故なく他人の場屋を透見したる者
- 十四 警察官吏の制止を肯ぜずして争論し、又は喧噪に渉る行爲を爲したる者
- 十五 闘犬、闘鶏又は闘牛を爲したる者
- 十六 濫に火災報知機を使用損壞し、又は之に對し惡戯を爲したる者
- 十七 消火栓、消防用貯水池又は消防用水の使用を妨ぐべき行爲を爲したる者
- 十八 左の各號の一に該當する者は科料に處す
- 十九 警察官吏の注意を受け、家屋其の他の工作物に危険豫防の施設を爲さざる者
- 二十 人力車、乗合馬車、又は人馬繼立營業の爲以用する車輛馬匹にして、公安又は衛生上危害を生ずる虞ある場合に於て、警察官吏より掃除、修理其の他の措置を命ぜられ、之に應ぜざる者
- 二十一 公衆の飲料に供する流水湧出水、井戸等の附近に於て汚穢物を洗滌したる者
- 二十二 便所、塵芥溜の掃除若しは下水溝、汚水溝の浚渫又は

- 二十三 除雪に付、警察官吏の注意を受け之に應ぜざる者
- 二十四 溝渠又は他人の邸宅、田野等に竹木、瓦礫、氷雪、塵芥、汚物、煤等を投棄し警察官吏の制止又は撤去の命に従はざる者
- 二十五 警察官吏の制止を肯ぜずして電信電話の線條に沿ひたる場所に於て紙鳶、玩具飛行機等を弄び、又は弄ばしめたる者
- 二十六 電氣器具の使用若しは他人のラヂオ聴取を妨ぐべき電波を發生せしめ、警察官吏より雜音防止の爲必要な措置を命ぜられ、之に應ぜざる者
- 二十七 慣行ある場合を除くの外警察官吏の制止を肯ぜずして夜間十二時後歌舞音曲を演じたる者
- 二十八 濫に公衆の迷惑となるべき音響を發し、又は發せしめ、警察官吏の制止又は制限の命に従はざる者
- 二十九 公衆の目に觸るべき場所に於て、牛馬其の他の動物

を交尾せしめたる者
 十一 看守人又は塙塙欄柵等の設なくして牛馬羊豚の放牧を爲し、警察官吏の制止に従はざる者
 第三條 本令に規定したる違反行爲を教唆し、又は幫助したる者は各本條に照し之を罰す但し情狀に依り其の刑を免除することを得
 昭和三三年の第一回を

- ### 防火デー
- 昭和三三年の第一回を實施以來、回を重ねること十回關係諸團體の携まざる活動と道民の自覺により漸次効果を擧げつゝあるけれど、昭和十二年中の火災は發生件數一千三百八十九個、損害額四百六十二萬六千餘圓に達し、前年の損害額二百廿五萬五千餘圓に較べ、倍以上に激増してゐる。
 これ資源の愛護を叫ばれる今日由々しき問題なので、北海道廳では、十三年五月の第十一回全道防火デーに際しては、特に「一齊消防運動」と「火災現場附近の飛火警戒」の二事項を新たに訓練項目中に加へて實施し

防共及び防諜

全道警察署長會議は昭和十三年六月二十二日から三日間、札幌市で開催されたが、戦時下の治安維持、銃後における道民の生活安定を期する警察官に、先づ實踐射行の精神を打込み、道民の範たらしめるため、會議の前夜、六十三署長を札幌神社に參籠させ、土肥警察部長以下警察部各課長、係長等も參會して修養講話、座談會を催し、境内の清掃など奉仕作業をもなされた。
 右、會議における石黒道廳長官の訓示中、主なるもの左の如くである。
 △共産主義運動と國家主義運動
 治安維持上平素より嚴重監視の下に在る共産主義運動は、引續く峻嚴なる檢舉と、社會情勢の變化に依り、殆んど潰滅に至りましたが、最近海外より巧妙なる術策を指示し來るやの事實もありまして、一

層取締を嚴にせられたいのであります。又、今次事變後、積極的になりました國家主義運動は、その目的は國體を明確にし、皇運を扶翼し奉るにありませんが、實現を急ぐの餘り、時には不穩過激の行動に出で、常軌を逸するが如きものもありますので、穩健の間にも漸進的に行動する様、善導に努められたいのであります。△労働者の保健衛生と危害豫防
 生産機能の急激なる膨脹に伴ひ、各種災害は累増の傾向を示し、労働者の保健衛生の状態、必ずしも良好なりとは言ひ難い實情にありまますので、今回、工場危害豫防及び衛生規則の改善を見たのであります。又、商店法についても、圓滿なる運用に努められんことを望む次第であります。△外諜機關の暗躍へ絕對的取締
 諜報機關は時の平戰を問はず、又、軍事機密のみならず、苟も國力判定の資料となり得べき凡ゆる方面に亘り調査探索をするものでありまして、更

に事變以來、諸外國の諜報機關の暗躍は著しきものがありますから、これが取締の強化は誠に喫緊の用務であります。故に、關係各方面と連絡協調を保ち、外國諜報機關をして絕對に齟齬の餘地なからしむる様、嚴重なる取締を勵行せられたいのであります。

- ### 信號統一させる
- 火災警報信號及び消防自動車出動信號は、從來全國區々で、消防組の活動その他に支障おこしなかつた關係上、内務省において全國を統一することになつた爲、北海道廳でも消防規則施行細則を改正し、昭和十三年六月一日よりこれを施行した、改正の要點は
 一 信號方法の改正
 一 組頭の補佐機關として副組頭を置くこと
 一 訓練の強化
 一 消防組は水災警防を兼ねる旨を明かにしたこと
 等であり、火災その他の災害を

警防

火災出動信號(近火ヲ除キ消防組區域ノ内外ヲ問ハズ出動ヲ要スル火災ナルトキ)
中聲六秒 中聲六秒
(中聲一點)

演習召集
長聲六秒 長聲六秒
(長聲一點)

三 唧筒車出動警音信號

1 出火現場ニ出動スル場合ニ於ケル警音信號
サイレン(連點)警鐘(連點)
サイレン及警鐘ヲ併用スルコト

2 鎮火引揚 火防警戒及演習出動ノ場合ニ於ケル警音信號
警鐘 ○○○○○○ (連打)
警鐘ノミヲ使用シ「サイレン」ハ用ヒザルコト

信號ハ凡ソ五分間繼續シテ行フモノトス、但シ信號中鎮火ノ見通シツキタルトキハ直ニ

之ニ停止スベシ

火災の損害高

最近三ヶ年間に於ける火災焼失世帯數並に損害額は左の通り

Table with 2 columns: 昭和十一年, 昭和十二年, 昭和十三年. Rows include 世帯數, 損害額.

火災の原因調

昭和十二年一ヶ年間に於ける火災原因は左の如くである。
失火 一、三三三 自然發火 四
雷火 三 其他 一
放火 元 計 一、三九一
不明 三

公設の消防組

昭和十三年一月並に前年同期に於ける公設消防組の状況は左の如くである。
消防組數 十二年 十三年
同部數 三八五 三九六
同部數 四八九 四七七

私設自衛消防

私設及び自衛消防組の状況を昭和十三年並に同十二年各一月現在で見れば次の如くである。

Table with 2 columns: 十二年, 十三年. Rows include 私設消防, 自衛消防, 同部數, 同組員.

警察官署

最近三ヶ年間に於ける累年數は左の通り。
警察官署 昭和十一年 同十二年 同十三年
警部補派出所 二 二 二

外燈警戒管制

その筋では、時局に鑑み、昭和十三年八月五日から同月廿五日まで北海道全管に亘り左記屋外燈の警戒管制を實施し、歡樂のネオン街はお化粧ぬきとなつた。

七市交通事故

道内七市に於ける交通事故に因る死傷者數は左の通り。
(昭和十二年)
死者 七人
負傷者 七人

犯罪と檢舉數

昭和十二年に於ける犯罪發生件數および檢舉人員は左の如くである。

Table with 2 columns: 件數, 人員. Rows include 殺人罪, 強盜致死, 傷害致死, 過失致死, 傷害, 過失傷害, 暴行姦淫, 強盜, 窃盜, 詐欺背任, 詐欺, 賭博, 其他.

刑事の勤績番附

北海道廳刑事課では、道内各署に勤務してゐる刑事事務者の勤績年數で昭和十三年四月現在の番附を作成したが、それによれば、最長年勤績の横綱は東方では札幌署の手島誠一郎氏の十

東方 署名氏名勤績年月

Table listing names and years of service for various police stations in the Eastern region.

道内 署名氏名勤績年月

Table listing names and years of service for various police stations in the entire region.

警察官の平均年齢

道内に職を奉ずる警察官二千二百八十五名の平均年齢を示す(昭和十二年末現在)

Table showing average ages of police officers in different departments.

五警察官を表彰

樫田札幌地方裁判所検事正は昭和十三年一月廿四日、札幌地裁會議室に管内各警察署長を集めて訓示を行ひ、種々協議を行つたが、その席上、左記五警察官を表彰し、銀牌を授與した。
△岩見澤警察署司法主任警部補 岩本宇平氏
△岩見澤町の疑獄事件の摘發の功績△由仁警察署刑事事務巡查前田賢一氏
△同署管内に發生した強盜事件檢舉の功績△瀧川警察署司法主任警部補加藤健雄氏
△土工部屋を中心とする傷害事件摘發の功績△小樽警察署刑事事務巡查、柴田末一氏
△債券詐欺團摘發の功績△札幌警察署刑事事務巡查福元榮藏氏
△有價證券偽造行使詐欺事件摘發の功績

警防

東京 久保政吉商店

良きホマードは
それ自身が宣傳
するよ

春の囁きの如き

軽き氣持の整髪

振りだ、香りは

高く春風に上る



彼女の洋髪に

僕は贈る、

五十銭は廉いが

内容はあるよ。

ホマード

放送

事變とラヂオ

放送報國に懸念

支那事變の勃發以來、時局の展開に伴ひ、これに對應する報道、教養、慰安各部門の一般放送及び國際放送、海外放送、外地及び滿洲國との連絡放送の内容を充實整備し、且つ萬難を排して事變地との連絡放送を創始續行し、一方、聴取料免除範圍の擴張、受信機の寄贈或は傷病將士、出征者家族の慰安及び情報、防空に關する諸般の措置等ラヂオは全機能を擧げて戰時體制下の國策に順應し、その遂行に寄與することに萬全を期してゐるが、昭和十三年中におけるその主要なる事項において見れば次の通りである。

三「臨時ニュース」を送出し、七月十一日の如きは早朝七時より夜の十一時に至る間、一日七回に及んでゐる。
ロ 事變關係の重要なニュース輻輳のため、午後四時及び午後九時三十分よりの「定時ニュース時間」を十分乃至十五分間延伸し、七月二十九日より實施。この延伸は對朝鮮臺灣、滿洲向放送へも及ぼしてゐる。次で八月、午後零時四十分よりの「定時ニュース」を零時三十分繰上ぐ。
ハ 事變關係ニュース速報のため、早朝ラヂオ體操の放送時間を短縮し、午前六時二十五分より五分間のニュース時間の特設し、七月十四日より實施。これは八月一日より朝鮮臺灣、滿洲各局へ送出してゐる。
ニ 事變關係ニュースの放送内容を正確に把握せしむるためニュース用語の解説並にこれが補足説明を「ニュース解説」として七月十九日夜より放送開始

ホ 地方、主として農山漁村方面には晝夜間送電線の普及しないところ多く、之等の地方の聴取者は晝間の重要放送を聴取し得ないため、之等地方の送電會社に晝間送電線の配備並に夜間送電時間の延長を懇請する一方、晝間のニュースを聴取し得ない事情を考慮して、夜間一般放送終了後、引續いて晝間ニュースを一括「今日のニュース」として八月二十一日より再放送することにした。

教養放送
政府諸般の政策の徹底と國民精神總動員運動に對する協力に主目標を置き、民心の作興及び正しき輿論の指導を期して、政府要路並に民間各方面の有力者に依る特別講演を多く採り入れてゐるが、殊に十三年一月以降、午後七時三十分より十分間を「特別講演の時間」として國策放送に充當してゐる。

慰安放送
この部門においても時局を反

特輯番組

その他時局に關聯した特輯番組としては皇室尊崇日本精神振作を一層國民に徹底せしむるため「四大節國民奉祝の時間」の特別放送を實施し、八月一日より同廿日までの「國民心身鍛鍊期間」九月廿二日より「國民協力週間」十月十三日より「國民精神總動員強調週間」十二月三日より「國民精神總動員産業週間」等にはそれら、政府と協力してその趣旨の徹底を期するたため各種の特輯番組を放送した。また、毎月二回從來の日曜勤行に代ふるに全國各地の神社佛閣より皇威宣揚武運長久祈願祭の實況を中繼し、また事

變のため身命を賭して活動しつゝある皇軍の勞苦を憐れ、且つ、傷病將士を慰むるため「皇軍慰問の夕」或は「傷病將士慰問の夕並に午後」を隨時編成してゐる。

また事變地の實情を銃後國民に傳へるため、八月一日天津より支那駐屯軍司令官香月中將の第一聲を送つたが、八月廿四日以降、この天津よりの放送は毎週火曜日午後七時より三十分間の定時放送とし、十三年一月以降は午後七時四十分より廿分間と改めた。

海外放送、國際放送 事變以來特にこの放送の重要性を認め、海外放送においては放送方面の擴大、放送時間の延長を行ふと共に支那語、ポルトガル語、スペイン語によるニュース放送をも加へ、更に講演、音楽の放送内容を充實し、帝國の公正なる立場を海外に認識せしむると共に我國文化を海外に宣揚する事に努めてゐる。

普及目ざまし

札幌中央放送局は昭和十三年六月をもつて開局十週年を迎へたが、其の間、十年の進歩の足跡は目ざましいもので、これをラヂオ聴取者の数によつて見るに、同月末現在で拾萬六千四百五拾、百世帯當り一七・一の普及率を示すに至つた。これは勿論、全國總數三百七拾六萬中にあつては遙るかに低位ではあるが、創設當時の状況を思へば、まさに隔世の感がある。今、この聴取加入者数を各市、支應別に見るに左の通りである。

Table with columns for location (e.g., 札幌, 旭川, 釧路) and listener numbers. Includes a sub-table for '加入者' (addition) and '普及率' (penetration rate).

Table listing radio tower locations (e.g., 網走, 宗谷, 留萌) and their respective call signs and frequencies.

ラヂオ塔の所在地、施設年度、その設計概要は次の如くである。

札幌市大通道遙地 高サ十二尺、鐵筋コンクリート、神燈型(昭和七年)小樽市小樽公園同上(同)旭川市常盤公園同上(同)函館市函館驛前同上(同)札幌市中島公園高サ十四尺、鐵筋コンクリート煉瓦作り凸型塔上四尺ノ旗桿附(同八年)札幌市外圓山公園高サ十二尺木柱、神燈型(同十一年)

釧路へ放送局

釧路市幣舞町二八ノ一に新設の釧路放送局は、昭和十三年二月二十六日から假放送中のごころ、工事も全く完成して、同年七月七日から百ワットの本放送を開始し、これを記念する開局式は、全月廿一日午前十一時から釧路公會堂で盛大に行はれ、開局式の盛況並に式後の餘興は會場にマイクを据ゑて全道に中繼放送された。因に釧路放送局の呼出符號はJOPGである。

小學校へラヂオ

小學校におけるラヂオの設備は、昭和七年ラヂオ體操が實施されて以來著しく普及し、殊に十年「學校放送」がはじまり事變後は「臨時ニュース」が放送されるので、各小學校は競うて加入の手續をしてゐる。昭和十二年三月末日現在における道内小學校の加入狀況は次の如くである。

Table listing school radio equipment status, including call signs like JOIG, JOJK, JOFG, etc.

施設率

ラヂオ無料相談所 北海道、樺太におけるラヂオの無料相談所は、昭和十三年八月現在、次の六ヶ所であるが、この外、隨時各地に巡回相談を行ひ、聴取者の便宜を計つてゐる。

- List of radio consultation centers: 札幌固定相談所, 二條西四丁目北門貯蓄銀行内, 小樽市稻穂町東七ノ五北門貯蓄銀行支店內, etc.

ラヂオの無料施設

札幌中央放送局においては、各地の薄俸者に慰安と教養を與へ、更に非常時局への認識を高揚せしむべく、受信機を貸與し、無料で聴取せしめてゐるが、昭和十二年度において十八を數へこれを社會事業別に區別すると室泊保護四、老廢保護四、感化保護二、醫療保護二、司法保護一、盲人保護二、兒童保護三となつてゐる。

放送新人を募る

札幌中央放送局における放送新人募集の競演會は昭和十三年五月四日江差、十日瀧川、十二日留萌、十七日根室、二十九日釧路の順に催され、地方演藝家の熱演があつたが、競演者七十一名中、俚語一、歌謡曲二、詩吟一、ハルモニカ一、の合格者があつた。

放送

Table titled '開設と呼出符號' showing call signs and years for various radio stations across different regions (道内, 道外).

Table titled '小學校へラヂオ' showing the status of radio equipment in schools across various municipalities.

明治キヤラメル

強イ子ニナレ!

ミルクキヤラメル
チヨコレイトキヤラメル
クリームキヤラメル
レモンキヤラメル
コーヒークヤラメル

明治製菓株式會社

體 育

昭和十三年

- 北海道體育協會加盟團體**
- △北海道陸上競技協會
 - △小樽體育協會
 - △旭川陸上競技協會
 - △上川陸上競技協會
 - △函館陸上競技協會
 - △室蘭陸上競技協會
 - △札幌陸上競技協會
 - △札幌體育協會
 - △札幌陸上競技協會
 - △野付牛陸上競技俱樂部
 - △釧路陸上競技協會
 - △日蘭陸上競技協會
 - △室蘭陸上競技協會

- △北海道上級水泳協會
- △小樽水泳協會
- △旭川水泳協會
- △室蘭水泳協會
- △函館水泳協會
- △岩内水泳協會
- △三美美唄水泳協會
- △岩見澤水泳協會
- △函館水泳協會
- △岩内水泳協會

- △北海道排球協會
- △札幌排球協會
- △旭川排球協會
- △函館排球協會
- △室蘭排球協會
- △岩見澤排球協會
- △帯広排球協會
- △小樽排球協會
- △旭川排球協會
- △函館排球協會
- △室蘭排球協會
- △岩見澤排球協會
- △帯広排球協會
- △小樽排球協會

- △北海道卓球協會
- △札幌卓球協會
- △旭川卓球協會
- △函館卓球協會
- △室蘭卓球協會
- △岩見澤卓球協會
- △帯広卓球協會
- △小樽卓球協會
- △旭川卓球協會
- △函館卓球協會
- △室蘭卓球協會
- △岩見澤卓球協會
- △帯広卓球協會
- △小樽卓球協會

體 育

- ◇弓道
- 1 小樽市女 2 小樽高女
 - 3 北海高女 4 札幌市女
- ◇卓球
- 1 根室高女 2 札幌高女
 - 3 岩見澤高女 4 小樽市立
- 一位の数は根室高女と小樽市立高女は同数なるも二位数にお

綜合競技成績表

順位	野球	陸上	水上	蹴球	庭球	籠球	剣道	柔道	計
1 北中	3	2	0	0	3	0	2	3	13
2 函師	0	0	0	3	0	3	3/10	1	7 3/10
3 札師	0	0	0	1	0	2	0	2	5 3/10
4 函商	0	0	3	0	0	1	3/10	0	4 3/10
5 旭師	0	3	0	0	0	0	0	0	3
5 釧中	0	0	0	0	0	0	3	0	3
5 一中	2	0	0	0	1	0	0	0	3
8 二中	0	0	0	0	2	0	0	0	2
8 函工	0	0	0	2	0	0	0	0	2
8 余中	0	0	2	0	0	0	0	0	2
11 網中	0	1	0	0	0	0	0	0	1
11 函中	0	0	1	0	0	0	0	0	1
11 旭中	1	0	0	0	0	0	0	0	1 3/10
14 樽水	0	0	0	0	0	0	3/10	0	3/10

一位3點、二位2點、三位1點

五輪大會中止

日本五輪大會に立候補

第十二回國際オリンピック東京大會開催要請は一九三二年七月ロサンゼルスで開かれた、I.O.C會議に故嘉納、岸兩

いて根室高女多く根室高女優勝全道中等學校綜合競技會成績表

全北海道中等學校綜合競技大會は、昭和十三年七月二十五日から三日間全道各地で舉行されたが、北海中學は綜合覇權を獲得した。

利は會議前日本に讓歩會議は甲論乙駁決定に至らず伯林會議に持越した。

果を討議し札幌が第一候補地と決定した。かくて地元札幌ではオリンピック準備委員會を組織して準備を進めた。

冬季大會札幌と決定

東京かヘルシンキかを決するI.O.C會議は一九三六年七月三十一日伯林のホテル・アドロンで開催、採決の結果は三十二對二十七でフィンランドを一つとし、第十二回オリンピックは東京市において開催と決定した。この會議で決定すべき、第五回冬季オリンピック問題は遂に札幌と決定に至らなかつた。

一九三七年二月のシヤモニー委員會後I.O.Cワルソー會議に副島伯、稻田男が正式代表として出席し、一九三七年六月十日迂餘曲折を経て第五回冬季オリンピック開催地を札幌と決定した。一方地元札幌では七月十九日第五回冬季オリンピック札幌大會實行委員會を創立し積極的準備工作に乗り出した。

I.O.Cカイロ總會

東京におけるオリンピック招致運動と呼應して、冬季大會に左記六地方が夫々豫算書を添へ候補の名乗りをあげた。

場所名 豫算額

- 霧ヶ峯 三、四〇、〇〇〇圓
- 乗鞍岳 一、五八三、〇〇〇圓
- 志賀高原 一、六五〇、〇〇〇圓
- 菅平 一、五〇〇、〇〇〇圓
- 日光 二、〇九、五〇〇圓
- 札幌 一、五二四、〇〇〇圓

昭和十一年三月十八日冬季競技場調査委員會を開き調査の結果

カイロ總會を前にしてヘルシンキにおいて第十五回F.I.S總會が開かれシヤモニーF.I.S委員會で保留されたアマチュア問題が検討されたが、F.I.Sは依然としてスキー教師をアマチュアなりとの認定を變へず、オリンピックとは永遠に融合せぬこととなつた。

I.O.Cカイロ總會は一九三八年三月十日より十日間に亘

雪艇

第一回スキー合宿練習

全日本スキー聯盟では第五回冬季オリンピックを目前とし、優秀選手の養成を目的として第十回全日本選手権大會終了直後臨時代表委員會を同地に開催し、日本選手強化の一策としてオリンピック選手養成委員會の結成を見、その第一回の合宿練習を昭和十二年三月二十三日より四月二日まで十日間に亘りニセコ山麓の昆布温泉並に小樽潮見臺に行ふ事に決定、次いで直ちに候補選手距離二十一名、複合十一名、飛躍十五名、滑降廻轉十六名(伊吹山終了後決定)計六十三名が決定した左記六氏が指導委員に指名された。

距離競技

増田眞一、關戸力、山田伸三、山田銀藏、桑原富男、山田金作、高橋秀雄、但野寛、安藤稔、前田文雄、三瓶重成、井熊龍太郎、佐藤岩太郎、高橋

勝磨、二瓶直正、松橋朝一、廣島精二、山田盛衛、山田肆郎、小島信男、坪内謹

複合競技

久慈庫夫、菊地富三、村井三男、乙黒秀秋、仲谷長之助、丹内正一、後藤安四郎、關口勇、岡部彰、坂田時人、龍田鳳三

滑降廻轉競技

關口勇、關金三郎、富井匡、次井晨、成田進、山畔勝太郎、河野一男、東三九郎、兜山登矢北幸雄、藤山嘉造、野崎彊

飛躍競技

伊黒正次、安達五郎、宮島巖星野昇、淺木文夫、野村四郎、木村隆一、赤松則義、長谷場國道、龍田峻次、伊藤英夫、森敏雄、森田平八郎、若本松太郎、佐々木清

委員長聯盟副會長 大野博士
副委員長 廣田 博士
距離委員 保科 武雄

リナイル河上で行はれ我國からは故嘉納、永井兩代表が出席した。冬季オリンピック札幌開催問題は議論百出し芬蘭、英國に獨乙、米國が對立スポーツの眞正が叫ばれ、米國ガーランド委員の公正なる主張は諸威の野心を吹飛ばし、札幌大會も遂に最後の決定を見た。然し此の最後の決定に對しアマ、プロ問題を中心にしてF.I.SとI.O.Cの對立に依りスキー競技をオリンピックプログラムよりの除外が附帶され、札幌大會はスケート、ボツプ、アイスホッケーの三種目となつたのである。

札幌冬季五輪大會中止

昭和十三年七月十五日木戸厚相は定例閣議においてオリンピック中止についてその理由を説明各閣僚異議なく承認した。長期戦體制整備の必要に鑑み第十二回オリンピック東京大會を正式返上に決し、それぞれ關係各方面の諒解を求めた。組織委員會では國策に順應し潔くこれを返上に決定、一方札幌大會實行委員會においても東京大會と呼

應し石黒委員長の名において大要左の聲明書を發表、札幌大會開催準備は中止された。

昭和十二年六月條件付を以つて札幌開催に決定したるオリンピック冬季大會の實施に關する諸準備を進めスキーの有無に拘はらず公約の實現に努め、他面冬季大會主催の責任者たる日本としてはオリンピック冬季大會史上にスキー以外の不名譽なる記録を残すことを遺憾とし全世界のスポーツ精神の擁護發揚に努めた。今や國家は總力を擧げて長期戦に赴かんとするのとき、大會開催の中止せらるゝは理の當然である、願れば過去一年有餘、札幌大會は難航を續けたのであつたが、幸にも内に銃後の護りに力を盡しつゝも公約の履踐に努め、外には機義日本を理解せしむべく力を盡し得たことは、實委會諸氏の熱心なる協力は勿論、組織委員會を初め道民諸氏の親切なる指導と鞭撻とによるもので

複合委員

栗谷川平五郎
宮下利三
新複合委員
飛躍委員
秋野武夫
庶務會計委員
錦戸善一郎
醫務委員
柳博士

第二回スキー合宿練習

オリンピック候補第一次銓衡
委員會は、昭和十三年二月十三
日札幌豊平館において開催さ
れ、養成委員協議の結果左記五
十二選手が第一次オリンピック
候補選手として決定した。なほ
今年度候補選手の最後決定は第
九回明治神宮スキー大會直後決
定する事となつた。

距離競技(十七名)

桑原富男、増田眞一、佐藤忠
義、關戸力、蛇子千富、但野
寛、山田銀蔵、三瓶重成、伊
藤弘、綱木義衛、安藤稔、井
上健二、山本謙一、落合力松、
山田盛衛、前田文雄、峰村信
治

飛躍競技(十四名)

龜ヶ森隆、西哲司、伊藤英夫、
村本貞雄、宮島巖、久留島敏
明、阿部啓助、野村四郎、淺
木文夫、久保登喜夫、奥村末

男、菅野駿一、星野昇、安達

複合競技(十名)

坂田時人、久慈庫夫、園部政
晴、菊田邦助、丹内正一、竹
見忠孝、及川良彦、山田肆郎、
村井三男、乙黒秀秋

新複合競技(十一名)

小島鐵彌、野崎強、中川信利、
矢倉安太郎、大野英男、龍田
鳳三、可兒久男、成田進、若
本松太郎、柴田信一、關口勇

女子新複合競技(五名)

末武清江、佐藤春子、佐藤啓
子、鈴木安子、内藤昌子
以上五十二選手の外道府縣ス
キー聯盟の推薦ありたる場合は
自費参加を認める事とし右銓衡
方針につき左記聲明が發せられ
た。

第十六回全日本選手権の成績
を主とし第十一回全國學生ス
キーと昨年の委員會の成績を
参考として銓衡したるものに
して第九回明治神宮スキーの
成績に依り更に追加し最後の
決定を見る筈である。

三年三月二十四日より四月二日
に至る十日間札幌市において行
はれる所、寒雪の爲の距離はニ
セコ青山温泉新複合はニセコ山
の家、飛躍は小樽潮見臺に夫々
變更合宿した。養成委員は左記
の通り
養成委員長 中川 新
副委員長兼庶務委員 保科武雄
醫務委員 柳 壯一
齋藤 一男
距離競技委員 上石 巖
複合競技委員 山田 勝巳
飛躍競技委員 秋野 武夫
新複合競技委員 宮川 恒雄
女子競技委員 吉岡龍太郎
なほ第九回明治神宮スキー大
會成績に依つて追加されたる選
手は次の通り
距離競技 山田金作、複合競
技 金谷正夫、新複合競技 片
桐匡、飛躍競技 佐藤利司、女
子競技 鶴見敏子、松橋光江、
高橋利子、川西静子、田村静子
全日スキー選手権大會
昭和十三年度第十六回全日本
スキー選手権大會は二月八日か
ら十三日まで六日間札幌市郊外

宮の森を中心に舉行された。

長距離

1 高田 三郎(三菱美唄)
一時間四一分五八秒
2 栗木健二郎(秋林)
一時間四八分〇四秒
3 今野仁五郎(秋林)
一時間四九分四五秒
4 山田 勝巳(青林)
一時間五二分二九秒
5 元木 勇(札幌今井)
一時間五四分三三秒
6 岡 一郎(日魯)
一時間五五分二九秒

成年組

1 桑原 富男(豊聯)
一時間三〇分二一秒
2 佐藤 忠義(豊聯)
一時間三〇分四〇秒
3 増田 眞(上志志)
一時間三〇分五二秒
4 關戸 力(札幌)
一時間三二分三六秒
5 蛇子 千富(豊聯)
一時間三二分五六秒
6 井上 健二(札幌)
一時間三三分三五秒

少年組

1 伊藤 弘(豊聯)
一時間三二分一七秒
2 綱木 義衛(三菱美唄)
一時間三三分三六秒
3 關戸 末松(札幌)
一時間三五分一二秒
4 佐藤岩太郎(青林)
一時間三六分一六秒
5 小笠原與一(豊聯)
一時間三六分五一秒
6 吉田 末吉(樽商)
一時間三十七分一〇秒

飛躍

少年組
1 久留島敏明(樺鐵)
六三米 三三點五
2 阿部 啓助(樽商)
五米 二八點七
3 野村 四郎(北商)
五米 二四點五
4 淺木 文夫(北商)
五米 二二點五
5 久保登喜夫(樽中)
五米 二〇點六
6 奥村 末男(札幌)
五米 二〇點九
最長不倒距離

成年組

1 龜ヶ森 隆(北大)
六三米 三三點九
2 西 哲司(早大)
五米 三四點五
3 伊藤 英夫(明大)
五米 三二點九
4 村本 貞雄(早大)
五米 二七點五
5 若本松太郎(ホッパ)
五米 二五點六
6 宮島 巖(北海炭礦)
五米 二〇點七

最長不倒距離

複合
少年組
1 竹見 忠孝(札幌)
四二一點〇
2 石川 良彦(札幌中)
四一三點二〇
3 菅野 駿一(樽中)
四〇六點三六
4 山田 肆郎(弘中)
四〇六點三〇
5 石川 徹(札幌)
四〇四點四〇

成年組

1 坂田 時人(札幌)
四五四點三〇
2 久慈 庫夫(早大)
四五一一點五〇
3 龜ヶ森 隆(北大)
四二六點五〇
4 園部 正晴(水上)
四一五點九〇
5 菊田 邦助(札幌)
三八九點六一
6 丹内 正一(大鰐)
三八八點七一

繼走

1 豊原聯盟(佐藤忠義、伊藤
弘、遠藤恭治、桑原富男)
三時間三十七分一四秒
2 青森林友(佐藤岩太郎、山
田至誠、山田直藏、山田
盛衛)三時間四四分二秒
3 早大(久慈庫夫、由月清夫、三
峰村信治、山口靖夫)三
時間四六分四〇秒
4 札幌(但野寛、三瓶重成、
關戸力、井上健二)三時
間四七分一三秒

成年組

1 但野 寛(札幌)
四時間一六分二〇秒
2 桑原 富男(豊聯)
四時間一八分〇三秒
3 山田 銀藏(三井砂川)
四時間二一分四二秒
4 關戸 力(札幌)
四時間二六分一九秒
5 山田 金作(秋田林友)
四時間三〇分〇四秒
6 佐藤 留雄(豊聯)
四時間三四分二〇秒

滑降競技

男子部
1 龍田 鳳三(早大)
五分一〇秒八
2 中川 信利(札幌)
五分一六秒〇
3 鈴木 政敏(泊居)
五分二〇秒八

- 4 小島 鐵彌 (ホッパ) 五分二秒〇
- 5 由月 清夫 (早大) 五分二秒四
- 6 野崎 彊 (早大) 五分二秒八

女子の部

- 1 末武 清江 (小樽聯盟) 五分五秒九
- 2 末武 澄江 (小樽聯盟) 六分三秒二
- 3 内藤 昌子 (旭川高女) 六分五秒六
- 4 花岡 静子 (大館高女) 六分五秒九
- 5 南 伶子 (小樽高女) 七分〇秒六
- 6 佐藤 啓子 (旭川高女) 七分〇秒九

男子の部

- 1 若本松太郎 (ホッパ) 一四六秒〇
- 2 矢倉安太郎 (北大) 一五二秒〇
- 3 小島 鐵彌 (ホッパ) 一五二秒四

- 4 柴田 信一 (小樽聯盟) 一五四點八
- 5 山田 鐵雄 (弘前中) 一五五點二
- 6 野崎 彊 (早大) 一五七點二

女子の部

- 1 鈴木 安子 (旭川高女) 一一八點二
- 2 末武 清江 (小樽聯盟) 一二一點二
- 3 佐藤 春子 (名寄高女) 一二三點六
- 4 山本 克子 (小樽山彦) 一二七點八
- 5 梨澤 妙子 (名寄高女) 一二八點四
- 6 川西 静子 (旭川高女) 一二九點二

男子の部

- 1 小島 鐵彌 (ホッパ) 五二〇點一
- 2 野崎 彊 (早大) 五二九點二
- 3 中川 信利 (札鐵) 五三九點一
- 4 矢倉安太郎 (北大) 五三九點一

- 5 大野 英男 (樽中) 五四九點六
- 6 龍田 鳳三 (早大) 五五三點四

女子の部

- 1 末武 清江 (小樽聯盟) 五八九點六
- 2 佐藤 春子 (名寄高女) 六七一點八
- 3 佐藤 啓子 (旭川高女) 六七五點五
- 4 鈴木 安子 (旭川高女) 六七六點八
- 5 内藤 昌子 (旭川高女) 六八〇點五
- 6 川西 静子 (旭川高女) 六八七點一

男子の部

- 1 山田勝巳 (青森林友) 二時間三秒四
- 2 金野仁五郎 (秋田林友) 二時間四分五七秒
- 3 保科武雄 (稻門ス) 二時間四分五七秒

- キ一) 二時間五分二〇秒
- 成年組 1 増田眞一 (上古志スキ一) 一時間四分四七秒
- 2 關戸力 (札幌) 一時間四分五六秒
- 3 山田伸三 (青森林友) 一時間四分六分二秒

少年組

- 1 山田肆郎 (弘前中學) 一時間四分二〇秒
- 2 山田盛衛 (青森林友) 一時間四分三三秒
- 3 山田直藏 (青森林友) 一時間四分三三秒
- 少年組 1 伊藤英夫 (樺鐵) 六八米五
- 2 淺木文夫 (北商) 六二米
- 3 小泉弘治 (樽商) 五九米
- 4 伊藤英夫 (樺鐵) 六八米五
- 5 伊藤英夫 (樺鐵) 六八米五
- 6 伊藤英夫 (樺鐵) 六八米五
- 7 伊藤英夫 (樺鐵) 六八米五
- 8 伊藤英夫 (樺鐵) 六八米五
- 9 伊藤英夫 (樺鐵) 六八米五
- 10 伊藤英夫 (樺鐵) 六八米五

複合

- 少年組 1 岡部彰 (札一中) 三六五點五〇
- 2 山田肆郎 (弘中) 三四二點一〇
- 3 菅野駿一 (樽中) 三四一點二九
- 成年組 1 久慈庫夫 (早大) 四二四點五〇
- 2 關口勇 (北大若老) 四一七點〇〇
- 3 丹内正一 (青師) 四〇二點九〇
- 1 青森林友 (山田盛衛、山田伸三、山田銀藏、廣島精二) 三時間一分二七秒
- 2 秋田林友A (山田武雄、東海林健三郎、阿部連太郎、山田金作) 三時間一分五九秒
- 3 札鐵 (但野寛、三瓶重成、關戸力、志水勘治) 三時間二分一五秒
- 耐久 (五十キロ) 1 但野寛 (札鐵) 四時間二分一八秒
- 2 山田銀藏 (青森林友) 四時間二分三四秒
- 3 高橋勝磨 (日大) 四時間二分三八秒
- 成年組 1 關金三郎 (志賀高原) 四分四八秒
- 2 野崎彊 (全)

學聯

- 四分五秒四二
- 3 關口勇 (北大若老) 四分五秒六
- 少年組 1 兜山登 (鳥取) 五分二〇秒四
- 2 山畔勝太郎 (富山) 五分二七秒二
- 3 成田進 (秋田) 五分二八秒二
- 女子組 1 郷戸セツ子 (妙高) 二分五八秒二
- 2 鶴見敏子 (高田) 三分〇五秒二
- 3 加藤千代子 (東海) 三分〇九秒四
- 壯年組 1 田中義武 (名鐵) 七分二五秒八
- 2 松前三郎 (秋田) 七分二六秒二
- 3 白井正義 (高田) 七分三三秒八
- 成年組 1 關口勇 (北大若老) 一分四九秒
- 2 矢北幸雄 (札鐵) 二分〇三秒二
- 3 新妻正一 (札鐵) 二分〇四秒八
- 少年組 1 富井匡 (長野) 一分五九秒八
- 2 渡邊桂治 (湯澤) 二分〇六秒四
- 3 山畔勝太郎 (富山) 二分一三秒
- 壯年組 1 田中義武 (名鐵) 二分三六秒六
- 2 坂次富藏 (富山) 二分四三秒二
- 3 片桐武夫 (野澤) 二分四六秒八
- 滑降廻轉新複合

成年組

- 1 關口勇 (北大若老) 一九七點四二
- 2 關金三郎 (志賀高原) 一八一一點五八
- 3 野崎彊 (早大) 一八〇點二一
- 少年組 1 富井匡 (長野) 一九六點九七
- 2 山畔勝太郎 (富山) 一八七點九九
- 3 東三九郎 (飯山) 一八五點四四
- 壯年組 1 田中義武 (名鐵) 二〇〇點〇〇
- 2 白井正義 (高田) 一九一點二一
- 3 片桐武夫 (野澤) 一八八點〇八
- 全日本學生スキー大會 第十一回全日本學生スキー選手權大會は、昭和十三年一月十日(滑降ニセコアン) 二十一日(廻轉小樽市郊天狗山山麓) 二十二日、二十三日小樽市湖見臺スキー場において舉行、早大の優勝するところとなつた。
- 滑降競技 1 伊藤 英夫 (明大) 三分三三秒
- 2 矢倉安太郎 (北大) 四分一秒八
- 3 龍田 鳳三 (早大) 四分二秒六

少年組

- 1 伊藤英夫 (明大) 一〇〇〇
- 2 矢倉安太郎 (北大) 八五・四
- 3 龍田 鳳三 (早大) 八四・三
- 4 野崎 彊 (早大) 八三・四
- 5 三浦 哲夫 (高商) 八三・一
- 6 前田文雄 (明大) 七吉原正敏 (日大) 8 宮田進 (北大)
- 4 野崎 彊 (早大) 四分一五秒四
- 5 三浦 哲夫 (高商) 四分一六秒二
- 6 前田文雄 (明大) 7 吉原清 (日大) 8 宮田進 (北大) 9 峯村信治 (早大) 10 由月清夫 (早大)
- 1 今井 祐 (立教) 四分二六秒
- 2 山口 孝 (立教) 四分三五秒
- 3 松本哲太郎 (慶應) 4 濱田元弘 (日商) 5 小林篤 (慶應) 6 吉田正敏 (慶應) 7 舟山忠二 (農大) 8 袴田健午 (農大) 9 小松正春 (日商) 10 近藤壽々也 (慶應)

- 9 峰村信治(早大) 10 大森從德(明大) 11 由月清夫(早大)
- ◇二部
1 今井 祐(立教) 一〇〇〇〇
2 山口 孝(立教) 九六・七
3 松本哲太郎(慶大) 八七・七
4 濱田 元弘(日商) 七六・七
5 小林 篤(慶大) 七五・四
6 吉田正敏(慶大) 7 船山忠二(農大) 8 梶田健午(農大)
9 小松正春(日商) 10 近藤壽々也(慶大)
- △新複合
◇一部
1 野崎 彊(早大)
滑降 八三・九 廻轉 一〇〇・〇
總得點 九・七
2 伊藤 英夫(明大)
滑降 一〇〇・〇 廻轉 八三・五
總得點 九・四
3 龍田 鳳三(早大)
滑降 八四・三 廻轉 九三・七
總得點 八・七
4 由月 清夫(早大)
滑降 六六・三 廻轉 九四・七
總得點 八・五
5 矢倉安太郎(北大)
滑降 八四・五 廻轉 八三・五

- 6 吉原 清(日大)
滑降 八二・〇 廻轉 六三・三
總得點 八・〇
- ◇二部
1 今井 祐(立教)
滑降 一〇〇・〇 廻轉 一〇〇・〇
總得點 一〇〇・〇
2 山口 孝(立教)
滑降 九七・三 廻轉 八五・八
總得點 九・七
3 松本哲太郎(慶大)
滑降 八七・三 廻轉 九三・三
總得點 九・三
4 吉田 正敏(慶大)
滑降 七四・九 廻轉 七五・六
總得點 七・五
5 梶田 健午(慶大)
滑降 九六・七 廻轉 七九・五
總得點 七・四
6 小林 篤(慶大)
滑降 六五・三 廻轉 六八・五
總得點 七・一
- △耐久
◇一部
1 前田 文夫(明大)
三時間一〇分五八秒
2 高橋 秀雄(北大)

- 3 高橋 勝磨(日大) 三時間一三分一五秒
4 大森 德從(明大) 三時間一四分四三秒
5 桵邑 政儀(明大) 三時間二〇分〇七秒
6 山口 靖夫(早大) 三時間二二分三〇秒
- ◇二部
1 岡田 元雄(慶大) 三時間五三分五一秒
2 清水 健吾(慶大) 四時間〇九分一六秒
3 梶田 健午(農大) 四時間一四分三七秒
4 春日 俊一(慶大) 四時間二〇分三四秒
5 平計 虎祐(弘高) 四時間二一分五〇秒
6 下村 尙弘(弘高) 四時間二一分五三秒
- △長距離(一月二十二日)
◇一部
1 安藤 稔(北大) 一時間二〇分〇九秒
2 峰村 信治(早大) 一時間二〇分一一秒

- 3 村井 三男(明大) 一時間二〇分二五秒
4 久慈 庫男(早大) 一時間二一分〇秒
5 由月 清夫(早大) 一時間二一分〇一秒
6 乙黒 秀秋(明大) 一時間二二分一五秒
- ◇二部
1 寶田 勤(日商) 一時間三五分四〇秒
2 小幡 眞七(農大) 一時間四三分四三秒
3 武田 藤夫(弘高) 一時間四五分一〇秒
4 小林 篤(慶大) 一時間四七分三〇秒
5 舟山 忠二(農大) 一時間四八分二八秒
6 横山 幸彦(弘前) 一時間五〇分一五秒
- △純飛躍(一月二十三日)
◇一部
最長不倒距離 五〇・〇米
1 伊藤 英夫(明大) 四米〇 三三點七
2 龜ヶ森 隆(北大) 四米〇 三八點七

- 3 西 哲司(早大) 四米五 三二點七
4 村本 眞雄(早大) 四米五 三〇點九
5 久慈 庫男(早大) 四米五 二〇點五
6 山形 順造(早大) 四米五 二〇點四
- ◇二部
1 小幡 眞七(農大) 三米〇 二〇點〇
2 今井 祐(立教) 三米〇 一九七點六
3 横山 幸彦(弘高) 三米〇 一九四點八
4 石 塚(慶大) 一七米五 一七九點六
5 寶田 勤(日商) 一七米〇 一七八點四
6 小林 篤(慶大) 一七米〇 一七七點四
- △複合
1 村井 三男(明大) 距三四〇・〇 飛三七・四 計四七五・四
2 久慈 庫夫(早大) 距三五〇・〇 飛三〇・五 計四七五・五
3 乙黒 秀秋(明大)

- 4 逸見 三郎(明大) 距三三〇・〇 飛二八・一 計四三二・一
5 龍田 鳳三(早大) 距一七五・五 飛三三・六 計四〇〇・一
6 堀 浩(早大) 距一九五・五 飛三三・四 計四〇〇・九
- △走
◇一部
1 早大 二時間四二分二〇秒
(山口 四三分四四秒 久慈 四〇分三一秒 峰村 四〇分 由月 三八分〇五秒)
2 北大 二時間四七分〇六秒
(杉本 四四分 高橋 四〇分一八秒 栗林 四三分三秒 四秒 安藤 三九分一四秒)
3 明大 二時間五一分三三秒
(大森 四三分五〇秒 乙黒 四〇分四二秒 前田 四五分四五秒 村井 四一分一六秒)
4 日大 三時間〇分三〇秒
(入江 四四分二五秒 高橋 四四分三二秒 堅田 四七分一八秒 逸見 四八分一五秒)
5 小樽高商 三時間七分四三秒

- 6 法政 三時間二四分三九秒
- △得點
◇一部
1 早大 五〇點 2 明大 四七點
3 北大 二四點 4 日大 八點
5 小樽高商 二點 6 法政 一點
- ◇二部
1 慶應 三七點 2 農大 三一點
3 弘高二四點 4 立教 二二點 5 日商 二〇點
- △全道中等校スキー大會
第九回全道中等學校スキー競技大會は昭和十三年一月二十九日、三十日滑降は手稻、廻轉は三角山、距離は札幌綜合競技場、飛躍は大會シャントウにおいて舉行、小樽商業が優勝した。
- △滑降
1 星野 昇(北商) 六分五四秒
2 奥村末男(札商) 六分五八秒
3 波岡利(名寄中) 七分二秒
4 織原祐之(樽中) 七分五秒
5 長澤 讓(樽商) 七分七秒
6 松下稔三(樽商) 7 西川巖(眞岡中) 8 中川信吾(札商)

- 9 鳥田鐵郎(旭商) 10 廣川勲一(名寄中)
- △廻轉
1 長澤 讓(樽商) 一四四點六
2 平田正三(北中) 一五五點四
3 新谷 忠(同) 一五七點四
4 小島銑也(同) 一五九點〇
5 橋本茂生(樽商) 一六一點〇
6 杉山石雄(樽商) 7 波岡利(豐中) 8 綿引弘(二中) 9 織原祐三(樽中) 10 星野昇(北商)
- △新複合
1 長澤 讓(樽商) 滑四七・二 廻三〇・三 計六七・五
2 平田 正三(北中) 滑四七・六 廻三〇・七 計七三・三
3 波岡 利(豐中) 滑四三・二 廻三〇・六 計七三・八
4 新谷 忠(北中) 滑四三・〇 廻三〇・三 計七三・三
5 橋本 茂生(樽商) 滑四三・〇 廻三〇・三 計七三・三
6 杉山 石雄(樽商) 滑四三・〇 廻三〇・三 計七三・三
7 星野 昇(北商) 滑四三・〇 廻三〇・三 計七三・三
8 小島 銑也(北中)

- 滑四六六 廻三六・二計七九・八
- 9 織原 祐之(樽中) 滑四三〇 廻三四七 計七九七
- 10 綿引 弘(二中) 滑四〇八 廻三〇五 計七〇六

- △複合
- 1 竹見 忠孝(札商) 四米〇
- 2 及川 良彦(二中) 五米五
- 3 石川 徹(札師) 四米五
- 4 久保登喜夫(樽中) 四米五
- 5 伊藤 勇三(樽中) 四米五
- 6 赤松 則茂(旭商) 四米〇
- 7 菅野 駿一(樽中) 四米〇
- 8 淺木 文雄(北商) 四米五
- 9 村上 良雄(北中) 五米〇
- 10 乃村 廣(名中) 五米〇

- △純飛躍
- 1 星野 昇(北商)
- 2 菅野 駿一(樽中) 五米〇
- 3 野村 四郎(北商) 五米〇
- 4 美勢 潤(二中) 五米〇
- 5 金野 敏(北中) 五米〇
- 6 久保登喜夫(樽中) 五米〇
- 7 阿部 啓助(樽商) 五米〇
- 8 織原 祐之(樽中) 五米〇
- 9 竹見 忠孝(札商) 五米〇
- 10 安宅 啓治(樽商) 五米〇

- △最長不倒
- 1 落合 力松(北商) 五米〇
- 2 吉田 末吉(樽商) 五米〇
- 3 小坂友一郎(一中) 五米〇
- 4 湊 恭(樽商) 一時間〇三分二六秒
- 5 伊藤 健二(一中) 一時間〇四分〇六秒
- 6 廣川勳一(名中) 一時間〇四分〇六秒
- 7 雲田勇(真岡中) 一時間〇四分〇六秒
- 8 德差健太郎(樽商) 一時間〇四分〇六秒
- 9 田中實(樽商) 一時間〇四分〇六秒
- 10 關戸末松(札商) 一時間〇四分〇六秒

- △複合
- 1 小樽商業 二時間一三分二五秒
- 2 北海商業 二時間一五三分三秒
- 3 北海商業 二時間一五三分三秒
- 4 北海商業 二時間一五三分三秒
- 5 北海商業 二時間一五三分三秒
- 6 北海商業 二時間一五三分三秒
- 7 北海商業 二時間一五三分三秒
- 8 北海商業 二時間一五三分三秒
- 9 北海商業 二時間一五三分三秒
- 10 北海商業 二時間一五三分三秒

- △繼走
- 1 小樽商業 二時間一三分二五秒
- 2 北海商業 二時間一五三分三秒
- 3 北海商業 二時間一五三分三秒
- 4 北海商業 二時間一五三分三秒
- 5 北海商業 二時間一五三分三秒
- 6 北海商業 二時間一五三分三秒
- 7 北海商業 二時間一五三分三秒
- 8 北海商業 二時間一五三分三秒
- 9 北海商業 二時間一五三分三秒
- 10 北海商業 二時間一五三分三秒

- △得點
- 1 北海商業 六五點
- 2 北海商業 四六點
- 3 小樽中學 三七點
- 4 北海中學 三〇點
- 5 札幌二二三點
- 6 札幌商業 二二點
- 7 札幌一中 一八點
- 8 名寄中學 一〇點
- 9 札幌師範 九點
- 10 眞岡中學 四點

- △優勝
- 1 小樽商業 六五點
- 2 北海商業 四六點
- 3 小樽中學 三七點
- 4 北海中學 三〇點
- 5 札幌二二三點
- 6 札幌商業 二二點
- 7 札幌一中 一八點
- 8 名寄中學 一〇點
- 9 札幌師範 九點
- 10 眞岡中學 四點

二點

全道女子スキー競技會

第六回全道女子スキー競技大會は、昭和十三年一月二十三日札幌市郊外宮の森三角山麓で舉行

△滑降競技

- △A班
- 1 川西 靜子(旭川高女) 一分一三秒
- 2 内藤 昌子(同) 一分一四秒二
- 3 佐藤 啓子(同) 一分二〇秒
- 4 鈴木 安子(同) 一分二四秒六
- 5 干場 光子(同) 一分二七秒二
- △B班
- 1 瀧本 章子(岩見澤高女) 一分四二秒
- 2 山本 克子(山彦俱) 一分四五秒八
- 3 關澤 靜子(岩見澤高女) 一分五五秒四
- 4 木元せつ子(小樽市立) 一分五九秒
- 5 長井 きえ(名寄高女)

△廻轉

- △A班
- 1 鈴木 安子(旭川高女) 一分三七秒二
- 2 川西 靜子(同) 一分五八秒八
- 3 松信 民子(小樽スキークラブ) 二分〇四秒八
- 3 佐藤 啓子(旭川高女) 二分〇四秒八
- 4 獅子原信子(名寄高女) 二分〇六秒二
- 5 鎌田 靜子(小樽スキークラブ) 二分〇八秒八
- △B班
- 1 山本 克子(山彦クラブ) 二分二三秒二
- 2 木元せつ子(小樽市立) 二分四七秒
- 3 關澤 靜枝(岩見澤高女) 三分〇二秒
- 4 村田 澄子(小樽市立) 三分〇三秒
- 5 栗田美代子(小樽市立) 三分一三秒四
- △複合
- △A班

△繼走

- △A班
- 1 岩見澤高女 二三分三一秒
- 2 名寄高女 二三分四八秒
- 3 旭川高女 二五分二五秒
- 4 札幌市立高女 三分三八秒
- 5 札幌師範立高女 三分一三秒
- △B班
- 1 岩見澤高女 二五分四九秒
- 2 名寄高女 二五分五二秒

△女子滑降

- 1 松橋 光江(妙高小) 二分〇八秒五
- 2 高橋 利子(關川小) 二分〇一秒五
- 3 川井トヨ子(山形二高女) 二分一八秒五
- 4 内藤昌子(旭川高女) 五分〇五秒
- 5 見敏子(高田) 五分〇五秒
- 6 長沼アキ(横手高女) 七分〇四秒
- 7 川西(旭川高女)
- 8 鈴木(旭川高女)
- 9 男子滑降
- 1 山畔勝太郎(富山)

- 2 若本松太郎(北海道) 三分一一秒
- 3 竹節善右衛門(長野) 三分一三秒

◇ 繼走

- 1 樺太(佐藤忠、伊藤、蛭子桑原) 一時間五七分一八秒
- 2 秋田 二時間四分三九秒五
- 3 長野 4 新潟 5 山形 6 徳島

◇ 男子廻轉

- 1 若本松太郎(北海道) 九二秒一
- 2 小島 弘平(新潟) 一〇二秒八
- 3 兜山 登(鳥取) 一〇三秒五
- 4 片桐匡 一〇五秒 5 森貢(長野) 一一一秒五
- 6 森史郎(長野) 一一八秒四

◇ 女子廻轉

- 1 鶴見敏子(高田) 六六秒六
- 2 佐藤 啓子(旭川高女) 七秒
- 3 鈴木 安子(旭川高女) 七九秒五

◇ 男子部複合

- 1 若本松太郎(北海道) 一九八點四四(滑九八點四四)
- 2 片桐 匡(長野) 一八七點六三(滑一〇〇點)
- 3 山畔勝太郎(富山) 一七五點三八(滑九八點九)
- 5 廻七六點四三

◇ 女子新複合

- 1 鶴見 敏子(高田) 一八九點二四(滑八九點二)
- 2 松橋 光江(妙高) 一八二點六三(滑一〇〇點)
- 3 高橋 利子(關川小學) 一八〇點六三(滑九七點七二)
- 4 川西 静子(旭川高女) 一七一點九八(滑八八點六)
- 5 鈴木 安子(旭川高女) 一六八點三一(滑八四點五)
- 6 環貫 友子(横手高女) 長距離

- 1 桑原 富雄(樺太) 一時間二一分一七秒
- 2 伊藤 弘(樺太) 一時間二二分四〇秒
- 3 蛭子 千富(樺太) 一時間二三分四五秒
- 4 佐藤 忠義(樺太) 一時間二三分一八秒
- 5 山田 金作(秋田) 一時間二四分〇三秒
- 6 佐藤 勇(新潟) 一時間二四分〇九秒

◇ 複合競技順位

- 1 園部 政晴(群馬) 四五七・三(四〇・三七・三)
- 2 關口 勇(北海道) 四八八・五(二米)
- 3 金谷 正夫(樺太) 三八三・三(三・五・一八・八)
- 4 菊地 正人(青森) 三六八・五(六・〇・三〇・五)
- 5 上野 桂二(京都) 三六七・六(七・〇・一九・六)

- 6 神島 安徳(青森) 三六五・四(三〇・〇・一六・四)

◇ 純飛躍競技

- 1 佐藤 利司(樺太) 二一〇・六(第一回五二米五〇)
- 2 關口 勇(北海道) 一九九・二(五〇米四三米)
- 3 堀江 勇(樺太) 一九八・九(五二米四七米)
- 4 金谷 正夫(樺太) 一九六・八(四八米四四米)
- 5 星野 昇(北海道) 一九六・六(四三米五米)
- 6 久留島敏明(樺太) 一九五・七(四九米四四米)

◇ 最長不倒園部(群馬)五七米

- 優勝 樺太 四五點
- 2 北海道三一 一點〇三
- 3 長野二 一點〇四
- 4 新潟一六 一點〇五
- 5 富山 一點〇六
- 6 群馬九 一點〇七
- 7 秋田 七點〇八
- 8 青森四 七點〇九

◇ 第三回滑降廻轉大會

- 小樽新聞社並に札幌スキー聯盟主催第三回全道滑降廻轉競技選手権大會は昭和十三年一月十日

五日(滑降手稻)十六日(廻轉三角山)舉行

◇ 滑降

- 1 小島 鐵彌(ホッパ) 六分三七秒
- 2 伊藤 重雄(ホッパ) 六分三八秒
- 3 可兒 久男(札鐵) 六分四三秒
- 4 中川 信利(札鐵) 六分四七秒
- 5 柴田 信一(小樽スキー俱) 六分五九秒
- 6 新谷忠(北中) 7 濱謙二(ホッパ) 8 上野清(札鐵) 9 小田島定(三井砂川) 10 成田進(輕川山岳) 11 野崎泰允(砂川) 12 山田四郎(北大OB)

◇ 滑降複合

- 6 中川信利(札鐵) 一五五秒八
- 7 有川梅次郎(小樽スキークラブ) 8 矢北幸雄(札鐵) 9 小島銑也(北中) 10 新谷忠(北中) 11 大内三治(美幌)

◇ 廻轉複合

- 1 小島 鐵彌(ホッパ) 六三三點
- 2 可兒 久男(札鐵) 六四九點
- 3 中川 信利(札鐵) 六五九點
- 4 柴田 信一(小樽スキークラブ) 六六〇點
- 5 伊藤 重雄(ホッパ) 六八〇點
- 6 新谷 忠(北中) 六九一點
- 7 濱謙二(ホッパ) 8 小田島定(三井砂川) 9 小島銑也(北中) 10 上野清(札鐵)

◇ 滑降複合

- 1 末武 清江(小樽スキー俱) 六七九點六
- 2 末武 澄江(同) 六九三點五
- 3 山下 幸枝(岩見澤高女) 七七四點八
- 4 江草 文子(同) 七七七點一
- 1 春日 アイ(岩見澤高女) 七六秒六
- 2 山下 幸枝(同) 七七秒〇
- 3 末武 澄江(小樽スキー俱) 七七秒二
- 4 末武 清江(同) 七九秒〇

◇ 最長不倒

- 安達五郎(札鐵) 七〇米
- 全日選拔飛躍競技大會
- 東日主催第一回全日本選拔スキー飛躍東京大會は、昭和十三年二月二十七日東京後樂園木造飛躍臺で舉行
- 飛躍成績
- 1 木村 隆一(小樽中出) 三三三點二
- 2 安達 五郎(札鐵) 三三二點一
- 3 三三米五〇
- 4 三三米
- 5 三三米五〇
- 6 三三米
- 7 三三米
- 8 三三米
- 9 三三米
- 10 三三米

- 三米五〇
- 3 伊藤 英夫(明大) 三二五
- 點六(三〇米、三〇米五〇、三一米)
- 4 宮島 巖(北海炭礦) 三二點一(三〇米、三一米、三一米)
- 5 野村四郎(北海商) 三一九點八(二八米、三〇米五〇、三二米五〇)
- 6 村本 貞雄(早大) 三一九點三(三〇米、三二米、三一米五〇)
- 7 若本松太郎(ホッパ) 三一七點二(二八米五〇、三〇米五〇、三〇米)
- 8 關口 勇(北大若老) 三二九點〇(二七米、二九米、二九米)
- 9 久慈 庫男(早大) 三二一點〇(二七米五〇、二九米、三一米)
- 10 久保登喜夫(小樽中) 三〇七點七(二八米五〇、二九米、三一米五〇)

第五回冬季國際オリンピックに備へて、歐洲に遠征した伊黒正次、菊池富三、藤山嘉造、次井晨の四選手中伊黒、菊池兩選手の戦績は左の通りである。

昭和十三年一月二十五日夜バルテシキルヘン・スキー協會主催の小シヤンツエ飛躍競技會

◆伊黒選手 四四米、四九米

◆菊池選手 四三米、四八米

伊黒、菊池兩選手は昭和十三年一月二十八日ガルミツシユ・バルテシキルヘンの國際スキー選手權大會に出場菊池は複合長距離(十八軒)に一時間二十九分十三秒で二十六位(二三七點九)であつたため、三十日の複合飛躍は第四位を得たが複合總得點三六二點一で第十七位となつた。

同日舉行の純飛躍には伊黒六五米、菊池六五米で第五位と第六位であつたが、降雪のため小シヤンツエで再舉行し、伊黒第七位で入賞

◆伊黒選手 四二米、五〇米

昭和十三年二月二日ハンガリーのメツラで舉行の飛躍競技に

伊黒選手出場、三三三點で第四位

三七米、四九米、五四米

昭和十三年二月二十四日から舉行のフィンランドラハチにおける世界スキー選手權大會に伊黒、菊池兩選手出場、菊池は二十六日の複合長距離に一時間二十六分二十一秒で飛躍に健闘したが複合順位は第三十九位となつた、純飛躍は

◆伊黒選手 第十位二一五點六六一米、六四米五〇

◆菊池選手 第十二位 二一三點四、六〇米五〇、六〇米五〇

昭和十三年三月六日ブララグにおけるドイツウインタースポーツ協會主催の飛躍競技に出場、伊黒第三位、菊池第十一位となつた。

◆伊黒選手 五三米、五二米

◆菊池選手 四五米、四〇米

札幌馬スキー俱結成

昭和十三年三月札幌馬スキー俱樂部結成され、同月二十日馬スキー並に大橋競走を札幌神社外苑綜合グラウンドで舉行

- ◆犬橋競走(八〇〇米)
- 1 樹崎榮藏 2 竹山實 3 三國三郎 4 吉田末藏 5 小川二一 6 小原則明 7 植村武男 8 小林三三郎 9 樹崎榮藏 10 外崎勇 11 榮山友造 12 小川二一 13 三國三郎 14 水島松太郎
- ◆馬スキー單走(一二〇〇米)
- 1 岡梯三 2 菅間威 3 傳法貫一 4 小村達夫 5 瀬戸三郎 6 笹原二郎 7 池内武夫 8 池内源市 9 齋藤長一 10 山下正亮 11 三浦清 12 根市高志 13 高井久芳 14 荒野寅雄
- ◆馬スキー複走(一二〇〇米)
- 1 荒野寅雄 2 三浦清 3 笹原二郎 4 高井久芳 5 池内武夫 6 瀬戸三郎 7 池内源市 8 菅間威 9 小村達夫 10 根市高志 11 傳法貫一 12 齋藤長一 13 岡梯三 14 山下正亮
- ◆第一回馬スキー犬橋會
- 札幌馬スキー俱樂部主催第一回馬スキー並に犬橋競走大會は昭和十三年二月二十七日札幌神社外苑綜合グラウンドにおいて

舉行

- ◆犬橋競走(八〇〇米)
- 1 三國 三郎(シエパードペンダー號) 二分八秒六
- 2 小原 則明 二分四九秒四
- 3 吉田 米藏 二分五四秒八
- 4 植村 武男 三分一二秒
- 5 小川 二一 三分一六秒
- ◆馬スキー複走(一二〇〇米)
- 1 池内 武夫 伴走栗林、高橋 三分五秒
- 2 傳法 貫一 三分二一秒八
- 3 池内 源市 三分二八秒二
- 4 嵩 修三 三分四二秒
- 5 高杉 直幹 三分三五秒
- ◆馬スキー單走(一二〇〇米)
- 1 三浦 清 二分二〇秒四
- 2 池内 源市 二分二四秒四
- 3 齋藤 長一 二分三二秒六
- 4 嵩 修三 二分四二秒六
- 5 前田 宏 二分四三秒八

基本として製作に著手した。他は札幌ボツプ俱樂部であるが、同俱樂部では小別峠に日本最初のアイスバーンを建設して、昭和十三年二月六日試乗會を催し、同月十二日日本最初の第一回ボツプ競技大會を舉行、参加六團選手二名札幌A型二人乗を使用

△第一回

◆日の出(高橋、畑) 四四秒

他は全部失格

△第二回

◆北大(淺間、井上) 二八秒一

他は全部失格

氷上

- ◆全日本氷上十傑選手
- 大日本スケート競技聯盟發表の昭和十三年度スピードスケート十傑中に選ばれた本道選手は左の通りである。
- ◆五百米 5位(四五秒四) 内藤 晋(苦工)
- ◆千五百米 9位(三分三二秒九) 内藤 晋(苦工)
- ◆五百米 3位(五三秒八)
- ◆中川 キヨ(苦女) 7位(五五秒一)
- ◆坂本 キヨ(北海道) 2位(一分四一秒四)
- ◆中川 キヨ(苦女) 6位(一分五七秒二)
- ◆大高 タエ(苦女) 8位(一分五八秒四)
- ◆坂本 キヨ(苦女) 3位(六分九秒六)
- ◆中川 キヨ(北海道) 5位(一分)
- ◆中川 キヨ(苦女) 6位(一分〇秒一)
- ◆平井 牙子(北海道) 8位(一分三秒九)
- ◆大高 タエ(北海道) 9位(一分七秒一)
- ◆野澤 光子(北海道)
- ◆全道氷上競技選手權會
- 第十一回全道氷上競技選手權大會は、昭和十三年一月七日から三日間苫小牧町王子新設リンクにおいて舉行
- ◆女子五百米(セバレットコース) 1 中川 キヨ(苦高女) 五五秒一(北海道並に大會新記録)

- ◆男子五百米(セバレットコース)
- 1 内藤 晋(苦工) 四八秒八
- 2 稻田豊(北大豫科) 五一秒三
- 3 小川 榮(苦工) 五三秒二
- 4 伊藤行夫(苦工) 五五秒正
- 一(苦小牧西校)
- ◆女子千五百米(セバレットコース)
- 1 中川 キヨ(苦高女) 一分五四秒六(北海道新記録)
- 2 坂本 キヨ(苦西) 一分五八秒四(北海道新記録)
- 3 大高 タエ(苦高女) 二分〇秒四(北海道新記録)
- 4 野澤光子(苦西) 5 平井牙子(苦高女) 6 御所脇静江(苦西)
- ◆男子千五百米(セバレットコース)

- 1 內藤 普(苦工) 二分四秒九(北海道新記録)
- 2 小川 榮(同)二分五秒四
- 3 伊藤行夫(同)二分五秒七
- 4 高屋正一(苦西) 5 津田朝照(苦西) 6 相馬光男(王子) 女子三千米
- 1 中川 キヨ(苦高女) 六分二三秒八(北海道新記録)
- 2 平井 冨子(苦高女) 六分三四秒六(北海道新記録)
- 3 大高 タエ(苦高女) 六分三五秒四(北海道新記録)
- 4 野澤 光子(苦西) 六分三七秒五(北海道新記録)
- 5 坂本 キヨ(苦西) 六分四一秒三(北海道新記録)
- 6 北澤キクエ(苦高女) 男子五千米
- 1 小川 榮(苦工) 一〇分二二秒五
- 2 津田 朝照(苦西) 一〇分三九秒三
- 3 伊藤 行夫(苦工) 一〇分四四〇秒九
- 4 島田軍治(苦西) 5 相馬光男(王子) 6 高橋昇(苦小牧) 女子五千米

- 1 中川 キヨ(苦高女) 一分一一分(北海道新記録)
- 2 平井 冨子(苦高女) 一分一〇秒四分
- 3 大高 タエ(苦高女) 一分一〇秒三分
- 4 坂本キヨ(苦西) 5 品川京子(苦東) 6 佐藤惠美 女子競技全種目(五百米、千米、三千米、五千米)を國際規則に依り採點の結果、苦小牧高女の中川キヨ選手が昭和十三年度スピード選手権を獲得
- 1 中川 キヨ(苦高女) 二四二點三六七
- 2 大高 タエ(苦高女) 二五三點四三〇
- 3 平井 冨子(苦高女) 二五四點四〇七
- 4 坂本 キヨ(苦西) 二五四點七二三
- 5 佐藤 惠美(苦高女) 二七六點一三〇
- 6 御所脇靜江(苦西) 二七六點二八三
- 男子一萬米
- 1 內藤普(苦工)二分三秒五
- 2 小川榮(苦工)二分二九秒六

- 3 高屋 正一(苦西) 二二分四三秒五
- 4 相馬光男(王子) 5 伊藤行夫(苦工) 6 津田朝照(苦西) 男子競技全種目(五百米、千米、五千米、一萬米)を國際規則に依り採點の結果、苦小牧工業の小川榮選手が昭和十三年度スピード選手権を獲得
- 1 小川 榮(苦工) 二二七點〇六三
- 2 伊藤 行夫(苦工) 二四五點二七三
- 3 相馬 光男(王子) 二四八點六四八
- 4 津田 朝照(苦西) 二五〇點七一三
- 5 島田 軍治(苦西) 二五二點八五三
- 6 金 圭 櫛(苦工) 二五五點一七七
- 道釋中等小學選手權會 第十五回北海道樺太中等學校水上競技選手權並に第四回全道女學校、小學校水上競技選手權大會は、昭和十三年一月二十九日三十日札幌中島リンクで舉行
- 中等男子五百米

- 1 小川(苦工) 五〇秒六
- 2 伊藤(苦工) 五二秒六
- 2 內藤(苦中工) 五二秒四
- 4 能登(北中) 5 江河(北中) 6 大島(一中)
- 尋女二百五十米
- 1 品川(苦東) 三〇秒八
- 2 岩本(苦東) 三三秒六
- 2 櫻井(苦西) 三三秒六
- 2 渡邊(苦東) 三三秒六
- 5 小野田(苦東) 6 早川(苦西) 6 長野(苦西)
- 高女二百五十米
- 1 坂本(苦西) 二八秒八
- 2 野澤(苦西) 三〇秒六
- 3 御所脇(苦西) 三二秒八
- 尋男千五百米
- 1 富田(苦東)三分一五秒四
- 2 野中(苦西)三分一五秒六
- 3 薄井(苦西)三分二一秒二
- 4 薄井(苦西)三分二一秒八
- 5 山田(苦東) 6 佐藤(苦東) 高男千五百米
- 1 高屋(苦西)二分五三秒二
- 2 島田(苦西) 三分

- 3 津田(苦西)三分一三秒八
- 4 眞木(札二高) 5 網島(札二高) 6 難波(札二高)
- 中等女子千五百米
- 1 中川(苦高女)一分五一秒四(日本國內新記録)
- 2 大高(同)一分五七秒二
- 3 佐藤(同)二分〇六秒四
- 4 石倉(旭高女)
- 中等男子五千米
- 1 小川(苦工)九分四五秒六
- 2 伊藤(苦工)九分四七秒六
- 3 能登(北中) 4 西浦(苦工)
- 中等男子千五百米
- 1 小川(苦工)二分四四秒六
- 2 能登(北中)二分五一秒四
- 3 伊藤(苦工)二分五三秒四
- 4 大島(一中) 5 江河(北中) 尋男五百米
- 1 富田(苦東) 五七秒八
- 2 薄井(苦西) 一分〇秒八
- 3 佐藤(苦東) 一分一秒二
- 4 野中(苦西) 5 中村(苦西) 尋女五百米
- 1 品川(苦東) 一分〇秒四
- (大會新記録)

- 2 岩本(苦東) 一分三秒六
- 3 長野(苦西) 一分六秒二
- 4 小野(苦東)
- 高男五百米
- 1 島田(苦西) 五五秒六
- 2 高屋(苦西) 五五秒六
- 3 高橋(苦西) 五九秒二
- 高女五百米
- 1 坂本(苦西) 五七秒四
- 2 大高(苦西) 五九秒八
- 3 御所脇(苦西) 一分六秒八
- 中等女子五百米
- 1 中川(苦高女) 五三秒八
- 2 大高(苦高女) 五六秒四
- 3 北澤(苦高女) 五七秒二
- (以上大會新記録)
- 中等男子二千米繼走
- 1 苦工(小川、金、伊藤、西浦)三分三六秒二
- 2 北中 三分四五秒
- 3 札工 四分一〇秒
- 高男二千米繼走
- 1 苦西(高橋、津田、島田、高屋)三分五七秒(大會新記録)
- 2 札二高(眞木、網島、永見、南場)四分二一秒二

- 女子中等二千米繼走
- 1 苦高女(大高、平井、北澤、中川)三分四七秒六(大會新記録)
- 尋女八百米繼走
- 1 苦東(岩井、小野田、渡邊、品川)一分四二秒四
- 2 苦西 一分四五秒六
- (以上大會新記録)
- 高女八百米繼走
- 1 苦西(坂本、御所脇、岩井、野澤)一分四二秒六(大會新記録)
- 尋男二千米繼走
- 1 苦東(佐藤、渡井、山田、富田)四分四秒六(大會新記録)
- 2 苦西、3 豐水
- 高男五千米
- 1 島田(苦西) 一〇分八秒四
- 2 高屋(苦西) 一〇分八秒六
- (以上大會新記録)
- 3 津田(苦西)
- 中等女子三千米
- 1 平井 冨子(苦高女) 五分五四秒(日本新記録)
- 2 中川(苦高女) 六分
- 中等男子一萬米

- 1 小川(苦工) 二〇分二三秒四
- 2 伊藤(苦工) 二〇分二三秒六
- 六(以上大會並に全道新記録)
- 3 西浦(苦工) 4 能登(北中)
- 5 江河(北中) 6 小島(北中)
- △得點
- 尋男
- 1 苦西二六點 2 苦東二五點
- 5 3 豐水〇・五點
- 尋女
- 1 苦東三八點 2 苦西一四點
- 1 苦西五一點 2 札幌二高一九點
- 高女
- 1 苦西四二點
- 中等女子
- 1 苦高女五一點 2 旭川高女八點
- 中等男子
- 1 苦工五七點 2 北中二八點
- 3 一中九點 札工二點
- 全日本水上選手權大會 第九回全日本水上競技選手權大會スピード大會は昭和十三年一月十四、十五、十六の三日間

新設の札幌中島公園オリンピック
クリンクで舉行

女子五百米(セバレートコー
ス)

- 1 江島八重子(滿洲)五三秒九
- 2 中川 キヨ(北海道)五四秒
- 3 坂本 キヨ(同)五五秒一
- 3 今村 俊子(滿洲)五五秒一
- 3 汾陽 泰子(滿洲)五五秒一
- 6 大高 タエ(北海道)

男子五百米(セバレートコー
ス)

- 1 崔 龍 振(明大)四五秒九
- 2 李 聖 德(朝鮮)四六秒四
- 3 南洞 邦夫(早大)四六秒九
- 4 三代正勝(滿洲)許景自(明
大)6金正淵(朝鮮)6朴潤
哲(滿洲)8内藤晋(北海道)
四七秒八

女子三千米(セバレートコー
ス)

- 1 江島八重子(滿洲)六分一
- 2 汾陽 泰子(滿洲)六分一
八秒七
- 3 中川 キヨ(北海道)六分
二一秒一(北海道新記録)
- 4 野澤 光子(北海道)5大

高タエ(北海道) 6村山節子
(滿洲)

女子千米(セバレートコー
ス)

- 1 江島八重子(滿洲)一分五
三秒三
- 2 中川 キヨ(北海道)一分
五三秒六(北海道新記録)
- 3 今村 俊子(滿洲)一分五
五秒三
- 4 汾陽 泰子(滿洲)5村山
菊子(滿洲)
- 5 大高 タエ(北海道)二分
二秒四
- 5 平井 冨子(北海道)二分
二秒四

女子五千米(セバレートコー
ス)

- 1 江島八重子(滿洲)一〇分
三六秒
- 2 汾陽 泰子(滿洲)一〇分
五六秒三
- 3 平井 冨子(北海道)一一
分〇秒一
- 4 大高 タエ(北海道)一一
分五秒九
- 5 野澤 光子(北海道)一一
分七秒一
- 6 坂本 キヨ(北海道)一一

分一三秒二

男子五千米

- 1 張祐植(明大)九分一三秒八
- 2 崔龍振(同)九分一六秒四
- 3 泉山貞義(明大)4金正淵
(朝鮮)5南洞邦夫(早大)
- 6 朴潤哲(滿洲)

女子スピード選手権

- 1 江島八重子(滿洲)二三六點二一七
- 2 中川 キヨ(北海道)二四三點二六七
- 3 汾陽 泰子(滿洲)二四三點五四七
- 4 今村 俊子(滿洲)二四八點九〇〇
- 5 大高 タエ(北海道)二五〇點八二三
- 6 平井 冨子(北海道)二五二點九四二
- 7 野澤 光子(北海道)二五三點五九三

(朝鮮) 6内藤晋(北海道)
二分三六秒 7金正淵(朝鮮)

男子一萬米

- 1 張祐植(明大)一八分
四四秒九
- 2 崔龍振(明大)一八分
五二秒二
- 3 朴潤哲(滿洲)一八分
五六秒五
- 4 南洞邦夫(早大)5安重熙
(明大)6金正淵(朝鮮)

男子スピード選手権

- 1 崔龍振(明大)二〇九
點四二二
- 2 南洞 邦夫(早大)二二二
點〇二〇
- 3 朴潤哲(滿洲)二二二
點〇九八
- 4 張祐植(明大)二二三
點四五八
- 5 安重熙(明大)二二三
點六七七
- 6 金正淵(朝鮮)二二三
點八九八

第一回全滿洲軍對全北海道軍
スピード對抗競技大會は、昭和
十三年一月十八日苫小牧王子リ
ンクにおいて舉行

女子千米

- 1 江島(滿) 一分五四秒一
- 2 中川(北) 一分五四秒三
- 3 今村(滿) 一分五六秒六
- 4 村山(滿) 5大高(北) 6
坂本(北)

男子千五百米

- 1 朴 (滿) 二分三五秒七
- 2 三代(滿) 二分三七秒四
- 3 内藤(北) 二分三七秒六
- 4 石塚(滿) 5小川榮(北) 二
分四六秒 5安保重(北)

女子三千米

- 1 汾陽 泰子(滿) 六分九秒
- 四(日本新記録)
- 2 中川 キヨ(北) 六分九秒
- 六(日本新記録)
- 5 江島八重子(滿) 六分一四
秒四(日本新記録)
- 4 野澤(北) 5平井(北) 6
村上(滿)

男子五千米

- 1 朴 (滿) 九分一一秒一
- 2 石塚(滿) 九分三一秒三

全日ホツケ1選手権會
第九回全日本氷上競技選手権
大會アイスホツケ1は、昭和十
三年一月十四日、十五日、十六
日新設の札幌中島公園屋外オリ
ンピックリンクにおいて舉行

第一次戦

- 北 大 6 2 2 2 0 2 札一中
- 2 2 2 0 2 2 札一中

準決勝

- 王 子 4 0 3 0 0 0 北大
- 1 0 1 0 0 0 北大

苦工對全札師

- 苦 工 5 1 3 1 1 0 0 1 全札師
- 1 3 1 1 0 0 1 全札師

決勝

- 王 子 4 2 2 0 1 0 0 1 苦工
- 2 2 0 1 0 0 1 苦工

全日ホツケ1選手権會
第九回全日本氷上競技選手権
大會アイスホツケ1は、昭和十
三年一月十四日、十五日、十六
日新設の札幌中島公園屋外オリ
ンピックリンクにおいて舉行

第一次戦

- 日 光 5 1 0 2 2 0 0 0 4 全札師
- 1 0 2 2 0 1 3 0 4 全札師

準々決勝

- 苦 工 4 1 1 2 1 1 0 2 明大
- 1 1 1 1 0 1 1 0 2 明大

早大對北大

- 早 大 9 7 0 2 0 0 1 北大
- 7 0 1 0 0 1 北大

王子對慶應

- 王 子 3 1 0 2 0 0 1 慶應
- 1 0 0 1 0 0 1 慶應

立教對日光

- 立 教 8 4 0 4 1 0 1 2 日光
- 4 0 1 1 0 1 2 日光

早大對王子

- 早 大 5 2 2 0 1 0 2 3 王子
- 2 2 0 1 0 2 3 王子

立教對苦工

- 立 教 9 5 0 4 2 0 2 4 苦工
- 5 0 4 2 0 2 4 苦工

早大對立教

- 早 大 3 0 1 2 0 0 1 立教
- 0 1 0 0 1 立教

函館商業對北海中學

- 函 商 5 2 1 2 2 0 2 北海中
- 2 1 2 0 2 北海中

苦小牧工業對札幌一中

- 苦 工 11 5 3 3 3 1 3 1 中
- 5 3 3 1 2 3 1 中

札幌師範對函館商業

- 札幌師範對函館商業

札師4 022 000 函商

△決勝 苫小牧工業對札幌師範

苦工8 413 400 1札師

全札幌ホッケー大會

第二回全札幌ホッケー大會ホッケー戦は、昭和十三年二月五日中島リンクで舉行

△準決勝

北大對一中

北大4 130 100 2一中

札俱對北中

札俱2 101 001 1北中

△決勝

札俱對北大

北大7 322 311 3札俱

陸上

陸上競技記録章受賞者

富盛富太郎(室蘭) 鐵砲投 四二米四五

富盛富太郎(室蘭) 百米 一二秒九

久保(札幌市立) 砲丸投 一〇米四〇

榮(北海高女) 十傑と公認最高記録

北海道陸上競技協會發表、昭和十二年全北海道陸上競技男子及び女子十傑は左の通りであるが、なほ、昭和十二年十二月末現在全北海道陸上競技協會公認は別表の通りである。

△男子の部

- 百米 平均一〇秒二三
一〇秒八 田村 修 太平洋
一〇秒九 堤 武四郎 小樽
一秒二 市原 正雄 札幌
一秒二 中谷重晴 三井砂川
一秒三 吉田 博 旭師
一秒三 續橋 忠績 三笠山
一秒三 小笠原武次 太平洋
一秒四 細谷 哲郎 北大
一秒四 尾野光安 三井砂川
一秒四 日笠 一丸 室蘭製鋼
一秒四 伊勢仁三 室蘭製鋼
二百米 平均二三秒六七五

昭和十二年度における北海道陸上競技記録保持者に贈呈した小樽新聞社陸上記録章受賞者は左の通りで、昭和十三年四月それれへ傳達した。

三百米 三五秒六 市原 正雄(札幌)

八百米 一分五六秒二 青地球磨男(三井砂川)

千五百米 四分五秒六 小島 勇治(三井砂川)

三千米競歩 一分四分六秒 宇藤 保(札幌)

百十米障得 一六秒一 市原 正雄(札幌)

百十米障得 一六秒一 長坂 富藏(札幌)

四百米障得 五六秒八 市原 正雄(札幌)

千六百米繼走 三分二九秒八 相馬正二郎(札幌)

千六百米繼走 三分二九秒八 長坂 富藏(札幌)

千六百米繼走 三分二九秒八 市原 正雄(札幌)

千六百米繼走 三分二九秒八 天近 豐藏(札幌)

圓盤投 四二米二四

- 七分六秒四 岡田 二郎 樽商
一萬米 平均三三分三四秒六
三分三秒四 難波 博夫 萬字
四分二秒六 花井 幸助 十勝
四分三秒八 吉川幸太郎 札幌
四分五秒四 高田市太郎 札幌
四分五秒四 五十嵐政人 定山溪
五分三秒六 二瓶正夫 三井美唄
五分六秒八 高橋 孝雄 當別
五分九秒四 山崎 崎札
五分九秒四 藤島 三郎 函館
五分九秒四 藤島 三郎 函館
五分九秒四 藤島 三郎 函館
百分十米障得 平均一七秒二
一六秒一 市原 正雄 札幌
一六秒一 長坂 富藏 札幌
一六秒五 三船 賴雄 旭師
一六秒六 阿部 正晴 奔別
一七秒〇 清水竹次郎 三井砂川
一七秒四 林 勇 網中
一七秒六 竹内豊次郎 北大
一七秒六 大島誠一郎 旭鐵
一七秒九 青木 有美 札幌
一八秒二 一戸 龍治 北大
一八秒二 櫻田 親明 北大
四百米中障得 平均六三秒
五六秒八 市原 正雄 札幌
五七秒五 長坂 富藏 札幌
六〇秒三 紺野 義雄 苫小牧

六二秒二 三上 寅雄 幾春別

六二秒六 渡邊 勇 札幌

六四秒八 青木 有美 札幌

六五秒〇 清水竹次郎 三井美唄

六六秒六 一戸 龍治 札幌

六八秒〇 山下 昇余 市

六八秒二 瀧本 正 太平洋

六八秒二 瀧本 正 太平洋

分五十二秒五

二時四三分四五秒

二時五九分四七

三時四分二〇秒

三時一分三八秒

岩木 寅作

四百米繼走 平均四六秒四五

四四秒九 札幌陸協

(角田、川崎、細谷、市原)

四五秒一 全三井

(中谷、小笠原、三上、田村)

四五秒九 空知青年

(中谷、續橋、寺本、三上)

四六秒〇 空知陸協

(尾野、續橋、渡邊、阿部)

四六秒〇 釧路陸協

(吹越、宮下、瀧本、田村)

四六秒四 旭 師

四六秒五 札幌青年

(角田、政田、武田、市原)

四七秒二 函 師

四八秒二 北 中

四八秒三 札 商

千六百米繼走 平均三分四一秒九八

三分二九秒八 札幌陸協

(相馬、長坂、市原、天近)

三分三四秒六 空知陸協

(三上生、三上寅、田中、青地)

三分四〇秒〇 札幌青年

(長坂、渡邊、相馬、市原)

三分四〇秒六 釧路陸協

(田村、砂山、高橋、大野)

三分四三秒六 空知青年

(三上寅、尾野、三上生、田中)

三分四四秒四 札幌チム

(平田、政田、渡邊、角田)

三分四五秒八 北海道チム

(長坂、天近、青地、市原)

三分四六秒六 北 大

(毛利、武谷、竹内、杉本)

三分四七秒〇 札幌 師

三分四七秒二 北友俱

(松村、六平時、小畑、六平福)

走幅跳 平均六米五五一

七米〇五間所 政治三井美唄
 六米八六吉田 博旭師
 六米七八對馬 直市札幌
 六米七六青木 有美札幌
 六米六五西尾 享三井美唄
 六米五七阿部 正晴奔別
 六米五一草野徹二郎日鐵
 六米四八大和 屋三笠山
 六米四八伊勢仁三 室蘭青年
 六米四七小笠原武次 太平洋
 六米四五山口 晃一旭川

走高跳 平均一米七六一
 一米八五橋川 一雄三井砂川
 一米八三間所 政治三井砂川
 一米八〇佐々木 稔札幌
 一米八〇大島誠一郎旭鐵
 一米八〇川村 勇札幌
 一米七五奥田 二郎小樽
 一米七五小杉 清鋼鐵
 一米七〇室 久吉 室蘭日鐵
 一米七〇清水 宏北 大
 一米七〇下田 盛衛函館
 一米七〇阿部 正晴奔別
 三段跳 平均一米三四六
 一米四〇奥田 二郎小樽
 一米三〇工藤 義光三井美唄
 一米三〇武田 吉正札幌
 一米三〇吉田 博旭師

一三米元 北川 健幸 幌内
 一三米元 平間 宗雄 砂川
 一三米〇 草野徹二郎 室蘭日鐵
 一三米〇 清水竹次郎 三井砂川
 一三米〇 川村 勇札幌
 一二米九 工藤 義光 新幌内
 棒高跳 三米三六六
 三米六〇 奥山 四郎 札幌
 三米六〇 渡邊 勇札幌
 三米六〇 佐々木藤雄 三井砂川
 三米四〇 富樫 四郎 北見
 三米三六 横瀬 誠之北 大
 三米三〇 佐々木修一 三井砂川
 三米二〇 林 勇綱 中
 三米二〇 福本小太郎 小樽
 三米二〇 瀧本 正 太平洋
 三米二〇 平野 久雄 札幌
 砲丸投 平均一米七一
 一二米六 野口 德雄 太平洋
 一二米六 岡田 正虎 札幌
 一二米三 齋藤 武雄 士別
 一一米七 中島 利治 新幌内
 一一米七 川浪 定明 三井砂川
 一一米六 荒木 壽十 勝
 一一米五 二瓶 昇札幌
 一一米三 竹田芳一 室蘭日鐵
 一一米三 丹場寒之助 三井砂川
 一一米三 布袋 正一 野付牛

圓盤投 平均三米一五六
 四二米四 富盛富太郎 室蘭日鐵
 三五米〇 中島 利治 三笠山
 三五米〇 久内 武札幌
 三五米三 堤 武四郎 小樽
 三四米九 野口 德雄 太平洋
 三四米三 布袋 正一 野付牛
 三四米三 竹田芳一 室蘭日鐵
 三四米三 高田 幸男 三井美唄
 三三米〇 石谷 政雄 門別
 三二米〇 廣永 智幌内
 槍投 平均四九米七三二
 五二米五 中山 務江 別
 五二米〇 室 久吉 室蘭日鐵
 五一米四 吉田 博旭 師
 五〇米五 布袋 正一 野付牛
 四九米五 酒卷 泰幌内
 四九米四 三浦 孝吉 室蘭
 四八米六 杉本 辰夫 北 大
 四七米六 中谷 重晴 三井砂川
 四七米六 板根庄太郎 三井美唄
 四七米三 林 初太郎 旭鐵
 鐵鎗投 平均三〇米八一
 四二米四 富盛富太郎 室蘭日鐵
 三六米二 二瓶 昇札幌
 三三米六 川浪 定明 三井砂川
 三三米〇 久内 武札幌
 三〇米四 佐々木定雄 室蘭日鐵

二九米五 馬場 三郎 北 大
 二八米三 岡村 靜臣 三井砂川
 二六米〇 野口 德雄 太平洋
 二五米五 和田幾久 重砂川
 二五米元 齋藤 宗男 石狩
 △女子の部
 百米 平均一四秒〇九
 一二秒九 久保 ハル 札幌市女
 一三秒五 小泉三七子 北海高女
 一三秒八 長谷川富惠 旭川高女
 一三秒九 瀨戸美佐子 北海高女
 一四秒一 城 みね子 余市大川小
 一四秒三 藤井 愛子 札幌市女
 一四秒四 佐々木ミネ 小樽廳女
 一四秒四 豊田 和子 深川小
 一四秒五 天崎 ユキ 栗澤南小
 一四秒六 西島モト子 小樽廳女
 一四秒六 清水伊津子 札幌高女
 二百米 平均二九秒六五
 二七秒六 久保 ハル 札幌市女
 二八秒三 赤山 ヨシ 北海高女
 二九秒〇 北 キミ 函館大谷女
 二九秒六 天崎 ユキ 栗澤南小
 二九秒七 長谷川富惠 旭川高女
 二九秒八 瀨戸美佐子 北海高女
 三〇秒三 豊田 和子 深川小
 三〇秒七 森 美代子 旭川高女
 三〇秒八 佐野 スエ余 市

三〇秒九 森井 美枝 北海高女
 八十米障碍 平均一六秒二二五
 一五秒五 奈良千代 函館大谷女
 一五秒七 清水伊都子 札幌市女
 一五秒九 佐野 スエ余 市
 一五秒九 干場 光子 旭川高女
 一六秒一 木村 郁子 札幌廳女
 一六秒四 今野ミハ子 北海高女
 一六秒五 山本美枝子 札幌市女
 一七秒八 佐々木米子 札幌市女
 四百米 走平均五七秒七七五
 五三秒九 北海高女
 (榮、小泉、赤山、瀨戸)
 五六秒二 栗澤南小
 五六秒六 札幌市立女
 五六秒八 旭川高女
 五七秒二 七重 小
 五九秒一 小樽廳立女
 六〇秒四 札幌廳立女
 六二秒〇 小樽市立女
 走幅跳 平均四米四一四
 四米五 小泉三七子 北海高女
 四米五 浦田ミイ子 陸別小
 四米四 栗野 フミ 東榮小
 四米四 赤山 ヨシ 北海高女
 四米四 秋野 俊子 小樽市女
 四米三 瀨戸美佐子 北海高女
 四米三 内田カヨ 岩見澤高女

四米三 橋本キヨエ 七重小
 四米元 石田 栗 旭川高女
 四米元 長谷川富惠
 走高跳 平均一米二二二
 一米三 清兼君江 帶廣大谷女
 一米三 秋野 俊子 小樽市女
 一米三 平形 秀子 小樽廳女
 一米三 栗野 フミ 東榮小
 一米三 關場 靜枝 岩見澤女
 一米三 干場 光子 旭川高女
 一米三 澁谷 恵子 七重小
 一米三 荒井愛子 長沼第三小
 一米三 三本 タマ 札幌高女
 一米三 松村 幸子
 一米三 山崎ミツ子 旭川高女
 砲丸投 平均八米二二二
 九米四 榮 貞子 北海高女
 八米三 前川 ユリ 札幌廳女
 八米二 沼 田 函館大谷女
 七米六 菊野 恭子 札幌市立
 七米五 横山ミドリ 札幌高女
 七米三 梅田 トキ 北海高女
 七米〇 石田 俊子 旭川高女
 圓盤投 平均二米七九八
 三米三 横山 静枝 北海高女
 三米三 横山ミドリ 札幌廳女
 三米〇 荒澤 富子 旭川高女

三米四 森川 美枝 北海高女
 三米四 梅田 トキ
 槍投 平均二四米七〇一
 三米六 榮 貞子 北海高女
 三米七 間野 ユキ 小樽市女
 三米三 牧口 五月 北海高女
 三米三 石田 栗 旭川高女
 三米五 佐々木米子 札幌市女
 第六回少年少女大會
 第六回全道少年、少女オリオン
 ビック大會は、昭和十三年七月
 三十一日札幌神社外苑競技場で
 舉行、決勝記録は左の通り
 △尋常科男子
 五十米 石川樹(星置) 七
 秒三〇 百米 石川樹(星置)
 一三秒六 四百米 走(奈井
 江校)(秋葉、沖野、尾崎、森
 本) 走幅跳 東藤覺(茂世
 丑) 四米七二 走高跳 相馬
 寛(歌志内) 一米三〇 籠球
 投 尾藤兼利(小樽若竹)
 △尋常科女子
 五十米 佐々木八重子(西
 創成) 七秒六 百米 佐々木
 八重子(西創成) 一四秒四(大
 會新記録) 二百米 走 小

樽若竹(狩野、木幡、坂本、
 小野寺) 二九秒七 走高跳
 淺野トヨ(三笠山中央) 一米
 二〇 走幅跳 淺野トヨ(三
 笠山中央) 三米九七 籠球投
 水上ミツ子(幾春別) 二二米
 一七
 △高等科男子
 百米 佐々木長藏(上砂川
 一) 二秒八 四百米 安間博(輕
 川) 五九秒六 八百米 走
 札幌一高(中西、太田、稻垣、
 柴田) 一分五一秒三 走幅跳
 工藤証市(三笠山中央) 五米
 〇九 走高跳 確井繁男(三
 笠山中央) 一米五〇 砲丸投
 朴潤萬(札幌一高) 一二米五
 〇(大會新記録)
 △高等科女子
 百米 中田幸子(美唄) 一
 四秒一 二百米 中里千代子
 (釧路壽) 三〇秒 四百米 走
 走 釧路東榮(鈴木、笹島、
 猿子、栗野) 五七秒五 走幅
 跳 中田幸子(美唄) 四米六
 二 栗野フミ(釧路東榮) 四
 米五三(以上大會新記録) 走
 高跳 栗野フミ(釧路東榮)

男子陸上競技公認最高記録

種目	記録	氏名	所屬	競技場	大會	年月
百	一〇、七	堤武四郎	小樽	函館市立	第二回加盟團體對抗	昭和一一、七
百	一〇、七	執行昇	札幌一中	大阪甲子園	全國中等學校大會	同 七、八
二百	二一、九	執行昇	札幌一中	大阪甲子園	全國中等學校大會	同 七、八
四百	五〇、九	天近豐藏	札幌鐵	小樽市立	第十回北海道選手權大會	同 一〇、九
八百	一、五六、二	青地球磨男	三井砂川	神宮	日米對抗豫選	同 一二、七
千五百	四、五、六	小島勇治	三井砂川	神宮	神宮全日本大會	同 一二、一
五千	一五、三三、六	工藤 胖	道 廳	東京明治神宮	オリムピック大會豫選	同 七、五
一萬	三二、一九、〇	米田隆吉	函館體協	東京明治神宮	第十八回全日本選手權大會	同 六、一
三千米競步	一四、〇六、〇	宇藤 保	札幌	札幌市立	第十一回全道選手權大會	同 一一、〇
五千米競步	二六、四〇、〇	喜多見英一	旭 鐵	東京明治神宮	第廿二回全日本選手權大會	同 一〇、一
三千米障礙	一〇、二、〇	村上 昇	札幌鐵	東京明治神宮	第廿二回全日本選手權大會	同 一〇、一
百十米障礙	一六、一	市原正雄	札幌鐵	札幌市立	加盟團體對抗競技會	同 一二、七
百十米障礙	一六、一	長坂富藏	札幌鐵	札幌市立	加盟團體對抗競技會	同 一二、七
二百米障礙	二六、二	遊座文治	北 大	東京明治神宮	全國專門學校競技大會	同 七、七
四百米障礙	五六、八	市原正雄	札幌鐵	札幌市立	北海道青年團大會	同 一二、八
走巾跳	七、七、四	田島直人	三井砂川	札幌市立	全道加盟團體對抗	同 一一、八
走高跳	一、八、七	橋川雄一	〃	札幌市立	全三井大會	同 一一、八
三段跳	一六、〇〇	田島直人	三井砂川	札幌市立	第十一回オリムピック大會	同 一一、八
棒高跳	三、七、〇	村井延雄	北 大	東京明治神宮	第十八回全日本選手權大會	同 六、一

砲丸投	一二、六、九	阿部 功	札幌選信	小樽市立	第六回全道選手權大會	同 六、九
圓盤投	四二、二、四	富盛富太郎	道 廳	東京明治神宮	加盟團體對抗室蘭豫選	同 一二、六
槍 投	五九、八、一	伊藤金太郎	室 蘭	東京明治神宮	オリムピック大會豫選	同 七、五
鐵 投	四二、四、五	富盛富太郎	室 蘭	室蘭輪西	室蘭投擲大會	同 一二、五
五種競技	二五、三、三	工藤 豐	札幌鐵	小樽市立	第十回全道選手權大會	同 一〇、九
十種競技	五、〇、八、六	草野徹次郎	室 蘭	札幌市立	全道選手權大會	同 一一、一〇

女子陸上競技公認最高記録

六十米	八、三	小堀文子	北海高女	札幌市立	全道女子中等學校大會	同 一一、八
六十米	八、三	三宅 ユサ	北海高女	札幌市立	女子中等學校競技大會	同 九、一〇
二百米	一一、九	久保ハル	札幌市女	札幌市立	札幌女子選手權大會	同 一一、九
二百米	二七、五	中村勝子	北海高女	札幌市立	札幌選手權大會	同 一〇、六
四百米	一、五、〇	中村勝子	北海高女	札幌市立	札幌選手權大會	同 一〇、九
八百米	二、三、一、七	中村久子	北海高女	東京明治神宮	第廿二回全日本選手權大會	同 一〇、一
八十米障礙	一一、二、六	田中久子	北海高女	東京明治神宮	全道女子競技大會	同 七、一〇
走巾跳	五、二、三	武田 照	大谷高女	札幌市立	全道女子競技大會	同 一〇、九
走高跳	一、四、八	西田順子	札幌鐵	札幌市立	第十回全道選手權大會	同 一〇、九
三段跳	一一、一一	松ヶ下多美	札幌鐵	札幌市立	全道女子競技大會	同 七、一〇
砲丸投	一〇、四、〇	榮 貞子	北海高女	札幌市立	全道女子競技大會	同 一一、八
圓盤投	三六、二、四	中村コウ	〃	札幌市立	オリムピック大會	同 一一、八
槍 投	三六、七、六	榮 貞子	〃	札幌市立	札幌選手權大會	同 一一、六
五種競技	二二、〇	田中久子	北海高女	東京明治神宮	第廿二回全日本選手權大會	同 一〇、一

一米二五 〇 籠球投 石井キクノ(美唄) 二五米四一

全道陸上選手権大會

第十三回北海道陸上選手権兼全日本陸上競技選手権北海道選會は、昭和十三年九月十、十一日の兩日札幌神社外苑競技場に於て舉行、決勝記録左の通り

△男子之部
〇百米 1 中谷(砂川) 一一秒三
2 尾野(砂川) 3 荒木(空農)
〇千五百米 1 小島(砂川) 四分一四秒八 2 加野(札幌) 3 渡邊(砂川)

〇百十米障礙 1 阿部(奔別) 一六秒五 2 長坂(札幌) 3 伊藤(札幌一中)
〇マラソン(二十六哩錢函十萬坪往復) 1 村井勇吉(狩太) 三時間一〇分五〇秒 2 五十嵐(札幌) 3 田森(砂川)

〇五千米 1 小島(砂川) 一五秒四七秒六 2 丸山(砂川) 3 三上(珊瑚)
〇二百米 1 尾野(砂川) 二三秒三 2 角田(札幌) 3 紺野(苫小牧)
〇四百米 1 市原(札幌) 五二秒

〇四百米 1 中村(北海OB) 三三秒四六 2 山本(北海) 三三秒九二 3 石田(同)
〇槍投 1 榮(北海) 三〇米六九 2 竹内(同) 三〇米五三 3 南部(同)
〇三段跳 1 城(余市) 一〇米八七 2 山本(札市高女) 一〇米八五 3 淺見(北海)

〇五種競技 1 榮(北海) 一四三點 2 久保(北海) 一三一一點 3 瀬戸(北海)
全道女子中等體育大會
第六回全道女子中等學校體育大會は、昭和十三年八月二十四日札幌神社外苑綜合競技場において舉行、決勝記録は左の通り

〇六十米 1 瀬戸(北海) 八秒三 2 中(帶廣大谷) 九秒一 3 石田(旭川)
〇八百米 1 佐藤啓(旭川) 二分五〇秒四 2 高橋(旭川) 二分五〇秒六 3 牧口(北海)

〇二百米 1 赤山(北海) 二八秒七 2 筒井(北海) 三〇秒九 3 長谷川(旭川)
〇八十米障礙 1 清水(札幌市立) 一四秒六 2 伊藤(札幌高)

八 2 葛西(住友) 3 荒木(空農)
〇八百米 1 加野(札幌) 二分五秒二 2 竹内(珊瑚) 3 林(幌内)
〇四百米障礙 1 長坂(札幌) 一分二秒(參考記録) 2 紺野(苫小牧) 3 三上(奔別)
〇四百米繼走 1 三井砂川(尾野) 三上、清水、中谷 四六秒 2 佳友奔別 3 札一中
〇一萬米 1 丸山(砂川) 三四分四三秒 2 花野(札幌) 3 伊藤(幌内)

2 間所(美唄) 一三米六八 3 沼倉(札工) 一三米五九

砲丸投

1 岡田(札幌) 一一米五九 2 川浪(砂川) 一一米四

〇圓盤投 1 富盛(日鐵) 三八米一七 2 川浪(砂川) 三一米七六 3 早矢仕(珊瑚) 三一米五〇
〇十種競走 1 佐藤(砂川) 三九七三點
〇五種競走 酒卷(珊瑚) 二一五四點 2 石田谷(日高) 二〇一八點

〇槍投 1 中山(砂川) 四九米四〇 2 中谷(同) 四七米五五 3 佐々木(同)
〇鐵槌投 1 富盛(日鐵) 四〇米四一 2 川浪(砂川) 三四米〇八 3 石谷(日高)

〇五千米競歩 1 宇藤保(札幌) 獨歩二四分二二秒六(日本新記録並本道新記録) 三千米のラップタイム 一四分四一秒六
△女子之部
〇六十米 1 瀬戸(北海) 八秒七 2 筒井(北海) 3 菊地(北海)
〇百米 1 久保(北海) 一三秒二

四八(大會新記録) 2 石田(北海) 二四米二〇 3 吉田(北海)
〇槍投 1 竹内(北海) 三〇米九四 2 牧口(北海) 三〇米一五 3 横山(札幌高女) 二一米五五
〇得點 1 北海高女 一五六點五 2 旭川高女 四九點 3 帶廣大谷高女 三七點 4 札幌市女 三六點五 5 札幌高女 二七點 6 岩見澤高女 八點 7 小樽高女 三點
北海道中等學校大會
第十四回全道中等學校綜合競技大會陸上競技會は、昭和十三年七月二十五日札幌神社外苑綜合競技場において舉行、新記録七對記録一が生れた、戦跡は左の通り

〇百米 1 吉田(旭師) 一三秒五 2 林(網中) 一一秒七 3 三船(旭師)
〇二百米 1 上島(旭商) 二四秒二 2 荒木(空農) 二四秒六 3 清水(札商)
〇四百米 1 荒木(空農) 五五秒二 2 西田(北中) 五五秒三 3 林(旭中)
〇八百米 1 武田(北中) 二分九

秒四(全道中等學校新記録) 2 後藤(根商) 二分一〇秒八 3 前田(名中)
〇千五百米 1 小坂(一中) 四分三〇秒四 2 成田(空農) 四分三六秒六 3 前田(名中)
〇五千米 1 天下(北中) 一七分五三秒四 2 清水(空農) 一七分五六秒二 3 關戸(札商)
〇高障礙 1 三船(旭師) 一六秒九(全道中等新記録) 2 土谷(北中) 一七秒五 3 林(網中)

〇低障礙 1 三船(旭師) 二六秒五 2 河波(札師) 二六秒八(以上全道中等新記録) 3 林(網中)
〇四百米繼走 1 旭師(三船) 宗像、永沼、吉田 四六秒八 2 札一中 四七秒 3 札商
〇千六百米繼走 1 北中(松山、日笠、武田、西田) 三分四六秒二 2 網中 三分五〇秒 3 鋼中
〇槍投 1 吉田(旭師) 四五米八三 2 佐々木(函師) 四三米九七 3 水上(札師) 四二米二七
〇砲丸投 1 林(網中) 一三米一 2 堀(旭中) 一二米五六

四八五

- 3 猪岡(旭師)二二米一九
- 棒高跳 1 林(網中)三米三〇
- 2 白井(函師)三米三〇
- 3 水上(札師)三米三〇
- 圓盤投 1 林(網中)三〇米七
- 2 太田(札一中)三〇米二
- 3 堀(旭中)二九米九〇
- 走高跳 1 土谷(北中)一米七
- 2 佐藤(函師)一米六八
- 3 遠藤(北商)一米六八
- 走巾跳 1 星野(札二中)六米
- 2 吉田(旭師)六米三五
- 3 三船(旭師)六米三五
- 三段跳 1 沼倉(札工)一三米四
- 2 清水(札商)一三米四
- 3 吉田(旭師)一三米〇七
- 得點 1 旭師五九點 2 北中五〇點 3 網中三八點五
- 札師二七點 5 空農二六點
- 6 一中二二點 7 札商二二點
- 8 函師二〇點 9 旭中一三點
- 5 10 札工一二點 11 名中一〇點 12 二中、光星九點 13 旭商八點 14 根商北商七點 15 野付牛、鋼中五點 16 瀧中二點 17 樽中、留中一點

陸上競技は、昭和十三年八月十日札幌神社外苑綜合競技場において舉行、空知軍一二九點五の大量得點で優勝した、戦績左の通り

△一部決勝

走巾跳 1 阿部正晴(空知)六米六〇 2 伊勢(室蘭)六米四

砲丸投 1 竹田芳一(室蘭)二米四二(大會對記録) 2 岡田(札幌)二米二六 3 川浪(空知)一米六四

千五百米 1 加野隆(小樽)四分一九秒 2 石谷(日高)四分一九秒二 3 花井(十勝)

四百米 1 田中武治(空知)五三秒九 2 板垣(十勝)五三秒九 3 福岡(空知)

百米 1 角田正(札幌)一三秒三 2 尾野(空知)一三秒五 3 續橋(空知)

俵擔 1 澁谷一雄(空知)二九秒三 2 和田(空知)三〇秒三 3 小原(膽振)

自轉車競走(十疋リユツクを背負ひ二萬米三人一組ロードレース) 1 渡島(千釜、谷藤、

- 白幡)二六分五四秒 2 札幌(山本、鈴木、原口)二七分五九秒 3 石狩(合羽井、山口、石田)二八分二〇秒
- 走高跳 1 大島淺一郎(旭川)一米七五 2 川村(札幌)一米七五 3 荒木(十勝)出村(空知)
- 一萬米 1 貝田竹四郎(空知)三六分五六秒 2 高屋鋪(天鹽)三七分三四秒八 3 佐藤(空知)
- △一部得點 1 空知七〇點五
- 2 札幌二八點五 3 十勝一八點 4 室蘭、渡島一七點 6 小樽一二點 7 旭川一〇點
- 8 膽振七點 9 天點六點 10 日高石狩五點 12 釧路國一點
- △二部決勝
- 重量場 1 本間萬次郎(空知)六分三四秒六 2 桑原(石狩)三分二四秒五 3 鎌田(空知)二分四〇秒四
- 八百米 1 加野隆(小樽)二分六秒八(大會對記録) 2 伊藤(空知)二分七秒八 3 吉田(膽振)
- 行軍 1 空知(小林、東海林、

- 土井川)三七分三五秒 2 小樽(熊谷、古家、鈴木)四二分二五秒 3 札幌(鬼澤、角田、辻岡)四二分三六秒
- 五千米 1 小島勇治(空知)一分六分二秒 2 五十嵐(札幌)一分七分一三秒 3 大坪(天鹽)
- 武裝競走 1 池田潔(小樽)一分五八秒一 2 上野(石狩)一分三秒一 3 葛西(空知)
- 武裝障礙 1 佐藤金太郎(小樽)一分二秒 2 林(空知)一分一三秒 3 佐藤(空知)
- 俵擔ぎ競走 1 空知(和田、倉内、逢坂、澁谷)一分二二秒七 2 石狩一分二八秒六
- 3 渡島
- 千米競走 1 空知(中谷、尾野、三上、田中)二分七秒七
- 2 札幌二分九秒六 3 小樽
- △二部得點 1 空知五九點 2 小樽三三點 3 石狩二四點
- 4 札幌二二點 5 渡島一三點 6 膽振六點 7 天鹽室蘭五點 9 宗谷三點 10 十勝一點
- △綜合得點 優勝空知一二九點 5 2 札幌五〇點五 3 小樽四五點 4 渡島三〇點 5 石

狩二九點

日本大學對全道競技會

- 日本大學對全道陸上戦は昭和十三年八月二十一日午後一時から札幌神社外苑競技場において舉行、本道軍は一四九對一二九で惜しくも敗れた
- 砲丸投 1 神代(日大)一二米九七(北海道對抗新記録) 2 水倉(日大)一二米三五
 - 走高跳 1 間所、川村男(北海道)一米七五
 - 千五百米 1 小島(北海道)四分一〇秒 2 郷野(日大)四分一二秒六
 - 高障礙 1 市原正雄(北海道)一六秒一(北海道對抗記録參考)
 - 2 長坂(北海道)一六秒二
 - 走巾跳 1 井上(日大)七米〇八(北海道對抗新記録) 2 村方(日大)六米七四
 - 槍投 1 鈴木(日大)五六米二二 2 中山(北海道)四九米五三 3 二百米 1 佐藤(日大)五二秒一 2 天近(北海道)五三秒一

五千米 1 小島(北海道)一分五〇秒八 2 郷野(日大)一分五二秒四

圓盤投 1 寺村(日大)三六米六一 2 鈴木(日大)三四米九二

棒高跳 井上(日大)三米七一(北海道對抗新記録) 2 木田(北海道)三米六〇

鐵槌投 1 釜本(日大)四一米八四 2 水倉(日大)三八米一七

三段跳 1 村方(日大)一四米二六 2 木原(日大)一四米二五

千米競走 1 全北海道(角田、堤、市原、天近)二分四秒二 2 日大(井上、村方、山口、佐藤)二分六秒六

日大對全三井競技會

日本大學と三井北海道の對抗陸上競技大會は、昭和十三年八月二十五日、上砂川競技場で舉行三井北海道軍九十二點、日大軍百二十二點で日大勝つ

百米 1 中谷(三井)一〇秒九 2 尾野(三井) 3 村方(日大)

砲丸投 1 神代(日大)一二米七五 2 水倉(日大)

- 走高跳 1 田村(三井)一米八三 2 橋川(三井)
- 千五百米 1 小島(三井)四分一五秒六 2 郷野(日大)
- 四百米 1 佐藤(日大)五三秒三 2 中西(日大)
- 走巾跳 1 村方(日大)七米〇三 2 木原(日大)
- 槍投 1 鈴木(日大)五二米六一 2 中山(三井)
- 圓盤投 1 寺村(日大)三六米九八 2 鈴木(日大)
- 五千米 1 小島(三井)一分六分六秒八 2 郷野(日大)
- 棒高跳 1 高橋(日大)三米六〇 A 2 佐々木(三井)
- 八百米競走 1 日大(村方、山口、木原、佐藤)一分三六秒一

- 東北、北海道帝大對抗第十二回北大對東北定期陸上戦は昭和十三年六月二十六日北大グラウンドにおいて舉行二一點對三六點で北大勝つ
- 百米 1 川村(北大)一二秒二 2 川野(東北) 3 嵩(北大)
 - 走高跳 1 川村(北大)一米六〇 2 吉田稔(東北) 3 竹内
 - (北大)
 - 千五百米 1 鈴木(北大)四分五四秒二 2 杉本(北大) 3 遠藤(東北)
 - 圓盤投 1 王(北大)三二米三二 2 水谷(東北) 3 岡田(北大)
 - 走巾跳 1 川村(北大)六米三六 2 吉田稔(東北) 3 竹内(北大)
 - 高障礙 1 川野(東北)一九秒四 2 竹内(北大) 3 水谷(北大)
 - 四百米 1 杉本(北大)五七秒五 2 遠藤(東北) 3 竹内(北大)
 - 槍投 1 水谷(東北)四三米四六 2 杉本(北大) 3 川野(東北)
 - 棒高跳 1 横瀬(北大)三米一六 2 津村(東北) 3 白石(北大)
 - 八百米競走 1 北大(嵩、王、竹内、川村)一分四二秒四 2 東北(吉田牧、吉田稔、川野、遠藤)

東北 2212242420
 米跳米投得米投跳走
 高五盤中障百 高繼
 百走千圓走高四槍棒八
 北大 4454424243
 36

北大豫科對高商定期戰

第十三回北大豫科對小樽高商
 陸上競技は昭和十三年六月十一
 日午後一時から北大競技場にお
 いて開催された、四〇對一七の
 大差をもつて豫科の優勝となつ
 た。

- ◇百米 1井川(豫科)一秒八
- 2今西(高商) 3武谷(豫科)
- ◇走高跳 1山口(高商)一米六
- A 2武谷(豫科) 3菊次(豫科)
- ◇槍投 1山口(高商)三九米二
- 9 2尾崎(高商) 3青谷(豫科)
- ◇千五百米 1加藤(豫科)四分三五秒
- 2小出(豫科) 3安藤(高商)
- ◇走巾跳 1今西(高商)六米二
- 六 2武谷(豫科)六米二四
- 3栗原(豫科)五米八六
- ◇高得障 1櫻田(豫科)一七秒九
- 2菊次(豫科) 3松永(高

商) 圓盤投 1柴(豫科)二九米
 2菊次(豫科) 3今西(高商)
 ◇四百米 1毛利(豫科)五五秒八

◇棒高跳 1菊次(豫科)二米八
 ○ 2柴(豫科) 3山口(高商)
 ◇八百米繼走 1豫科(櫻田、武谷、毛利、井川)一分三七秒五

高商 2351311010
 米跳投米得得米跳走
 高 百市障盤百高繼
 百走槍千走高圓四棒八
 豫科 4315355653
 40

三鐵道局對抗競技大會

東鐵、仙鐵、札鐵三鐵道局對
 抗陸上競技大會は昭和十三年八
 月二十七日札幌神社外苑競技場
 において舉行得點は仙鐵六七點
 五、東鐵六九點、札鐵一〇二
 點五で優勝
 ◇百米 1市原(札鐵)十一秒二

室蘭輪西製鐵所對三井砂川炭
 礦陸上競技大會は昭和十三年九
 月十八日輪西瑞之江トラツクに
 において舉行、本大會新記録十一
 が作られ三十八點五對十八點五
 の大差で三井軍が三連覇を完成
 した

- ◇砲丸投 1森田(東鐵)二一米
- 四九 2二瓶(札鐵)二一米三
- ◇千五百米 1宮城(仙鐵)四分二一秒六
- 2中村(仙鐵)四分二一秒
- ◇高得障 1市原(札鐵)一六秒一(本道對記録) 2阿保(仙鐵)一六秒一(參考記録)
- ◇走高跳 1白木(東鐵)一米七
- 5 2池田(仙鐵)一米七五
- ◇圓盤投 1布袋(札鐵)三三米〇
- 〇七 2新井(東鐵)三三米〇
- ◇四百米 1天近(札鐵)五三秒四
- 一 2森田(東鐵)五三秒四
- ◇五千米 1吉川(札鐵)一六分四三秒二
- 2花野(札鐵)一七分一八秒二
- ◇槍投 1布袋(札鐵)四九米七
- 三 2林(札鐵)四九米六〇
- ◇走巾跳 1阿保(仙鐵)六米五
- 七 2西山(東鐵)六米四二
- ◇八百米繼走 1札鐵(大島、長坂、天近、市原)一分三五秒八
- 八 2仙鐵(佐藤、霜田、阿保、芝崎)一分三七秒
- 日鐵對三井砂川對抗戰
- ◇砲丸投 1川浪(三井)二一米八三
- 2竹田(日鐵) 3中谷(三井)
- ◇走巾跳 1井上(日鐵)六米四八(大會新記録) 2草野(日鐵)六米四〇(大會新記録)
- 3中谷(三井)六米三八
- ◇圓盤投 1富盛(日鐵)三八米九六(大會新記録) 2竹田(日鐵)三川浪(三井)
- ◇千五百米 1小島(三井)四分一四秒二(大會新記録) 2丸

中等東西對抗競技會

第九回全日本中等東西對抗陸
 上競技大會は昭和十三年九月十
 八日甲子園南運動場で舉行北海
 道選手の活躍は左の通りである
 ◇砲丸投 2林(東)網走中學十
 三米四三

◇走幅跳 6星野(東)札幌一中
 ◇八百米 4武田(東)北海中學
 ◇走高跳 1土谷(東)北海中學
 一米七五

山(三井) 3渡邊(三井)
 ◇三段跳 1平間(三井)一三米八五(大會新記録) 2清水(三井)一三米八一(大會新記録)

室蘭陸上競技聯盟では昭和十
 三年六月二日第二線強化のため
 左の標準記録章授與規定を設定
 した

◇百米 一一秒五◇二百米 二四
 秒二◇四百米 五五秒八◇八百米
 二分一一秒◇千五百米 四分三
 〇秒◇五千米 一六分五〇秒◇
 一萬米 三五分三〇秒◇砲丸投
 一米◇圓盤投 三三米◇槍投
 四八米◇鐵槌投 三〇米◇走高
 跳 一米七〇◇走巾跳 六米四〇
 ◇三段跳 一三米三〇秒◇棒高
 跳 三米二〇

水上

全北海道競泳最高記録
 北海道水上競技聯盟公認の昭
 和十三年一月現在における全北
 海道競泳最高記録は左の通り
 △男子の部
 ◇五十米自由形 二七秒八 坂

- 佐久間
- 八百米混泳 一〇分二秒三
- 北大豫科(佐々木、中西、永幡、川上)
- 三百米混泳 三分五秒八
- 北海道青年團(赤塚、土屋、山部)
- 女子の部
- 五十米自由形 四三秒四 飯田千代(定山溪)
- 百米自由形 一分四〇秒五 石田聰子(定山溪)
- 五十米背泳 五九秒五 飯田千代(定山溪)
- 百米背泳 二分二六秒 若林瑞枝(室高女)
- 五十米平泳 五八秒六 福士勵子(函大谷)
- 百米平泳 二分五秒四 佐野春枝(室高女)
- 二百米平泳 四分三四秒四 佐野春枝(室高女)
- 百米混泳 一分二五秒八 室蘭高女(上出、飯田、石田、高橋)
- 二百米混泳 三分一八秒八 室蘭高女(上出、飯田、高橋、石田)

三百米混泳 六分五三秒二 室蘭高女(飯田、高橋、石田)

國際三選手來道指導
小池(慶應)田口、坂本(立教)の三前オリンピック水泳選手は北海道水上競技聯盟の招聘に應じ、昭和十三年六月二十五二十六日の兩日小樽市立中學プールにおいて講習會を開催し、妙技を示して指導に、オープン競技會に北海道水上競技界の向上に多大の推進力を與へた。

なほ、應立小樽商業學校の請に應じて小池選手は同月二十九日まで、田口選手は七月三日まで樽商プールでコーチした。

國際選手小池、田口、坂本三選手を迎へて道水競技聯盟小樽水泳協會主催對抗競技會は昭和十三年六月二十六日小樽市立中學プールにおいて舉行四種目の記録左の通り(水温一七度半)

- 百米背泳 1坂本(立大)一分一〇秒五 2長谷川(函商)一分一七秒 3藤林(樽商)一分二七秒二
- 二百米平泳 1小池(慶大)二分四六秒八 2齋藤(高商)三分二〇秒四 3伊藤(樽中)三分三六秒
- 百米自由形 1田口(立大)一分一秒二 2山部(札鐵)一分六秒六 3鳥切(高商)一分一五秒三
- 三百米メドレー 1招聘軍(坂本、小池、田口)三分二九秒四 2全北海道(長谷川、齋藤、山部)四分六秒 3余市中學(前田、村上、山部)四分一三秒三

高商豫科水上對抗戰
第十一回小樽高商對北大豫科水上競技對抗戰は昭和十三年六月十九日北大プールにおいて舉行八八對八六で豫科軍辛勝

- 百米自由形 1紅谷(豫)一分一〇秒四 2鳥切(高) 3市來崎(豫)
- 二百米混泳 1豫科(渡部、市來崎、梶山、紅谷)二分六秒 2高商(青木、鳥取、佐藤、齋藤)二分九秒四
- 四百米自由形 1海老澤(豫)四分四秒 2川島(豫) 3久富(高)

東北大對北大水上大會
第三回東北大對北大水上競技大會は昭和十三年六月廿六日北大プールにおいて舉行北大は堂々三年連覇の記録を樹立した

- 二百米混泳 1北大(村上、
- 二百米背泳 1櫻井(豫)三分二秒六 2生田(高) 伊藤(高)
- 百米平泳 1佐藤(高)一分二七秒六(本大會新記録) 2山本(高) 3杉山(豫)
- 八百米自由形 1海老澤(豫)一分二五秒八 2久富(高) 3安川
- 百米背泳 1齋藤(高)一分二八秒二 2生田(高) 3櫻井(豫)
- 二百米自由形 1紅谷(豫)二分四五秒 2鳥切(高) 3川島(豫)
- 二百米平泳 1齋藤(高)三分一四秒六 2佐藤(高) 3梶山(豫)
- 八百米混泳 1豫科(海老澤、川島、安川、紅谷)一分二二秒六 2高商(村田、久富、長田、鳥切)

- 佐々木、中村、川上)二分三秒九
- 2東北大(野上、遠藤、岸田、石橋)二分一六秒九
- 四百米自由形 佐々木(北)六分三三秒三 2中西(北) 3渡邊(北)
- 百米背泳 1野上(東)一分二七秒二 2岩尾(北) 3中村(北)
- 五十米自由形 1村上(北)三分〇秒二 2中村(北) 3大宰(東)
- 百米胸泳 1吉田(北)一分三四秒七 2飯島(東) 3平城(北)
- 二百自由形 川上(北)二分四二秒二 2佐々木(北) 3石橋(東)
- 五十米背泳 1野上(東)三八秒二 2岩尾(北) 3中村(北)
- 百米自由形 1川上(北)一分二秒一 2若生(北) 3大宰(東)
- 五十米胸泳 1飯島(東)四一秒九 2中村(北) 3遠藤(東)
- 八百米混泳 1北大(中西、佐々木、渡邊、川上)一分二四秒八 2東北大(岸田、野上、石橋、大宰)一分三二秒二

秒八
總得點 北大四三點 東北大一九點

水球
北 大 4 2 1 0 0 東北大

全道女子中等少年大會
北海道女子中等學校並に少年水上競技大會は昭和十三年八月二十一日苫小牧王子公認プールで舉行

- 女子中等五十米自由形 1北澤キクエ(苦高女)四五秒五 2長谷川夏子(同) 3高橋ソヲ(室高女)
- 少年一部女子同 1木村幸子(小樽長橋)一分三秒四 2崎敏枝(苦西)
- 少年一部男子同 1平尾和夫(苦西)四四秒二 2玉腰宣晴(苦西) 3畠山吉夫(苦東)
- 少年二部女子同 1越後春恵(苦西)五五秒一 2尾野愛子(同)
- 少年二部男子百米自由形 1阿部和夫(苦西)一分三二秒三 2中本健一(室中)
- 女子中等二百米自由形 1廣

野トシ子(苦高女)五分五四秒

- 少年一部男子同 1吉木力雄(苦西)四分一二秒八 2吉田久吉(苦西) 3池田正和(苦東)
- 少年二部男子四百米自由形 1神谷與四郎(苦中)八分 2中本健一(室中) 3高橋昇(苦西)
- 女子中等五十背泳 1品川京子(苦高女)五四秒二 2岩井ウメ(室高女)
- 少年一部男子五十米背泳 1玉腰宣晴(苦西)五二秒五 2畠山吉夫(苦東) 3平尾和夫(苦西)
- 少年二部女子同 1尾野愛子(苦西)一分一秒二
- 少年二部男子同 1津田朝照(苦西)四六秒一 2神谷與四郎(苦中) 3本多英夫(苦西)
- 女子中等混泳 1室蘭高女(岩井、高橋、佐野)六分四十分三 2苦高女
- 女子中等五十米平泳 1佐野春江(室高女)五三秒二(全道新記録) 2土本靜江(苦高女)

3歌川君榮(室高女)

- 少年一部男子百米平泳 1平尾和夫(苦西)二分一〇秒一
- 2菅原和慶(苦西)
- 少年二部男子同 1加藤勳(苦中)一分五九秒五 2阿部和夫(苦西)
- 女子中等百米自由形 1北澤キクエ(苦高女)一分五七秒六 2長谷川夏子(苦高女)
- 少年一部男子同 1吉木力雄(苦西)一分五五秒六 2小笠原光男(苦西)
- 少年二部男子二百米自由形 1津田朝照(苦西)三分二二秒三 2神谷與四郎(苦中)
- 女子中等百米背泳 1品川京子(苦高女)二分一四秒六 2岩井ウメ(室蘭高女)
- 少年一部男子同 1玉腰宣晴(苦西)二分七秒四 2吉木力雄(苦西)
- 少年二部男子同 1津田朝照(苦西)一分四七秒二 2本多英夫(同)
- 女子中等百米平泳 1佐野春江(室高女)二分二秒一 2土本靜江(苦高女)

少年一部男子二百米平泳 1 菅原和慶(苫西)四分五二秒
2 小玉重雄(苫東)
女子中等二百米平泳 1 苫高女(品川、長谷川、土本、北澤)三分二一秒九
2 室高女
少年一部男子同 1 苫西(平尾、吉田、吉木、王腰)三分一三秒三
2 苫東
少年二部男子四百米平泳 1 苫西校 六分一七秒七
全道中等學校水泳大會
全道中等學校綜合競技大會水泳大會は、昭和十三年七月二十七日、八の兩日小樽市立中學プールにおいて舉行、決勝記録は左の通りである。

太郎(余中) 6 瀬戸榮(余中)
二百米平泳 1 村上親美(余中) 一分二七秒四
2 大原仁郎(札商) 一分三〇秒一
3 大久保欣一(函中) 一分三〇秒八
4 本村秀正(札商) 5 中根金次郎(余中)
6 渡邊信(北商)
二百米自由形 1 小田島留治(函商) 二分三四秒七
2 渡邊三邦(余中) 二分三三秒七
3 市川孝(函中) 二分四〇秒三
4 富合重夫(函商) 5 西本重夫(余中)
6 森忠雄(北商)
二百米背泳 1 藤田修(函商) 三分一秒二
2 藤林正治(樽商) 三分三秒八
3 小笠原武三(函商) 三分八秒三
4 瀬戸榮(余中) 5 菊野春彦(札商)
6 大塚光太郎(樽中)
二百米平泳 1 村上親美(余中) 三分一五秒
2 本村秀正(札商) 三分一五秒二
3 大久保欣一(函中) 三分一八秒四
4 岡本敏夫(函商) 5 大原仁郎(札商) 6 島田進(北中)
四百米自由形 1 長谷川黄一(函商) 五分一二秒(大會新記録)
2 小山内正味(北商) 五分

三九秒六 3 岩淵徳美(札商) 五分五三秒
4 笠場嘉市(北商) 5 花田一男(函中) 6 野中慶男(旭商)
八百米自由形 1 長谷川黄一(函商) 一分五六秒九(大會新記録並に全道新記録)
2 小山内正味(北商) 一分四四秒五
3 岩淵徳美(札商) 一分二九秒五
4 花田一男(函中) 5 笠場嘉市(北商) 6 秦芳光(函商)
二百米平泳 1 函商(長谷川、富合、藤岡、小田島) 二分四秒五
2 余中(西本、前田、伊藤、渡邊) 二分九秒七
3 北商(石井、笠場、森、小山内) 二分一一秒六
4 函中 5 樽商
八百米平泳 1 函商(藤岡、富合、小田島、長谷川) 一分四三秒
2 北海商(笠場、吉村、小山内、森) 一分二七秒
3 函中 一分一五秒九
4 余市中 5 函師 6 札商
各校得点 1 函商七七 2 余中四八 3 函中三二 4 北商三一 5 札商二六 6 樽商一

二 7 樽中四 8 北中四 9 函師二 10 旭商一
全道選手権兼全日録選
昭和十三年度北海道水上競技選手権大會兼全日本選手権大會北海道選は、昭和十三年八月七日北大プールにおいて舉行
二百米自由形 1 山部昇(札鐵) 一分五秒
2 鹿野正巳(札商) 3 吉村正義(北商)
四百米自由形 1 小山内正味(北商) 五分三六秒五
2 岩淵徳美(札商) 五分五八秒六
3 田中朝雄(札商)
二百米自由形 1 山部昇(札鐵) 二分三三秒二
2 森忠雄(北商) 二分五九秒五
3 吉村正義(北商) 三分三秒三
八百米自由形 1 小山内正味(北商) 一分五二秒四
2 田中朝雄(札商) 一分五七秒五
五十米背泳 1 赤塚英雄(函館) 三三秒三
2 阿部敬吉(定山溪) 四〇秒三
3 菊野春彦(札商)
二百米平泳 1 長義雄(函館) 三分一三秒三
2 大原仁郎(札鐵) 三分一五秒三
3 花井兼

(札幌)
百米背泳 1 赤塚英雄(函館) 一分二一秒二
2 阿部敬吉(定山溪) 一分二七秒四
3 菊野春彦(札商)
百米平泳 1 長義雄(函館) 一分二四秒六
2 大原仁郎(札商) 一分二九秒五
3 花井兼雄(札幌) 一分二九秒五
二百米平泳 1 札商(三鍋、岩淵、鹿野、菊野) 二分一三秒一
2 北商 二分一二秒
八百米平泳 1 北商(吉村、石井、森、小山内) 一分三三秒八
2 札商 一分二八秒三
水泳加盟團體競技大會
北海道水上競技聯盟主催第二回加盟團體對抗水上競技大會は、昭和十三年九月四日余市中學プールにおいて舉行、成績左の通りである。得点は函館五二點で優勝し、2 札鐵三〇點 3 小樽二七點 4 余市一二點初登初場の岩内、室蘭は無得点であった。
百米自由形 1 山部(札幌) 一分七秒三
2 濱地(函館) 一分八秒五
3 村上(札幌)
千五百米自由形 1 長谷川(函

館) 二分三三秒八
2 小山内(小樽) 二分五三秒一
3 小田島(函館)
百米背泳 1 赤塚(函館) 一分一九秒五
2 藤林(小樽) 一分二一秒九
3 平野(函館)
四百米自由形 1 長谷川(函館) 五分二四秒四(大會新記録)
2 小山内(小樽) 五分三三秒二
3 小田島(函館)
二百米平泳 1 黒河内(余市) 三分一三秒五
2 本村(札幌) 三分一四秒
3 齋藤(小樽)
八百米平泳 1 函館(市川、赤塚、長谷川、小田島) 一分四三秒五
2 札幌 一〇分五九秒六
3 小樽 4 余市

庭球

全道男子庭球選手権大會
北海道庭球聯盟並びに小樽新聞社主催、第十六回男子一般選手権並びに第四回OB選手権の兩大會は、昭和十三年九月十八日小樽市設コートにおいて舉行
△一般男子
△一回戦
矢北靖(札) 6-4 星野(北)
伊吹(運) 6-4 岡本(商)
本林(樽) 4-0 南間(樽)
木村(北) 4-0 石崎(樽)
吉野(商) 4-0 増田(樽)
沼部(北) 4-0 岡本(樽)
中里(札) 4-1 山下(樽)
矢北(鐵) 4-2 渡會(樽)
伊吹(運) 4-0 山田(樽)
中島(樽) 4-0 安齋(樽)
齊藤(樽) 4-0 有馬(樽)
湊恭(樽) 4-0 梨野(樽)
岩井(運) 4-2 杉坂(樽)
安味(樽) 4-2 吉田(樽)
松浦(鐵) 4-0 本林(樽)
工藤(鐵) 4-0 木村(樽)
横路(中) 4-0 沼部(樽)
清水(島) 4-0 吉野(樽)
第三回戦
中里(鐵) 4-1 矢北(鐵)
杉本(鐵) 4-0 伊吹(鐵)
矢北(鐵) 4-0 中島(鐵)
清水(鐵) 4-0 齊藤(鐵)
横路(中) 4-0 工藤(鐵)
清水(島) 4-0 岩井(鐵)
湊恭(樽) 4-0 安味(鐵)
準決勝
矢北(鐵) 4-0 中里(鐵)
清水(鐵) 4-0 杉本(鐵)

横路(中) 6-5 湊恭(樽)
矢北(鐵) 4-1 清水(島)
清水均(鐵) 4-1 清水(島)
△OB選手権
△一回戦
阪本(鐵) 4-2 鳥谷部(小)
秋野(鐵) 4-2 山田(樽)
三毛(樽) 4-2 津野(樽)
近藤(樽) 4-2 蚊野(樽)
準決勝
古本(樽) 4-1 横山(日)
清水(樽) 4-1 泉(銀)
三毛(樽) 4-2 阪本(鐵)
近藤(樽) 4-2 秋野(鐵)
決勝
三毛(樽) 4-2 古本(樽)
近藤(樽) 4-2 清水(樽)
全道中等學校綜合競技大會
庭球戦は、昭和十三年七月二十七日旭川市日赤コートで舉行、第一次リーグ東コートから札幌一中、旭川商業、西コートから北海中學、札幌二中勝ち残り第二次リーグ戦の結果北海中學全勝して優勝した。
△第一次リーグ
△東コート

清水 5
331544012
124322444
4 湊

全北海道女子庭球大會
中島庭球俱樂部主催、第十三
回全道女子庭球大會は昭和十三
年六月十二日札幌中島コートに
おいて開催され札幌高女の三瓶
安藤組が前年の覇者井門、武田
組を破つて優勝した

◆第二回戦
武田(札幌) 4-0 船橋(小樽)
井門(札幌) 4-0 村松(高女)
齋藤(高女) 4-2 北村(札幌)
平野(高女) 4-2 上野(高女)
安藤(札幌) 4-2 齋藤(小樽)
三瓶(高女) 4-3 佐々木(高女)
矢上(小樽) 4-3 江草(高女)
齋藤(高女) 4-3 川戸(高女)
◆準決勝
武田(札幌) 4-0 齋藤(小樽)
井門(札幌) 4-0 平野(高女)
安藤(札幌) 4-3 矢上(小樽)
三瓶(高女) 4-3 齋藤(高女)
◆決勝
安藤(札幌) 4-0 武田(札幌)
三瓶(高女) 4-0 井門(札幌)

庭球戦は昭和十三年九月十八日
北大中央庭球場で舉行、五・五
一三・五の熱戦裡に高商軍勝つ
小樽高商 北大豫科

◆ダブルス
加藤 6-6 眞達
富田 6-5 眞達
高橋 6-6 眞達
○シングル
加藤 7-3 眞殿
富田 2-4 安達
高橋 6-4 眞達
○小樽
紙橋 6-6 眞達
○守田
齋藤 6-6 眞達
守田 5-6 眞達
引分 5-4 眞達
札幌硬式庭球誕生記念試合
札幌硬式庭球俱樂部誕生を記

昭和十三年五月札幌市内女子
庭球同好者をもつて札幌女子庭
球俱樂部が創立された。

全道硬式ダブルス大會
全道硬式ダブルス選手権大會
昭和十三年六月十九日小樽市設
コートで舉行
◆第一ラウンド
安藤(札幌) 6-2 近藤(小樽)
小倉(科) 8-6 小峰(協)

◆第二ラウンド
伊藤(北) 6-6 安達(科)
大津(北) 6-6 小倉(科)
三毛(協) 6-6 飯塚(科)
山岡(協) 6-9 和野(北)
香村(協) 6-9 高橋(北)
守田(高) 6-6 眞谷(科)
齋藤(高) 6-6 眞谷(科)
戸井(協) 7-6 眞谷(科)
藤島(協) 7-6 眞谷(科)
福井(協) 6-1 眞谷(科)
加藤(高) 6-3 眞谷(科)
富田(商) 6-6 眞谷(科)
勝間(協) 6-6 眞谷(科)

念する札幌硬式庭球交際試合は
昭和十三年七月三日北大中央コ
ートで舉行協協ではOB組を以
て對戦、結局シングルは5-1
5の引分、ダブルスは3-2で
樽協軍の勝に歸した

△シングル
森 6-3 丸井
桑 3-6 丸井
近藤 6-2 丸井
片桐 6-3 丸井
山岡 8-10 丸井
奥澤 6-4 丸井
奥山 2-6 丸井
香村 4-6 丸井
三毛 5-6 丸井
戸井 6-2 丸井

◆第三ラウンド
伊藤(北) 6-6 今井(協)
大津(北) 6-6 今井(協)
齋藤(高) 6-6 今井(協)
守田(高) 6-6 今井(協)
戸井(協) 7-6 今井(協)
藤島(協) 7-6 今井(協)
勝間(協) 7-6 今井(協)

◆準決勝
伊藤(北) 6-6 齋藤(高)
大津(北) 6-6 齋藤(高)
戸井(協) 6-2 勝間(協)
藤島(協) 6-2 勝間(協)

◆決勝
伊藤(北) 6-6 戸井(協)
大津(北) 6-6 戸井(協)
齋藤(高) 6-6 戸井(協)
守田(高) 6-6 戸井(協)
戸井(協) 6-2 勝間(協)
藤島(協) 6-2 勝間(協)
勝間(協) 7-6 加藤(高)
湊(協) 7-6 加藤(高)
伊藤(北) 6-6 齋藤(高)
大津(北) 6-6 齋藤(高)
戸井(協) 6-2 勝間(協)
藤島(協) 6-2 勝間(協)
勝間(協) 7-6 加藤(高)
湊(協) 7-6 加藤(高)

札幌硬式庭球協會誕生
硬式庭球團體たる、札幌庭球
協會が昭和十三年六月一日創立
された。

野 球

全道樺太實業野球大會
小樽新聞社主催、第十七回北
海道樺太實業野球大會は、昭和
十三年八月十四、十五の兩日小
樽市潮見臺野球場で舉行、左の
推薦六球團が参加した。
三井上砂川野球部、札幌野球
部、住友炭礦俱樂部、小
樽野球協會、旭川鐵道俱樂部
全豐原
決勝戦に相見えた札幌は前年
の覇者の貫祿を示して三井砂川
軍を軽く一蹴、若武者揃ひの樽
協を粉砕して進み、一方旭鐵は
強豪全豐原を十四對零とシヤッ
トアウトし、兩軍優勝の王座を
ねらつて攻防の秘術を盡して決
勝に相應しい一戦を展開、兩々
相譲らず八回まで六對五とリ
ドせる札幌は九回一點を献じて

六對六の同點となり折柄の細雨
の中に兩軍の美技、快打に觀衆
は酔へるが如く割れん許りの歡
聲の嵐と共に捕回戦に入り十回
表坂根の三壘打に三捕失に出た
護摩堂一點をあげ坂根もワイル
ドピッチで一點を加へ決勝の二
點を合して八對六と旭鐵リード
しその裏札幌の猛攻も空しく功
を奏せず、紫紺の大旗は旭川鐵
道野球部の掌握するところとな
つた

◆第一次戦
札幌對三井砂川
札幌 17 0 2 3 4 0 1 A
三井 0 0 1 1 1 0 1 0
44 20 1 1 10 4 3
◆小樽對奔別
小樽 3 4 3 0 0 2 0 0 0
奔別 4 3 0 8 3 0 0 2 4
53 32 0 3 8 9 6
◆打安機三四盜過
打安機 3 4 盜過
40 10 0 2 13 9 3

◆シングル
今井 6-2 關口
戸井 3-6 勝間
近藤 6-3 勝間
古本 8-6 堀
吉田 8-10 鳥山
○垣本 6-2 直崎
○三毛 6-0 福井
豫科對高商硬式定期戦
小樽高商對北大豫科定期硬球

△準決勝

旭鐵對豐原

棒太	0	0	0	0	0	0	0	0	0
旭鐵	0	1	0	0	2	0	6	0	5
小樽對札運									
札運	2	0	5	1	0	0	0	0	0
小樽	2	0	0	0	0	0	2	0	0
合計	4	1	5	1	0	0	2	0	0

14 0

△決勝

旭鐵對旭鐵

旭鐵	0	0	1	0	1	0	3	0	1	2
札運	0	0	0	4	2	0	0	0	0	0
合計	0	0	1	4	2	0	3	0	1	2

6 8

失	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
四	1	0	1	0	2	2	1	1	1	1
三	1	0	1	0	1	1	1	1	1	1
盜	1	0	1	0	1	1	1	1	1	1
安	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0
打	5	0	0	1	0	0	0	0	0	0
運	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0
堂大石角川佐藤加小										
(中二捕一)										
(左投右三)										
(遊)										
合計	36	8	1	4	4	5	5	5	5	5

36 8

△選友對國富

選友	0	0	0	2	0	0	1	2	0
國富	0	0	0	0	0	0	1	0	0
合計	0	0	0	2	0	0	2	2	0

1 5

△旭川地方大會

旭軍對鴻星

旭軍	0	0	3	2	0	0	0	0	0
鴻星	3	0	1	0	1	1	1	1	1
合計	3	0	4	2	1	1	1	1	1

5 6

△留萌地方大會

留鐵對岸壁

留鐵	0	0	0	4	0	0	4	0	2	0
岸壁	4	4	0	0	0	0	0	0	2	2
合計	4	4	0	4	0	0	4	0	2	2

12 10

△室蘭地方大會

茶津寮對三建倉庫

茶津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
三建	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

1 0

△日高地方大會

樣似對靜内

樣似	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
靜内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0

0 1

△小樽地方大會

木材青年對市役所

木材	0	0	0	0	0	0	3	0	0	3	0
市役所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	3	0	0	3	0

0 6

全道中等學校綜合競技大會野球大會は、昭和十三年七月二十五日から三日間札幌神社外苑野

△準決勝

旭鐵對豐原

棒太	0	0	0	0	0	0	0	0	0
旭鐵	0	1	0	0	2	0	6	0	5
小樽對札運									
札運	2	0	5	1	0	0	0	0	0
小樽	2	0	0	0	0	0	2	0	0
合計	4	1	5	1	0	0	2	0	0

14 0

△決勝

旭鐵對旭鐵

旭鐵	0	0	1	0	1	0	3	0	1	2
札運	0	0	0	4	2	0	0	0	0	0
合計	0	0	1	4	2	0	3	0	1	2

6 8

失	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
四	1	0	1	0	2	2	1	1	1	1
三	1	0	1	0	1	1	1	1	1	1
盜	1	0	1	0	1	1	1	1	1	1
安	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0
打	5	0	0	1	0	0	0	0	0	0
運	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0
堂大石角川佐藤加小										
(中二捕一)										
(左投右三)										
(遊)										
合計	36	8	1	4	4	5	5	5	5	5

36 8

△準決勝

旭鐵對豐原

棒太	0	0	0	0	0	0	0	0	0
旭鐵	0	1	0	0	2	0	6	0	5
小樽對札運									
札運	2	0	5	1	0	0	0	0	0
小樽	2	0	0	0	0	0	2	0	0
合計	4	1	5	1	0	0	2	0	0

14 0

△決勝

旭鐵對旭鐵

旭鐵	0	0	1	0	1	0	3	0	1	2
札運	0	0	0	4	2	0	0	0	0	0
合計	0	0	1	4	2	0	3	0	1	2

6 8

失	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
四	1	0	1	0	2	2	1	1	1	1
三	1	0	1	0	1	1	1	1	1	1
盜	1	0	1	0	1	1	1	1	1	1
安	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0
打	5	0	0	1	0	0	0	0	0	0
運	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0
堂大石角川佐藤加小										
(中二捕一)										
(左投右三)										
(遊)										
合計	36	8	1	4	4	5	5	5	5	5

36 8

△準決勝

旭鐵對豐原

棒太	0	0	0	0	0	0	0	0	0
旭鐵	0	1	0	0	2	0	6	0	5
小樽對札運									
札運	2	0	5	1	0	0	0	0	0
小樽	2	0	0	0	0	0	2	0	0
合計	4	1	5	1	0	0	2	0	0

14 0

△決勝

旭鐵對旭鐵

旭鐵	0	0	1	0	1	0	3	0	1	2
札運	0	0	0	4	2	0	0	0	0	0
合計	0	0	1	4	2	0	3	0	1	2

6 8

失	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
四	1	0	1	0	2	2	1	1	1	1
三	1	0	1	0	1	1	1	1	1	1
盜	1	0	1	0	1	1	1	1	1	1
安	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0
打	5	0	0	1	0	0	0	0	0	0
運	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0
堂大石角川佐藤加小										
(中二捕一)										
(左投右三)										
(遊)										
合計	36	8	1	4	4	5	5	5	5	5

36 8

△準決勝

旭鐵對豐原

棒太	0	0	0	0	0	0	0	0	0
旭鐵	0	1	0	0	2	0	6	0	5
小樽對札運									
札運	2	0	5	1	0	0	0	0	0
小樽	2	0	0	0	0	0	2	0	0
合計	4	1	5	1	0	0	2	0	0

14 0

△決勝

旭鐵對旭鐵

旭鐵	0	0	1	0	1	0	3	0	1	2
札運	0	0	0	4	2	0	0	0	0	0
合計	0	0	1	4	2	0	3	0	1	2

6 8

失	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
四	1	0	1	0	2	2	1	1	1	1
三	1	0	1	0	1	1	1	1	1	1
盜	1	0	1	0	1	1	1	1	1	1
安	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0
打	5	0	0	1	0	0	0	0	0	0
運	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0
堂大石角川佐藤加小										
(中二捕一)										
(左投右三)										
(遊)										
合計	36	8	1	4	4	5	5	5	5	5

36 8

△準決勝

旭鐵對豐原

棒太	0	0	0	0	0	0	0	0	0
旭鐵	0	1	0	0	2	0	6	0	5
小樽對札運									
札運	2	0	5	1	0	0	0	0	0
小樽	2	0	0	0	0	0	2	0	0
合計	4	1	5	1	0	0	2	0	0

14 0

△決勝

旭鐵對旭鐵

旭鐵	0	0	1	0	1	0	3	0	1	2
札運	0	0	0	4	2	0	0	0	0	0
合計	0	0	1	4	2	0	3	0	1	2

6 8

失	0	0	1	0	0	0	0
---	---	---	---	---	---	---	---

札幌2 (2-0) 0 樽 商
 北中對二中
 北中3 (1-2) 0 0 0 二中

△決勝
 札幌對北中
 札幌2 (2-0) 0 北中
 2 0 0 0 北中

◇第一次戰
 札幌1 (1-0) 0 0 豫科
 北大4 (2-2) 2 0 2 S V C

◇決勝
 北大4 (1-3) 1 0 1 札幌
 1 0 1 0 1 札幌

北日本高專蹴球大會
 東北帝大主催の第九回北日本
 高專蹴球大會は、昭和十三年七
 月十五日から東北帝大工學部グ
 ラウンドにおいて舉行、これに

出場せる北大豫科の戦跡は左の通りである。

◇第一次戰
 豫科3 (2-1) 1 1 2 桐生高
 2 1 1 1 2 桐生高

◇準決勝
 豫科1 (1-0) 0 0 0 高岡
 1 0 0 0 高岡

◇決勝
 二高2 (0-2) 0 0 2 豫科
 0 2 0 0 2 豫科

樽蹴對SVC定期戰
 札幌對抗定期蹴球戰札幌S・
 V・O對小樽蹴球團戰は昭和十
 三年九月四日札幌競技場におい
 て舉行

高商對豫科ラグビー戰
 小樽高商對北大豫科春季ラグ
 ビー戰は昭和十三年六月十一日
 高商山ノ上グラウンドにおいて
 舉行結局八對五で豫科に凱歌が
 擧つた。

藤山岩崎井崎本坂倉藤山田星木木
 佐岩大三岩松乙小伊片飯赤鈴鈴

勢田田垣内地原原谷澤見川原藤
 小増石井井菊糸菅竹金深長笹伊
 高商

七人制二チーム誕生
 近代スポーツの華ラグビーは
 本道においても札幌、小樽、函
 館に行はれてゐるが他の都市に
 不振のところ、昭和十三年六月
 旭川市に旭鐵、旭正宗の七人制
 の二チームが誕生した。

北大遠征ラグビー快勝
 北大本科、豫科遠征軍は昭和
 十三年九月十日豫科對一高、十
 一日日本科對學士院ラグビーの二試
 合を東京において舉行快勝した

豫科對一高戰、駒場競技場
 豫科11 (3-3) 3 3 6 一高
 8 3 3 6 一高

本場
 本場31 (18-13) 3 0 3 學士
 18 13 3 0 3 學士

昭和十三年五月十日、札幌市
 に實業チーム札幌ラグビー俱樂
 部が創立された。

小樽ラグビー俱の誕生
 昭和十三年六月小樽市に小樽
 ラグビー俱樂部が結成された。

陸上ホッケー選手權會
 北海道陸上ホッケー春季選手
 權大會は昭和十三年六月十二日
 (第一日)、六月十九日(第二日)
 北大フィールド及び北中フィールド
 において舉行し、札幌商業軍が
 覇權を獲得した。

◇第一次戰
 北中2 (1-1) 0 1 1 北大
 1 1 0 1 1 北大

◇準決勝
 札幌1 (1-0) 0 0 0 1 札幌
 1 0 0 0 1 札幌

◇決勝
 樽協5 (2-3) 0 0 0 0 北中
 2 3 0 0 0 0 北中

本科對豫科ホッケー戰
 北大豫科對本科のホッケー戰
 は、昭和十三年五月一日舉行
 本科5 (4-1) 1 0 1 豫科
 1 1 1 0 1 豫科

樽協對北中ホッケー戰
 小樽ホッケー協會對北海中學
 ホッケー戰は昭和十三年五月二
 十九日小樽市潮見臺フィールドに
 舉行
 樽協2 (2-0) 1 0 1 北中
 0 1 1 0 1 北中

◇第一次戰
 札幌24 (10-14) 8 7 15 札幌
 10 14 8 7 15 札幌
 旭川俱40 (18-22) 17 11 28 札幌一中
 18 22 17 11 28 札幌一中

體育

北中 師 43 (20-23) 1 7 8 北中
 20 23 1 7 8 北中
 北中 籠 42 (26-16) 1 4 15 札幌俱
 26 16 1 4 15 札幌俱
 旭川俱 34 (16-18) 1 5 2 17 札幌二
 16 18 1 5 2 17 札幌二
 北中 籠 32 (19-13) 1 8 13 札幌
 19 13 1 8 13 札幌

◇決勝
 北中 籠 60 (45-15) 1 7 21 38 旭川俱
 45 15 1 7 21 38 旭川俱

函 師 47 (24-28) 4 6 10 留
 24 28 4 6 10 留
 札幌 師 16 (6-8) 0 長 8 6 14 函
 6 8 0 長 8 6 14 函
 留 中 34 (18-16) 1 1 8 19 網
 18 16 1 1 8 19 網
 函 師 60 (24-36) 1 5 2 17 網
 24 36 1 5 2 17 網

旭商 56 (26-30) 9 4 13 樽
 26 30 9 4 13 樽
 函商 30 (17-13) 9 17 26 札幌一中
 17 13 9 17 26 札幌一中
 旭商 12 (4-8) 4 8 15 11 26 函
 4 8 4 8 15 11 26 函
 樽中 19 (15-4) 1 9 34 53 札幌一中
 15 4 1 9 34 53 札幌一中
 樽中 12 (4-8) 2 11 8 39 函
 4 8 2 11 8 39 函
 旭商 42 (25-17) 1 14 31 札幌一中
 25 17 1 14 31 札幌一中

◇準決勝
 函商 36 (23-13) 3 16 19 旭商
 23 13 3 16 19 旭商
 函商 23 (8-15) 5 11 16 札幌
 8 15 5 11 16 札幌
 札幌 師 29 (16-13) 7 7 14 旭商
 16 13 7 7 14 旭商
 函商 38 (20-18) 1 11 3 24 函
 20 18 1 11 3 24 函
 函商 32 (14-18) 1 11 12 旭商
 14 18 1 11 12 旭商

◇決勝
 函商 36 (23-13) 3 16 19 旭商
 23 13 3 16 19 旭商
 函商 23 (8-15) 5 11 16 札幌
 8 15 5 11 16 札幌
 札幌 師 29 (16-13) 7 7 14 旭商
 16 13 7 7 14 旭商
 函商 38 (20-18) 1 11 3 24 函
 20 18 1 11 3 24 函
 函商 32 (14-18) 1 11 12 旭商
 14 18 1 11 12 旭商

函商(一勝) 4 旭商(全敗)
 女子中等蹴球競技大會
 第六回全道女子中等學校體育
 大會蹴球競技大會は昭和十三年
 七月二十四日札幌神社外苑綜合
 競技場において舉行

◇第一次戰
 札幌廳立對帶廣大谷
 札幌20 (12-8) 5 0 5 帶廣
 12 8 5 0 5 帶廣
 八雲實科對旭川廳立
 旭川27 (12-15) 8 7 15 八雲
 12 15 8 7 15 八雲

◇準決勝
 札幌廳立對小樽廳立
 札幌22 (10-12) 8 6 14 小樽
 10 12 8 6 14 小樽
 根室廳對旭川廳立
 根室32 (19-13) 5 3 8 旭川
 19 13 5 3 8 旭川

小樽 30 (1416) 3 旭川
 1 札幌廳立 2 根室廳立 3
 小樽廳立 4 旭川廳立
 全日中等籃球選手権會
 昭和十三年九月十一日から國
 民體育館で舉行第十五回全日本
 中等籃球選手権大會に出場せる
 函館師範の戦跡は左の通りであ
 る。

第二部(師範)

準決勝
 函 師 43 1924 2319 42 京 師
 新 師 71 3932 1417 31 豊 師

決勝
 新 師 49 3118 1427 41 函 師
 札幌俱樂部早大に敗る
 早稲田大學籃球部對札幌俱樂部
 部との籠球戦は昭和十三年八月
 二十一日札幌市東北小學校で舉
 行早大快勝す
 早稲田 54 (3024) 125 17 札 俱

排球

男子中等學校排球大會
 第一回全道男子中等學校排球
 大會は昭和十三年九月四日札幌
 商業屋内競技場において舉行
 第一次戦

北 中 2 (2121) 5 15 0 札 商
 準決勝戦
 旭 商 2 (2121) 5 3 0 一 中
 二 中 2 (2119) 21 1921 1921 112 1 北 中

決勝戦
 旭 商 2 (2321) 21 114 0 二 中
 女子中等學校排球大會
 第六回全道女子中等學校體育
 大會排球競技大會は昭和十三年
 七月二十四日札幌神社外苑綜合
 競技場において舉行
 第一次戦

根室廳立對岩見澤廳立
 根 室 2 (2121) 8 10 0 岩見澤
 札幌廳立對小樽廳立
 札 幌 2 (2121) 13 5 0 小 樽
 札幌市立對小樽市立

小樽 2 (2121) 115 161 521 1 札 幌
 準決勝
 旭川廳立對根室廳立
 根 室 2 (2121) 8 18 0 旭 川
 札幌廳立對小樽市立
 札 幌 2 (2121) 7 19 0 小 樽

決勝戦
 札幌廳立對根室廳立
 根 室 2 (2121) 10 13 17 21 1 札 幌
 三位決定戦
 小樽市立對旭川廳立
 旭 川 2 (2121) 11 17 0 小 樽

旭川廳立 2 札幌廳立 3
 旭川廳立 4 小樽市立
 第三回東部排球競技會
 北海道女子中等學校競技聯盟
 東部支部第三回競技大會の排球
 競技は昭和十三年七月二十一日
 北斗小學校庭において舉行
 排球
 釧路高女 42 18 網走高女
 根室高女 42 5 帶廣高女
 網走高女 10 42 根室高女

釧路高女 42 17 帶廣高女
 根室高女 42 22 釧路高女
 帶廣高女 21 42 網走高女
 1 根室 2 網走 3 釧路 4
 帶廣
 札幌に排球俱樂部誕生
 不振の本道排球界發展のため
 昭和十三年六月、札幌排球俱樂
 部が誕生し、事務所は札幌二中
 排球部内に設置された。
 北海道送球協會創立
 送球競技は體育的な運動とし
 て新興の機運にあるが、昭和十
 三年五月北海道送球協會が設
 され、全道的に送球競技の普及
 發達に乗り出すことになり日本
 送球協會に加盟一方これを全道
 的に擴充し學校體操としても奨
 勵する方針が樹てられた。加盟
 團體は左の通り
 一中俱樂部、二中俱樂部、市
 立高女俱樂部、北中俱樂部、
 札幌市教職員チーム、札幌市
 教職員OB俱樂部
 第一回送球公開試合
 昭和十三年五月七日一中對二
 中の送球競技が初の公開試合と
 して行はれ1對0で二中勝つ

二 中 1 (01) 0 0 0 一 中
 中 島末中藤保桐藤井井上岐
 一 大伊田加新小近北松井壹
 GK FB HB FW
 中 山葉法田崎木川藤羽谷藤
 二 上千傳磯寺鈴小齋足遠佐

卓球

全道卓球選手権大會
 北海道卓球協會第十回全北海
 道卓球選手権大會は昭和十三年
 六月二十六日札幌市中央創成小
 學校において舉行、札幌の薄井
 斷然強く再び優勝の榮冠を獲得
 した

第三次戦
 扇原(札幌) 3 2 本間(札幌)
 三野(北中) 1 3 黒川(札幌)
 堀(北中) 3 0 畑野(札幌)
 薄井(北中) 3 0 吉田(北中)
 水木(札幌) 3 0 柏崎(通信)
 藤田(札幌) 1 3 一戸(北大)
 遠藤(北中) 0 3 庄田(札幌)

岸 (北中) 3 2 北川(農檢)
 準々決勝
 扇原(札幌) 3 2 黒川(札幌)
 堀(北中) 0 3 薄井(札幌)
 水木(札幌) 3 1 一戸(北大)
 庄田(札幌) 1 3 岸(北中)
 準決勝
 扇原(札幌) 0 3 薄井(札幌)
 水木(札幌) 3 1 岸(北中)
 決勝
 薄井(札幌) 3 (1111) 7 6 8 0 水木(札幌)

道庁都市對抗卓球大會
 第五回北海道樺太都市對抗卓
 球大會兼第七回全國都市對抗卓
 球大會第二次豫選會は、昭和十
 三年七月十七日札幌市立體育所
 において舉行、札幌軍優勝
 小樽 0 3 札 幌 0
 尾 張 1 3 水 木 0
 林 0 3 薄 井 0
 澁谷 1 3 北川 0
 尾張 1 3 扇原 0
 間野 不 戦 黒 川 川
 須田 不 戦 北 川 川
 函 館 0 3 札 幌 0
 佐 野 1 3 薄 井 0

宮 住 1 3 水 木 0
 沼田 1 3 扇原 0
 沼田 不 戦 北 川 川
 田村 不 戦 黒 川 川
 都市對抗卓球札幌戦
 日本卓球協會主催第七回全國
 都市對抗卓球大會は昭和十三年
 八月二十日大阪歌舞伎座スケ
 ト場で舉行戦跡左の通り
 一回戦
 札幌市(複) 3 1 0 大分市
 シングルス
 薄 井 3 11111 3 3 9 0 堤
 水 木 3 11111 8 5 7 0 菊 地
 北 川 3 11111 7 7 6 0 植 木
 ダブルス
 水 木 1 8 11 7 7 11 11 11 3 堤
 薄 井 1 11 9 11 11 3 菊 池
 二回戦
 東京市(複) 1 2 0 2 札幌市

矢尾板 1 9 9 11 7 3 薄 井
 守 屋 1 8 7 9 11 3 扇 原
 矢尾板 3 15 11 11 13 9 4 0 薄 原 井
 長谷川 3 11 13 12 7 7 11 10 11 1 水 木
 戸 塚 3 11 11 11 6 8 6 0 北 川
 赤 木 3 0 荒 川
 大 橋 1 3 坪 谷
 本 田 0 3 田 野
 中 川 0 3 龜 松
 渡 邊 0 3 太 田

全道女子卓球選手権大會
 は、昭和十三年六月十九日札幌
 市女子高校において舉行、根室
 廳立高女坪谷榮えある大優勝杯
 を獲得した。
 第三次戦
 赤 木 3 0 荒 川
 大 橋 1 3 坪 谷
 本 田 0 3 田 野
 中 川 0 3 龜 松
 渡 邊 0 3 太 田

八重樫 0-3 竹田
梅 辻 0-3 水島
遠藤 3-0 大川

準々決勝
赤木 0-3 坪谷
田野 3-2 龜松
太田 0-3 竹田
水島 3-0 遠藤

準決勝
坪谷 3-0 遠藤
水島 3-0 竹田

決勝
坪谷 3-0 水島
111111
111111
111111
111111
111111
111111
111111
111111
111111
111111

全道女子中等卓球大會
第六回女子中等學校體育大會
卓球は、昭和十三年七月二十四日札幌廳立高女において舉行、團體は根室廳立高女、個人は根室廳立高女竹田が優勝した。

て月寒リンクスにおいて舉行

氏名 ハンデ 得點
優勝 鶴田 九 五九點
2 吉町 二四 五七點
3 小納 二〇 五五點
4 齊藤重 二六 五二點
5 一田 一五 五一點
6 齊藤秀 二七 五〇點

岩崎男寄贈大銀杯爭奪ゴルフ
フ・トリーナメント(三六ホールズメダル)は昭和十三年九月十八日月寒リンクスにおいて舉行、小納外一(炭礦汽船)優勝した

旭川札幌間耐久レース
旭川、札幌間双輪ロード・レースは、昭和十三年六月五日舉行、上手稻の清水正次選手が五時間二分三〇秒で優勝した。

岩見澤 3-1 札幌市立
札幌 3-1 栗山實科
根室 3-0 靜修
小樽市立 4-3 北海道高女

準決勝
札幌高女 3-1 岩見澤
根室高女 3-0 小樽市立

決勝
根室高女 3-0 札幌高女
竹田 3-0 福山
前川 3-0 杉山
坪谷 3-0 梅辻

個人競技
二次戦
太田(札幌) 3-0 佐久(旭川市立)
竹田(室根) 3-0 樋口(修)

水島(市) 3-1 淺川(岩見澤)
水島(市) 3-0 石原(市小)
水島(室根) 3-0 太田(札幌)
竹田(室根) 3-0 水島(市)

ゴルフ

全道ゴルフ選手権大會

昭和十三年度ゴルフ・インテ
1. クラブマッチ及び北海道選手権大會は昭和十三年八月二十八日札幌ゴルフリンクスにおいて舉行、成績は左の如し
1 札幌俱樂部 一、八九八點
2 小樽俱樂部 一、九四三點
3 函館俱樂部 二、一一三點

氏名 第一 第二

森(小樽) 九二七 九一七
倉田(札幌) 九二八 九一七
鶴田(札幌) 九二八 九一七
渡邊(小樽) 九二八 九一七
阿久津(札幌) 九二八 九一七
宮脇(札幌) 九二八 九一七
田島(札幌) 九二八 九一七
渡邊(札幌) 九二八 九一七
コリアファイ・ラウンド
鶴田 2 アップ 宮脇
阿久津 4 アップ 渡邊俊

倉田 7 アップ 渡邊辰
森 5 アップ 田島
セミ・ファイナル
鶴田 1 アップ 渡邊俊
倉田 4 アップ 森

鶴田 5 アップ ツウ 4 倉田
ファイナルにおいて倉田 5 アップ 4 で鶴田を退け昭和十三年度の榮冠を獲得した。

キャプテン盃ゴルフ戦
札幌ゴルフ俱樂部におけるキャプテン杯(キャプテン宮脇富氏)争奪戦は昭和十三年九月四日月寒リンクスで舉行安達(札幌礦山監督局長) ネット六九の大記録で優勝ベスト5 左の通り

前 後 計
1 安達 九二八 九一七
2 小納 九二八 九一七
3 西川 九二八 九一七
4 吉町 九二八 九一七
5 吉満 九二八 九一七
タイムス盃争奪戦ゴルフ
札幌ゴルフ俱樂部では昭和十三年八月十四日タイムス社寄贈の大カップ争奪トーナメント卅六ホールズポイントトーネを以

競馬

日本競馬會番組統制

三年九月四日南甲子園競技場で舉行本道代表の成績左の如し
四千米重量物運搬速度競走決勝 3 清水(北海道) 6 大西(北海道)
一千米速度競走決勝 6 大西(北海道)
サイクル聯盟室蘭支部
室蘭日鐵は昭和十三年九月北日本サイクル競技聯盟室蘭支部を結成

度は五十五萬五千五十圓増加となつて、十一競馬の賞金總額が四百三十九萬千八百五十圓となつた。

この馬に對する賞金の外に生産者賞として生産者に對し、新抽優勝馬の生産者に對し、新呼優勝馬に二百圓、帝室御賞典競走、農林省賞典競走及び三六四歳呼特別競走(中山四歳牝馬特別、東京優駿大競走、阪神優駿牝四歳馬競走)の第一着馬の生産者に對しては當該第一着賞金の百分の十を交付することとなり、調教師賞として、帝室御賞典競走、農林省賞典競走及び三六四歳呼馬特別の第一着馬の調教師に對し、當該第一着賞金の百分の五を、騎手賞として帝室御賞典競走、農林省賞典、三六四歳呼馬特別及び距離四千米を超える障礙競走の第一着馬に騎乗せる騎手に對し、當該第一着賞金の百分の五を交付することになつた。

なほ、春秋兩季の特殊競走中、北海道關係の分は左の通りである。

△呼馬駝步競走
一 四歳馬競走
函館 函館四歳馬特別競走(二、二〇〇米)一着金二、五〇〇圓、二着金八〇〇圓、三着金四〇〇圓

△速歩競走
春季競馬
函館 北海産四歳新呼馬特別競走(二、二〇〇米)一着金二、五〇〇圓、二着金八〇〇圓、三着金四〇〇圓

△公認競馬(七月)
函館 函館農林省賞典四歳呼馬競走(二、四〇〇米)一着金三、五〇〇圓、二着金一、〇〇〇圓、三着金五〇〇圓

△地方競馬(六月)
函館 函館四歳騎乘速歩特別競走(三、四〇〇米)一着金一、五〇〇圓、二着金六〇〇圓、三着金三〇〇圓

△公認競馬(八月、九月)
函館 抽籤古馬障礙特別競走(三、二〇〇米)一着金二、〇〇〇圓、二着金八〇〇圓

△入場人員
第一日 二、八三三 第五日 二、四七三
第二日 二、九七五 第六日 二、五九七
第三日 二、九七五 第七日 二、四七三
第四日 二、六六二 計 一九、三三三

△賞金
本賞 賞一〇〇、〇〇〇圓
登錄附加賞 五、八〇〇圓
計 一〇五、八〇〇圓

△登錄及び出走頭數
本賞 賞一〇〇、〇〇〇圓
登錄附加賞 五、八〇〇圓
計 一〇五、八〇〇圓

△登錄及び出走頭數
本賞 賞一〇〇、〇〇〇圓
登錄附加賞 五、八〇〇圓
計 一〇五、八〇〇圓

△登錄及び出走頭數
本賞 賞一〇〇、〇〇〇圓
登錄附加賞 五、八〇〇圓
計 一〇五、八〇〇圓

函館 二七 二六 三三
地方競馬(九月、十月)
靜内 三三 四一 五五
俱知安 一〇 二二 三三
八雲 七 八 九
釧路 七 八 九
江別 三 四 五
帶廣 三 四 五
岩見澤 一 二 三
旭川 七 八 九
野付牛 一 二 三
俱知安 一 二 三
苦小牧 一 二 三
羽幌 三 四 五

△勝馬投票券賣上高
單勝式 複勝式 計
一日 六、八〇〇 一、二〇〇 八、〇〇〇
二日 七、〇〇〇 一、三〇〇 八、三〇〇
三日 七、二〇〇 一、四〇〇 八、六〇〇
四日 七、四〇〇 一、五〇〇 八、九〇〇
五日 七、六〇〇 一、六〇〇 九、二〇〇
六日 七、八〇〇 一、七〇〇 九、五〇〇
七日 八、〇〇〇 一、八〇〇 九、八〇〇
計 五三、〇〇〇 一〇、〇〇〇 六三、〇〇〇

△開催場所
春季 江別、岩見澤、帶廣、根室、羽幌の五ヶ所
秋季 江別、岩見澤、旭川、俱知安、八雲、苦小牧、靜内、帶廣、釧路、根室、野付牛の十一ヶ所

△開催場所
春季 江別、岩見澤、帶廣、根室、羽幌の五ヶ所
秋季 江別、岩見澤、旭川、俱知安、八雲、苦小牧、靜内、帶廣、釧路、根室、野付牛の十一ヶ所

△開催場所
春季 江別、岩見澤、帶廣、根室、羽幌の五ヶ所
秋季 江別、岩見澤、旭川、俱知安、八雲、苦小牧、靜内、帶廣、釧路、根室、野付牛の十一ヶ所

昭和三十二年春季函館競馬成績
左の通り

△勝馬投票券賣上高
單勝式 複勝式 計
一日 四、八〇〇 一、〇〇〇 五、八〇〇
二日 五、〇〇〇 一、一〇〇 六、一〇〇
三日 五、二〇〇 一、二〇〇 六、四〇〇
四日 五、四〇〇 一、三〇〇 六、七〇〇
五日 五、六〇〇 一、四〇〇 七、〇〇〇
六日 五、八〇〇 一、五〇〇 七、三〇〇
七日 六、〇〇〇 一、六〇〇 七、六〇〇
計 三三、〇〇〇 七、〇〇〇 四〇、〇〇〇

△勝馬投票券賣上高
單勝式 複勝式 計
一日 六、〇〇〇 一、二〇〇 七、二〇〇
二日 六、二〇〇 一、三〇〇 七、五〇〇
三日 六、四〇〇 一、四〇〇 七、八〇〇
四日 六、六〇〇 一、五〇〇 八、一〇〇
五日 六、八〇〇 一、六〇〇 八、四〇〇
六日 七、〇〇〇 一、七〇〇 八、七〇〇
七日 七、二〇〇 一、八〇〇 九、〇〇〇
計 四三、〇〇〇 九、〇〇〇 五二、〇〇〇

△勝馬投票券賣上高
單勝式 複勝式 計
一日 七、〇〇〇 一、五〇〇 八、五〇〇
二日 七、二〇〇 一、六〇〇 八、八〇〇
三日 七、四〇〇 一、七〇〇 九、一〇〇
四日 七、六〇〇 一、八〇〇 九、四〇〇
五日 七、八〇〇 一、九〇〇 九、七〇〇
六日 八、〇〇〇 二、〇〇〇 一〇、〇〇〇
七日 八、二〇〇 二、一〇〇 一〇、三〇〇
計 五三、〇〇〇 一〇、〇〇〇 六三、〇〇〇

△勝馬投票券賣上高
單勝式 複勝式 計
一日 八、〇〇〇 二、〇〇〇 一〇、〇〇〇
二日 八、二〇〇 二、一〇〇 一〇、三〇〇
三日 八、四〇〇 二、二〇〇 一〇、六〇〇
四日 八、六〇〇 二、三〇〇 一〇、九〇〇
五日 八、八〇〇 二、四〇〇 一、一、二〇〇
六日 九、〇〇〇 二、五〇〇 一、一、五〇〇
七日 九、二〇〇 二、六〇〇 一、一、八〇〇
計 六三、〇〇〇 一六、〇〇〇 七九、〇〇〇

△勝馬投票券賣上高
單勝式 複勝式 計
一日 九、〇〇〇 二、五〇〇 一、一、五〇〇
二日 九、二〇〇 二、六〇〇 一、一、八〇〇
三日 九、四〇〇 二、七〇〇 一、二、一〇〇
四日 九、六〇〇 二、八〇〇 一、二、四〇〇
五日 九、八〇〇 二、九〇〇 一、二、七〇〇
六日 一〇、〇〇〇 三、〇〇〇 一、三、〇〇〇
七日 一〇、二〇〇 三、一〇〇 一、三、三〇〇
計 七三、〇〇〇 一八、〇〇〇 九一、〇〇〇

昭和三十二年地方競馬成績
地方競馬は、昭和十二年において、春秋合して、十六場所開催したがその成績は左の通りである。

昭和三十二年地方競馬成績
地方競馬は、昭和十二年において、春秋合して、十六場所開催したがその成績は左の通りである。

△登録馬數
春季 六三頭 季秋一、六八頭
△出頭走馬數
春季 二五 秋季 八七〇
△入場券發賣高
春季 一〇四、三三七 秋季 二九、九元
計 三三三、六七六
△賞金及び副賞
馬政局からの賞金助成
春季 八、二八〇 秋季 二六、九五
計 三五、二四五
日本競馬會から副賞寄贈
春季 一、四〇〇 秋季 六、〇〇〇
計 七、四〇〇
合計 四二、六九五

滑空

第一回グライダー競技
本道航空に一大エポックを劃す最初のグライダー競技會は北海道グライダー協會(昭和十二年秋發會)主催の下に昭和十三年六月五日札幌飛行場において舉行された。

プライマリ三機に鷹第二號、鶴第二號、鳩第二號とそれぞれ命名、三機の試滑空を行ひ北大、北中、一中、二中、北星と見事な飛翔振りを示し、北天谷選手の操縦する鷹第二號は離陸も鮮かに二十餘米上昇距離は實に百米を超えグライダー北海道の躍進に一大光明を與へた。競技は採點の結果は左の通りで北大組優勝
北大九二點四〇 一中九一點五五 二中八八點九五 北中八四點一六 北星七七點二三
參加選手は北大一五名、一中一名、二中一四名、北中一五名、北星高女七名の六二名。
勝農、帶中滑空部新設
十勝農業學校では昭和十三年六月グライダー部を新設した。帶廣中學校では、昭和十三年八月グライダー一機の寄贈を受け創立準備中のグライダー部はかくて誕生し、勝農と共に大空に向つてスタートした。
グライダー製作補助
青少年に對する航空思想の涵養とスポーツ精神の高揚を強調

傳書鳩

傳書鳩利用熱高まる
家禽としての鳩は五千年前の大古から人に飼はれて、親しまれて來た關係上古くから利用され、近代においてその眞價を發揮してゐる。
△傳書鳩の利用
軍事用 移動通信、夜間通信、往復通信等に利用されてゐる。
實務用 普通營利的事業に傳書鳩を利用してゐるのは漁船で出先から陸地に漁況を報告、

また電話のない田舎の醫師等が往診先から處方箋を鳩に記して自宅に送り、その他鳩により緊急な處置を果して患者の生命を救つたといふ例もある。
新聞通信 新聞社には鳩班があつて一刻一秒を争ふ通信、寫眞フィルム、の輸送、または山岳、海上からの通信等主として通信機關のない場所においては非常に重要な任務を鳩に託してゐる。
捜査用 登山者の遭難、犯人の山中に逃亡して捜査隊が繰出した場合など捜査先との連絡用に利用。
災厄の場合
不時の災厄の場合に通信機關の壊滅した際等に傳書鳩により連絡通信をなす。
家庭用 遊山、釣魚、潮干狩等において獲物の状況を知らせ、また出張先から旅信を出す等趣の深いものである。
北海道における傳書鳩の飼養總數は、昭和十二年末には二千六百五十羽でその飼育者數は百

五十八人である。
なほ、昭和十三年七月末日における愛鳩團體は左の通りである。日本傳書鳩協會北海道支部(事務所小樽市)所屬の團體は小樽はとの會、札幌好鳩同志會、北都稚内愛鳩會、帶廣はとの會、室蘭はとの會、帝國傳書鳩協會北海道支部(事務所札幌市)所屬の團體は札幌はとの會、札幌好鳩俱樂部、函館はとの會

漕艇

全道選手權競漕大會
小樽漕艇協會北海道漕艇協會共催第十六回小樽漕艇大會第十一回全道選手權競漕大會兼全日本漕艇選手權北海道選選は昭和十三年八月七日小樽港内第一防波堤において舉行中等學校では函館商業、一般固定席艇では鐵道棧橋がそれぞれ優勝し本道代表に決定した、尙一般固定席艇二部では北日本、女子固定席には燈會が優勝した、決勝記録左の

通り。
△一般固定席艇(千三百米) 1 鐵道棧橋五分五秒(五艇身) 2 築港驛
△青年團固定席艇(八百米) 1 手宮青年團獨漕三分五四秒
△男子オワンボート(二百米) 1 鐵道棧橋一分三一秒(一艇身) 2 新村A組 3 同B組 半) 2 女子オワンボート(二百米) 1 北海製罐〇組一分三七秒(三艇身) 2 同A組
△一般固定席艇二部(八百米) 1 北日本汽船三分三一秒二分一(二艇身) 2 キャンクラブ(一艇身) 3 道銀
△中等學校固定席艇(千三百米) 1 函館商業五分三六秒(四分の一艇身) 2 小樽中學
△女子固定席艇(六百米) 1 燈會三分二秒(四艇身) 2 っばくら
全國中等學校漕艇大會
第十四回固定席艇日本選手權大會は昭和十三年八月二十一日名古屋庄内川千三百米コースで舉行
△準決勝B組

武道

1 函館商業(北海道代表) 五分二一秒九、2 愛知一中(東海代表) 艇差2秒
△決勝
1 青森中學(東北代表) 五分五七秒八、2 函館商業(北海道代表)
武道錬士試験合格者
昭和十三年五月大日本武徳會本部において行はれた武道錬士試験に北海道から次の人々合格證狀を授與された。
◇劍道居合術本間治助(札幌) ◇劍道三枝佐(留萌) 佐藤熊雄(江差) 杉田貞次郎(余市) 平井二郎(八雲) 泉澤惣治(札幌) 小野田六郎(室蘭) 赤城實(小樽) 石井健一(小樽) 島田敏之(瀧川) 樋口金司(旭川) ◇弓道中島親三(小樽) 盛(小樽) ◇弓道高島太郎(札幌) 林理一郎(旭川) 高島太郎(札幌)
武徳會劍道大會戰跡
昭和十三年五月舉行の第四十二回武徳祭演武大會劍道大會に出場せる道權選手の戦跡左の通り。

り。(〇印は一本勝◎は二本勝)
◇申込三段の部
川越(大阪) ◎中山(樺太) ◎脇本(樺太) 野村(神奈川) ◇申込四段の部
深谷(樺太) ◎林(岩手) ◎鎌士の部
◎要害(北海道) ◎井上(兵庫) ◎井上(樺太) ◎島本(兵庫) ◎西島(北海道) ◎宮内(滋賀) ◎音喜多(北海道) ◎肥後(京都) ◎櫻田(樺太) ◎山本(兵庫) ◎吉村(北海道) ◎中島(鹿兒島) ◎安藤(朝鮮) ◎上山(北海道) ◎長谷川(滋賀) ◎吉川(樺太) ◎猪飼(北海道) ◎長谷川(東京) ◎竹村(北海道) ◎楠見和歌山 ◎本間(北海道) ◎岡田(東京) ◎教師の部
松川(兵庫) 引分け中本(樺太) ◎角 田(長野) 阿蘇(北海道) ◎片岡(神奈川) ◎大野(樺太) ◎砂金(北海道) 引分け櫻井(東京) ◎高橋(北海道) ◎宮内(埼玉)
全道中等學校綜合競技劍道は昭和十三年七月二十五日釧路中

學校道場で舉行。釧路中學七戦六勝を以て覇をなす成績左の通り。

釧路中	3	2	札幌師
北海中	3	2	札幌師
小樽水	3	2	札幌師
札幌師	4	1	函館商
北海中	4	1	札幌二中
北海中	3	2	旭川師
北海中	3	2	札幌二中
函館商	3	2	北海中
釧路中	4	1	名寄中
釧路中	3	2	小樽水
旭川師	3	2	北海中
小樽水	3	2	名寄中
小樽水	3	2	函館商
函館商	3	2	旭川師
函館商	4	1	名寄中
札幌二中	5	0	名寄中
旭川師	3	2	札幌二
札幌二	4	1	釧路中
札幌師	3	2	名寄中
釧路中	3	2	函館商
小樽水	3	2	札幌二中
北海中	3	2	名寄中
旭川師	3	2	札幌師
北海中	3	2	小樽水

釧路中 3 — 2 旭川師
函館商 3 — 2 札幌二中
旭川師 3 — 2 名寄中
1 釧路中學 六勝 二〇點
2 北海中學 五勝 一九點
3 小樽水産 四勝 一八點
3 函館商業 四勝 一八點
3 函館師範 四勝 一八點
6 札幌師範 三勝 一九點
7 札幌二中 二勝 一八點
8 名寄中學 〇勝 一〇點
全道中等剣道大会における個人高點試合成績左の如し。
1 佐々木博(札工) 2 肘岡貞夫(札師) 3 福田要次郎(札工) 4 柿崎勇(旭商)
全道青年團剣道大会
第十四回全道青年團體育大会
剣道試合は、昭和十三年八月十四日札幌市武徳殿において舉行團體一部は札幌、二部は空知、個人一部では小樽杉山、二部では空知太田優勝
△團體の一部(一部)
第一回戦
○札幌 4 — 0 空知
○小樽 2 — 1 渡島
○上川 3 — 2 日高

第二回戦
○空知 3 — 2 渡島
○札幌 4 — 1 上川
○小樽 3 — 2 日高
決勝戦
○札幌 3 — 2 小樽
○入谷 コメ — 杉山
阿閉 ト — メコ木村
三位決定戦
○空知 4 — 1 上川
○萩原 コメ — 木下
○豊田 メメ — 銅島
1 札幌、2 小樽、3 空知、4 上川
△團體の一部(二部)
第一回戦
○空知 3 — 2 札幌
○小樽 3 — 3 日高
第二回戦
○空知 4 — 1 日高
○小樽 2 — 1 札幌
決勝戦
○空知 4 — 1 小樽
○木村 メコ — 佐藤
○太田 ト — 深尾
○日高 3 — 2 札幌
○若木 メコ — 松本

五二二
原口 コ — メコ齋藤
1 空知、2 小樽、3 日高、4 札幌
△個人の一部(一部)
準決勝
○杉山(小) メメ — コ萩原(空)
○木村(小) メコ — ド豊田(知)
決勝戦
○杉山 コメ — 木村
三位決定戦
○豊田 コメ — 萩原
1 杉山(小樽) 2 木村(小樽)
3 豊田(空知) 4 萩原(空知)
△個人の一部(二部)
準決勝
○太田(空) メメ — 齋藤(札)
○佐藤(小) メメ — メ木村(空)
決勝戦
○太田 コメ — 佐藤
三位決定戦
○齋藤 ト — メ木村
1 太田(空知) 2 佐藤(小樽) 3 齋藤(札幌) 4 木村(空知)
全道學童剣道大会
第二回全道學童演武大会

剣道大会は、昭和十三年七月二十七日札幌市武徳殿において舉行、團體は沼東校、個人は三笠山校高橋がそれぞれ優勝した。
△團體の一部
第二次戦
勝
沼東 留負
上砂 札幌第一
量徳 倶知安
峰延 三笠山中央
上徳 苫小牧東
余市澤町 栗澤南
岩内 銅路別
小樽第一 惠岱別
第三次戦
沼東 上砂川
峰延 量徳
余市澤町 上徳
小樽第一 岩内

沼東 留負
上砂 札幌第一
量徳 倶知安
峰延 三笠山中央
上徳 苫小牧東
余市澤町 栗澤南
岩内 銅路別
小樽第一 惠岱別
第三次戦
沼東 上砂川
峰延 量徳
余市澤町 上徳
小樽第一 岩内

沼東 1 — 3 網走
決勝
○高橋(裏投) 鎌田
○大内田(分) 社本
○佐藤(分) 山本
○鹽川(内股) 藤澤
○荒木(分) 山下
△個人の一部
第三次戦
安藤 住谷
遠藤 磯橋
前島 磯川
杉田 磯川
準決勝
遠藤 磯橋
前島 磯川
決勝
前島 磯川
遠藤 磯橋
決勝
前島 磯川
遠藤 磯橋
三位決定戦
○鹽川(有二本) 前島
○鹽川 安藤
順位 1 遠藤(沼東) 2 前島(釧路男子) 3 鹽川(網走) 4 安藤(釧路男子) 5 高橋(網走)
全道青年團柔道大会
第十四回全道青年團體育大会
剣道柔道試合は昭和十三年八月

五二三
沼東 1 — 3 網走
決勝
○高橋(裏投) 鎌田
○大内田(分) 社本
○佐藤(分) 山本
○鹽川(内股) 藤澤
○荒木(分) 山下
△個人の一部
第三次戦
安藤 住谷
遠藤 磯橋
前島 磯川
杉田 磯川
準決勝
遠藤 磯橋
前島 磯川
決勝
前島 磯川
遠藤 磯橋
三位決定戦
○鹽川(有二本) 前島
○鹽川 安藤
順位 1 遠藤(沼東) 2 前島(釧路男子) 3 鹽川(網走) 4 安藤(釧路男子) 5 高橋(網走)
全道青年團柔道大会
第十四回全道青年團體育大会
剣道柔道試合は昭和十三年八月

沼東 留負
上砂 札幌第一
量徳 倶知安
峰延 三笠山中央
上徳 苫小牧東
余市澤町 栗澤南
岩内 銅路別
小樽第一 惠岱別
第三次戦
沼東 上砂川
峰延 量徳
余市澤町 上徳
小樽第一 岩内

沼東 留負
上砂 札幌第一
量徳 倶知安
峰延 三笠山中央
上徳 苫小牧東
余市澤町 栗澤南
岩内 銅路別
小樽第一 惠岱別
第三次戦
沼東 上砂川
峰延 量徳
余市澤町 上徳
小樽第一 岩内

沼東 1 — 3 網走
決勝
○高橋(裏投) 鎌田
○大内田(分) 社本
○佐藤(分) 山本
○鹽川(内股) 藤澤
○荒木(分) 山下
△個人の一部
第三次戦
安藤 住谷
遠藤 磯橋
前島 磯川
杉田 磯川
準決勝
遠藤 磯橋
前島 磯川
決勝
前島 磯川
遠藤 磯橋
三位決定戦
○鹽川(有二本) 前島
○鹽川 安藤
順位 1 遠藤(沼東) 2 前島(釧路男子) 3 鹽川(網走) 4 安藤(釧路男子) 5 高橋(網走)
全道青年團柔道大会
第十四回全道青年團體育大会
剣道柔道試合は昭和十三年八月

五二三
沼東 1 — 3 網走
決勝
○高橋(裏投) 鎌田
○大内田(分) 社本
○佐藤(分) 山本
○鹽川(内股) 藤澤
○荒木(分) 山下
△個人の一部
第三次戦
安藤 住谷
遠藤 磯橋
前島 磯川
杉田 磯川
準決勝
遠藤 磯橋
前島 磯川
決勝
前島 磯川
遠藤 磯橋
三位決定戦
○鹽川(有二本) 前島
○鹽川 安藤
順位 1 遠藤(沼東) 2 前島(釧路男子) 3 鹽川(網走) 4 安藤(釧路男子) 5 高橋(網走)
全道青年團柔道大会
第十四回全道青年團體育大会
剣道柔道試合は昭和十三年八月

十四日札幌市武徳殿において舉行、結局は札幌が壓倒的に優勢に進み一部二部共優勝した。

團體の部(一部)

第一回戦

函館 2-0 空知

札幌 2-0 小樽

日高不戦勝

渡島不戦勝

第二回戦

空知 1-0 渡島

函館 1-0 日高

小樽不戦勝

札幌不戦勝

決勝戦

札幌 1-0 函館

芝田 分 函館

高橋 小外掛 川原

三位決定戦

空知 2-0 渡島

工藤 跳腰 寺島

矢田目 内股 藪越

札幌、2函館、3空知、4渡島

團體の部(二部)

第一回戦

札幌 2-0 空知

日高不戦勝

決勝

札幌 2-0 日高

金高 拂腰 平井

小原 大腰 米倉

札幌、2日高、3空知

個人の部(一部)

準決勝戦

高橋(札幌)支釣込足 矢田目(空知)

芝田(札幌)大外 工藤(空知)

決勝戦

高橋 支釣込足 芝田

三位決定戦

工藤 送足 矢田目

高橋(札幌)2芝田(札幌)

3工藤(空知) 4矢田目(空知)

個人の部(二部)

準決勝

藤本(空知)燕返 小原(札幌)

金高(札幌)釣込 加藤(空知)

決勝

金高 崩上四方 藤本

三位決定

小原 小内刈 加藤

1金高(札幌) 2藤本(空知) 3

小原(札幌)4加藤(空知)

全道中等學校柔道大會

會は昭和十三年七月二十五日札幌一中道場において舉行、北中優勝個人では樽中大島優勝

第一リーグ戦

甲班 得点 北中二一點、札幌一八點、樽中二一點、旭商一〇點

乙班 得点 函師二一點、旭師一七點、札幌一三點、帶中九點

決勝リーグ戦

札幌 7-3 旭師

北中 7-3 函師

函師 6-4 北中

札幌 5-5 函師

北中 5-5 函師

函師 7-3 旭師

得点 北中一九點、札幌一七點、函師一四點、旭師一〇點

1北海中學校(山屋、大勝、昆小野寺、松澤) 2札幌師範學校(香澤、田中、細谷、小西、川島) 3函館師範學校(金澤、竹林、谷内、二本柳、原) 4旭川師範學校(青山、吹越、山口、

齊藤、中村)

個人選手権試合は大島(樽中)内海(函師)が決勝戦に進み内海選手棄権し結局樽中大島選手が個人優勝者と決定した、第二位内海(函師)三位柏木(釧中)四位武林(函師)

準決勝

大島 竹林

内海 柏木

決勝

大島 棄権 内海

決川位定戦

柏木 棄権 竹林

豫科對高商柔道定期戦

北大豫科對小樽高商柔道定期戦は、昭和十三年六月十一日北大道場において舉行、豫科の中堅大竹選手は健闘し高商の三將古館、副將辻本、大將佐藤の三者を得意の押へ込みで打ち取り、豫科は大將木村以下佐藤、伊藤、佐藤の四選手を残して堂々快勝した。

豫科

先鋒 笹島 分 東野

南部 押込 櫻井

南部 跳腰 宮澤

渡邊 崩 袈裟 木村

笹川 返し 技 上原

札幌中等學校柔道大會

小樽高商主催第十一回札幌中等學校柔道大會は昭和十三年六月二十六日高商道場において舉行、左の戦跡で北中勝つ。

豫戦

樽中 8-6 札幌

樽中 10-4 北中

北中 10-4 樽中

北中 10-4 樽中

山谷 高見

松澤 大川

布目 高橋末

小野寺 高橋

大勝 石川

大崎 田中

第十四回全道弓道大會

大日本射覺院主催旭川武徳殿後援の第十四回全道弓道大會は昭和十三年八月十四日旭川市立高女弓場で開催された、その結果は左の通りである。

團體決勝一般 1札幌(小倉小林、越谷、山口、西野) 2

五二五

的場 宮澤

野原 立川

佐藤 加藤

大竹 細田

大竹 辻本副將

大竹 辻本副將

大竹 辻本副將

大竹 辻本副將

大竹 辻本副將

大竹 辻本副將

大竹 辻本副將

大竹 辻本副將

大竹 辻本副將

大竹 辻本副將

大竹 辻本副將

大竹 辻本副將

大竹 辻本副將

大竹 辻本副將

大竹 辻本副將

大竹 辻本副將

大竹 辻本副將

大竹 辻本副將

大竹 辻本副將

大竹 辻本副將

大竹 辻本副將

大竹 辻本副將

大竹 辻本副將

大竹 辻本副將

大竹 辻本副將

大竹 辻本副將

大竹 辻本副將

大竹 辻本副將

大竹 辻本副將

大竹 辻本副將

大竹 辻本副將

大竹 辻本副將

大竹 辻本副將

大竹 辻本副將

大竹 辻本副將

大竹 辻本副將

岩見澤鐵道3苗穂鐵道工場
 △中等校決勝 1札幌一中B2
 小樽中學3札幌一中A
 △女學校 1札幌市立高女2旭
 川市立高女

△射道優勝團體 小樽北水、札幌市立高女
 △個人優勝 1佐藤助七(幌延) 2須藤功(旭川) 3佐々木信太郎(下富良野) 4鹿島明(小樽) 5星野虎次郎(岩見澤)
 △個人射道優秀 布川隆、關澤ウメ子、石塚雅明、笹村努助 石恒嘉一

全道女子中等弓道大會
 全道女子中等學校體育大會弓道は昭和十三年七月二十四日札幌武徳殿において舉行、團體では小樽市立高女が三十中で優勝し又個人では奥村恭子(小樽市立)八中で優勝した。

團體 (一人十射) 1小樽市立三十中(大島七中、長谷川五中、村田七中、笹田三中、奥村八中) 2小樽廳立高女二十六中(武石八中、安城四中、伊藤四中、佐藤五中、吉井五中) 3北海高女二十四中(福田四

中、大場五中、山保四中、青野五中、松崎六中) 4札幌市立十七中(宮崎三中、鯉江一中、片石七中、關澤三中、五十嵐三中)
 △個人 1奥村恭子(小樽市立) 八中2武石啓子(小樽廳立)八中3大島照子(小樽市立)七中
 全國中等校弓道大會

第九回全國中等學校弓道大會は昭和十三年八月二十四、二十五の兩日文理大道場において舉行、札幌一中二十四中で第三位となる。

豫科對高商定期弓道戰
 小樽高商對北大豫科定期弓道試合は昭和十三年六月十二日舉行、百二中對八十二中で高商軍勝つ。

北日本高專射撃大會
 第九回北日本高專射撃大會は昭和十三年七月十二日仙臺市に舉行、團體では北大豫科四位、個人では北大豫科今淵選手三八點で優勝前島選手は三五點で第四位となる。

全道青年學校相撲大會
 全道青年學校相撲大會は、昭和十三年九月十三日札幌神社外苑綜合競技場相撲場に舉行、戦跡は左の通りである、なほ十傑選手第四位まで全國青年學校相撲大會に出場した。

和十三年九月十三日札幌神社外苑綜合競技場相撲場に舉行、戦跡は左の通りである、なほ十傑選手第四位まで全國青年學校相撲大會に出場した。

A組
 △第一回戰
 日諸(石狩) 〇竹繩(網走)
 〇大西(空知) 〇古谷(宗谷)
 〇千葉(上川) 〇大西(空知)
 〇吉崎(後志) 〇蘇武(札幌)
 〇澤口(檜山) 〇山崎(旭川)
 〇原(渡島) 〇村森(小樽)
 〇齋藤(膽振) 〇宮崎(函館)
 〇三好(十勝) 〇鈴木(室蘭)
 〇鳥(釧路國) 〇菅野(釧路)
 〇國原(根室) 〇中野(帶廣)

△第二回戰
 日諸(石狩) 〇大西(空知)
 〇竹繩(網走) 〇古谷(宗谷)
 〇千葉(上川) 〇吉崎(後志)
 〇澤口(檜山) 〇原(渡島)
 〇山崎(旭川) 〇村森(小樽)
 〇齋藤(膽振) 〇三好(十勝)
 〇鈴木(室蘭) 〇宮崎(函館)
 〇鳥(釧路國) 〇國原(根室)
 〇菅野(釧路) 〇中野(帶廣)

日諸(石狩) 〇古谷(宗谷)
 〇千葉(上川) 〇蘇武(札幌)
 〇吉崎(後志) 〇山崎(旭川)
 〇澤口(檜山) 〇金子(小樽)
 〇原(渡島) 〇宮崎(函館)
 〇齋藤(膽振) 〇鈴木(室蘭)
 〇三好(十勝) 〇菅野(釧路)
 〇鳥(釧路國) 〇中野(帶廣)
 〇國原(根室) 〇竹繩(網走)
 △第四回戰

蘇武(札幌) 〇村森(小樽)
 日諸(石狩) 〇吉崎(後志)
 〇古谷(宗谷) 〇山崎(旭川)
 〇大西(空知) 〇澤口(檜山)
 〇千葉(上川) 〇原(渡島)
 〇蘇武(札幌) 〇宮崎(函館)
 〇三好(十勝) 〇國原(根室)
 〇竹繩(膽振) 〇中野(帶廣)
 〇鈴木(室蘭) 〇菅野(釧路)
 △第一回戰
 〇奥谷(石狩) 〇西村(網走)
 〇高橋(空知) 〇平野(宗谷)
 〇佐々木(上川) 〇瀨川(留萌)
 〇山本(網走) 〇山田(札幌)
 〇西川(渡島) 〇内山(旭川)
 〇小林(膽振) 〇長内(小樽)

〇山下(十勝) 〇野崎(函館)
 〇酒井(釧路國) 〇船木(室蘭)
 〇渡邊(根室) 〇木曾(釧路)

△第二回戰
 前田(帶廣) 〇奥谷(石狩)
 〇高橋(空知) 〇西村(網走)
 〇佐々木(上川) 〇平野(宗谷)
 〇山本(後志) 〇瀨川(留萌)
 〇西川(渡島) 〇山田(札幌)
 〇小林(膽振) 〇内山(旭川)
 〇山下(十勝) 〇長内(小樽)
 〇酒井(釧路國) 〇野崎(函館)
 〇渡邊(根室) 〇船木(室蘭)

△第三回戰
 〇西村(網走) 〇木曾(釧路)
 〇前田(帶廣) 〇高橋(空知)
 〇奥谷(石狩) 〇平野(宗谷)
 〇佐々木(上川) 〇山本(後志)
 〇瀨川(留萌) 〇山田(札幌)
 〇西川(渡島) 〇小林(膽振)
 〇内山(旭川) 〇長内(小樽)
 〇山下(十勝) 〇酒井(釧路)
 〇野崎(函館) 〇船木(室蘭)

△第四回戰
 〇佐藤(根室) 〇前田(帶廣)
 〇奥谷(石狩) 〇高橋(空知)
 〇木曾(釧路) 〇平野(宗谷)
 〇西川(渡島) 〇山下(十勝)

△優勝戰結果
 1 西村(網走) 六勝
 2 山本(後志) 六勝
 3 大西(空知) 六勝
 4 三好(十勝) 六勝
 5 竹繩(網走) 五勝
 6 木曾(釧路) 四勝
 7 船木(室蘭) 四勝
 8 澤口(檜山) 三勝
 9 原(渡島) 三勝
 10 奥谷(石狩) 二勝

青年團體體育會相撲大會
 第十四回北海道聯合青年團體育大會相撲大會は昭和十三年八月十五日神社外苑土俵において舉行。

一部團體
 空知 〇 〇 〇 〇
 渡島 〇 〇 〇 〇
 釧路 〇 〇 〇 〇
 石狩 〇 〇 〇 〇
 空知 〇 〇 〇 〇
 渡島 〇 〇 〇 〇
 釧路 〇 〇 〇 〇
 石狩 〇 〇 〇 〇

成績 1札幌十一點2室蘭八點3釧路六點4渡島六點

準決勝
 須藤(室蘭)押し倒し黒崎(空知)
 寺田(渡島)押し倒し藤谷(札幌)
 決勝

準決勝
 〇須藤(室蘭)押し倒し黒崎(空知)
 〇寺田(渡島)押し倒し藤谷(札幌)
 決勝
 〇藤谷(室蘭)押し倒し黒崎(渡島)

準決勝
 〇須藤(室蘭)押し倒し黒崎(空知)
 〇寺田(渡島)押し倒し藤谷(札幌)
 決勝
 〇藤谷(室蘭)押し倒し黒崎(渡島)

準決勝
 〇須藤(室蘭)押し倒し黒崎(空知)
 〇寺田(渡島)押し倒し藤谷(札幌)
 決勝
 〇藤谷(室蘭)押し倒し黒崎(渡島)

準決勝
 〇須藤(室蘭)押し倒し黒崎(空知)
 〇寺田(渡島)押し倒し藤谷(札幌)
 決勝
 〇藤谷(室蘭)押し倒し黒崎(渡島)

三四位決定戰
 〇西村(網走) 〇木曾(釧路)
 〇前田(帶廣) 〇高橋(空知)
 〇奥谷(石狩) 〇平野(宗谷)
 〇佐々木(上川) 〇山本(後志)
 〇瀨川(留萌) 〇山田(札幌)
 〇西川(渡島) 〇小林(膽振)
 〇内山(旭川) 〇長内(小樽)
 〇山下(十勝) 〇酒井(釧路)
 〇野崎(函館) 〇船木(室蘭)

全道中等學校相撲大會
 第十二回全道中等學校相撲大會

會は昭和十三年五月二十九日札幌神社境内土俵において舉行、團體北中、個人も北中大勝の優勝するところとなつた。

Table with 2 columns: 札幌工師農中水、札幌中師農中水、函館中師農中水、十勝中師農中水、十勝中師農中水、十勝中師農中水、十勝中師農中水、十勝中師農中水、十勝中師農中水、十勝中師農中水

札工 3 | 2 | 樽水
函師 4 | 1 | 十農
北中 3 | 2 | 樽水
二中 2 | 3 | 樽水
札師 2 | 3 | 北中
1北中二六點、2札師二四點、3樽水二二點、4札工二八點、5二中一七點、6函師一五點、7樽商一四點、8十農四點
個人優勝戰
A班
○小西(札師) 青山(北中)
B班
○石黒(樽水) 香澤(札師)
C班
○大勝(北中) 昌中(二中)
決勝リーグ戦
○石黒 小西
○石黒 大勝
○大勝 小西
○大勝 小西
○石黒 小西
○石黒 大勝
○大勝 小西
○大勝 小西

乘馬團體障礙(師團長杯) 1高杉直幹(札幌OB) 2荒野寅雄(札幌OB) 3石丸西治(茂尻乘) 4望月松雄(赤平愛)
中等學校選手障礙 1金子彰(旭師) 2名古屋進(旭商) 3小松雄(永農)
徒步隊將校競技 1芋毛少尉(輻七) 2植呂少尉(騎七) 3松川少尉(歩二六)
學生一般障礙 A 1長崎昇(旭商) 2趙武達(旭商) 3今村隆三(旭商) B 1石川正吉(北大) 2窪田誠(同) 3佐藤誠龜(北大實) C 1石丸西治(茂尻乘) 2高谷武(札幌) 2糸谷忠興(旭鐵) 3齋藤四郎(旭乘) 3興(旭鐵) 3齋藤四郎(旭乘) 3岡田清(札幌) D(女子部) 1笠岡信(砂乘)
白馬綜合競技 1稻垣文夫(根馬)(長官賞)
琴平競技(中等校) A 1檜澤清(永農) 2小原松雄(同) 3屯所三郎(同) B 1三浦康隆(旭中) 2小倉朝資(同) 3谷口弘康(旭師)(大學高校) 1池内武夫(北大) 2小田昇(北大) 2山本義則(同) 3倉田俊秀(東北)

大) 3安永茂(同)(紳士部) A 1阿部廣道(砂乘) 2榎智光(旭乘) 3根本元貞(同) B 1明石俊夫(旭師) 2稻垣文夫(根乘) 3望月松雄(赤平愛)(女子部) 笠原信(砂乘)
乘馬團體對抗競技 1鶴林香夫(砂乘) 2堀口清(赤平愛) 3相原實朗(同)
大會優勝旗並に長官杯は砂川乘馬俱樂部に、大學高校選手對抗競技個人優勝タイムス杯 1安永茂(東北) 2倉田俊秀(同) 3岡田光夫(北大)
對抗優勝 (今北大總長杯) 東北帝大
乘馬團體將校選手競技 1中里中尉(騎七) 2吉田少尉(騎七) 3今村少佐(騎七)

北海道一覽

Table with multiple columns: 位置 (東經、西經、南緯、北緯), 總面積 (二、二九〇米), 海岸線 (九二里二八町), 山岳 (旭岳), 河流 (石狩川), 氣候 (最高、最低), 區劃 (支廳、市、郡), 人口 (昭和十三年十月一日), 學務 (官幣大社, 國幣中社, 北海道招魂社), 地方費 (昭和十三年度), 地方債 (昭和十三年度), 地方稅 (昭和十一年度), 市町村稅, 學務 (官幣大社, 國幣中社, 北海道招魂社), 地方費 (昭和十三年度), 地方債 (昭和十三年度), 地方稅 (昭和十一年度), 市町村稅, 學務 (官幣大社, 國幣中社, 北海道招魂社), 地方費 (昭和十三年度), 地方債 (昭和十三年度), 地方稅 (昭和十一年度), 市町村稅



御一人分の適量は茶匙
にトリス山盛り一杯!

セイロン種・國産

トリス紅茶

可愛がられてトリスが育つ
床しい喫茶の風習に
染む同胞に守られて!



躍進樺太

寒地拓殖施設

計畫遂行の苦心

樺太の拓殖施設については、始政以來一般會計より補充金を受ける外、大正七年以降必要に應じ事業公債を發行して財源に充てる等、銳意之が經營に當つたのである、即ち明治四十年以降昭和八年までの間における拓殖事業費の累計額六千七百七十五萬一千餘圓に達し、この期間における國庫補充金二千七百五十四萬五千餘圓、事業公債受入金三千四百八十三萬二千餘圓で拓殖事業費に對し、前者は四割後者は五割一分の割合を示して居る、本島産業開發は所謂初期の漁業時代を経て、その後、第二期の森林利用時代より將に第三期の農、鑛業時代に入らんと

躍進樺太

する産業轉換期に直面してをりしかも從來樺太廳の主要歳入たる森林収入も、林力の現狀に稽へ、曩に林政改革を斷行したので、伐採數量の制限と共に、將來大なる期待をかけ難く、加へて各種産業の發達を促し、廳財政の基礎確立の必要に迫られてゐる實情に鑑み、この際一層適切な樺太拓殖の綜合的方針を樹立し、永續的に積極方策を遂行し以て本島開拓の實を擧げることの緊要なるを認められるに至つた。

實行方針を樹つ

政府は昭和八年樺太拓殖調査委員會を設置し、本島拓殖に關し調査審議せしめ、財政の現狀に鑑み、緊急施設を要する事項につき、大體左の方針の下に之が實行を期することとなつた。

- 一 本計畫に編入する事業の種目は主として産業の振興とその開發をもつて基調とする
- 二 樺太拓殖のため、緊急施設を要する事業中、樺太廳財政の現狀に鑑み、普通財源では施行困難と認める拓殖事業につき計畫すること
- 三 拓殖事業は十五ヶ年繼續事業としてその經營は主として公債金または借入金及び補充金をもつてこれに充てること
- 四 繼續事業は廳財政の現狀その他を考慮し、既定計畫に屬する分を合し、總額約一億六千萬圓としこれが財源は約七千萬圓を公債金または借入とし、約九千萬圓を樺太廳一般歳入及び補充金をもつて充當すること
- 五 公債または借入金の償還財源は官業創設及び歳入の自然増を以てこれに充てる
- 六 本島の私設鐵道は何れも重要幹線なるが故に、經濟界金融界の情勢を觀て、可及的速かにこれを買収し、本島鐵道の經營を統一することを期する、豫算關係に就ては買収費交付または公債をもつてこれに充て、經營費は買収鐵道の收入及び私設鐵道補助の不用に基く財源をもつて充當する見込みである
- 七 本島拓殖に關する金融機關の整備充當に就ては可及的速かにこれが實現を期する叙上方針に基き計畫せられた昭和九年度以降十五ヶ年間に繼續施行する拓殖事業費の豫定總額は一億六千二百九十一萬八千六百五十圓である。

事業費の財源確保

曩に林政改革の斷行に依り伐採數量を制限した結果、市場相場統制が保たれ、賣拂價格の昂騰に依り、大正八年度より森林収入の著しい増収を見、爾來財政上相當の餘裕を存するに至つたことは拓殖事業の遂行を容易ならしめたが、昭和九年度に新規繼續事業を絶対に認めない政府の方針に則り、繼續費の形式を避けるの餘儀なきに至つたが、主要項目は全部計上するこ

十一年度以降の樺太新殖計畫に關しては拓務、大藏兩大臣に於いて既定計畫に依り順次施行すると共に其の財源に就いては樺太廳自體の歳入の外、一般會計財源の許す限度に於て補充金の繰入の方法を講ずることに協定せられ、茲に拓殖事業費財源を將來に確保することになつた。しかして施行科目は左の通りである。

道路開鑿費、同改良費、鐵道建設費、同改良費、港灣修築費、船渠改修費、同改良費、河川改修費、電信電話擴張及び改良費、植民費、土地改良費、産業振興費、國有林事業經營費、燃料資源調査費

歴代長官任期

昭和十三年十月末現在に於ける歴代長官の在任期間と出身地は左の如くである。

熊谷喜一郎(民政長官)山口縣
明治三〇・七・二一—同四〇・四・一
楠瀬 幸彦 東京府
明治四〇・四・二一—同四一・四・三

市町村別の戸口表

Table with columns: 戸數, 男, 女, 計. Lists municipalities like 全管, 豊原市, 豊原支廳, etc.

床次竹二郎 鹿兒島縣
明治四〇・四・二四—同四一・六・二二
平岡定次郎 兵庫縣
明治四一・六・二一—大正三六・五
岡田 文次 山形縣
大正三六・五—同五〇・九
昌谷 彰 東京府
大正三〇・二—同八・四・七
永井金次郎 新潟縣
大正八・四・一—同三六・三
昌谷 彰 東京府
大正三六・二—同五八・五
豐田 勝藏 山口縣
大正一五・八・五—昭和二七・七
喜多 孝治 大阪府
昭和二七・七—同四七・九
縣 忍 靜岡縣
昭和四七・九—同六二・二
岸本 正雄 鳥取縣
昭和六二・三—同七二・五
今村 武志 宮城縣
昭和七二・五—同三三・五
棟居 俊一 山口縣
昭和三三・五—

總面積の測量

本島の總面積は古く殆ど推定

的に算出し三萬六千九百九十九方呎三として凡ゆる方面に使用、基礎づけられてゐるが、陸軍陸地測量部ではこれが總面積を確然たるものに匡正すべく大正九年來毎年係員來島し地形、三角、水準の各測量を行ひつつあり、大體昭和十四年度測量終了の豫定であつたと、滿洲事變の勃發により多少遅延し、更に支那事變も影響し、相當延引するはずであつたが、本島は蘇聯と境を接し軍事的にも重要な位置にあるため、努めて早く測量を完了することになり、昭和十三年も技師外係員來島し、敷香方面の測量をなした。

人口順に躍進

總人口 昭和十二年末現在調査による人口は總數三十二萬六千九百四十六人で、前年末の三

十二萬一千七百六十五人に比べて、五千八百八十一人の増加であつて、その増加割合は一分六厘に當つてゐる。これを領有當時、即ち明治三十九年の一萬二千三百六十一人に比べると、三十一萬四千五百八十五人の増加であつて二十六倍餘、領有後十年目即ち大正五年の六萬六千二百八十人に比べると、二十六萬六千六百六十六人の増加であつて約五倍、更に二十年即ち昭和元年の二十萬三千五百七十三人に比べると、十二萬三千三百七十三人の増加であつて約一・六倍に當つてゐる(明治三十九年を一〇〇とする)。

Table with columns: 市町村名, 人口. Lists municipalities like 好仁村, 海馬村, 眞岡支廳, etc.

九百四十六人を男女に分つと、男十七萬六千四百九十九人、女十五萬七百九十七人で、男の女に超過すること二萬五千三百五十二人である。而してこの割合は女一〇〇につき男一六・八一であつて、これを支廳別に見ると、敷香支廳最も多く一四五・四七で、これについで泊居支廳の一三五・八〇、元泊支廳の一〇九・〇二、眞岡支廳の一〇七・七〇、豊榮支廳(豊原市を含む)の一〇一・二三、本斗支廳の一〇七・六三の順となり、最も少いのは大泊支廳の一〇七・四二である。これを内地及び外地に比較すると、内地は一〇〇・六二、朝鮮は一〇三・八〇、臺灣は一〇四・二〇、南洋群島は一二六・六一、關東州は一五〇・四三であるから、本島は關東州につぐ高率である。かゝる現象は云ふまでもなく、本島がまだ開拓の途上にあることを示すものであつて、林業、鑛業の盛な北部地方において殊にその差が多い。

支廳の六萬八千九百人で總數の二一・一パーセントを占め、大泊支廳は一七・四パーセント、眞岡支廳は一四・五パーセント、豊原市は一四・四パーセント、敷香支廳は一〇・九パーセント、豊榮支廳は九・三パーセントの順序で、これについで元泊支廳、本斗支廳は何れも七・七パーセントとなつてゐる。

以下七、三千人乃至五千人十六五千人乃至一萬人八、一萬人乃至二萬人五、二萬人以上四となつてゐる、これを昭和十一年末と比較するに、増加したものは十六、減少したものは二十四であつて、東海岸及び亞庭灣沿岸の町村は殆んど減少したものの許りである。唯その中増加したものは元泊、知床の二村を算へるのみで、他の十七町村は何れも減少を見、殊に敷香町の如きは二百四十一人の激減振りである。續つて西海岸地方を見るに十五町村の中減少したものは僅かに五町村であるが、その減少歩合は何れも僅少で、これを合算してもなほ且つ千餘人に過ぎない。しかししてその他の町村は何れも増加したものの許りであるが就中、恵須取町における五千九百九十八人、名好村における二千五百九十一人の増加は特に注目値するものがある。

以上、東海岸及び亞庭灣地方の減少は連年の凶漁と森林伐採事業の縮小或は終了等に因するものであり、また西海岸北部地方の著しい増加は、石炭鑛業の勃興に基くものである。

出生と死亡數

昭和十二年中の島内における出生及び死亡數は、出生一萬二千三百八十七人、死亡五千九百二十四人、自然増加六千四百二十三人であつて、人口一千に對する出生率は三七・八九人、また死亡率は一八・一三、自然増加率一九・七七といふ高率で内地の自然増加率一二・四一(昭和十一年)と比較すると七・三六といふ高記録である。

移民の脆弱性

樺太廳の農業政策を樹立し、島内農耕適地に殖民地を設定してから入地を許可した戸數は約三萬戸に達してゐるが、現在の島内農家戸數は僅か一萬二千戸に過ぎず、定著せるもの四割と云ふ不成績である。

戸別割の賦課

全島四十一市町村昭和十三年度、戸別割豫算總額は九十六萬五千三百九十一圓で、前年度當初豫算九十一萬二千五百十六圓に比し五萬二千八百七十五圓の増となり、一戸平均負擔額十四圓九十二錢、賦課戸數は六萬四千七百七十七戸で前年度より一千九百九十六戸の増加となり、市町村勢の著しい發展振を如實に物語つてゐる、更に戸別割最高額の市町村はさすが豊原市十二萬五千八百圓で王座を占め、次いで石炭鑛業の町恵須取の八萬八千三百五十圓、大泊町の七萬五千二百圓、眞岡町の五萬八千八百圓、本斗町五萬三千八百八十九圓、敷香町五萬二千二百圓の順位であり、一方最少額の町村は散江村の四千四百圓である、次に一戸平均負擔額の輕少市町村は鑛業の村、川上の七圓、野田町、散江村の八圓、泊岸村の八圓五十錢、反對に高額は海馬村の三十二圓二十五錢、豊北村

市制實施さる

樺太の市制は昭和十二年三月二十三日法律第一號を以つて公布され、同年六月二十二日勅令第二百七十三號をもつて同年六月二十五日から施行の旨公布された。

豊原市の誕生

樺太最初の市として同年六月二十九日首都豊原が指定せられ昭和十二年七月一日を期して市制が實施された。

は三十二萬六千人となつて居るが、農業戸數は大正十三年の九千戸に比較し、昭和十二年度は一萬二千戸に過ぎず僅か三千戸の増加しか來さぬと云ふ状態を示し、この減少は樺太における農業移民の脆弱性を遺憾なく暴露したものであり、同時に農業立島の理想に進む樺太農業政策は再検討を要するに至つた。

昭和四年地方制度改正に際し一級町村に編入されたものである。豊原市所在の諸官衙、會社、その他を示せば左の通りである。

樺太廳、豊榮支廳、市役所、樺太地方裁判所、憲兵分隊、郵便局、廳立豊原醫院、博物館、圖書館、武德殿、中學校、女學校、磁氣觀測所、官幣大社、樺太神社、豊原神社、樺太招魂社、商工會議所、王子製紙株式會社、樺太製糖株式會社、樺太製藥株式會社、株式會社、樺太製藥株式會社、新二級塔路町、名好郡恵須取町の區域から、塔路炭礦市街を中心とする大守恵須取の中、塔路、西恩洞、糸音、藻糸音、伊賀、千緒の六字から成る、塔路町が誕生し昭和十三年四月一日から一級町村制が實施された。

の二十三圓八十一錢である、な
は賦課戸数の第一は豊原市の七
千四百戸、恵須取町の五千七百
戸、大泊町の四千七百戸、敷香
町の四千五百戸、知取町の三千
五百戸、真岡町の三千三百六十
戸、最少は海馬村の百四十戸と
なつてゐる。

○自治協会の事業 市町村自治
行政事業の刷新向上に、活潑な
動きを見せてゐる樺太自治協会
の昭和十三年度豫算額は七千六
百二十圓で、計畫した事業は左
の通り。

△優良町村視察員の派遣 自治
行政事務従事者中より、成績
優良の者を選定し、内地道府
縣の優良町村を視察せしめ、
本島町村事務の刷新向上を圖
らんとす

△雑誌「樺太自治」の発行
△映画フィルム購入及びスラ
イドの調製配付 本會の所有
する映画フィルムは購入以來
全島に涉り映寫せられ、宣傳
價值減少したるにつき、本年
度においても公民思想宣傳映
畫を購入し、支部及地方委員

等に無償貸付爲さんとす、尙
映寫幕間を利用し、納税思想
普及宣傳のためスライド數種
を作成、各支部に配付し備付
しめ隨時宣傳に供せしめんと
す

△映画並に講演會の開催 本會
所有の映畫を以て必要の地方
に映畫並に講演會を開催し、
若は支部と共催して公民思想
普及を圖らんとす

△樺太自治關係職員録の発行
△自治功勞者及篤行者の表彰
市町村事務の整理刷新又は地
方開發に特段の功勞ありたる
者を調査し、之が表彰を爲さ
んとす

△樺太地方制度法規輯覽の発行
△樺太地方制度法規輯覽追録第
一號の発行
△講習會又は事務研究會の開催
諸種の事情により開催を遷延
したる講習會又は事務研究會
を年内適當の機を選び豊原市
に開催せんとす

△納税報知旗の調製頒布 前年
度調製を豫算したる納税報知
旗は綿布の甚しき昂騰のため

作製不能なりしをもつて、十
三年度調製に繰延べ、この經
費二百圓を増額計上した

侍從武官御差遣

樺太における、海軍昭和十三
年度簡閱點呼は同年六月八日、
九日、十日の三日間豊原市並に
知取町において執行されたが、
畏き邊りでは、簡閱點呼並に海
軍召集事務檢閱狀況視察のため
特に侍從武官海軍少將遠藤喜一
氏を御差遣あらせられた。

聖戰回顧訓示

昭和十三年七月七日、棟居樺
太長官は聖戰一年を回顧して島
民の奮起を望むと題し大要次の
如き訓示をなした。

聖戰こゝに將に一年、この間
皇軍の收め得たる偉大なる戰
績戰果は眞に世界戦史上の一
大驚異である、上御稜威によ
ることとはもとよりではあるが
遠く異郷の戦野に長途の征馬
を進め、凡ゆる苦難を克服し

一死頑敵に當れる忠勇なる將
兵諸君の奮戰奮闘の賜物に他
ならぬ、我等國民の等しく感
激に耐へざるところである、
こゝに幾多愛國將兵の忠烈な
る英靈に對し、衷心深厚感謝
の意を捧げる次第である、事
變は目下の情勢を以つてして
は、愈々深刻なる新段階に入
ること必至にして、事局の收
拾は容易ならざる難事である
事を豫想せしめてをる、我が
忠勇なる國民は以上の覺悟を
以て、今日この時、凡ゆる萬難
を排して起つの大勇斷を要望
する所以である、本島民諸君
は聖戰一年を回顧して、時局
の重大性を認識し、舉島一丸
となつて統後の結束を固くし
各その本分に全力を傾注し、
國策の命ずるものあらば欣然
これに協力して、本島物心兩
資源を十二分に發揮するに努
むべく、以つて現下の時局に
於ける本島獨自の使命を完全
に遂行するため、官民一體と
なりて滅私奉公の赤誠を捧げ
て、ひたすら樺太開拓の壯業

に精進することこそ眞に統後
島民として君國に忠節を盡す
道と信ずるのである、ここに
聖戰一周年を回顧して島民諸
君の奮起を望む次第である。

國境線の警備

樺太廳では北緯五十度の國境
線の警備と取締り強化のために
昭和十三年八月敷香管内の淺
瀬巡查部長派出所を昇格して警
部補を置くことになつたが、こ
れによつて日ソ國境線の警備は
安別、半田と共に三警部補派出
所となつた。

○防空課を新設 北方防空の確
立を期すると共に、三十五萬島
民の防空思想普及をはかるため
樺太廳としては從來警察部警務
課内にあつた防空係を獨立し、
新に防空課を新設することに決
定、昭和十三年六月二十五日告
示された。

防衛協會設立

國際情勢の推移と樺太の特殊
躍進 樺太

事情による防備の重要性に鑑み
樺太では昭和十三年八月十九日
樺太防衛協會を設立した、樺太
防衛協會設置の趣旨並に事業計
畫は左の通りである。

- △目的 本會は樺太防衛に關す
る設備及資材の整備と防衛機
關の發達を助成し防衛思想の
普及徹底を期するにある
- △事業
 - 一 防衛施設の整備事業
 - 二 防衛思想普及宣傳事業
 - 三 防衛功勞者の表彰並に殉
職者及び傷病者救濟事業
 - 四 防衛従事者の子弟教養事
業
 - 五 防衛に關する各種照會調
査研究事業
 - 六 義勇團、防護團、家庭防
空組合その他各種防衛團體
に關する助成事業
 - イ 優良團體組合の表彰
 - ロ 防衛従事者用防衛器材
の配給
 - ハ その他防衛整備器材の
助成給與
- 七 以上の外協會の目的達成
に必要な事業

全島防空演習

防空演習は昭和十三年九月十
九日から三日間全島一齊に舉行
したが、防空組織は完璧を誇り
四十一市町村には市町村防護團
四十一各工場、鑛山の獨立防護
團二十六合計六十七團に達し、
團員總數一萬一千七百二十三名
に及び、更に家庭防空組合、義
勇團も組織され、三十五萬島民
一糸紊れぬ統制の下に目ざまし
い活躍をなした、重要市街地防
護團員數は次の通りである。

豊原市	二、一三六
大泊町	二、三九七
眞岡町	八〇〇
恵須取町	一、八九四
敷香町	八九四
本斗町	五二九
知取町	六五〇
落合町	七九五
泊居町	一、一三二
野田町	五〇〇

△：：畏き邊りでは、さきに滿
寰狀下賜の御沙汰

初等教育擴大

初等教育網は就學兒童の激増
から、小學校數も増設を餘儀な
くされ、こゝに著しく充實刷新
を示すに至つた、即ち全島小學
校數は尋常小學百四十八校、尋
常高等小學校百二校、高等小學
校三校、分教場十七の合計二百
七十校で學級數も一千三百四十
四級、教員數一千四百二十三名

の多き上つてゐる、更に児童数の既往九ヶ年間の増加振を示せば左の通りで、毎年平均二千五百五十二名の増加である。石炭鑛業の躍進により、昭和十二年四月末より十三年四月一日までに三千八百七十六名の激増である。

十三年度就學兒童

昭和十三年度における就學兒童数は六萬一千八百八十二名で、これを昭和十二年度の五萬七千三百六名に比較すると實に四千名の増加を來してゐる。

小學校の農業教育

小學校兒童に對する農業教育に關してはすでに亞寒帶農業經營の實際を取入れた農業教科書が刊行されこれを教育上に使用する外、樺太廳拓殖學校第二部生を全島各學校に配備し、更に教員をして中央試験所につき農業智識を習得せしめる等、農業教員の人的充實と相俟つて農業第二國民の養成に萬全の備へを執つてゐる。然して樺太廳農務課の獎勵により小學校實習地の經營は、搖籃時代を脱却し、本格的歩調

をたどり、昭和十三年度は榮濱二股、瑞穂、杜門、山中、並川の六校において本島主要作物たるピートを各一反歩乃至二反歩を耕作した。

○學事主任會議 初等教育の指導大綱を決定する全島學事主任會議は、昭和十三年五月二十三日から三日間、樺太廳に召集され、左の諮問事項の答申が求められた。

時局並に本島の實情に鑑み本島初等教育の充實向上に關する意見如何
更に學務課提出議案として
一 中等學校入學試験に關する件
一 全島學校衛生會設置に關する件
の二件が提出された。

國民精神總動員 實行團を設置

經濟戰強調週間の設定を契機として、國民精神總動員運動を一層徹底強化し、これが實行の持續を期するため昭和十三年七月、各市町村の區にこれが實行

團を設置せしむることとなつた。

青年團の運営

全樺太男女青年團長、副團長協議大會は昭和十三年六月十七日、豊原市に開催し左の決議をなした。

- 一 吾等は現下未曾有の時局並に本島拓殖の實情に鑑み左記施設につき青年團運営の再檢討を加へ、以て國家社會の期待に副ふ地方化せる具體案に依り實踐し長くも上聖旨に對へ奉り、統後の守りを全うせんとす
- 一 國體觀念を明徴にし、時局の重大性を深く認識する施設
- 二 男女青年層を洩れなく團員たらしめ、組織の強化統制と共に、活動を活潑ならしむる施設
- 三 國防訓練に併せて勤勞訓練をなし、堅忍不拔の精神と、義勇奉公の精神を發揚する施設
- 四 體位の向上健康増進を期し

強固なる體軀を鍛鍊すると共に、剛健なる氣魄を養ふ施設に、文書教育を普及し、穩健なる思想を培養し、忠良なる國民の素質向上に努むる施設

○夏期鍛鍊道場開設 例年夏季を卜して開設されて來た、敷香支廳の誇りとする保惠青年道場は昭和十三年八月五日から十日間第三回夏季鍛鍊道場男子部を開設したが、收容人員は敷香町十五人、内路村三人、泊岸村三人、散江村一人の二十二二人である。同道場は左記要項に基いて中堅青年の養生に努めるものである。

- △目的
一 日本精神を覺醒すること
一 信念の啓培と實力の養成に努むること
一 去華就實不屈不撓以て國民精神總動員下の拓殖の一路に邁進する人物たらしむること
△訓練方針
一 天照大神の祭祀
一 參拜、捨身の誓ひ並に感謝
一 遙拜、感謝
一 國體觀念の感得に努むること

- 一 國旗掲揚下における訓練
- 一 日本體操による訓練
- 一 國歌及び國民的唱歌による訓練
- 一 教練による訓練
- 一 神域の靈化作業
- 一 道場内の靈化作業
- 一 道場内における日常動作の指導
- 一 眞剣なる努力無言作業
- 一 修道夜會における感話、訓話

青年團代表の渡支

大日本聯合青年團軍役奉仕、將兵慰問團樺太代表として、大泊青年團員宮本禮吉君が派遣されたが、同君は北支班に参加して北京、天津方面において將兵慰問、傷病兵慰問、日支青年交驛を行ひ、途中一ヶ所で一週間軍役奉仕並に現地訓練をなした。



豊富なる 海陸天然 資源に恵 まれてる 樺太の各 産業界は

近來拓殖計畫の進展と相俟つて加速度躍進を示し、樺太廳調査によれば、年生産總額は一億五千四百七十七萬圓餘に達し、樺太廳を初め全島各市町村では何れも各管内の生産増加に努めてゐるので、逐年跳躍的増産によるものと見られてゐるが、これが産業別に内譯せば左の通りである。

農産物 年産額四百二十一萬八千餘圓で、總生産額の三〇%を占め、栽培作物の種類は北海道と大差なく麥類、豆類、馬鈴薯、蔬菜類、牧草等を主とし、廣大な農耕適地を有する本島の農業は今後の經營にまつところ頗る大である
畜産物 本島の氣候風土が家畜飼養に適するので、主として牛、豚、鶏を飼養し、綿羊、家兎、水禽等これにつぎまた近來養狐事業が漸次堅實味を加へ、益々發展の兆がある、なほ畜産物の年産額は二百九十八萬七千餘圓に達し、總生産額の二〇%を占めてゐる
林産物 本島産業界の大宗と

もいはれ、年産額二千二百五十三萬一千餘圓、總生産額の二五%を占め、樹種中最も多いのはトドマツ及びエゾマツであつて、全森林蓄積の約八割がそれで、何れも製材及び人絹、パルプの原料となり、その他用材、新炭材として産出される

水産物 林産物についての生産額を示し、年産千八百五十八萬千餘圓で、總生産額の二二%を占め、その主なるものは鱈、鮭、鱒、鱈、蟹、昆布等にして、近海は世界三大漁場の一つと稱され、魚田の豊富と漁撈の改善、製造加工の進歩と共に前途頗る有望である
また海約島は我國唯一の臘腸歌蕃殖場として、世界的に有名のものである
鑛産物 年産額千五百三十七萬五千餘圓で、總生産額の一〇%を占め、本島の主要資源たる石炭は殆んど全島的に分布し、殊に石炭の液化事業は燃料國策上より見るも前途有望のものである。

産業別の戸數

樺太廳調査の昭和十二年十二月末現在の農業戸數並に人口を昭和十一年末と比較すると

戸數	一三、三九	一四、四八
男	二六、七八	三三、一〇八
女	一四、一〇	一四、三三三
計	四〇、八八	四七、四四一

即ち戸數に於ては一千八百九十九人の激減を示すに至つた一方、これと對立的に時局産業たる鑛業の戸數を比較すると、五千三百八十三戸に對し十一年末は四千四百四十九戸であるから、一千二百三十四戸の増加を來し、人口も十一年末の六千三

百八十四人に比べ、五千八百八人を増加して一萬一千四百九十二人といふ驚異的な激増であるが、島内各種産業別戸数を示せば左の通りである。

農業	一三、二五九
水産	五、七〇三
工業	五、三三三
商業	一〇、七〇二
交通	一、〇七七
公務自由業	四、二〇五
家事	五、四七六
他の産業	二一三
無業	六、四八八
計	八四三
二 拓殖學校	六三、三四九
三 樺太廳立	一、〇〇〇

拓殖學校は、昭和九年七月の設立にして、拓殖上の知識技能を修得する實習場であり、また一面においては拓殖人としての開拓精神を修養する道場でもあり、全生徒を寄宿舎に收容し、職員生徒協力の勤勞生活による鍛錬を第一義とするものである。修業年限は第一部二箇年、第二部一箇年で、樺太独自の亞寒帯農業經營の神髓を掴まんとするものである。

各種礦物資源

樺太の礦物資源を求むれば左の通りである。即ち石炭を主として、石油これにつき砂金、辰砂(砂鐵)、含銅硫化鐵、硫化鐵及びクロム(砂鐵)等が発見されてゐる。

數香古生層の探礦

我が國內探礦史上に残された最後のひとつとして非常な興味を注がれてゐる、樺太數香奥地の古生層に對しては北大理學部地質教室によつて科學のメスが下され、ムイカ川流域の金、銀、は吉林助教授が裏海岸の金、銀、クロム、鐵等は石川講師が派遣され第一回の調査を終つた。

昭和十三年のこの第一回の調査では、數香管内における古生層探檢に對する一大指針を確立し得たことが收獲であつて、是れに依つて領有三十餘年の秘庫はいよいよ我が國探礦界に華々しく登場する譯であるが、この古生層は妙くと

も五億年以上のものであつて、こゝこそ我が國內に残された唯一の金、銀、クロム、ニッケル、水銀、鐵等の一大秘庫としての期待が大きくかけられてゐる。

炭礦技術員養成所 樺太炭礦技術員養成所は、昭和十三年五月から樺太鐵業會の經營で豊原市に開設された。

目的 石炭礦業に従事する者に必要な知識及び技能を授くるをもつて目的とし、兼ねて徳性の涵養に努め、その主眼とするところは各礦山の坑内採掘作用第一線に参加する係員級の技術者を養成せんとするものである。

入所資格 中等學校卒業者若しくはこれと同等の資格を有すると認める者で、適當の期間礦山において實地の經驗を経た、その礦山から委託された者に限る。

設置場所 昭和十三年度は假校舍として公立豊原第一尋常高等小學校の一部を借用した、校長は樺太鐵業會理事長

がこれに當つてゐる。
△修業年限 一箇年で、前期と後期に分ち、前期は五月から九月まで學科の教授を行ひ、後期は十月から四月まで各自所屬の礦山において上司の監督の下に實習を行ひ、その實習終了したるときは更に養成所に歸つて卒業試験をなしたる上卒業する。

△收容人員 三十名乃至四十名の豫定である。昭和十三年度の收容人員は三十八名である。

△學科及び時間 學科目は修身及び公民科、探礦、地質、礦物、火藥及び發破、保安、電氣工學、土木工學、測量、鑛業法令、鑛業常識、分析、體育の十二科目で、教授時間数は毎週三十九時間、その延べ時間数は約七百八十時間となつてゐる。

乳牛の新記録

曩にホルスタイン種の乳牛島内最高記録を出した拓殖學校で十三年度には、甜菜地帯の土地改良用として、石灰十萬噸、硫酸アンモニア一萬八千噸、過燐酸石灰一萬八千噸の各種肥料を配給した。

堆肥増産週間

亞寒帯農業確立を標識として農事立島に邁進してゐる樺太では、消費節約の國策線に沿つて、銚後農村の強化と、堆肥二十萬貫増産を目標として、昭和十三年八月一日から一週間堆肥増産週間を設置したが、これに當り樺太廳農務課では農業民に對し左の要望を發表した。

昭和十三年度生産目標は前年生産された、千六百萬貫に更に四百萬貫を加へた二千萬貫である。全農家各位は此の増産目標を達成するため相共に勵まして一勢に草を刈り厩肥を集めて、割當數量の堆肥を増産するやう努力せられ度い、農産物は一大増産を圖らねばならぬ一方、從來まで使用して來た硫酸アンモニア、

は、昭和十三年八月二十日、遂にエアシャード種による島内最高記録を出し、また、今までの島内最高記録はミンニー・ウイロムニア系のリリー號の三七九〇〇であつたが今回の拓殖學校飼育大菊號の三八三〇〇(二斗一升二合七勺)に完全に破られたわけである、この記録牛大菊號は、中央試験所から昭和十一年拓殖學校に移されたもので、昭和十三年は十一歳、六月二十五日第七回目の分娩で牝犢を擧げ、その後五十四日目でこの好記録を上げたものである。

養狐改良試験

樺太廳中央試験所では、昭和十一年度において加奈陀種銀黒狐と在來種銀黒狐との交配二偶及び加奈陀種銀黒狐と千島紅狐との交配三偶の配合試験を行つた結果は各一代雜種の生産を見せたので、昭和十三年は更にこれらの雜種と加奈陀種銀黒狐或は雜種相互間の交配により、優秀種狐生産のため試験を進めた、昭和十三年年度中の交配試験内

- △加奈陀種銀黒狐—在來銀黒狐の配合
 - △一代雜種狐—相互の配合
 - △二代雜種狐—加奈陀種銀黒狐の配合
 - △一代雜種—加奈陀種銀黒狐の配合
 - △右配合各生産狐と銀黒狐と加奈陀種銀黒狐との配合
 - △農畜産の研究指導 農業立島を目差し、亞寒帯農業確立に當つて來た樺太廳の農畜産研究指導機關は左の通りである。
 - △樺太廳中央試験所(豊原郡豊北村小沼)
 - △樺太廳中央試験所農事支所(眞岡郡眞岡町宇遠泊)
 - △樺太廳中央試験所農事支所(名好郡惠須取町)
- なほ數香郡保惠には相當面積を選定、支所建設豫定地並に試験栽培地も決定し、昭和十四年の支所の實現を期待されてゐる。

模範農業の經營

甜菜地帯の改良

土地改良肥培に關し、樺太廳農務課では、積極的に亞寒帯農業確立に努めつつあるが、昭和

過燐酸石灰等輸入しつゝあつた金肥は國策上極力消費を節約せねばならぬ時である、即ち作物は増産すべし、されど金肥は極力節約すべしといふ時代である。

斯くの如き非常時を切りぬけるためには、自給肥料たる人糞尿或は堆肥の増産を圖るより外途がないのである、平時においてすら我が樺太の農業經營の根幹は有畜農業を建前として居り、家畜家禽より副産物として生産せらるゝ堆肥を利用して地方維持増進を圖り、もつて經營の合理化を期せんとしてゐるのである。

森林の蓄積量

本島の森林總蓄積量も昭和十二年度をもつて毎年實施し來つた基本調査も一段落を告げ、在來の推定的數字を脱却して確然たる蓄積量が判明するに至り、樺太廳の森林施業案も漸く軌道に乗せられたわけである。即ちトド、エゾ松は六億五千萬石、

ガイ松五千萬石、白樺その他雜木八千萬石の資源を有してゐるが、實際利用價值を保持する蓄積量はこの八割程度と見られてゐる、然して毎年樺太廳が處分する材積は約一千六、七百萬石で、大體の内譯は
王子製紙株式會社關係に一千七十萬石（島内王子七百八十萬石、人相百五十萬石、島外王子百四十萬石）土木建築用材百萬石、新炭材三百萬石、鑽木三百萬石
少年愛林團 全島九支廳出張所管内に少年愛林團八十九團、團員數一萬六百六十三名あり、山火防止協會支部において優良團員の表彰、團旗の制定の他諸事業を指導助成し、大人も及ばぬ活潑の行動に進み、その實績も團の強化擴大と共に著しきものがある。

練の食料品化

練の食料品化問題は、從來の如く樺太西海岸のみで二十萬石乃至三十萬石といふ漁獲を擧げ

て居る場合には、その漁撈方法或は乾場、勞力等の關係でこれを實現することは不可能な問題とされてゐたが近年（昭和十二年十萬四千五百五十四石、昭和十三年九萬四千四百六十二石）の如き漁獲高の減少と共に漸次平均した漁獲數量を示し、同時に製品が從來に比較出來ぬ高値を呼んでゐる實情に鑑み、樺太廳水産物検査所では、懸案である練の食料品化並に練生産利潤の島内還元を具體化する絶好の機会であるといふので、今後事ある毎に營業者に呼かけ、實現に邁進することになつたが、その具體的な方法としては、數ある營業者を説得して實現するのは至難であるから、先づ全島の有力な營業者即ち樺太定置漁業水産組合、各地水産會、西海岸有力定置漁場その他漁業組合有志に働きかけて、これを動かせしめることになつた。

春練の漁獲高

昭和十三年度春練總漁獲高は

東海岸	九、六三三	同一三
亞庭灣	五、三三三	二、四八五
西海岸	七、六六六	八、二九九
土人漁獲	三、六六六	三、三三三
計	九、九〇〇	八、九六二
定置	一〇、九六六	一三、四〇〇
專用	八、〇三三	六、八八八
土人	三、六六六	三、三三三
流網	一〇、三三三	九、〇〇〇
拾ひ練	九、五五五	四、七七七
これを通計すれば昭和十三年度總漁獲高は九萬四千四百六十石となる。		

化學工業助成

本島各種産業の化學的利用を

圖り、その發達を期せんとする目的の下に、昭和十三年春、樺太廳中央試驗所内に化學工業部が設置され、すでに部長外村博士、田村技師以下人的陣容を整備し、化學的新工業の完成に着手した、そのうち第九項目の化學工業に關する助成及び指導事業は、死蔵資源の活用上期待される重要問題である、本島賦存資源に對して進んで調査し、その利用開發の途を考究し、更に資源を死蔵してゐるものも少なくないため、これらの人々の依頼分析鑑定に應じ、相提携して資源の工業的利用の途を考究し、なほ民間に對してもこれら施設の一部の使用を許可し、その研究を達成せしめ、また工業部係員が出張して現地につき改良を加へ、官民協力、本島工業の振興をはかるといふにあり、この外研究事業項目も近代的なものばかりで、試験調査項目の主なものは左の通りである。

- 一 石炭資源に關する調査
- 二 海綠石の利用に關する試験
- 三 カゼインより可塑性物質製造に關する試験
- 四 甜菜バルブよりベクテン製造に關する試験
- 五 廢糖蜜より枸橼酸製造に關する研究
- 六 パルプ廢液の利用試験
- 七 魚類肝臓の利用研究、造血素成分の製造
- 八 海藻類による沃度マンニツト及アルギン酸の製出試験
- 九 化學工業に關する助成及び指導事業
- 一〇 釀造調査試験
- イ ツンドラ酒類に關する調査試験
- ロ 清酒主要成分並に製造法に關する調査
- ハ 馬鈴薯味噌の製造
- ニ 碗豆醬油の製造その他

に着手したものは、主要海産物である昆布、同じく特産物といはれる海綠石、乳牛よりカゼインの抽出、ピートバルブ等の本島資源の集約的工業化の研究である。また、本島資源の大宗である石炭液化事業の再研究にも乗出すべく、同所内に石炭液化試験工場を新設の計畫を樹て、十四年度に約五萬圓の豫算を要求して、埋れた樺太の資源に科學のメスを揮ふ同部の活動は、科學樺太の建設上重大役割を果すものとして、各方面から多大の期待をかけられてゐる。

樺太電氣協會第十八回定時總會は、昭和十三年七月九日より王子惠須取工場俱樂部に開會、會議に先だち勤績者表彰式を舉行、杉本會長より七十名に表彰状及び賞品を授與した。
△一級（勤績二十年）豊原王子職員菅原勝美、同工頭伊藤勇太郎、同加地兼吉、落合王子職工米谷市太郎、同工頭秋元

産業組合擴充
樺太産業組合聯合會では、昭和十三年六月十八日の組合法施行記念日を中心に一週間、組合強調週間を開催して、國民精神總動員の趣旨を昂揚し、銃後施設の完壁を期すると共に、第二次擴充三ヶ年計畫第一年度の事業を遂行に邁進した。期間は六月十五日から二十一日まで一週間
第一日（十五日）組合の國家的使命強調
第二日（十六日）組合員に對する産業組合強調
第三日（十七日）青年に對する産業組合強調
第四日（十八日）産業組合の内部組織強化

第五日(十九日) 婦人に對する産業組合強調
 第六日(二十日) 兒童に對する産業組合強調
 第七日(廿一日) 産業組合の地方的使命強調
 産業組合協會、組合並に支會の施設事項は左の通りである。

一 協會
 △産業組合第二次擴充運動強調ピラの發行
 △發送文書に對する本週間設定スタンプの押捺
 △新聞紙に對する本週間設定記事の掲載
 △産業組合及び家の光宣傳用幻燈畫板(スライド)の作製
 △家の光宣傳立看板の作製
 二 支會
 △前記強調ピラの配付
 △主要市街地活動常設館利用による前記畫板(スライド)の映寫
 △地元主要箇所前記立看板の設置
 △地元新聞紙に對する部内産業組合記事の掲載
 △組合未設置地域のこれが設立

促進運動
 △新設組合の活動促進、不振組合の更生刷新に關する座談會懇談會
 三 組合
 △前記強調ピラの配布
 △組合第二次擴充計畫宣傳ピラの作成並に揭示
 △家の光宣傳立看板の作製並に設置
 △組合報記念號の發行
 △役員一同の神社參拜
 △事變下の産業組合運動に關する座談會の開催
 △報國貯金、納稅貯金、共濟貯金、備荒貯金等の取扱開始
 △販賣品の共同出荷、購買品の共同購入に關する施設の強化
 △保健衛生、相互共濟施設の開始
 △應召者及び其の遺家族の慰問、慰靈並に援助
 △組合員家政相談部の設置
 △生活改善、廢物活用、家の光實用化展覽會、不用品交換會の開催
 △産業組合青年大會、同婦人大會の開催

△産業組合青年聯盟の結成、同婦人會の設立
 △産業組合教育部の設置
 △出張増口の獎勵新加入の募集
 △組合の經營方法改善に關する座談會の開催
 △學校模範産業組合の設立獎勵
 △兒童成績品の懸賞募集及び應募品の展覽會の開催
 △組合員及び家族運動會清遊會の開催
 △組合事業案内の作成配付
 △第二次擴充計畫の趣旨普及に關する講演會講話會の開催
 △記念日當日國旗及び組合旗の掲揚
 △貯金デー、販賣デー、購買デーその他組合事業絕對利用デーの開設
 △区域内産業及び經濟振興協議會の開催
 △その他本週間設定の目的達成上適切な事項

は相當不便を啣つてゐたが、昭和十三年六月十一日から樺太、小樽間の直通電話取扱が開始された。これで小樽からは東海岸の登帆を除いた外、全島四十五ヶ所へ電話出来ることになつた。これに應じて、大改正が行はれ、島内各地の電信電話取扱所と北海道主要都市との間に、自由に通話が出来ることになり、各主要局よりの通話は相當に追加され、豊原局より北海道への分は、
 入舸、野塚、發足、後志泊、五、神惠内、珊内、前田、磯谷、壽都、張碓、轟嶺山、昆布、蘭越、脇方、壯溪珠の各地であり、大泊、留多加、落合、敷香、知取、眞岡、本斗、野田、泊居、惠須取は大體において、
 古平、美國、余別、小澤、岩内、忍路、鹽谷、張碓、錢函、狩太
 等である。なほこれに依り特に通話出来ることになつた電話取扱所は左の通りである。
 札幌、小樽、札塔、雨龍、美保、

泥川、内砂、知志内
 稚内、函館、樺保
 札幌、小樽、保惠、氣屯、多來加、野頃、小泊、淺瀬、十和田、宗仁、自主、寶澤、上惠須取、西柵丹、沃内、安別
 函館—麻内
 稚内、旭川、札幌、小樽—豊南
 稚内、札幌、小樽—雄吹泊、白石、江の浦、伏子濱、北樺保、北遠古丹、東柵丹
 小樽、函館、札幌、稚内—佐知、明牛、多蘭泊、阿幸
 札幌、小樽—千輪、小田洲、散江
 稚内、札幌、小樽—江部、天内、諸津

せば左の通りである。
 大泊集中局
 大泊郡、長濱郡、富内郡、留多加郡、榮濱郡、元泊郡、敷香郡、散江郡の各局及び豊原郡の内小泊局
 豊原集中局
 豊原郡の内、川上炭山及び並川の各局
 泊居集中局
 久春内郡、鶴城郡、名好郡の各局及び泊居郡の内、大榮、名寄の各局
 眞岡集中局
 眞岡郡の内、逢坂及び二股の各局
 本斗集中局
 本斗郡、野田郡の各局、眞岡郡の内、蘭泊、廣地の各局及び泊居郡の内、追手局

中部信 一、五九四、五〇九
 料金總額 四三、七六二
 (昭和十二年申)
 北部遞送短縮
 奥地東西兩海岸を結ぶ大動脈たる内路—惠須取道路の完成によつて、昭和十三年七月二十日から廳管自動車運輸營業路線の南部横斷線に對して北部横斷線が運行された、これに伴つて奥地方面の郵便物遞送に變革が齎され、開通と同時に内惠線を利用し、バスによつて東西兩海岸郵便物の遞送を行つてゐるが、従來は東西兩海岸の相互間における郵便物は場所により三日を要し、北海道方面のものより遅れると云ふ場合もあり、相當不便であつたが、内惠バスの開通によつて、二日を要した敷香—惠須取間一日半に短縮され、内路、新門、泊岸及西海岸の鶴城以北の各地は、同じく一日半の短縮、落合以北(東海岸)各局よりの郵便物の西海岸北部行は一日の短縮となつてゐる、

又、豊原、眞岡方面の郵便物は變りはないが、以上の如く落合、珍内方面以北の相互郵便物はいづれも一日半乃至一日の短縮となり、奥地方面住民の受ける恩恵は至大なものがある、なほ東海岸は白浦、西海岸は珍内以北の相互郵便物も、この内惠線を直接に利用遞送することになつた。
 北部中央の峻嶺を越えて、東西兩海岸を結ぶ本島北部交通の重大使命をもつて生れた、廳管自動車運輸營業路線の北部横斷線は、昭和十三年七月二十日西海上惠須取、東海岸内路間八十三軒八分の全線開通した。
 上惠須取から内路驛間に十三の停留場が設けられてゐるが、各驛の料程及び上惠須取からの料金は左の通りである。
 上惠須取 料程 料金
 鷲ノ集 二・三 〇・一〇
 五三五

航空郵便利用

昭和十二年四月から札幌、東京間に航空路が開設されて郵便物の遞送も行ふ結果、樺太からの郵便物もこの航空路を利用することが出来、樺太廳では島外に達する航空郵便物の繰越事務を取扱はしむるため、集中局を設けたが、その受持區域を示

日和橋	二・一	〇・二〇
白樺	二・二	〇・二五
翠樹	六・九	〇・五〇
白雲峽口	一五・二	一・一〇
白雲峽	五・〇	一・三五
初姫	七・四	一・五五
股木澤	一五・〇	二・一〇
岡ノ澤	一六・〇	二・七〇
上内路	二・六	二・八〇
下内路	三・四	二・九五
内路澤町	三・七	三・〇五
内路驛前	〇・五	三・一〇
内路	一・五	三・一〇

樺太廳鐵道局では、一般旅客運賃の全面的引下げを断行、昭和十三年六月一日から實施した、値下げの範圍は、從來一キロ當二錢五厘であつたものを一割程度引下げ二錢二厘五毛とした、これにより全體の收入年額約八萬圓の開きが生じ、島民の負擔は軽減されるわけである。

防雪林の育成事業
樺太廳鐵道事務所では、例年の雪害に鑑み、樺太廳林務課と提携の下に、防雪林の育成事業として、昭和十三年度計畫は左の通りである。

△西海岸
泊居、杜門間三十七町歩
杜門、追手間十五町歩
泊居、苦蟲間五十町歩
久良志、小岬間四十町歩
△東海岸
小沼、富岡間四十三町歩
上川線二十一町歩

燈臺名	創立	光達距離
西能登呂岬	明治六	九・〇
宗馬島	大正三	同
海馬島	同	同
氣主岬	同	三・五
白浦	同	五・〇

的の下に鐵道旗を制定し、昭和十三年八月十二日、樺太神社において入魂式を行った。

十三年の貿易
大泊、眞岡兩港の昭和十三年一月から六月までの各月の貿易高を示せば左の通りである。

大泊港	貿易額	延數
一月	輸出	二、五二
二月	輸出	一、六六
三月	輸出	一、四三
四月	輸出	一、五七
五月	輸出	一、九六
六月	輸出	四、九二
計	輸出	一〇、〇三
眞岡港	貿易額	延數
一月	輸出	一、七三
二月	輸出	一、五二
三月	輸出	一、三〇
四月	輸出	一、五七
五月	輸出	一、七二
六月	輸出	一、九六
計	輸出	一〇、二九

旅客運賃引下

貿易品と仕向地

六月輸出	一七	一
六月輸入	一七、六四	四、四四
計	輸入	四、四四

貿易品と仕向地 (十年)

大泊港	輸出	三、七〇
海鼠	輸出	三、五七
關東州	輸出	三、〇九
其他	輸出	二、四三
其他諸品	輸出	七、二六
關東州	輸入	七、四九
其他	輸入	七、五四
其他諸品	輸入	六、八〇
眞岡港	輸出	九、七四
其他	輸出	六、四三
眞岡港	輸入	六、四三
其他	輸入	六、四三
其他諸品	輸入	六、四三

貿易品と仕向地 (十二年)

大泊港	輸出	一、九二
海鼠	輸出	一、九二
關東州	輸出	一、九二
其他	輸出	一、九二
其他諸品	輸出	一、九二
關東州	輸入	一、九二
其他	輸入	一、九二
其他諸品	輸入	一、九二
眞岡港	輸出	一、九二
其他	輸出	一、九二
眞岡港	輸入	一、九二
其他	輸入	一、九二
其他諸品	輸入	一、九二

十三年貿易船

大泊、眞岡兩貿易港の昭和十三年一月から六月までの出入港貿易船は、大泊港においては一月、二月、三月、五月は一隻もなく四月には入港汽船一隻純噸數二千九百五十三噸で出港なく、六月は入港汽船一隻一千九百七十五噸である。

眞岡港においては、大泊港と同様一月、二月、三月、五月には一隻もなく、四月には入港汽船一隻二千九百五十三噸で同船の出港となり、六月には帆船入港一隻四十四噸で同船の出港となつてゐる。

累年貿易船舶

大泊、眞岡兩港昭和十年以降の外國貿易船舶出入を示せば左の通りである。

惠須取商工會議所
昭和十三年五月七日樺太廳告示で、惠須取町に商工會議所の設立が認可された。

雜貨配給系統

本島における食料雜貨の需要は、人口の漸増と相俟つて逐年増加の傾向にあるが、これが供給は、近年島内における是等製造業の發展をみてゐるとは雖も、未だその需要の全部を満たすには遠く及ばず、殆ど大半のものは内地製造のものよつて充

足してゐる現状である。従つて本島、内地間の海路網の發展せざる過去においては、殆ど小樽港中継によつて配給をうけてゐたものであり、本島需要の食料雑貨の供給は、事實上小樽商人の手に收められてゐたものであつたが、近時、本島において開發されつゝある各種鑛業の發達に伴ひ、これが輸送を主とせる本島、内地間の直通航路の開設により、従來までの小樽商人の本島に對する食料雑貨の配給權も、漸次本島商人の手に移されんとしてゐる。

即ち、現在においては石炭及びその他貨物積送り船の歸途の空腹を利用し、比較的割安な運賃をもつて内地より直接購入をなしてゐる有様で、この中、最も直接仕入れの多いものは罐詰類などである、造材炭山向送り込み食料雜貨も、本島における需要の重要な分野をなしてゐるが、これ等は直接經營主の手によつて配給され、一般商人の直接進出を許さぬ状態にあり、右

經營主の仕入れは概ね小樽において行はれるため、本島商人の直接介入は不可能とされてゐるが、今後において、前記の如き内地との直通航路の開始増加によつて、ますますこれを利用する本島商人の増加を豫想されるところである。

本島に對する主要食料雜貨の配給状態について概見するに、左の如く、既に小樽の配給權は内地直移入によつて相當の影響をうけてゐることが窺はれる。

△味噌 本島における醸造はみるべきものなく、殆ど内地物に俟つてゐるが、従來までは全部小樽港中継によつてゐたものであるが、現在では往時の八割弱と減少し、二割は内地直接仕入れである
△醬油 味噌と同様殆ど内地物であるが、これも内地直取引は本島全需要の二、三割方に増加し、小樽の配給權はそれだけ蠶食されてゐるわけである
△罐詰類 大阪、神戸方面より直移入多く、最近殊に増加

朝鮮米數量 三九〇石
價額 七八六円
(昭和十二年中)

精米重量取引

精米の重量取引は漸次普及徹底し、全国的に統一せられつつあるが、その取引の簡易化、包装費の節約、荷扱料の低減等、業者を益すること少くないが、樺太のみは未だこれを實施せず、精米供給地東北、北陸、北海道は何れも輸送上の不便不利を感じ、これが統一は刻下の急務とし、昭和十三年七月二十三日旭川市に開催された東北、北陸、北海道産米消流懇談會の決議に基き、井上旭川市長が代表者となり同年八月二十三日左の如き陳情書を樺太廳長官に提出した現在樺太において移入せらるる精米四斗又は五十七キロは、爾今、重量單一制に改め、六十キロ又は三十斗にあらざれば移入することを禁止する旨、速かに御廳廳令を御發布

米の移入數量

Table with 2 columns: 總數量, 價額. Data for 内地米數量 and 内地米數量.

(家庭藥その他)である。

銀行預金貸出

昭和十三年六月末現在における預金及び貸出を見るに、預金高は二千九百三十四萬三千圓にして、十二年末に比すると五百六萬一千圓、貸出高一千七百三萬一千圓にして、十九萬六千圓と、それぞれ増加を示し、總じて各預金の漸増傾向は消費節約に伴ふ貯蓄の現はれと見られる。

簡易保險好況

樺太における簡易保險昭和十二年度の成績は、人口千人に對する比率は三七九人七で全國平均三六〇人よりはるかに好成績である、これを市町村別に見ると件數においては豊原が最上位を占め、人口比率では大泊が最高である。
なほ十二年度は十一年度に比して九千四百八十一件、總金額は二千四百八十一萬六千七百七

月掛貯金制度

昭和十三年五月一日より、月掛貯金制度が實施され五月、六月の二ヶ月間に左の成績を得た
新規人員 六、三〇〇人
金額 二五、四〇〇圓

貯金と一人當

昭和十三年六月末現在における郵便貯金は左の通りである。
人員 三三〇、四三〇人
金額 一三、六四〇、〇七〇円

一人當金額

尙、六月中の成績を左に示す。
△預入
新規人員 一〇、二三〇人
口數 六、六〇五
金額 一、三七六、四六六円
△拂戻
全拂人員 四、〇三三
口數 三三、〇七五
金額 一、一三四、〇八八円
貯蓄報國強調週間
五三九

煙草の賣渡高

樺太における、昭和十二年度の煙草の賣渡高は、口付六千三百六十七萬三千本、價額四十四萬八千七百三圓、兩切二億三千九百七十七萬八千本、價額百七十六萬二千二百五圓、刻十五萬一千三百四十八疋、四十七萬四千五百九十二圓、その他九萬二

昭和十三年六月二十一日から
實施した貯蓄報國強調週間に際
して樺太總動員中央委員では、
一日々々を強示する意味で標語
を選定、左の通り發表した。

- △第一日 貯蓄心涵養の日
- △第二日 無駄除の日
- △第三日 愛國貯金勵行の日
- △第四日 廢品利用の日
- △第五日 收支確立の日
- △第六日 勤儉力行の日
- △第七日 非常時經濟への協力の日

誰にも出来る貯蓄報國
○貯金の増加が目立つ 昭和十
三年三月末現在の郵便貯金總額
は一千二百七十四萬四千九百
預け入人員二十萬六千六百三十
三人であつたのが、その後四半
期を經過した六月末現在では總
額一千三百六十四萬五千八十七
圓、人員二十二萬四千二百二人であ

つて、金額で約九十萬圓、人員
一萬三千四百人の激増を示して
る、昭和十二年度一ヶ年の貯
金増加額は百五十萬圓であつた

團體貯金増加

國民精神總動員、勤儉貯蓄の
強調等によつて貯蓄の純増加高
が大となり、昭和十三年六月末
現在における、貯金團體の状況
は左の通りである。

團體預入人員	六、四八八
團體數	六九
平均一團	一〇三

物品價格取締

樺太廳においては商工省の物
資動員計畫の遂行に對應すべ
く、昭和十三年八月六日廳令を
もつて物品販賣價格取締規則を
公布した。

年月日に於ける販賣價格を、
樺太廳長官が販賣價格を指定
したるときは其の販賣價格を
超ゆる對價を以て當該物品を
販賣（指定前に爲したる契約
に依る引渡を含む）すること
を得ず但し輸出する場合及び
むを得ざる事由に依り樺太廳
長官の許可を受けたる場合は
此の限に在らず

五四〇
屬品、ベルト及ホース 昭和
十三年八月四日
二 皮革製品 昭和十三年八月
四日
三 麻製品 昭和十三年八月四
日
四 ゴム製品 昭和十三年八月
四日
○検査局の物價取締 樺太地方
裁判所検査局では、經濟判檢事
設置に就いて協議中であつた
が、昭和十三年七月思想係の中
島檢事が兼任した、これに依つ
て樺太でも重要物資の調整、物
價抑制等の取締を強化すること
になつた。

司法保護事業

町榮町西二條二丁目木下旅館方
小寺常三郎氏（四十五歳）は昭和
十三年度における五名の表彰者
の一人に選ばれ表彰状並びに記
念品が授與された。

健康週間の實施

樺太廳では昭和十三年五月十
七日より廿三日まで一週間、第
三回國民精神總動員健康週間を
實施したが、要領は左の通りで
ある。

- △第一日 十七日（火曜）心身鍛
鍊の日 健康祈願祭を行ふ、
各種體育會武道會を舉行、戸
外運動又は體操を實行
- △第二日 十八日（水曜）消化器
傳染病豫防の日 豫防注射、
内服ワクチン服用を實行し、
飲食物に注意、蠅の撲滅に努
む
- △第三日 十九日（木曜）花柳病
豫防の日 花柳病豫防の知識
向上に努む、治療の徹底を期
す、正しき治療を行ふ
- △第四日 二十日（金曜）結核豫
防の日 日光消毒を勵行、植
樹の勵行等により外氣生活に
努む、喀痰投棄習慣を矯正す、
貸家消毒を勵行、健康相談所
を活用す
- △第五日 廿一日（土曜）環境衛
生改善及榮養改善の日 衣服
寢具の清掃及び日光消毒を勵
行す、住居の整頓、清掃、探
光、換氣、消毒に努む、井戸、
下水、溝、流し場肥料溜清掃
及び改善に努む、道路の清掃
に努む、燕麥、胚芽米の食用
に努む、食品榮養に關する知
識の向上に努む
- △第六日 廿二日（日曜）母性、健
乳幼児の保健の日 母性の健

結核死亡率高し

昭和十二年度の結核死亡者は
八百七十五名で、總死亡數の一
割五分三厘に當り、死亡者百人
中十五人強の結核死亡者を出し
て居り、全國の結核死亡率は、
人口一萬人に對し一九・〇であ
るが、樺太は二六・七六と約八
人からの高率を示し、特に呼吸
器系結核の過大が目立つてゐ
る、各支廳、出張所別に死亡狀
態をみると、

全島	結核死	人口一萬
	數	對する
	八七五	二六・七六

豊原市 一〇〇 二五九
 豊原市 七〇 二五七
 大泊 三三 二五七
 留多加 七〇 二五〇
 本斗 三三 二五〇
 眞岡 二二 二五〇
 泊居 四〇 二五〇
 鶴城 九〇 二五〇
 元泊 三三 二五〇
 敷香 九〇 二五〇
 市町村別に見ると内路村六八・七三が最高で帆寄村四九・六〇・千歳村四八・五一、内幌村三九・八四、落合町三五・六五、豊原市三四・七九、大泊町三二・九六、知取町三一・八二、元泊村三〇・五八、深海村三〇・二四の順序である。

傳染病の發生數

樺太廳衛生課調査の昭和十三年一月以降五月十五日現在全島傳染病發生數は左の通りである(警察署別)
 △豊原 五七△落合 二二△元泊 四△知取 二四△大泊 一七△留多加 一△眞岡 二六△野田 八△本斗 七△泊

○防火戦線勇士表彰 永年警防の第一線に身をさらして市民を火魔の跳梁から防衛した防火戦線の勇士八十五名に對し豊原市では昭和十三年六月二十四日、表彰状並に感謝狀を贈呈した。

土人保護事業

本島に居住するアイヌ等、六種族土人の生活保護にあつては、樺太廳土人保護事業の昭和十三年度歳入出豫算額は、同年五月七日決定した、それによると、總額一萬四千八百二十九圓で、前年度に比し一千三百十八圓の増額といふ弾力性に富む豫算が編成された。
 歳出にあつては可及的節約を圖り、土人生活の實情に鑑み、生業發達自給自足の徹底を期するため、前年度同様、農作物の種子配給、農具の貸付をなしたる外、漁業に對する積極的助長に要する經費を増額し、更に衛生方面にあつては、特に意を注ぎ、なほ一層その成績を擧げんことを期してゐる。

居 一九△惠須取 二一△敷香 二一△合計 二二七
 △病名別 赤痢六、腸チフス二九、バラチフス二、猩紅熱四〇、デフテリア一四六、腦脊髄膜炎四

○活動寫眞に制限 眼の保健、更に大局的には國民體位向上の趣旨から内務省では、昭和十三年二月一日から活動寫眞興行時間の短縮、フィルムの長さに制限を加へたが、樺太廳においても同年五月これに順應し、樺太の特殊情勢を考慮して、活動寫眞常設館において活動寫眞を上映する場面に限り、その閉場時刻を午後十時三十分と決し、樺太廳保安課では劇場の衛生設備、防火設備等についても指示を發した。

○敷香警察署の充實 八百五方里と云ふ廣汎なる所轄區域、二十數里に亘る陸の國境線警備の重任、加ふるに交通々信施設に恵まれること極めて薄く特殊環境下に在る敷香警察署では、多年の念願が叶つて昭和十三年六月二十日、一擧十名の増員配置

その内容は、勸業費を前年度より五百九圓増額の四千五百四十圓とし、うち種子費七百六十圓、農具費五百圓、家畜禽費百八十圓、農耕獎勵費四百五十圓の助成にあたり、更に漁具漁船費に一躍一千四百九十四圓増額の二千圓計上されてゐる。
 全島一の土人模範部落といはれてゐる泊居管内智來部落において竹細工講習會を開催せしめる外、その他の事業に副業獎勵費として七十圓増額の百五十圓が計上されてゐる。

オタス土人の作業 獵漁生活から勤勞生活へと生活基調の轉回を實行せしめられたオタスの土人三十餘名は、昭和十三年春から初間に於ける農務課直營の集團移民收容豫定地の開墾作業に従事してゐるが、その成績は頗る良好で日給二圓の土人は三圓の和人よりも能率が良い、安い勞銀に甘んじて眞面目に働く土人を使用することが有利であるので、同年七月十六日敷香支廳に對し更に二十名の増員を求めた。

を見たが、その陣容は左の通りである。

巡查百八名、署長以下の定員百十二名、一警部補派出所六、巡查部長派出所、十三巡查駐在所、二巡查派出所

○豊原消防組を表彰 明治三十九年四月創設以來三十三年間、豊原市の警防に力を盡した豊原消防組は、昭和十三年三月三十一日、大日本消防協會より、光榮ある表彰旗を授與された。

山火發生件數

年度	四月	五月	六月	計
一〇 山有地野	二	三	一	六
一一 山有地野	一	三	一	五
一二 山有地野	二	二	一	五
一三 山有地野	一	一	三	五
計	四	五	三	一二

諸津方面の山火

昭和十三年六月十八日諸津に

發火し、五日間に亘つて燃え續け二十二日に漸く鎮火した諸津、北小澤、名好方面の山火は、燒失面積一千六百町歩を超え、立木、伐採跡地の天然更新國有林、丸太、民家、養狐及び養狐舎の燒失で總被害高百萬圓といはれ、伐採跡地は全島唯一の天然更新優良の地帯で、稚樹の被害は莫大なものであつた。

名寄方面の山火

昭和十三年七月二十七日から十三日間に亘つて燃え續けた樺太西海岸泊居、名寄、久春内方面の山火總被害高は百萬圓と見積られた。
 即ち總燒失面積二萬五千町歩のうち造林地一千町歩(一町歩の被害約百圓)で被害額十萬圓、天然更新林地一萬町歩(二町歩の被害額約八十圓)で被害額八十萬圓、更に立木の燒損面積六十萬石に對する歩止り低下一割(單價一石一圓、五十錢として)とみて九萬圓、その他消火出動人件費及び通信交通等である。

創業明治二十四年

常に良い酒



カムキツル

小樽市奥澤町
 白方酒造本店
 販賣部 小樽・札幌・旭川・積丹

體育

體育向上施設

樺太廳では厚生省の方針に準じ、次の如き方法によつて島民の健全發達たる肉體の養成に邁進する事になつた。

- 一 ラヂオ體操の普及、毎日午前六時から學校、會社、工場、鑛山、商店その他ラヂオのある一切の箇所を動員してこれを實施、特に各市町村小學校校庭を利用して集中的にラヂオ體操の普及に努む
- 二 徒歩の獎勵、自動車利用の節約を圖り登山、長距離行軍等學生青年團を主體に獎勵する
- 三 集團的勤勞作業の獎勵、學校、青年團が主體となり學生徒には休暇中三日乃至五日間自由な立場で勤勞作業を實施させ、青年團には應召將兵の遺家族に對する勞力の援

助並に各地運動場、公園、道路の改善等を実施させる

- 四 武道の獎勵、樺太廳では昭和十三年から各青年團に劍道獎勵のため劍道具を配給したがこれを利用して夏季中各青年團に土用稽古を獎勵し、八月二十四日の全島青年團武道大會に出場せしむ
- 五 水泳の獎勵、大泊、眞岡その他の海濱に水泳協會を設置させ小學校生徒その他一般の指導に當らしめる

全日本スキー大會

樺太地方豫選記録
全日本並びに明治神宮スキー大會の樺太地方豫選大會は昭和十三年一月十一日から六日間、豊原市郊外の旭ヶ岡スキー場において舉行されたが記録は左の通りである。

- 1 四十軒纜走(第一日)
 - △豐聯A組 二時間二十八分三六秒(伊藤弘、向井喜雄、蛸子千富、桑原富男)
 - △豐聯B組 二時間三十五分二十四秒(小野寺實、三輪徹夫、小笠原與一、佐々木清)

- 3 豐聯B組 二時間三十七分四十八秒(佐藤忠義、北村勇吉、伊藤芳男、遠藤恭治)
 - △滑降競技(第二日)
 - △男子部(兼新複合は〇印)
 - 1 伊藤弘(豐聯)二分五十八秒二(新記録)
 - 2 西川巖(眞中)三分八秒三
 - 3 佐々木清(豐聯)三分十八秒二
 - 4 平賀末藏(川上)三分二十二秒二
 - 5 小笠原勇(同)三分二十六秒六
 - △女子部
 - 1 沼田光子(大泊高女)一分二十一秒二
 - 2 佐々木清(同)一分二十三秒二
 - 3 田村靜子(豐原高女)一分三十三秒八
 - 4 志和靜子(大女)一分三十三秒八
 - 5 神初枝(豐女)一分三十四秒二
 - △耐久五十軒(第三日)
 - 1 桑原富男(豐聯)三時間三十二分二十秒
 - 2 蛸子千富(同)三時間三十九分十五秒
 - 3 佐藤留男(同)三時間四十二分四分
 - 4 遠藤恭治(同)三時間四十二分四分
 - 5 佐藤忠義(同)三時間四十四分八秒
 - △廻轉競技(第四日)
 - △男子廻轉
 - 1 久留島敏明(應鐵)四分五〇秒
 - 2 森初男(眞中)四分四〇秒
 - 3 金谷正夫(泊中)四分五十五秒九
 - 4 遠藤壽一(シユネ)四分五十五秒四
 - 5 菅谷彰(泊中)四分五十五秒〇
 - 6 能村吉雄(眞中)四分四十八秒九
 - 7 山崎秀夫(眞中)四分四十八秒九
 - 8 伊藤博明(眞中)四分四十八秒九
 - 9 伊藤博明(眞中)四分四十八秒九
 - 10 伊藤博明(眞中)四分四十八秒九
 - △最長不倒 四一五〇
 - △成年複合結果
 - 1 佐々木 清(豐聯)四分三六秒
 - 2 鈴木 政敏(泊居)四分三〇秒
 - 3 最上 忠一(眞中)四分三〇秒
 - 4 佐藤 利司(應鐵)四分三〇秒
 - 5 武田 英夫(内幌)四分三〇秒

- 1 遠藤恭治(豐聯)一分四十六秒八
- 2 西川巖(眞中)一分五十一秒三
- 3 波岡利(豐中)一分五十三秒六
- 4 菅谷彰(泊中)一分五十四秒八
- 5 岡田武保(豐中)一分五十七秒七(片足反則)

- △女子廻轉
 - 1 安達留衛(豐女)一分十九秒
 - 2 志和靜子(大女)一分二十二秒
 - 3 田村靜子(豐女)一分二十二秒六
 - 4 石井良子(同)一分三十二秒五
 - 5 堀フミ(同)一分三十四秒四
- △男子新複合採點結果
 - 1 西川 巖(眞中) 九五點五
 - 2 遠藤恭治(豐聯) 九二點
 - 3 佐々木清(同) 八九點三
 - 4 平賀末藏(川上) 八七點七
 - 5 小笠原勇(同) 八六點八
 - 6 北村勇吉(豐聯) 八四點七
 - 7 波岡利(豐中) 八三點五
 - 8 鈴木政敏(泊居) 八二點六
 - 9 岡崎秀雄(眞中) 八一點五
 - 10 尾崎武輝(同) 八〇點七

△女子新複合採點結果

- 1 志和靜子(大女) 九一・八〇
 - 2 田村靜子(豐女) 九一・二五
 - 3 沼田光子(大女) 八六・五三
 - 4 安達留衛(豐女) 八四・九一
 - 5 石井良子(同) 九〇・五三
 - 6 神 初枝(同) 八五・五三
 - 7 堀 フミ(同) 八三・六六
 - 8 福士京子(大女) 九〇・四〇
 - 9 堂前富美(同) 八四・〇三
 - 10 西山スエ(同) 八〇・三三
- △長距離十八軒(第五日)
- △成年長距離
- 1 佐藤忠義(豐聯) 一時間二五分一七秒
 - 2 蛸子千富(同) 一時間二八分二五秒
 - 3 遠藤恭治(同) 一時間二九分三秒
 - 4 桑原富男(同) 一時間三二分三秒
 - 5 小野寺富(同) 一時間三二分三秒
 - 6 雲田勇(眞中) 一時間三二分三秒
 - 7 佐藤留男(豐聯) 一時間三二分三秒
 - 8 佐々木清(同) 一時間三二分三秒
 - 9 今西正通(應鐵) 一時間三二分三秒
 - 10 北村勇吉(豐聯) 一時間三二分三秒
- △少年長距離

- 1 伊藤弘(豐聯) 一時間二六分三七秒
 - 2 小笠原與一(同) 一時間二七分一五秒
 - 3 向井喜雄(同) 一時間二八分四九秒
 - 4 須賀隆夫(同) 一時間三一分二八秒
 - 5 岩田實(豐中) 一時間三二分五八秒
 - 6 佐藤重利(應鐵) 一時間三二分五八秒
 - 7 花房幸助(眞中) 一時間三十三分
 - 8 岡崎秀雄(眞中) 一時間三十三分
 - 9 三輪徹夫(豐聯) 一時間三十三分
 - 10 生駒實(同) 一時間三十三分
- △成年複合距離成績
- 1 遠藤 恭治(豐聯) 二四〇點〇
 - 2 佐々木 清(同) 二三六・〇
 - 3 鈴木 政敏(泊居) 二三〇・〇
 - 4 佐藤 利司(應鐵) 二一六・〇
 - 5 最上 忠一(眞中) 二一五・〇
- △少年複合距離成績
- 1 金谷 正夫(泊中) 二四〇・〇
 - 2 荒谷 四郎(豐聯) 二二九・五
 - 3 志和 勝美(泊中) 二二八・〇
 - 4 仲谷長之助(川上) 二二六・五
 - 5 千葉 小六(泊中) 二二九・〇
- △飛躍(第六日)
- △少年飛躍
- 1 久留島敏明(應鐵) 二二一點八
 - 2 三九米五〇、四一五米五〇
 - 3 堀江勇(眞中) 二二二點三
 - 4 四〇米、四〇米、三仲谷長之助(川上) 四二七・七

- 1 久留島敏明(應鐵) 二二一點八
- 2 三九米五〇、四一五米五〇
- 3 堀江勇(眞中) 二二二點三
- 4 四〇米、四〇米、三仲谷長之助(川上) 四二七・七

- 助(川上) 二〇九點(三九米五〇、四〇米)
 - 4 森初男(眞中) 一九五點二(三八米、三七米)
 - 5 金谷正夫(泊中) 一九五點九
 - 6 遠藤壽一(シユネ) 一八五點四(三六米、三六米五〇)
 - 7 菅谷彰(泊中) 一八五點〇(能村吉雄)
 - 8 能村吉雄(眞中) 一八四點八(山崎秀夫)
 - 9 山崎秀夫(眞中) 一八四點三(伊藤博明)
 - 10 伊藤博明(眞中) 一八四點二
- △最長不倒 四一五〇
- △成年複合結果
- 1 佐藤利司(應鐵) 二〇九點五
 - 2 鈴木政敏(泊居) 一九〇點一(三七米、三七米)
 - 3 最上忠一(眞中) 一八五點七(三四米五〇、三六米五〇)
 - 4 工藤定勝(川上) 一六六點一(三二米五〇、二九米)
- △最長不倒 四十二米五〇
- △少年複合結果
- 1 金谷 正夫(泊中) 四〇〇點五
 - 2 志和 勝美(同) 四三三・二
 - 3 仲谷長之助(川上) 四二七・七

第十六回全日本スキー選手權大會は、昭和十三年二月八日から六日間に亘つて札幌市郊外の手稲、三角山、大倉山、綜合競技場を中心として舉行され、樺太選手は全國の強豪を卻けて榮冠を獲得した記録は左の通り。

△繼走

- 1 豊原聯盟(佐藤忠、伊藤、遠藤、桑原) 三時間三十七分十四秒
- 3 鈴木政敏(樺太泊居) 五十分二十秒八

△耐久競技

- 2 桑原富男(豊原聯盟) 四時間十八分三秒
- 6 佐藤留雄(豊原聯盟) 四時間三四分二〇秒

△長距離競技
成年組結果

- 1 桑原富男(豊聯)一時間三〇分二一秒
- 2 佐藤忠義(豊聯)一時間三〇分四〇秒
- 5 蛭子千富(豊聯)一時間三二分五六秒

少年組結果

- 1 伊藤弘(豊聯)一時間三二分一七秒
- 5 小笠原與一(豊聯)一時間三六分五一秒

△複合飛躍競技
少年組結果

- 1 久留島敏明(棒太廳鐵)二三點五

明治神宮スキー大會
第九回明治神宮スキー大會に出場し、全國雪の精鋭を圧倒し、得點四十五點で首位を占めた。成績は左の通りである。

- 優勝 棒太
- 一時間五七分一八秒(佐藤、伊藤、蛭子、桑原)
- △長距離 桑原富男(豊聯)一時間

豊原軍 3-1-2 大泊軍

- 本斗軍 2-1-3 豊北軍
- 豊原軍 4-1-1 本斗軍
- 豊北軍 1-1-4 大泊軍
- 1 豊原三勝 2 大泊二勝一敗
- 3 豊北一勝二敗 4 本斗三敗
- △一般選手権

- 準々決勝 田中、遊佐 4-1-0 土屋、脇坂
- 齋藤、寺澤 4-1-0 松平、横澤
- 松尾、設楽 4-1-2 逸見、石塚
- 樋口、奥山 4-1-1 濱村、桂
- 準決勝 齋藤、寺澤 4-1-3 田中、遊佐
- 樋口、奥山 4-1-1 松尾、設楽
- 決勝 樋口(豊聯) 4-1-2 齋藤(遷信)
- 奥山(豊聯) 4-1-2 寺澤(遷信)
- △中等男子
- 準々決勝 石關、石野 4-1-0 間所、吉田
- 東海林九鬼 4-1-2 瀧田、横山
- 小林、工藤 4-1-1 柴田、鈴木
- 鶴飼、黒田 4-1-0 甲斐、佐藤
- 準決勝 石關、石野 4-1-3 東海林九鬼
- 鶴飼、黒田 4-1-1 小林、工藤
- 決勝 勝

二一分一七秒 2 佐藤忠義(同)

- 一時間二二分四〇秒 3 伊藤弘(同)
- 一時間二三分一八秒 4 蛭子千富(同)
- △女子廻轉競技
- 4 田村静子(豊女)
- △複合競技
- 2 金谷正夫(大泊中學)
- △純飛躍
- 優勝 佐藤利司(棒太廳鐵)五十三米
- 3 堀江勇(眞岡中學) 4
- 金谷正夫(大泊中學)
- スケート大會
- 第六回東海岸スケート選手権大會は昭和十三年二月十三日幌内リンクで開催された、記録は左の通りである。
- △複合選手権 櫛野孫一(青年)
- △學校對抗千米リレー(尋女)
- 第三校(小島、鶴木、田森、富山) 三分二十二秒二
- △同(尋男)
- 第三校(和田、岸、橋本、田森) 二分三四秒四
- △千五百米スピード(高二)
- 1 坂本進(四分十秒)
- △青年五百米スピード
- 1 谷川源一(十三分) 2 岩崎與

作3 櫛野孫一

- △千五百米スピード
- 1 櫛野孫一(三分二七秒二) 2
- 岩崎與作(三分三二秒四) 3
- 浦
- △五百米スピード
- 1 櫛野孫一(一分六秒) 2 小町
- 松太郎(一分七秒) 3 谷川源一
- △一萬米スピード
- 1 谷川源一(二四分三七秒)
- 2 櫛野孫一(二四分三九秒三)
- 3 岩崎與作

第二回全島綜合體育大會

絢爛棒太體育シーズンを彩る第二回全島體育大會は昭和十三年八月二十一日から五日にわたる豊原市に開催された、日程は左の通りである。

- △二十一日
- 都市對抗庭球 棒太廳コート
- 庭球選手権 棒太廳コート
- 同中等部男子 市役所コート
- 同中等部女子 豊榮支廳コート
- 都市對抗軟式野球 公園野球場
- 弓道選手権 豊原二校
- 排球選手権 豊女校コート

△二十二日

- 全島庭球選手権大會は八月二十一日棒太廳コート、豊原市役所コートにおいて開催された、都市對抗大會は豊原軍三戦三勝して再制覇し、一般選手権は第一回大會決勝で惜敗した豊聯の樋口、奥山組に榮冠輝き、中等選手権の男子は豊原中學鶴飼、黒田組、女子は豊原高女小笠原石井組それぞれ優勝した。
- △都市對抗
- 豊北軍 0-1-5 豊原軍
- 本斗軍 1-1-4 大泊軍

留多加	0	0	0	0	0	2	0	0	0
豊原	8	3	0	5	1	1	0	1	A
大泊	0	0	0	0	0	0	0	0	1
全本斗	0	0	0	4	4	0	0	0	1
全眞岡	0	0	0	1	0	0	0	0	0
全知取	0	0	0	0	0	0	0	0	2
準決勝	0	0	1	0	0	0	0	0	0
豊原	0	0	1	0	0	0	0	0	0
全本斗	4	0	0	0	1	0	0	1	A
全内幌	0	0	0	0	0	0	0	0	0
全知取	0	0	3	0	0	0	0	2	0
決勝	0	0	0	0	0	0	0	0	2
全知取	0	0	0	0	0	0	0	0	2
全本斗	0	0	3	0	0	0	0	0	A
知取	2	2	1	7	2	2	3	2	2
打點	2	2	1	7	2	2	3	2	2
安打	3	3	0	3	5	2	6	2	2
盗塁	3	3	0	3	5	2	6	2	2
失策	3	3	0	3	5	2	6	2	2
全取	2	3	3	0	3	5	2	6	2
和谷	3	3	0	3	5	2	6	2	2
藤	3	3	0	3	5	2	6	2	2
佐藤	3	3	0	3	5	2	6	2	2
右二	3	3	0	3	5	2	6	2	2
川	3	3	0	3	5	2	6	2	2
田	3	3	0	3	5	2	6	2	2
石	3	3	0	3	5	2	6	2	2
遊捕	3	3	0	3	5	2	6	2	2
全本斗	3	3	0	3	5	2	6	2	2

△二十三日

- 籠球選手権女子部豊女校コート
- 同 男子部豊女校コート
- 都市對抗軟式野球 公園野球場
- △二十四日
- 都市對抗野球決勝 公園野球場
- 陸上競技 公園競技場
- 青年團武道 豊原中學校
- △二十五日
- 陸上競技 公園競技場
- 相撲青年團小學校 公園相撲場
- 修了式 公園競技場
- 全島庭球大會
- 全島庭球選手権大會は八月二十一日棒太廳コート、豊原市役所コートにおいて開催された、都市對抗大會は豊原軍三戦三勝して再制覇し、一般選手権は第一回大會決勝で惜敗した豊聯の樋口、奥山組に榮冠輝き、中等選手権の男子は豊原中學鶴飼、黒田組、女子は豊原高女小笠原石井組それぞれ優勝した。
- △都市對抗
- 豊北軍 0-1-5 豊原軍
- 本斗軍 1-1-4 大泊軍

なほ、大會三日間を通じて最も優秀なる選手として左の二君が打撃並に殊勳賞を授與された

- △殊勳賞 柳投手(全知取)
- △打擊賞 大久保中堅手(ソネ) 四割

弓道選手権大會
棒太弓道聯盟主催第六回全島弓道大會は八月二十一日、豊原第二小學校講堂において舉行した、一般は廳鐵イ組、中等學校は豊原中學に凱歌が揚つた、成績は左の通りである。

- △一般團體の部
- 1 十六中 廳鐵イ組
- (堺義一、小關正、山下春吉)
- 2 十六中 研究会口組
- (飯田吉次郎、高木安、石澤仁)
- 3 十五中 豊女教員組
- (林獅子三、栗山貞文、古屋碧)
- △一般個人の部
- 1 七中 大橋 信穂(刑務所)
- 同 山名 忠典(白浦)
- 同 林 獅子三(豊女)
- 同 小關 正(廳鐵)
- 六中 加藤五次郎(棒太)
- 同 竹越金次郎(留多加)
- 同 遠藤 一雄(研究会)

- 8 同 堺 義一(應鐵)
- 9 同 荒木權次郎(敷香)
- 10 同 飯田吉次郎(四校)
- △中等學校團體の部
- 1 十六中 豊中ロ組
- (後藤静夫、碓氷達彌、國武敬一)
- 2 十一中 豊中ハ組
- (高橋貢、鈴木照、淺利浩)
- 3 九中 大泊高女
- (工藤サダ、仲秋たつ、小野英子)
- △中等學校個人の部
- 1 七中 碓氷 達彌(豊中)
- 2 五中 鈴木 照(同)
- 3 同 後藤 静夫(同)
- 4 四中 飯田 滋(同)
- 5 同 淺利 浩(同)
- 6 同 小林 修二(泊中)
- 7 同 國武 敬一(豊中)
- 8 三中 加地 保彦(同)
- 9 同 鈴木 忠男(泊中)
- △女學校個人の部
- 1 五中 堤 シズ子(泊女)
- 2 五中 綿井登美子(豊女)
- 3 四中 山本 和子(豊女)
- 4 同 工藤 サダ(泊女)
- 5 三中 仲秋たつ子(同)

6 同 須藤タミ子(豊女)

7 二中 小野 英子(泊女)

8 同 重村 康子(同)

9 同 若泉 絢子(豊女)

10 同 西山 スエ(同)

排球選手権大會

全島排球選手権大會は八月二十一日、豊原高等女學校コートにおいて開催された。豊原高女は全勝して優勝の栄冠を擔つた。

1 豊原高女(三 勝)

2 大泊高女(二勝一敗)

3 豊原クラブ(一勝二敗)

4 眞岡高女(三 敗)

籠球選手権大會

棒太體育協會主催第二回全島籠球大會は昭和十三年八月二十二、三の兩日豊原高女兩校屋内コートでリーグ戦によつて舉行、女子部は豊原高女二戦二勝で優勝し、男子部は眞岡中學が三戦三勝して優勝した、成績は左の通りである。

△女子部 1 豊女A 2 豊女俱樂部

3 大女、豊女B 棄權

豊女A 34 | 33 大女

豊女俱樂部 18 | 12 豊女B

豊女A 33 | 24 豊女俱樂部

豊女俱樂部 36 | 28 大女

△男子部 1 眞中 2 知取 教員 3 泊中 4 豊中

眞中 55 | 29 知取

眞中 47 | 10 豊中

眞中 30 | 10 泊中

知取 51 | 21 泊中

眞中 54 | 11 豊中

泊中 30 | 17 豊中

青年團武道大會

棒太體育協會主催の全島青年團武道大會は昭和十三年八月二十四日豊原中學校道場において開催された、柔道の部においては豊原断然他を壓して優勝、剣道の部においては應鐵辛くも一位はなして優勝するも二位の順位は豊原、眞岡、大泊三者三點のため再度リーグ戦に依つて決定成績は次の如くである。

△柔道の部(團體成績)

1 豊原青年團 七點

(半澤、成田、岸)

2 大泊青年團

3 眞岡青年團

4 棒太應鐵道

個人の部

五四八

1 金 鐘 浩(大泊)

2 岸 巖(豊原)

3 成田 繁(同)

4 青山 猛男(眞岡)

5 九里 清(同)

6 伊藤 孝二(大泊)

△剣道の部(團體成績)

1 棒太應鐵道

(増本、三村、石井)

2 大泊青年團

3 眞岡青年團

4 豊原青年團

5 元泊青年團

個人の部

1 増本 基(應鐵)

2 小松福三郎(大泊)

3 矢作定四郎(眞岡)

4 三村 康久(應鐵)

5 山口 一郎(眞岡)

6 木村 洋(大泊)

相撲選手権大會

全島青年、兒童相撲大會は昭和十三年八月二十五日豊原公園相撲場に開催された、戦跡は左の通りである。

△幼年部決勝

1 齋藤 優(豊一校)

2 貫井 博見(同)

- 3 渡邊 隆一(同)
- 4 奈須野竹男(豊三校)
- 5 石井 榮治(並川)
- 6 船橋 富吉(同)
- △少年部決勝
- 1 山川 義治(落合一)
- 2 濱野 禎(同)
- 3 佐藤梅太郎(同)
- 4 大野 義治(唐松)
- 5 佐藤 吉明(同)
- 6 長崎 勝治(同)
- △團體の部
- 1 豊榮聯合青年團 八點
- 2 大泊青年團 七點
- 3 眞岡青年團 六點
- 3 元泊青年團 六點
- 4 棒太應鐵道 三點
- △個人の部
- 1 齋藤 正治(豊榮)
- 2 杉田勝三郎(大泊)
- 3 佐藤 徳治(眞岡)
- 4 齋藤岩太郎(元泊)
- 5 山本 勝義(大泊)
- 6 阿保松五郎(豊榮)

陸上競技

六十米競走(決勝)

躍進棒太

△幼年男子 1 松下光造(知一)

八秒九、大會新記録 2 根岸巖(同) 九秒、タイ記録 3 石淵明(豊一) 4 大山幸雄(豊一) 5 菅野幸男(豊二) 6 柳瀬一雄(豊一)

△幼年女子 1 川邊愛子(豊二)

九秒一、新記録 2 島田保子(豊一) 九秒五 3 工藤キヌ子(豊二) 4 鈴木トキエ(小田寒) 5 柴田シマ子(豊一) 6 穴水トキエ(小田寒)

△少年女子 1 根本チエ(知取)

高) 九秒、新記録 2 柳瀬ケサ子(豊一) 3 天内光子(大泊高) 4 岸ミワ(多蘭内) 5 山内キミエ(多蘭内) 6 石井アサ(知高)

△中等女子 1 小笠原キヨ(泊居) 八秒八、タイ記録 2 佐藤一子(豊原) 3 勝部篤子(大泊) 4 前川貞子(大泊) 5 杉本綾子(泊居) 6 荒見節子(眞岡)

▲百米競走(決勝)

△幼年男子 1 石井信之(小田寒) 一四秒三 2 根岸巖(知一) 一四秒六 3 高橋淳(豊一) 4 知野浩(知一) 5 鷺津新吾(豊一) 6 菅野幸男(豊二)

△幼年女子 1 川邊愛子(豊二)

一五秒一 2 島田保子(豊一) 一五秒三 3 工藤キヌ子(豊二) 4 高橋文子(豊三) 5 鈴木トキエ(小田寒) 6 武石文(豊一)

△少年男子 1 金澤貞壽(豊四)

一三秒六 2 伊藤學(同) 3 中野秀雄(落一) 4 高井哲雄(大泊) 5 堀井四郎(小田寒) 6 山川義治(落一)

△少年女子 1 富田タマ子(豊一) 一四秒六 2 根本チエ(知高) 一四秒六 3 岸ミワ(多蘭内) 4 木村トミ子(豊一) 5 山内キミエ(多蘭内) 6 保科喜代美(小田寒)

△補習學校 1 内山保(大泊商) 一三秒二 本間二三雄(知取工)

3 横山善一(大泊商) 4 田澤豊太郎(落合商) 5 吉田昌八(知取工)

△中等女子 1 淺野志津子(眞女) 一四秒一 2 小笠原キヨ(泊女) 3 佐藤一子(豊女) 4 阿部光枝(大女) 5 杉本綾子(泊女) 6 前川貞子(大女)

△中等男子 1 武藤正彦(眞中) 一二秒二 2 中野達一(豊中) 一

二秒四 3 小山内滋(同) 4 西世古柳平(眞中) 5 松原文男(大中) 6 志賀敏雄(同)

△青年團 1 能村進(元泊青) 一秒六 2 柳谷由太郎(眞岡青) 3 山本廣(元泊青) 4 杉四郎(應鐵) 5 川島清次郎(豊榮青) 6 中折彦晴(大泊青)

△一般 1 山隈一雄(泊居) 一一秒九 2 澤邊彦一(千歳) 一二秒三 3 吉田三太郎(落合) 4 佐竹賢一(遞信) 5 鈴木九四雄(同) 6 森將(豊二)

△少年男子 1 佐藤勝雄(豊四) 二七秒六 2 中野秀雄(落一) 二八秒一 3 小松功(大高) 4 李徳元(豊四) 5 廣岡武夫(落一) 6 井上勝吉(大高)

△補習學校 1 本間二三雄(知取商) 二六秒七 2 内山保(大泊商) 3 松原保(落合商) 4 工藤芳夫(豊原商) 5 菊地義光(落合商) 6 佐土忠敬(豊原商)

▲中等女子 1 淺野志津子(眞女) 二九秒四(大會新記録) 2 村上ヤ(泊女) 3 阿部光枝(大女) 4 伊藤春野(泊女) 5 小山暉惠(大女) 6 清水静枝(眞女)

▲中等男子 1 杉田新一(大中) 二五秒一 2 武藤正彦(眞中) 二五秒三 3 中野達一(豊中) 4 二宮忠喜(大中) 5 小山内滋(豊中) 6 西世古柳平(眞中)

▲一般 1 澤邊彦一(千歳) 二四秒九 2 梨羽幹男(豊原) 二四秒九 3 鈴木悦(逕信) 4 鈴木九四雄(逕信)

▲四百米競走
▲中等男子 1 杉田新一(大中) 五七秒二 2 横尾忠雄(眞中) 五七秒六 3 小山内照親(豊中) 4 岡本國義(眞中) 5 川本清司(大中) 6 太田新一(豊中)

▲青年團 1 能村進(元泊青) 五七秒二 2 成田英一(豊榮青) 3 高橋信一(同) 4 山本廣(元泊青) 5 松山藤市(眞岡青) 6 森山勝男(豊榮青)

▲一般 1 山本勇次郎(眞岡) 五七秒二 2 岡山忠雄(泊居) 五七

秒二 3 桑島博(落合) 4 鈴木之恭(落合) 5 杉野禮司(逕信) 八百米競走
▲少年男子 1 李德元(豊四) 二分二五秒二 2 越田正幸(大小) 二分二九秒二 3 後藤勝信(豊四) 木村正俊(小小) 4 川島吉夫(落一) 5 水上定久(同)

▲補習學校 1 淺利誠藏(大泊商) 二分二秒三 2 今井信義(知取商) 3 池田末安(落合商) 4 桑村寛(大泊商) 5 三浦善市(知取商) 6 阿部寛(落合商)

▲中等男子 1 小山内照親(豊中) 二分一五秒二 2 佐々木松久(豊中) 二分一六秒五 3 杉田新一(大中) 4 岡本國義(眞中) 5 山本清司(大中) 6 石室忠雄(眞中)

▲一般 1 成田英一(豊榮) 二分一三秒二 2 山本勇次郎(眞岡) 二分一四秒七 3 桑島博(落合) 4 鈴木之恭(同)

▲千五百米(決勝)
▲補習學校 1 淺利誠藏(大泊商) 四分五秒二 2 今井信義(知取商) 四分五秒二 3 池田末安(落合商) 4 吉澤弘一(知

取商) 5 桑島寛(大泊商) 中等男子 1 佐々木松久(豊中) 四分三四秒六、大會新記録 2 千葉小六(大中) 四分四二秒四 3 石室忠雄(眞中) 4 手塚幸一(豊中) 5 工藤幸太郎(眞中) 6 堀川正一(大中)

▲青年團 1 後藤秀雄(豊原) 四分三〇秒二 2 成田英一(同) 四分三〇秒四 3 前田文雄(眞鐵) 4 今堀和夫(豊原) 5 谷口春吉(留多加) 6 上道鶴松(眞岡)

▲一般 1 本間秀雄(逕信) 四分二五秒九 2 岡山忠雄(泊居) 3 佐藤忠義(逕信)

▲五千米決勝
▲中等男子 1 佐々木松久(豊中) 一七分一〇秒四、大會新記録 2 千葉小六(大中) 一八分四秒三 3 富山松雄(眞中) 4 手塚幸一(豊中) 5 石室忠雄(眞中) 6 古川正三郎(大中)

▲一般 1 村社講平(國際選手) 一五分二四秒八 2 本間秀雄(逕信) 一七分一三秒九 3 蛭子千富(同)

▲一萬米競走
▲青年團 1 後藤秀雄(豊青) 三

五六〇
六分五秒四 2 今堀和夫(同) 三分一六秒五 3 本田清太郎(眞青) 4 前田文雄(眞鐵) 5 川村定雄(眞青) 6 最上忠一(眞鐵)

▲一般 1 本間秀雄(逕信) 三四分一〇秒九 2 岡山忠雄(泊居) 3 花房孝助(眞岡)

▲四百米競走
▲幼年男子 1 知取一校(松下常造、根岸巖、知野浩、小倉富造) 五八秒四 2 豊原二校 3 豊原一校 4 豊原三校

▲幼年女子 1 豊原二校(森川喜久子、工藤キヲ子、川邊愛子、岩崎光子) 一分二秒四 2 豊原一校 3 豊原三校 4 小田寒校

▲少年女子 1 豊原一校(小玉トミ、木村トミ子、柳瀬ケサ子、富田タマ子) 五二秒二 2 多蘭内校 3 大泊校 4 知取校

▲中等女子 1 眞岡高女(山本キヨ、荒見節子、淺野志津子、清水静枝) 五九秒六 2 大泊高女 3 豊原高女 4 泊居高女

▲八百米競走
▲少年男子 1 豊原四校(李德

元、伊藤學、金澤貞壽、村上繁) 一分五三秒八 2 大泊高校(井上勝吉、越田正幸、小松功、高井哲雄) 一分五三秒九 3 落合一校 4 小田寒校

▲補習學校 1 大泊商(近藤榮藏、齋藤勝雄、横山善市、内山保) 一分四九秒四 2 知取商工 3 落合商 4 豊原商

▲中等部男子 1 眞岡中學(西世古柳平、武藤正彦、雲田勇横尾忠男) 一分四二秒二 2 大泊中 一分四二秒五 3 豊原中 一般 1 混成チム 一分四二秒一 2 落合一分四五秒三

▲千米瑞典競走
▲青年團 1 元泊(能村進、高橋聖定、山本廣、木村清治) 二分一四秒二 2 豊原二分一五秒一 3 眞岡 4 眞鐵 5 大泊

▲二百米低障碍
▲中等男子 1 横尾忠雄(眞中) 二九秒二 2 玉井次郎(同) 三〇秒八 3 中野達一(豊中) 4 松原文男(大中)

▲マラソン
▲青年團 1 龜谷清治(眞岡) 一時間四五分五九秒 2 菅原豊

一時間五一分四三秒 3 岩田實(眞鐵) 4 植村義雄(眞岡) 5 川島孝明(眞鐵)

▲一般 1 蛭子千富(逕信) 一時間四七分一〇秒 2 鐘本文雄(大泊中) 3 堀川正一(同) 4 櫻田金藏(同) 5 高橋明(同)

▲依擔競走
▲青年團 1 高木正治(留多加) 二八秒二、大會新記録 2 丸屋幸一(眞鐵) 3 草薙新一(豊青) 4 佐久間時衛(眞青)

▲フィールド
▲槍投
▲中等女子 1 小塚京子(泊女) 二四米三一 2 田浦榮子(眞女) 二〇米六一 3 三上勝(大女) 4 紙谷美枝(同)

▲中等男子 1 中野猪八郎(眞中) 四三米七三 2 淺野三郎(大) 四一六米六二 3 田中博(豊中) 四〇米九八 4 寺島三千雄(眞中) 5 千葉綠郎(豊中) 6 駒込照夫(大中)

▲一般 1 住吉秀輝(野田) 四二米八五 2 花上實(豊原) 三三米三〇 3 石丸徹男(逕信) 4 鈴木悦(同)

▲砲丸投
▲少年男子 1 崎野八洲男(大) 九米四九 2 鎌田武男(大) 九米二二 3 廣岡武夫(落一) 4 笠原仙(豊四) 5 栗原昇(落一) 6 伊藤學(豊四)

▲補習學校 1 小松弘(豊原商) 八米八九 2 佐土忠敬(同) 3 大川義郎(大泊商) 4 吉田品八(知取商) 5 茅野郡二(落合商) 6 谷崎陽道(知取商)

▲中等女子 1 田浦榮子(眞女) 八米七二 2 緒方康子(泊女) 3 小塚京子(同) 4 高杉初江(眞女) 5 紙谷美枝(大女) 6 傳法ヒデ(大女)

▲中等男子 1 八重樫亮一(豊中) 一〇米六〇 2 川岸基良(眞中) 一〇米五一 3 駒込照夫(大) 4 柴田眞(眞中) 5 齋藤弘(豊中) 6 淺野三郎(大中)

▲青年團 1 中村榮吉(眞岡青) 九米七〇 2 佐久間時衛(同) 3 本城貞夫(大泊青) 4 菅原潔(眞鐵) 5 渡邊明義(豊原青) 6 石川常雄(眞鐵)

▲一般 1 山隈一雄(泊居) 一〇米三八 2 小原利男(豊一) 一〇

米二八三 岡山忠雄(泊居) 4 鈴木九四雄(逕信) 5 松本龍夫(泊居) 6 鈴木悦(逕信)

▲棒高跳
▲中等部男子 1 横尾忠雄(眞中) 三米二 2 菅谷彰(大中) 二米七〇 3 中川寛正(豊中) 二米六〇 4 中西保美(同) 5 大橋武長(大中) 6 能村清雄(眞中)

▲一般 1 松本龍夫(泊居) 三米二〇(大會新記録)

▲圓盤投
▲中等男子 1 柴田眞(眞中) 二六米七七 2 川岸基良(同) 二六米一一 3 駒込照夫(大中) 4 齋藤弘(豊中) 5 堀口正雄(同) 6 下條正好(泊中)

▲一般 1 小原利男(豊一) 二七米一八

▲走巾跳
▲幼年男子 1 松下光造(知一) 四米四九 2 坂本彰(豊二) 四米一七 3 有村重敏(同) 4 大山幸雄(豊一) 5 山田豊治(同) 6 小倉富藏(知一)

▲幼年女子 1 森川喜久子(豊二) 三米九一 2 齋藤悦子(同) 三米七七 3 柴田シマ子(豊一)

4 久保和子(豊三)
 △少年男子 1 越田正幸(大高) 四米九六 2 坂井哲雄(同) 四米九〇 3 小林富士男(落一) 4 村上繁(豊四) 5 金子八十松(同) 6 川島正夫(落一)

△少年女子 1 富田タマ子(豊一) 四米二八 2 窪田静枝(同) 四米二一 3 工藤ミチ子(知高) 4 三上美知子(同) 5 太田静香(大高) 6 佐藤俊子(多蘭内)

△補習學校 1 齋藤勝雄(大泊商) 五米四六 2 田澤豊太郎(落合商) 五米三一 3 近藤榮藏(大泊商) 4 本間三郎(知取商工) 5 中島雄市(同) 6 倉田文之助(豊原商)

△中等女子 1 村上ヤエ(泊女) 四米六三 2 小川暉恵(大女) 四米二七 3 高橋美代子(豊女) 4 服部篤子(大女) 5 坂東静江(泊女) 6 田澤美恵(豊女)

△中等部男子 1 西世古柳平(真中) 五米六六 2 駒込照夫(大泊) 五米五三 3 岡島彪(豊中) 4 竹内一郎(真中) 5 中野達一(豊中) 6 市村幸美(大中) △青年團 1 金山三郎(豊榮青)

五米九三 2 佐藤利司(鷹鐵) 五米六六 3 木村清司(元泊青) 五米六四 4 伊藤正男(真岡青) 5 松本正男(同) 6 津見川潔(豊榮青)

△一般 1 山隈一雄(泊居) 五米九九 2 松本隆夫(同) 3 三段跳

△少年男子 1 小田土郎(小田寒) 一〇米五五 2 小林富士男(落一) 一〇米一四 3 金子八十松(豊四) 4 伊藤政治(落一) 5 春本哲美(大高) 6 菅原十一州(豊四)

△少年女子 1 今井ミチ(大高) 九米二七 2 柳瀬ケサ子(豊一) 九米二四 3 木村トミ子(豊一) 4 竹口前女(大高) 5 三上美智子(知高) 6 工藤ミチ子(知高)

△補習學校 1 齋藤勝雄(大泊商) 一〇米五〇(大會新記録) 2 中井清(知取商) 一〇米六七 3 石栗正明(落合商) 一〇米三五 4 中島雄市(知取商) 5 横山善市(大泊商) 6 菊地義光(落合商)

△中等男子 1 岡島彪(豊中) 一〇米〇三 2 市村幸美(大中) 一〇米八一 3 玉井次郎(真中) 一〇米五六 4 竹内一郎(同) 5 中野達一(豊中) 6 松原文男(大泊)

△一般 1 金山三郎(川上) 一〇米六八 2 山隈一雄(泊居) 一〇米六一 3 瀬川潔(豊榮)

▲走高跳

△幼年男子 1 庄内行雄(豊二) 一米二五 2 千葉了(豊二) 一米二三 3 近藤利藏(知一) 一米二〇 4 鷲頭新吾(豊一) 5 山田豊治(同) 6 山本健(知一)

△少年男子 1 崎野八州男(大高) 一米三七 2 鎌田武男(大高) 一米三五 3 伊藤政治(落一) 一米三五 4 栗原昇(同) 5 橋本孝(豊四) 6 村上繁(同)

△補習學校 1 鈴木義男(大泊商) 一米五三 2 近藤榮藏(大泊商) 一米五〇 3 奥村義博(知取商) 4 村田秀(豊原商) 5 松井滋(同) 6 石栗正明(落合商)

△中等女子 1 伊藤民子(大女) 一米二五 2 鈴木キヨエ(泊女) 一米二〇 3 酒井美智子(大女) 4 山下和子(真女) 5 坂東静江(泊女) 6 服部スミ(豊女)

△中等男子 1 柴田真(真中) 一米六五、大會新記録 2 岡島彪(豊中) 一米六〇 3 浅野三郎(大中) 一米六〇 4 中川寛正(豊中) 一米六〇 5 島西孝三(大中) 6 西世古柳平(真中)

△青年團 1 野宮義造(豊榮青) 一米七〇 2 伊藤正男(真岡青) 一米七〇 3 高橋聖完(元泊青) 一米七〇 4 金山三郎(豊榮青) 5 宗本恭博(鷹鐵) 6 瀬川潔(豊榮青)

△一般 1 松本龍夫(泊居) 一米七〇 2 鈴木悦(選信)

▲スポンジボール投

△幼年男子 1 曾我好文(豊二) 五米六九 2 杉本榮司(豊一) 五米七六 3 鬼頭博(同) 五米六四

▲バスケットボール投

△幼年女子 1 中村村榮子(豊二) 二〇米五〇 2 金子恭子(同) 二〇米〇六 3 籠島文子(同) 二〇米〇六

△少年女子 1 石井アサ(知取) 二二米四五 2 天内光子(大泊) 二二米二八 3 窪田静江(豊一) 二二米一六

村社講平選手招聘

棒太體育協會の招聘により昭和十三年八月二十三日來島全島陸上競技大會五千米に出場して好記録を生んだ村社講平選手は二十六日豊原公園競技場において約三十名の選手に理論及び實際のコーチを行ひ、同日午後上石體協理事の案内で全島へコーチ行脚に出かけたが日程は次の通りである。

△八月二十六日 真中グラウンドでコーチ、夜公會堂で講演
 △二十七日 女學校グラウンドでコーチ
 △二十八日 恵須取で講演
 △二十九日 敷香で講演
 △三十日 知取公會堂にて講演
 △三十一日 落合で講演
 △九月一日 大泊中學校において講演並に實際指導
 △二日 正午連絡船で退島

野田、眞岡間驛傳競走
 第三回野田、眞岡間驛傳競走は昭和十三年七月十五日舉行、野田驛前を出發し、全距離四十五軒四百四十六米を五區に分ち參加團體は六で晴天の海岸線を

力走泊居軍左の成績で優勝した

△第一位 泊居(三時間二十一分七秒) 伏見孝一、坂本三郎、秋田勝太郎、中谷良夫、岡山忠雄

△第二位 高濱(三時間三十一分十四秒) 石黒、林、工藤、岡本、雲田

△第三位 眞岡町青年團(三時間三十四分四十七秒) 上道、上村、三國、佐藤、齋藤

△第四位 野田(三時間三十五分五十二秒)

△第五位 旭日(三時間三十七分)

豊原、小沼間断競走
 棒太體育協會主催第一回断競走(豊原、小沼間二十キロ)は昭和十三年六月二十六日舉行、出場選手二十五名が棒太驛前をスタートし、川上炭山後藤秀雄君が榮冠を獲得した、結果左の如し。

1 後藤秀雄(上川) 一時間二四分一七秒 2 千葉小六(泊中) 一時間二四分五六秒 3 坂本三郎(泊居) 一時間二六分六秒 4 江良武五郎(上川) 5 岡山忠雄(泊居) 6 本間秀雄(大泊) 7 北

眞岡青年競技會

第九回眞岡支廳管内青年團陸上競技會は昭和十三年八月眞岡第一校グラウンドにおいて開催眞岡青年團が再び優勝の榮冠をかち得た青年團の得點左の通り

1 眞岡青年團 三八點三分二
 2 蘭泊青年團 一九點三分一
 3 野田青年團 一五點三分一
 4 廣地青年團 5 清水青年團

泊居支廳管内體育大會青年團陸上競技は昭和十三年七月二十四日久春内小學校々庭に開催したが、泊居青年團が連勝した、各團得點左の通りである。

1 泊居青年團 一一二點
 2 名寄青年團 一一〇點
 3 三濱青年團 九六點
 4 久春内青年團 八八點

職業野球團來島
 棒太野球聯盟主催の下に迎へられた職業野球團セネタース対イーグルスの試合は昭和十三年八月十三日、十四日の二日間、

豊原公園球場で開催され第一日はイ軍九對二で悠々と快勝し、第二日は十一對九で七軍雪辱した戦跡は左の通りである。

△第一回戦
 七軍 0000000020
 イ軍 2001000132 9

△第二回戦
 七軍 001205030 11
 イ軍 2400002100 9

セネタース 今(横遠尾)家磯三青澤
 (二) 今(横遠尾)家磯三青澤
 (一) 今(横遠尾)家磯三青澤

イーグルス 村原下根(河田)月田本
 (二) 野漆(木)中(太)望(龜)山松
 (一) 野漆(木)中(太)望(龜)山松

セネタース 田藤藤田岡村澤藤(今)
 (二) 田藤藤田岡村澤藤(今)
 (一) 田藤藤田岡村澤藤(今)

イーグルス 野漆(木)中(太)望(龜)山松
 (二) 野漆(木)中(太)望(龜)山松
 (一) 野漆(木)中(太)望(龜)山松

セネタース 野漆(木)中(太)望(龜)山松
 (二) 野漆(木)中(太)望(龜)山松
 (一) 野漆(木)中(太)望(龜)山松

警察部長歓迎庭球

白井警察部長歓迎庭球大會は昭和十三年七月二日樺太廳コトに開催、白井、井片組の優勝となつた。

△準決勝

白井、井片 3-0 松野、田中
奥山、池田 3-1 山崎、齋藤

△決勝

白井、井片 3-1 奥山、池田

長官歓迎野球試合

棟居新長官歓迎の廳内野球戦は昭和十三年六月十八日豊原公園球場で舉行、五對三で聯合軍の勝利となつた。

聯合 000000021225
鐵道 000001020003

聯合

間野田本内藤村井谷
風小内橋大工木今熊
一二遊三中左投右捕
123456789
杉 井森小福相浦日本
鐵 左遊捕二右投一三中

全豊原軍敗る

昭和十三年度全國都市對抗野球北海道樺太豫選に出場した全豊原軍の戦跡は左の通りである。

△陣容

監督村上、昆△主將松平△投手福家、相馬△捕手吉田、鈴木△一壘手風間△二壘手小林△三壘手内田△遊撃手井出△左翼手杉△中堅手木間△右翼手浦田、日浦

△第一回戦

六月九日札幌市に開催され、住友奔別軍と對戦し八對五で快勝した。

全豊原 022000310008
奔別 0010000000315

△決勝戦

十一日札幌市綜合グラウンドにおいて大洋俱樂部と對戦し八回表に五對四とリードしながら有終の美をなし得なかつた。

全豊原 003000021006
太 洋 2000110006010

樽新主催第三回軟式野球大會

小樽新聞社主催第三回樽新地軟式野球大會は、昭和十三年八月六、七日の兩日豊原軟式野球聯盟球場で開催した、成績は左の通りで、豊原選信軍が優勝した。

△第一次戦

水産課 5-3 林友
廳醫院 7-6 樺電

△準決勝

水産課 5-3 ゾンネ
選信 5-3 廳醫院

△決勝

選信 6A-0 水産課
水 000000000000
選 0000030003A6

△準決勝

川尾川葉原藤野森越
今松石千福佐屋小川
捕二遊左投中三一右
123456789
間野井本藤木井野江
風小今塚工鈴境中磯

△準決勝

池田、福井 3-2 松野、村田
齋藤、寺澤 3-1 菊地、岡田
藤堂、西村 3-0 米山、川村
遊佐、土屋 3-2 松尾、設樂

△準々決勝

樺太庭球聯盟主催の第三回B級庭球大會は昭和十三年六月二十六日樺太廳コートにおいて開催、留多加の遊佐、土屋組が優勝した。

△準決勝

齋藤、寺澤 4-2 池田、福井
遊佐、土屋 4-0 藤堂、西村

△決勝

遊佐(留多) 4-2 齋藤(選)
土屋(加) 4-2 寺澤(信)

大泊水泳協會發會

文部省の國民皆泳運動に即應する目的をもつて樺太にも水道水泳の王國を建設せんとする團體が大泊町に誕生し、昭和十三年の暑中休暇を利用して、一般兒童に講習を開始する事になつたが、名稱は大泊水泳協會で、主任講師は北海道水上競技聯盟常務理事として活躍せる向井流師範濱田均二氏(大泊高等小學校訓導)である、本年の受講者は高等小學校八十名、補習學校二十名、一般十名、中學生二十五名教職員十名の計百四十五名であつた。

講習會細則

一 期日 自七月二十六日至八月四日(十日間)
一 會場 楠溪町埋立地海岸
一 受講資格 尋常科卒業以上の男子兒童生徒並に一般

△劍道

豊原中學 4-3 大泊中學
大泊中學 4-3 眞岡中學
豊原中學 5-2 眞岡中學

△柔道

豊原中學 4-0 大泊中學
大泊中學 2-0 眞岡中學
豊原中學 5-1 眞岡中學

札鐵、樺太廳柔道對抗試合

札鐵對樺太廳の柔道對抗試合は昭和十三年六月十九日、豊原市武徳殿に舉行、三對三の引分けに終つた。

札鐵軍 3-3 樺太軍

二段小川 分 二段栃澤
二段似内 大外刈 〇 二段平山
二段松草 〇 逆 三段岸
三段草野 分 四段中島
三段小原 〇 裏 四段荒野
四段高橋 押込み 〇 四段阿部
四段芝田 〇 大外刈 〇 五段加島
五段福島 内股 〇 五段清谷
五段金高 分 五段米田
五段白澤 分 五段丹尾

男子

一 資格認定 受講者に對しては審査の上所定の級を授與す

一 講習科目

六級 浮くこと、犬掻、クロー、一重伸略體、兩輪伸
五級 一重伸正體、二重伸正體、蛙平泳、踏足立泳、水中兩輪伸、直飛、順下、逆飛
四級 片拔手一重伸、背泳平泳、片拔手二重伸、早拔手、水中一重伸
三級 繼手伸、拔手伸、大拔手、逆下、小拔手、立泳
二級 一級 各種泳法飛込法研究、應用泳法、競泳法救助法、教授法

豊原双輪協會創立

全日本自轉車競技聯盟樺太支部豊原協會の創立總會は、昭和十三年七月九日豊原商工會議所に開催、九鬼左馬之助博士が會長に就任した、第一回樺太自轉車競技大會を同年八月七日豊原公園グラウンドに開催した、豊

原協會發會式は第一回大會と同じくして舉行した。

全島體操大會

樺太廳體育協會主催第一回全島體操大會は、昭和十三年七月二十四日豊原、大泊、眞岡、本斗、留多加、泊居、惠須取、元泊、敷香の九ヶ所において一齊に實施されたが、各地の参加者は三萬五千に達した。

ラヂオ體操の會

ラヂオ體操の會は逐次普及され、昭和十二年度の全國成績は一萬六千二百會場、延人員一億二千萬人と云ふ膨大な數字を示してゐるが、樺太においても年々増加し過去四ヶ年間の全島成績を見れば次の如くである。

會場 参加延人員

昭和九年 元 一四、四七五
同 十年 三 三三、一六三
同 十一年 一〇三 四三、七六六
同 十二年 一〇三 五七〇、九七九
昭和九年から見ると十二年は實に四倍の増加となつてゐる。

豊原中學柔道部全國制覇

豊原中學校は、昭和十三年七月二十三日、四日の兩日國士館専門學校主催の全國中等學校柔道大會に出場左の戦跡で優勝した

△第一次戦

豊原中學 5-0 高輪中學
△第二次戦
豊原中學 3-0 新發田中
△準決勝戦
豊原中學 2-1 葦山中學
△決勝戦
豊原中學 2-0 新潟商業
昭和十三年八月二十九日から開催の講道館主催第四回中等學校柔道優勝大會に出場の豊原中學の戦跡は左の通りである。

△一回戦

豊原中學 5-0 高崎商業
△二回戦
長岡中學 1-0 豊原中學

三中學武道リーグ

豊原、大泊、眞岡三中學校の武道リーグ戦は昭和十三年六月二十六日大泊中學校道場において舉行、柔道、劍道共各校より七名づつの選手出場、左の戦績を以て豊原中學校は柔劍道共優勝した。

人名録

北海道

樺太

光輝ある歴史
特色ある内容
確固たる信用

營業御取
勸業債券
公・社債
實株取引

福運への近道・利殖の早わかり
(相場表付) 日本證券讀本進呈!





人名錄

北海道廳

長官 石黒 英彦
 長官官房 吉野 直行
 秘書課長 川西 輝昌
 文書課長 留岡 幸男
 人事課長(兼)大塚 兼紀
 庶務課長 大塚 兼紀
 統計課長 內館 泰三
 地方課長 福原政二郎
 會計課長 北村 貞三
 拓殖計畫課長 橋本 東三
 學務部 橋本 東三
 學務課長 高辻 武邦
 學務官 大濱 芳雄
 視學官 森岡 文策
 社會教育課長(兼)幸前 伸
 社會課長 幸前 伸
 社會教育課長(兼)幸前 伸
 職業課長 山田 三義
 經濟部 西宗 直
 部長 遠山信一郎

農産課長 梁田 退三
 畜産課長 佐藤 修吉
 經濟更生課長 喜多 太郎
 調整課長 工藤 芳男
 水産課長 半田 完
 商業課長 盛本 救
 工業課長 赤木 完
 土木部 赤木 完
 勸業課長 中村 忠充
 監理課長 神保 金衛
 道路課長 本村 浩
 河川課長 杉森 文彦
 港灣課長 齋藤 靜修
 土地改良課長 平尾 俊雄
 拓殖部 武光
 勸業課長 青柳 秀夫
 殖民課長 林 常夫
 林政課長 林 常夫
 森林規畫課長 藤島喜久男
 造林課長 石原 三
 林産課長 桑名 卓助
 地方林課長 三戸 信雄
 警察部 桑名 卓助
 警務課長 土肥 米之
 防務課長 奧田 信雄
 防務課長(兼)奧田 信雄

情報課長 武田 耕三
 特別高等課長 瓜生 順良
 外事課長 中野 敏夫
 保安課長(兼)苦米地重男
 經濟保安課長 苦米地重男
 刑事課長 濱崎貞二郎
 建築工場課長 梅田 邦彦
 衛生課長 木村眞之助
 健康保險課長 中津 忠次
 神戶 高松 四郎
 札幌神社官司 高松 四郎
 函館八幡同社 太田 紀
 小樽市住吉神社 星野 一彦
 室蘭市八幡神社 奈良 瑞穂
 福山町松前神社 稻川 菊造
 江差姥神大神宮 藤枝 修
 根室金刀比羅社 前田 長秋
 函館市東照宮 大谷 安三
 川路市嚴島神社 菊地 安三
 旭川市 柴田 直胤
 上川市 鈴木 八郎
 余市市 池田 八郎
 岩見澤神社 佐藤 桂
 札幌市三吉神社 大野 吳朗
 岩見澤神社 植田 昇

美唄町空知神社 橋本不二政
 網走神社 金甲 茂一
 瀧川神社 石丸 幸雄
 樽前山神社 田川 淨
 工業試驗場 赤木 救
 農事試驗場 赤木 救
 支場(長(琴似)) 安孫子孝次
 渡島(大野)場長 山口 翠
 上川(永山)場長 山口 謙三
 十勝(帶廣)場長 玉山 豐
 北見(野付)場長 市村 三郎
 根室(標津)場長 山田 忍
 試作場 有賀 文平
 檜山(厚部)場長 金 鐵司
 俱知安場長 齋藤 傳七
 釧路(鳥取)場長 佐藤 亮
 美深場長 久保田鐵馬
 天鹽場長 中村 齊
 瀬棚(利別)場長 八條 直路
 日高(靜内)場長 小松 勇
 稚内場長 本間 一衛
 美瑛場長 本間 一衛

林業試驗場

場長(江別) 石原 供三

水産試驗場

場長(余市) 倉上 政幹

函館支場長 秋谷 六三

根室支場長 杉 孝政

稚内支場長 永田 米作

鮭鱒孵化場

場長(豐平) 齋藤 光雄

虹別(標茶)場長 田中 林藏

北見(上湧別)場長 小林 教司

國後(泊)場長 道上 永吉

擇捉(留別)場長 石井 久治

渡島(八雲)場長 石川 博

土木事務所

札幌事務所長 叶 磯
 函館事務所長 淺尾 基彦
 室蘭事務所長 高田 善藏
 旭川事務所長 鹽塚 重藏
 留萌事務所長 一ノ瀬 吉次
 網走事務所長 田中 彦敏
 帶廣事務所長 山岡 茂

釧路事務所

池田 一男

札幌事務所

町田 利臣

帶廣事務所

岩岡 武博

函館事務所

細 祐次郎

小樽事務所長 榎山 千里

室蘭事務所長 安藝 眞孝

釧路事務所長 土谷 實

根室事務所長 近多 光義

余市事務所長 馬島 進

廣尾事務所長 西出 武雄

北千島事務所長 坂下 芳男

森林事務所

函館事務所長 杉山 良次
 福山事務所長 古館 新一
 俱知安事務所長 島川 助市
 苦小牧事務所長 西 小四郎
 岩見澤事務所長 伊勢谷 正一
 旭川事務所長 渡邊 久哉
 留萌事務所長 落合 忠雄
 名寄事務所長 玉川 義雄
 興部事務所長 竹田 明治郎
 野付事務所長 富田 正
 池田事務所長 岡田 銀治郎

厚岸事務所

古畑 要司

浦河事務所

笠原憲二郎

札幌營林區署

安西秀三郎

俱知安署長 伊藤 敏夫

檜山署長 上田 彦三

函館署長 松田 善吉

室蘭署長 島田喜四郎

浦河署長 戶津金兵衛

旭川署長 廣田 實

天鹽署長 林 薰

稚内署長 廣瀬 金藏

中頓別署長 安藤 勇兵

遠輕署長 松原 周助

野付牛署長 高野 光彌

網走署長 渡邊兵左衛門

根室署長 須山八百三

釧路署長 菅谷 紀隆

帶廣署長 福重 德滿

國後署長 川岸滋次郎

紗那署長 堤 恒治

林産物検査所

支所長(道廳) 桑名 信

函館支所長 松下 善吉

室蘭支所

島田喜四郎

札幌支所

桂田 捨三

浦河支所

伊勢谷 正一

留萌支所

戶津金兵衛

旭川支所

落合 忠雄

名寄支所

廣田 實

天鹽支所

阿部富士夫

中頓別支所

安藤 勇兵

遠輕支所

竹田 明治郎

野付牛支所

小山 清

網走支所

高野 光彌

帶廣支所

松原 周助

釧路支所

福重 紀隆

根室支所

菅谷 德滿

農産物検査所

支所長(札幌) 中井 正猪

札幌支所長 鈴木彌一郎

小樽支所長 澁谷勝太郎

人名錄

池川支所長 田中儀一郎
 名寄支所長 加茂徳太郎
 野付牛支所長 佐々木盛太郎
 帶廣支所長 大關 信雄
 釧路支所長 谷野吉太郎

○置業取締所
 所長(札幌) 佐々木晴吉

○出張所
 後志(後志支廳)主任 松原無加之
 河西(十勝支廳)主任 吉田 竹義

○種畜場
 場長(真駒内) 佐藤 退三
 分場 北見(訓子府)場長 七戸理三郎

○種羊場
 場長(瀧川) 山田 喜平

○牛酪検査所
 所長(札幌) 佐藤 退三

○拓殖實習所
 十勝(大樹)場長 熊博彦
 北見(置戸)場長 富田 正保

○水産物検査所
 所長(札幌) 谷脇 重助

○支所
 小樽支所長 西興 英
 岩内支所長 高橋理三郎
 瀬棚支所長 入間川秀雄
 江差支所長 廣木仙太郎
 函館支所長 原田 秀夫
 室蘭支所長 久保田 貢
 浦河支所長 清水李次郎
 廣尾支所長(代) 今島 正夫
 釧路支所長 大内 忠治
 根室支所長 小杉 玉吉
 紋別支所長 山市 安次
 稚内支所長 柴田吉之助
 留萌支所長 小林貞一郎
 留萌支所長 榎木 久榮

○測候所
 函館測候所長 高信 保
 旭川測候所長 星川 信吉
 釧路測候所長 鈴見 四郎
 帶廣測候所長 高橋 秀雄
 網走測候所長 長谷川 徳太郎

○度量衡検査所
 所長(道廳) 永田 峰吉

○支所
 函館支所主任 黒田 隆一

○石狩支廳
 支廳長 大川 義雄
 支所長 吉田吉太郎
 支所長 高橋鋼三郎
 支所長 後藤 泰三

○渡島支廳
 支廳長 石川 志一
 支所長 坂本 衆平
 支所長 生駒 鐵衛
 支所長 立花 有平

○檜山支廳
 支廳長 御村長太郎
 支所長 高橋 亨

○後志支廳
 支廳長 荒井 信勝
 支所長 若木 作藏
 支所長 町田利兵衛
 支所長 金丸喜次郎
 支所長 高木庄太郎

○空知支廳
 支廳長 永山 政能
 支所長 能勢 實
 支所長 岡野孝治郎
 支所長 荒谷 勇次
 支所長 武富 文義

○上川支廳
 支廳長 能木 善七
 支所長 澤崎松四郎
 支所長 朝井 清市
 支所長 佐崎 義通

○留萌支廳
 支廳長 田中 耕輔
 支所長 盛山 兵衛
 支所長 遠藤 研知
 支所長 伊藤 雄康

○宗谷支廳
 支廳長 中村 嘉平
 支所長 多原次郎
 支所長 星 齊藏

五六〇

○網走支廳
 支廳長 長谷川淺市
 支所長 高尾 善次
 支所長 平尾覺次郎
 支所長 吉田 榮吉
 支所長 川守田廣治
 支所長 杉本 墨吉

○釧路支廳
 支廳長 前田豊次郎
 支所長 中村 久松
 支所長 朝井 等
 支所長 村上 清治

○日高支廳
 支廳長 野々瀬 惠一
 支所長 遠藤 勝夫
 支所長 千葉菊三郎
 支所長 佐藤 貞雄

○十勝支廳
 支廳長 松川 清
 支所長 林 一
 支所長 常田 榮吉
 支所長 細田 文明

○釧路國支廳
 支廳長 森本 正雄
 支所長 笠卷慶太郎
 支所長 大槻 豊
 支所長 佐藤惣五郎

○根室支廳
 支廳長 長谷川淺市

○警署
 札幌警察署長 根本 力藏
 江別警察署長 伊比 晋治
 石狩警察署長 田中 徳藏
 函館警察署長 織田 信知
 木古内署長 村川 喜七
 福山警察署長 和泉 末治
 八雲警察署長 野崎 寅吉
 森警察署長 波多野 式三郎
 函館水上署長 佐々木 信愛
 江差警察署長 三澤 武男
 久遠警察署長 瀧野澤 兼吉
 瀬棚警察署長 西端 嘉四郎
 倶知安署長 白田 惠基
 壽都警察署長 小座間 田一郎
 岩内警察署長 新保 謙吾
 小樽警察署長 橋本 明平
 余市警察署長 田中喜一郎
 古平警察署長 眞部 義晃
 小樽水上署長 佐藤 幸四郎
 岩見澤署長 有坂 極
 美唄警察署長 濱 權五郎
 由仁警察署長 佐藤 三治

○札樫支局
 支局長 前田 碩太郎
 支所長 高尾 亮一
 支所長 辛木 宣夫

○帝室林野局
 支所長 立花 和雄
 支所長 増村 嘉雄
 支所長 石田 策郎
 支所長 清水 禮三
 支所長 木戸 三郎
 支所長 鶴田 作男
 支所長 山田 清
 支所長 早川 久雄

○紗那警察署長 西澤 勇一
 ○網走警察署長 塚本 馨
 ○美幌警察署長 開田 佐吉
 ○斜里警察署長 藤田 佐一
 ○野付牛署長 黒木 行義
 ○紋別警察署長 下郡山 喜代吉
 ○興部警察署長 唐鎌 佐吉
 ○遠輕警察署長 白鳥 好實
 ○稚内警察署長 中野 嘉藏
 ○中頓別署長 小野寺 泰藏
 ○枝幸警察署長 伊藤 耕平
 ○鬼脇警察署長 阿部 幸吉
 ○香深警察署長 佐々木 豊三郎

五六一

人名錄

函館出張所長 近岡彌三雄
江差出張所長 川崎 正藏
旭川支局 倉田 吉雄
支局 課長 小畑 忠
業務課長 太宰哲一郎
出張所 大沼 省三
深川出張所長 岡元 得一
留萌出張所長 日比野 宏
羽幌出張所長 後藤 資郎
富良野出張所長 田中 重五
旭川出張所長 伊藤 潔
第一出張所長 軍地 誠造
第二出張所長 嶺本 孝治
名寄出張所長 今野國太郎
下川出張所長 佐々木準長
弟子屈出張所長 佐々木準長

農林省關係
種羊場(月寒) 岡本 正行
種馬所 堀 三梯
十勝種馬所長 伊藤 安雄
釧路種馬所長 林 正浩
根室種馬所長 岸川鐵太郎
北見種馬所長 村山 豐
種馬牧場 橫屋 潤
日高種馬牧場長 鈴木 義勝
小樽米穀事務所 鈴木 義勝
札幌控訴院 日高要次郎
院 長 島津 二郎
部 長 瀧川 秀雄
所 長 清水 正一
部 長 吉本 榮一
部 長 櫻田 忠美
部 長 室谷 慶一
部 長 岡沼 扶

判事 西田賢次郎
判事 木下 猛雄
判事 野本 實
判事 小田 實
判事 小林右太郎
判事 中臺三樹三郎
判事 田中 義仁
判事 井上健一郎
判事 竹中半一郎
判事 前田前之助
判事 池ノ内 一郎
判事 八木瀧二郎
判事 佐久間辰二
判事 中兼 謙吉
判事 飯澤 高
判事 大塚貞之助
判事 湯澤 武夫
判事 鳥居 松平
判事 加藤 實好

判事 渡邊 秀平
判事 市村 維治
判事 大和田三治
判事 津田 進
判事 兒玉 庄藏
判事 高木 廉吉
判事 舍川 軍藏
判事 三宅 實
判事 中島 陽三
判事 佐藤 三郎
判事 林 幹二
判事 宮本譽志男
判事 輕部 武
判事 永根 義雄
判事 森 正記
判事 關川 重雄
判事 中谷 源一
判事 泉 英斌
判事 鈴木英三郎
判事 宮古 友次

室蘭刑務支所長 吉岡薫太郎

局長 森本 靖男
總務部長 吉村 丈三
直稅部長 川田 三郎
間稅部長(兼) 佐藤 一郎
經理部長(兼) 川田 三郎
鑑定部長 川崎 義德

帶廣稅務署長 渡部 良三

局長 渡部 良三
支署 高石榮治郎
小樽稅關支署長 堀 保
根室稅關支署長 堀 保
釧路稅關支署長 高橋 正吉
留萌稅關支署長 宮西 義隆
室蘭稅關支署長 渡邊 三郎

庶務課長 福島 末治

庶務課長 福島 末治
監畫課長 後藤 隆吉
規畫課長 成松 馨
工務課長 齋藤 正一
保險課長 土井 順次
電氣課長 吉安 秋夫
經理課長 勝矢 和三
部長(函館) 熊谷 直行
小樽出張所長 池田 源一
釧路出張所長 庄司 清之

函館醫務主任 石井主器夫

函館醫務主任 石井主器夫
函館醫務員 宇津志勇吾
小樽醫務員 渡邊 秀三
旭川醫務員 吉田 亮吉
釧路醫務員 三田 良二
帶廣醫務員 福井谷牧太郎
帶廣醫務員 笠井 義男

人名錄

札幌 遞信局 安田 丈助

貯金支局 駒木 二郎

函館支局長 上崎 孝

人名錄

紗那郵便局長 伊藤末太郎
 國後郵便局長 坂本恭平
 無線電信局
 函館局長 藤田義雄
 落石局長 松本彌右衛門
 函館局長 田仲茂
 放送局
 札幌中央放送局
 局長 船水喜平
 局長 和里田庄之助
 局長 落合守平
 局長 岡田壽久
 局長 大堀正助
 局長 一瀬前光
 局長 矢野壽夫
 局長 松山清
 旭川放送局長
 帶廣放送局長
 釧路放送局長
 札幌礦山監督局
 局長 安達祥三
 局長 武內征平
 局長 岩崎潔
 局長 手塚義信
 局長 島村重雄
 局長 平野重雄

運轉部長 原田弘
 工務部長 渡邊榮五郎
 工作部長 森謙二
 經理部長 桐村四郎
 船務部長 矢野鐵夫
 運輸事務所
 札幌事務所 內山三四治
 釧路事務所 三輪則成
 旭川事務所 米山精一郎
 函館事務所 吉澤彌平
 稚內事務所 熊谷綾雄
 野付事務所 倉田武司
 室蘭事務所 武井敦通
 保線事務所
 札幌事務所 菊田辰藏
 野付事務所 坂部勝夫
 釧路事務所 林士郎
 函館事務所 江藤智
 室蘭事務所 武田利雄
 旭川事務所 大谷新太郎
 名寄事務所 渡邊市太郎
 建設事務所(旭川)
 宮本保
 工場
 苗穂工場 星源藏
 五稜郭工場 武藤猪作
 旭川工場 田中猪作
 釧路工場 佐野佐左

○札幌鐵道病院 武藤昌知
 ○連絡船 長
 函館棧橋長 竹內忠太郎
 飛鷹丸船長 中村利一
 津輕丸船長 大友榮次
 松前丸船長 山之内吉兵衛
 第一青函丸船長 中山正策
 第二青函丸船長 川上陸司
 稚內棧橋長 永谷篤一
 亞庭丸船長 伊藤政豐
 宗谷丸船長 小林正治
 俱知安驛長 安藤庄太郎
 小澤驛長 衣川宗吾
 余市驛長 藤田一作
 小樽驛長 伊藤潔
 手宮驛長 表原實太郎
 南小樽驛長 前田誠
 小樽築港驛長 前田誠
 札幌驛長 山崎文一
 苗穂驛長 吉田文一
 江別驛長 大島作造
 岩見驛長 山崎文一
 美見驛長 大島作造
 砂川驛長 太田宇八郎

五六四
 岩內驛長 土肥二郎
 幌內驛長 森茂
 幾春別驛長 岩田利作
 歌志內驛長 谷口九一
 函館驛長 大石善六
 五稜郭驛長 小中多吉
 森驛長 園部勇
 八雲驛長 吉田平治
 長萬部驛長 津田卓
 黑松內驛長 京野義久
 上磯驛長 梅田彦一
 木古內驛長 照井旭
 瀬田驛長 前田己之二郎
 虹田驛長 小野寸鳥夫
 伊達別驛長 森脇一二
 室蘭驛長 田谷良吉
 東室蘭驛長 國分久雄
 登別驛長 大島豐吉
 登別驛長 塚崎博
 追分驛長 渡邊榮助
 栗山驛長 種市六郎
 紅葉山驛長 宮井平八
 鹿ノ谷驛長 藤館重太郎
 夕張驛長 小野芳太郎
 瀧川驛長 安居豐治
 深川驛長 太田凱一
 旭川驛長 高橋重逸
 新旭川驛長 本間恒太郎

人名錄

留萌驛長 坂井來
 增毛驛長 櫻井佑二
 羽幌驛長 南方尙志
 新得驛長 竹田友吉
 上川驛長 藤田千代治
 帶田驛長 秋山勇良雄
 池田驛長 木林俱治
 釧路驛長 高津戸登太郎
 厚岸驛長 井上久
 根室驛長 羽田金一
 廣尾驛長 高館恒三郎
 本別驛長 間村熊助
 野付牛驛長 山口信治
 美幌驛長 柏木三治郎
 網走驛長 本村榮六
 斜里驛長 高橋仁左衛門
 留邊蘆驛長 內藤知忠
 遠輕驛長 佐々木市右衛門
 士別驛長 築田茂
 名寄驛長 小國孝臣
 美深驛長 相良恒彦
 音威子府驛長 大森恭一
 幌延驛長 白土泰
 稚內驛長 和泉太平
 下富良野驛長 萩茂雄
 達別驛長 大場庄太郎
 中湧別驛長 關根正雄
 渚滑驛長 田中繁男

紋別驛長 小川正雄
 恩給金庫 江口實
 小樽出張所長 江口實
 職業紹介所
 札幌事務所 小田拓三
 函館事務所 川崎正夫
 函館事務所 佐々木鐵三郎
 小樽事務所 赤澤滋雄
 小樽事務所 遠藤潔
 旭川事務所 川口勇吉
 室蘭事務所 片山敬次
 釧路事務所 山下嘉次郎
 岩見澤事務所 中田重吉
 出張所
 森所長 祐村勇次郎
 余市所長 三浦治郎
 名寄所長 河端與次郎
 瀧川所長 清水敏郎
 總長 今裕
 名譽教授
 宮部金吾
 小倉御太郎
 秦勉造
 須田金之助

○農學部 長 半澤洵
 新島善直
 時任一彦
 高岡熊雄
 尖戸乙熊
 半澤洵
 明峰正夫
 星野勇三
 吉町太郎
 松村松年
 教授
 半澤洵
 里正義
 高橋榮治
 中島九郎
 井口賢三
 宮脇富
 上原徹三郎
 小華和忠士
 柄内吉彦
 大澤正之
 大飼哲夫
 佐藤義夫
 坂村徹
 前川十郎
 木下榮次郎
 福山伍郎
 福士貞吉
 小林已智次
 御園生義一
 土屋四郎
 松田武雄
 尾崎卓郎
 島善鄰
 渡邊侃
 伊藤光治
 龜井專次
 松田武雄

五六五
 菊地武直夫
 田町以信男
 今田敬一
 佐藤昌彦
 三田村健太郎
 谷本勇造
 館脇正人
 長尾俊二
 金勝七
 平戸勝七
 荒又操
 山崎春雄
 有馬英二
 香宗我部壽
 中村精七
 大野亮
 志賀亮
 柳壯一
 眞崎健夫
 大熊泰治
 正宗勝男
 武田勝男
 助教授
 岡田正夫
 梅田芳次郎
 芳村五左衛門
 中村幸彦
 權平昌司
 内田登一
 高倉新一郎
 宇留野祐壽
 白濱亨次郎
 鳥倉亨次郎
 高田幸二
 橋本吉雄
 常松榮
 山崎春雄
 中川貞見
 越智義英
 西川義郎
 山上熊郎
 永井一夫
 兒玉作左衛門
 朴澤進
 井上善十郎
 安保壽
 田村茂美
 猿渡二郎

人名錄

木村 正一 鮎川武一郎 石橋 俊實 南浦 邦夫 奥田 義正 高杉 年雄 小川 玄一 山田 豊治 伊藤 昌一 三上 二郎 中村 弘 小室 秀一郎 倉塚 良夫 倉塚 良夫 大島 義清 三浦 勝 小野 諒兄 井口 鹿象 福富 忠男 鷹部 屋福平 阿久津 國造 大賀 惠二 堀 義路 佐山 總平 淺見 義弘 佐野 新三郎 鳥山 四男 高桑 健 宗宮 知行 久次 米三夫 武田 直秀 池田 芳郎 兒島 茂 道家 欽 大坪 喜久太郎 俣野 麻太郎 新郷 高一 山上 孝 林 猛雄 吉原 英夫 眞井 耕象 久野 陸夫 下坂 實 熊澤 良雄 竹多 勇 黒岩 保

五六六

片山 辰雄 篠原 卯吉 阿部 忠明 板倉 忠三 酒井 邦雄 林 邦雄 理學部 長 小 熊 捍 教 授 小 熊 捍 田 所 哲 太 郎 池 田 芳 郎 坂 村 徹 眞 鈴 木 醇 吉 田 洋 一 長 尾 巧 茅 誠 司 松 浦 一 堀 健 夫 原 田 準 平 柴 田 善 一 太 奏 康 光 中 谷 宇 吉 郎 山 田 幸 男 河 口 商 次 功 力 金 二 郎 堀 内 壽 郎 梅 田 魁 大 石 三 郎 市 川 純 彦 岡 本 剛 吉 村 豊 文 四 手 井 綱 彦 守 屋 美 賀 雄 佐 々 保 雄 齊 藤 孝 次 郎 牧 野 佐 二 郎 吉 田 順 五 渡 邊 武 男 藤 原 正 教 主 授 藤 原 正

藤原 正 鈴木庄治郎 岩瀬 喜作 野附雄次郎 鈴木 限三 朽木 十吉 中根 孝治 東 新 山鳥藤治郎 大山於菟治郎 和 田 禎 純 樟 本 成 美 齋 藤 護 國 宇 野 親 美 田 上 政 敏 佐 藤 久 次 高 橋 丑 治 清 水 榮 長 芳 村 五 左 衛 門 河 端 梁 雄 都 築 東 作 小 林 種 樹 佐 藤 昌 彦 坂 元 義 男 今 堀 克 己 萩 原 清 次 郎 結 城 謙 治 大 野 勝 治 西 村 稔 曾 我 孝 之 大 野 三 千 右 衛 門 吉 田 龍 男 榎 垣 良 一 田 内 靜 三 渡 部 信 夫 川 島 琢 治 菊 地 知 岡 田 鴻 記 千 田 朝 慎 村 上 玉 樹 小 松 三 郎 玉 樹 外 人 教 師 H M レ ン カ ク レ ン プ B R S レ ン プ 土 木 專 門 部 西 田 辰 三 郎 教 主 授 西 田 辰 三 郎

小樽高等商業學校

西田辰三郎 佐伯 利吉 服部 幸一 林 助一 小 林 幸 治 森 田 健 造 武 田 要 吉 助 教 授 森 田 健 造 校 長 武 田 要 吉 名 譽 教 授 菅 米 地 英 俊 渡 邊 龍 聖 伴 房 次 郎 教 授 卜 部 岩 太 郎 井 浦 仙 太 郎 濱 林 生 之 助 小 林 象 三 手 塚 壽 郎 木 部 林 二 西 田 彰 三 品 川 秀 三 糸 魚 川 祐 三 郎 大 野 純 一 南 亮 三 郎 室 谷 賢 治 郎 原 岡 武 橋 本 誠 高 橋 次 郎 中 野 清 一 井 上 紫 電 木 村 重 義 大 谷 敏 治 三 箇 清 松 尾 正 路 久 木 久 一 木 曾 榮 作 林 五 郎 梶 浦 彦 臣 北 田 和 成 玉 井 武 齋 藤 政 一 花 村 哲 夫 服 部 政 一

外人教師

マツキンソン スミルニツキイ
メイチン ストリ
關益良 マチルド
クレルクス

師範學校長

札 幌 師 範 上 山 道 造
函 館 師 範 本 橋 傳 治
旭 川 師 範 福 富 正 吉

實業學校長

北海中學(札幌) 戶津 高知
苫小牧中學 渡邊 富治
北空知中學(深川) 古野 俊清
札幌夜間中學 中村 友平

教 授

佐々 茂雄 村山 佐太郎 佐々 茂雄 大島 幸吉 今田 清二 山本 清内 正田 豊治 時田 郁 佐々木 榮一 武田志藤之輔 大竹 義雄 大垣 光平 中村 太郎 高野 政吉 小林 佐太郎 渡邊 宗重 吉村 克二 服部 喜作 村上 三郎 井上 直一 鈴木 利助 佐々木 衛 菅野 昇 竹内 能忠 菅野 利助 助 教 授 青 柳 喜 平 梅 野 萬 里 若 松 三 郎 川 崎 毅 一 田 村 正 池 田 九 八 黄 田 武 夫 橋 上 宗 一 里 館 健 吉 大 友 涉

中學校長

札幌第一中學 加勢 藏太郎 札幌第二中學 中村 友平 函 館 中 學 渡 邊 善 次 小 樽 中 學 水 上 正 廣 旭 川 中 學 元 木 省 吾 鋼 路 中 學 佐 藤 修 一 室 蘭 中 學 小 野 德 四 郎 瀧 川 中 學 日 下 恒 俱 知 安 中 學 藤 井 幸 永 岩 見 澤 中 學 岡 部 貞 三 郎 名 寄 中 學 大 根 田 資 雄 野 付 牛 中 學 淺 山 正 路 網 走 中 學 藤 田 節 也 八 雲 中 學 高 井 貞 吉 帶 廣 中 學 西 本 俊 雄 稚 內 中 學 松 田 金 五 郎 余 市 中 學 石 井 鋼 次 郎 留 萌 中 學 安 宅 喜 太 郎 其 他 小 樽 市 立 中 學 藤 井 德 三 郎

立 立

函 館 商 業 立 野 與 四 雄 小 樽 商 業 吉 田 利 吉 根 室 商 業 太 田 金 次 郎 室 蘭 商 業 澁 谷 政 秀 旭 川 商 業 大 和 田 誠 壽 小 樽 水 産 飛 鳥 貫 治 函 館 水 産 萩 原 茂 空 知 農 業 小 笠 原 龜 一 十 勝 農 業 吉 水 梯 藏 永 山 農 業 渡 邊 金 助 札 幌 工 業 西 野 金 助 函 館 工 業 瀧 澤 一 馬 苦 小 牧 工 業 三 橋 藤 太 郎 其 他 札 幌 商 業 戶 津 高 知 北海商業(小樽) 西岡 重義 札 幌 光 星 商 業 河 村 謙 小 樽 市 立 商 業 吉 田 彌 之 助

立 立

札 幌 高 女 江 原 玄 治 郎 函 館 高 女 奧 村 季 吉 小 樽 高 女 葛 谷 謙 一 旭 川 高 女 寺 山 吉 平 室 蘭 高 女 平 賀 仙 三 郎 鋼 路 高 女 原 守 夫 網 走 高 女 神 谷 俊 治 根 室 高 女 坪 谷 金 夫 岩 見 澤 高 女 岡 部 猪 作 苦 小 牧 高 女 工 藤 政 治 名 寄 高 女 山 崎 猪 作 深 川 高 女 北 浦 延 治 郎 瀧 川 高 女 大 澤 幸 平 池 田 高 女 石 原 惣 六 江 別 高 女 松 田 樂 造 富 良 野 高 女 中 平 太 郎 帶 廣 高 女 河 田 菊 馨 岩 內 高 女 藤 原 菊 藏 江 差 高 女 加 藤 良 太 野 付 牛 高 女 中 村 重 次 郎 其 他 札 幌 市 立 高 女 伊 坂 員 維 小 樽 市 立 高 女 阿 部 忠 次 郎 旭 川 市 立 高 女 岡 村 威 儀 北海高女(札幌) 武 宮 威 儀 札 幌 高 女 新 島 善 直 北 星 高 女(札幌) レ 西 岡 重 義 小 樽 綠 丘 高 女 西 岡 重 義

人名錄

五六七

遺愛高女(函館) 小畑 信愛
 帶廣大谷高女 松山 善亮
 小樽双葉高女 豐田 善基
 函館大谷高女 新郷 法灌
 函館聖保祿 マルキ
 札幌靜修女校 林造酒太郎
 稚内高等女學校 佐々木健雄

兼任小學校長

(五等待遇)

札幌郡圓山校 渡邊 永助
 茅部郡森校 小本保太郎
 空知郡幾春別校 一ノ瀬運次郎
 虻田郡虻田校 白井柳治郎
 有珠郡伊達校 山本長三郎
 小樽市第一校 飯田 復鹿
 釧路市日進校 藤野 鎌助
 (六等待遇)
 札幌郡江別校 高橋 季雄
 濱益郡濱益校 桑原 久夫
 札幌郡白石校 大村榮三郎
 石狩郡石狩校 小松 隆之
 上磯郡木古内校 佐藤 兼吉
 上磯郡上磯校 佐々木重助
 松前郡松城校 工藤福次郎
 山越郡八雲校 齋藤 豐藏
 龜田郡大中山校 對島 榮一
 松前郡根部田校 田鎖郁太郎

上磯郡釜谷校 佐々木源太郎
 瀬棚郡瀬棚校 加藤 作治
 爾志郡雲石校 針谷 爲治
 檜山郡江差校 富樫 保藏
 虻田郡俱知安校 佐熊 隆介
 岩内郡岩内西校 狩野 豊七
 余市郡大川校 五十嵐仁三郎
 余市郡余市校 太田 又藏
 壽都郡壽都校 渡邊 哲藏
 空知郡美唄校 松本 末吉
 空知郡奈井江校 入江虎太郎
 空知郡三笠山中央校 井上森太郎
 雨龍郡深川校 高橋 英造
 空知郡芦別校 尾崎 政市
 夕張郡夕張第一校 高橋種三郎
 空知郡聖園校 佐々木末太郎
 空知郡常盤校 齋藤 慶男
 雨龍郡一巳校 飯野達太郎
 夕張郡栗山校 狩野 盛秀
 上川郡名寄校 佐藤健治郎
 中川郡恩根内校 川田得之助
 上川郡士別校 弘田 秀義
 上川郡鷹栖校 草浦 達治
 上川郡近文第一校 今宮 虎雄
 天鹽郡上幌延校 石川 久重
 宗谷郡稚内北校 丹後次三郎
 宗谷郡稚内校 屋代久太郎
 紋別郡湧別校 細木秀太郎

常呂郡野付中央校 本間 政治
 常呂郡野付西校 平野 徳治
 紋別郡遠輕校 石原 傳平
 斜里郡斜里校 關川 石禪
 虻田郡洞爺校 山岡 末男
 勇拂郡洞爺川校 目黒末譽至
 有珠郡長流校 加納 勘市
 有珠郡有珠校 越田孫四郎
 勇拂郡厚真校 鈴木 友昌
 勇拂郡苦小牧東校 田中正太郎
 浦河郡浦河校 永井 政藏
 沙流郡平取校 石黒 茂孝
 幌泉郡油駒校 田口 小亮
 廣尾郡大樹村校 向山滿左志
 中川郡池田校 須崎 藩
 河東郡上士幌校 佐々木圓太
 札幌市西創成校 富樫 勳
 札幌市豐平校 山口初太郎
 札幌市大通校 秋澤與四郎
 札幌市第一校 久田儀兵衛
 札幌市第二校 岡田 忠著
 札幌市青柳校 小川善太郎
 函館市松風校 宗像 敏英
 函館市幸校 下河原 清
 函館市彌生女子校 鈴木 尙
 函館市市場校 久慈慎一郎
 函館市中島校 田村胤次郎
 櫻田 義英

(七等待遇)

札幌郡圓山第二校 小西喜代人
 札幌郡篠津校 佐藤 良也
 札幌郡琴似校 池田庄太郎
 札幌郡惠庭校 高橋 芳松
 札幌郡月寒校 村井 秀三
 札幌郡平岸校 小森 庄吉
 石狩郡當別校 大橋 涉
 札幌郡島松校 美勢 由男
 札幌郡廣島東部校 菅井 禮一
 厚田郡厚田校 遠藤 喬
 千歳郡千歳校 長澤 榮
 札幌郡江別第二校 久永 善治
 上磯郡泉澤校 丹野 利吉
 龜田郡七重校 小林 義郎

龜田郡湯川校 野本 力藏
 龜田郡錢龜澤校 高橋次四郎
 龜田郡日新校 館 英太郎
 茅部郡磨光校 大立目仁止
 茅部郡落部校 落合 武夫
 山越郡長萬部校 關屋 盛八
 久遠郡久遠校 伊藤 正
 瀬棚郡今金校 中野 正一
 爾志郡乙部校 三輪 勝造
 檜山郡上ノ國中央校 須田 勇一
 檜山郡日明校 煮雪 浩三
 檜山郡早川校 澁谷今朝治
 磯谷郡蘭越校 中村 寅吉
 磯谷郡中目名校 藤田 龍吉
 虻田郡東俱知安第一校 吉田 利吉
 虻田郡留壽都校 本間 守柔
 岩内郡岩内校 一柳 直枝
 古平郡古平校 竹林源虎郎
 美國郡美國校 問谷多悦郎
 余市郡澤町校 谷村由太郎
 忍路郡鹽谷校 小川原毅負
 高島郡高島校 柄内謙三郎
 小樽郡錢函校 千葉 長男
 空知郡岩見澤校 藤本 才助
 夕張郡由仁校 日下部 勝太郎
 夕張郡丁未校 服部 斌二
 雨龍郡妹香牛校 和田 恒
 空知郡瀧川第一校 大森 市三

樺戸郡新十津川校 西山 昇一
 空知郡瀧川第二校 十河與太郎
 空知郡瀧川第三校 寺島 達道
 夕張郡鹿ノ谷校 佐々木久五郎
 雨龍郡沼田校 田中秀次郎
 夕張郡角田校 泉 廣遠
 空知郡北辰校 長谷川俊藏
 空知郡神威校 下川部 勝太郎
 雨龍郡秩父校 中村 鶴吉
 空知郡歌志内校 河上 幸壽
 夕張郡長沼中央校 竹内 覺成
 雨龍郡石橋校 杉本三千樹
 兩龍郡加内第一校 加藤 豊吉
 兩龍郡加内第二校 稻童丸謙二
 空知郡栗澤南校 後藤 誠一
 空知郡幌内校 赤川又十郎
 樺戸郡月形校 中澤 考七
 上川郡名寄南校 菊田 佐市
 上川郡富良野校 鈴木寅之輔
 空知郡富良野校 藤山繁次郎
 上川郡永山校 今野 良助
 上川郡劍淵校 佐藤 薫
 上川郡旭川校 鈴木鐵太郎
 空知郡上富良野校 梅田鐵次郎
 中川郡美深校 關口 正平
 上川郡比布校 鈴木 敏武
 上川郡上川校 鈴木 敏武
 上川郡風連校 收野 勝

上川郡上士別校 田口 金治
 上川郡東川校 串崎 重雄
 上川郡神樂校 原田 悅朗
 上川郡下川校 山本 廣海
 上川郡愛別校 中田 卓三
 上川郡美瑛校 三上 彰
 上川郡和寒校 岡 統一
 上川郡羽幌校 永滿 利八
 留萌郡禮受校 泉谷 象吉
 留萌郡鬼鹿校 小島 宇一
 天鹽郡豐富校 松山 孝雄
 留萌郡港北校 佐藤 宮人
 留萌郡留萌校 金澤 豊三
 天鹽郡天鹽校 上田 與作
 天鹽郡增毛校 津田 稔
 增毛郡增毛校 佐藤 懋
 苫前郡苫前校 千葉 猛雄
 天鹽郡問寒別校 渡邊清太郎
 苫前郡風連別校 八谷 貫一
 留萌郡小平中央校 佐々木一郎
 苫前郡築別校 野呂 巖雄
 苫前郡燒尻校 野呂 榮六
 枝幸郡枝幸校 對島 榮定
 利尻郡利尻校 吉川 和七
 利尻郡利尻校 米田 和七
 枝幸郡中頓別校 小山内兵眞
 枝幸郡中頓別校 淺水 辰藏
 禮文郡禮文校 宮部 卓造
 宗谷郡尻白校 近藤 一茂

利尻郡鷺泊校 湯佐 定平
 網走郡網走校 小林金太郎
 龜田郡龜田校 濱口 一
 常呂郡上常呂校 合田 堯助
 紋別郡紋別校 宇佐美庫二
 網走郡中藻琴校 三好茂三太
 常呂郡常呂校 柴田貞治郎
 常呂郡常呂校 遠藤 常松
 網走郡津別校 力石 幸八
 斜里郡小清水校 齋藤 慶助
 常呂郡常呂校 關 運次
 常呂郡常呂校 奈良 眞樹
 虻田郡豐浦校 伊藤榮太郎
 勇拂郡早來校 藤島 慶治
 勇拂郡遠淺校 下田 孝一
 三石郡三石校 片倉 三郎
 三石郡三石校 星川 賢吉
 樣似郡樣似校 北村 浩
 靜内郡高靜校 竹内 鼎
 浦河郡萩伏校 尾崎良太郎
 沙流郡門別校 尾崎 謙作
 幌泉郡幌泉校 遠藤 謙作
 沙流郡厚賀校 牛島 義人
 上川郡新得校 德永 元助
 上川郡幕別校 齋藤福太郎
 中川郡清水校 西川 興三
 中川郡本別校 阿部 清治
 河西郡芽室校 丹代三千郎
 河西郡幸震校 高橋 米藏

人名錄

廣尾郡廣尾校 定森 悅雄
中川郡西足寄校 永原 信吾
中川郡屈足校 石川定之助
中川郡仙美里校 北村 貞藏
河東郡御影校 松田 芳治
河東郡音更校 星 辰雄
河東郡下音更校 河野宇三郎
河西郡旭校 平井 保
中川郡茂岩校 鈴木 德助
中川郡鳥取校 橋本 文雄
川上郡標茶校 宮原 重成
厚岸郡厚岸校 岩崎 巖
厚岸郡眞龍校 中谷佐武郎
白糠郡白糠校 橫澤 宇宙
阿寒郡雄別校 秋葉 菊次
足寄郡雄別校 青木京太郎
白糠郡音別校 紅林 鐵雄
野付郡上風連校 春日 織作
根室郡北斗校 高橋 正男
標津郡武佐校 阿部 進
標津郡標津校 佐々木 孝
根室郡厚床校 土岐 明
花咲郡華岬校 飯田作太郎
札幌市中央創成校 飯田廣太郎
札幌市東校 湊 謹造
札幌市山鼻校 明石 一朗
札幌市北九條校 三浦 秀夫
札幌市幌西校 笹原 健三

札幌市東橋校 肴倉 福藏
札幌市幌北校 阿部 蕃
札幌市桑園校 五十嵐齋衛
札幌市女子校 若林嘉次郎
函館市千代女校 竹内 金作
函館市柏野校 大山 虎松
函館市巴校 外崎初五郎
函館市常盤校 菅原 茂人
函館市新川校 輪島 良作
函館市函館女子校 金子 平吉
小樽市色内校 岩橋 重人
小樽市量德校 村上 猛
小樽市長橋校 沖垣 寬
小樽市奧澤校 朝枝 文祐
小樽市手宮西校 藤野慶治郎
小樽市稻穂女子校 千住 光雄
小樽市量德女子校 羽下 靜吾
小樽市手宮校 五十嵐 鐵
小樽市日新校 竹下豫五郎
旭川市大有校 大和田 俊
旭川市中央校 中山 德治
室蘭市女子校 栗田寛太郎
室蘭市鶴ヶ崎校 中村 貞雄
室蘭市武揚校 伊勢 昌浩
室蘭市北辰校 場崎 喜義
釧路市城山校 大沼 保徳

帶廣市啓北校 三ッ谷三藏
(八等待遇)
龜田郡大野校 神谷 如意
瀨田郡馬場川校 高岡 種義
磯谷郡昆布校 大島嘉津衛
虻田郡喜茂別校 今野 利吉
空知郡茂尻校 魚住周治郎
空知郡中富良野校 佐藤文治郎
空知郡山部校 今野 兼次
空知郡古丹別校 奥田 廉二
空知郡野付牛東校 角田 韓一
常呂郡野付牛東校 高橋 泰雄
常呂郡相内校 白川 泰司
常呂郡美幌校 小川 豐作
網走郡美幌校 小川 豐作
三石郡歌笛校 伊藤 琢磨
阿寒郡阿寒校 渡邊 岩市
函館市高盛校 成田惣八郎
小樽市入船校 松浦庄太郎
旭川市朝日校 板木 朔二
釧路市湖畔校 瀨川 清

小樽市 山本 厚三
小樽市 板谷 順助
札幌市 澤田 利吉
札幌市 一柳仲次郎
第二區
東川市 坂東幸太郎
東川市 武
旭川市 松浦周太郎
中川郡美深町 松浦周太郎
第三區
函館市 大島 寅吉
函館市 渡邊 泰邦
函館市 田代 正治
第四區
東川市 赤松 克磨
東川市 手代木隆吉
空知郡砂川町 北勝太郎
夕張郡夕張町 松尾 孝之
空知郡音江村 深澤 吉平
第五區
河西郡茅室村 遠山 房吉
札幌市 木下成太郎
網走郡網走町 東條 貞
釧路市 南雲 正朝
石狩支廳管内
札幌市 河合才一郎
千歲郡惠庭村 田中 菊治

五七〇

札幌市 佐藤 一雄
渡島支廳管内
山越郡八雲町 大田半三郎
上磯郡上磯町 廣部 太郎
茅部郡森町 川村善八郎
山越郡八雲町 米澤 勇
檜山支廳管内
檜山郡江差町 北林 屹郎
檜山郡東檜町 大東 勝市
後志支廳管内
虻田郡俱知安町 田中 信夫
虻田郡俱知安町 小川原政信
古宇郡神惠内村 出町初太郎
余市郡余市町 藤田 淳一
空知支廳管内
樺戸郡新十津川村 香川 兼吉
空知郡三笠山村 村田 要助
雨龍郡北龍村 北 政清
夕張郡夕張町 吉野五郎次
雨龍郡深川町 兒島 銀藏
空知郡砂川町 川口 常作
空知郡瀧川町 山田 清壹
空知郡岩見澤町 深見松太郎
上川支廳管内
上川郡比布村 村上 元吉
中川郡美深町 高橋日出男
旭川市 反橋 信一
上川郡神樂村 安達利三郎

旭川市 鴻上 覺一
上川郡和寒村 松本六太郎
留萌支廳管内
留萌郡初山別村 麻里 梯三
留萌郡留萌町 堺 太一
宗谷支廳管内
宗谷郡稚内町 西岡 斌
函館支廳管内
網走支廳管内
斜里郡斜里村 山田 正元
紋別郡下湧別村 谷 虎五郎
常呂郡野付牛町 飯田 義茂
常呂郡野付牛町 河西 貴一
紋別郡紋別町 古屋 正氣
紋別郡紋別町 土田巳之助
膽振支廳管内
有珠郡伊達町 伊藤政治郎
有珠郡伊達町 齋藤 主計
日高支廳管内
靜内郡靜内町 吉田 貫一
三石郡三石村 坂東秀太郎
十勝支廳管内
中川郡池田町 山本與七郎
帶廣市 奧野小四郎
河西郡大正村 楠木熊太郎
中川郡本別町 菅野 冬治
釧路支廳管内
釧路市 伊藤 八郎

釧路市 高野 源藏
根室支廳管内
根室郡根室町 小池貞一郎
根室郡根室町 安藤 石典
札幌市 正木 清
札幌市 戶津 高知
札幌市 池田新三郎
札幌市 井川 伊平
函館市 鳥井小次郎
函館市 岡田 幸助
函館市 山崎藤太郎
函館市 西島 儀助
小樽市 岩谷 靜衛
小樽市 橫山 準治
小樽市 林 松藏
旭川市 高瀬 怡
旭川市 前野與三吉
室蘭市 岡本 幹輔
室蘭市 菊地三之助
釧路市 菊地三之助
帶廣市 森久 彌市

民政支部長 木下成太郎
民政支部長 山本 厚三
市長・市會
札幌市 三澤 寬一
市役 伊澤 廣曹
市役 遠藤喜四郎
市役 上口 外吉
市役 井川 伊平
市役 村田不二三
市役 石川 剛三
市役 笹沼 孝藏
市役 淺野 一夫
市役 齋藤義太郎
市役 村上 六松
市役 菅原鐵之助
市役 村川 嘉一
市役 佐藤 一二
市役 若狹由次郎
市役 關根 仙次
市役 佐瀨 介治
市役 高田 富與
市役 岡田 勝惠
市役 小谷 義雄
市役 齋藤 俊次
市役 柏野 忠八
市役 梅津 藤吉
中山 豐士

政黨支部長

五七一

人名錄

○函館市
市長 齋藤興一郎
助役 彌吉 茂樹
収入役 當作小一郎
高瀬 重之 大島 寅吉
經塚 彌三 鎌田 武造
登坂 良作 杉崎 郡作
西島 儀助 大坪 孝一
三上 嘉六 小野 將造
高村善太郎 入江 精一
高木 直行 山崎松次郎
小河 勇松 白木 豊壽
森 信 寺尾 庄藏
河合 繁 清水 一郎
鳥井小次郎 高橋 芳信
花光春之助 渡邊 源助
美坂熊次郎 長岡清三郎
木内 幹 恩賀徳之助
成田健次郎 折居義一郎
上田 源次 菊地 洲二
厚谷 厚 櫻井 永吉
大黒三太郎 野崎竹次郎
出村 喜作 秋尾 吞風
齋藤 忠 岡川 正治
但野 清助 田代 正治
小樽市 役長 河原 直孝
助市 幸吉

○旭川市
市長 赤塚 元平
収入役 竹内 勘七
助役 星野 健作
坂井 新三
壹岐 隼太
松本菊次郎
向島 清一
岡田 往一
富樫 長吉
梅津 藤吉
藤森安五郎
岡本 善藏
高城乙三郎
金野 誠介

○室蘭市
市長 土居 通次
収入役 横田 一二
助役 大野 清吉
松川 一二
結城 竹治
關 米助
鈴木 康嗣
泉 政功
栗山 榮吉
高橋 春吉
本間 徳夫
日野 泰治
岩下 良次
上野 次郎
收 入 役 長 佐藤 國司
助 役 佐藤 宏平
市 役 長 葛西 吉松
武本實三郎
阿部 力藏
滿田 武
茅野 滿明
菊地三之助
井上 常吉
鎌田 豊作
中西六太郎
石川 秋吉
進藤 長太郎
梁瀬 福造
淺里 篤
郷司 源藏
高野 尾慶吉
宮本 正吉
五十輪 熊五郎
尾崎 政範

○釧路市
市長 猪狩孫三郎
助役 織田 將一
古道 直治
三枝 守壽
岡本 幹輔
山中 露史
秦 諦次郎

○洞爺湖町
市長 田邊虎三郎
助役 吉川 市次
田中 義高
高橋多々勝
西林 寅松
大間助太郎
山口 定吉

市 助 市 市
市長 渡部 守治
助役 大江 啓一
収入役 山本 謙悟
市長 佐藤 龜太郎
市 助 市 市
市長 森久 彌市
市 助 市 市
市長 古株 駒三郎
市 助 市 市
市長 安部 隆義
市 助 市 市
市長 響 清吉
市 助 市 市
市長 京藤 又市
市 助 市 市
市長 小泉 碧
市 助 市 市
市長 鹽入 麟次郎
市 助 市 市
市長 森 嘉太郎
市 助 市 市
市長 村瀬 秀松
市 助 市 市
市長 照本 幸吉
市 助 市 市
市長 淵上 勝太郎
市 助 市 市
市長 鹽谷 精吾
市 助 市 市
市長 佐野 榮一
市 助 市 市
市長 櫻井 貞一

○札幌
市長 大瀧 甚太郎
市 助 市 市
市長 新田 啓二郎
市 助 市 市
市長 村上 嘉一
市 助 市 市
市長 井上 源藏
市 助 市 市
市長 小林 源藏
市 助 市 市
市長 松岡 諄吉
市 助 市 市
市長 上口 外吉

○小樽市
市長 上田 良治
収入役 赤塚 元平
助役 竹内 勘七
坂井 新三
壹岐 隼太
松本菊次郎
向島 清一
岡田 往一
富樫 長吉
梅津 藤吉
藤森安五郎
岡本 善藏
高城乙三郎
金野 誠介

○小樽市
市長 水野 一策
収入役 西出 梯二
助役 寺尾 庄藏
函館通運會社
佐野 鐵次郎
山崎松次郎
河合 繁
關 豊作
三上 純次
南 勇太郎
堀 商店
酒谷 商店
小樽 商店

○旭川市
市長 鶴間 禮藏
市 助 市 市
市長 松家 圓次郎
市 助 市 市
市長 岡野 末男
市 助 市 市
市長 元木 三平
市 助 市 市
市長 藤田 猪三夫
市 助 市 市
市長 北日本 醸造會社
市 助 市 市
市長 西田 幸次郎
市 助 市 市
市長 旭川 商會社
市 助 市 市
市長 三輪 喜一郎
市 助 市 市
市長 堀川 太郎治
市 助 市 市
市長 淺野 悦藏
市 助 市 市
市長 山崎 與吉
市 助 市 市
市長 旭川市 街軌道
市 助 市 市
市長 山崎 清軒商店
市 助 市 市
市長 山本 孫次郎
市 助 市 市
市長 富岡 吉助
市 助 市 市
市長 佐藤 傳吉

人名錄

西澤 德彌 尾田 作藏
伊藤平三郎 尾田 富藏
松浦吳服店 (松浦 長藏)
北海道運送社 (成田 篤次)

副會頭 金井 重喜
村上商店代表 (村上 祐二)
高木 泰藏 國松太四郎
鈴木 康嗣 進藤 毅

空知支廳 栗山商工會 小林米三郎
長沼商工會 前田喜三九
夕張商工會 吉野五郎次

和寒商工會 小林 正雄
劍淵商工會 橫井彌兵衛
士別商工會 鈴木 顯藏

人名錄

清水商工會 生本半三郎
芽室商工會 松本 武
帶廣商工會 伊谷半三郎

津別商工會 佐藤 久作
下渚滑商工會 中田 郁三
渚滑商工會 中田 岩藏

水上兵二郎 法邑 久平
篠路村 (村長) 紺谷元次郎
竹内 榮吉 木田菊太郎

圓山町 (町長) 飯田 誠一
上田 守藏 武田 典
高田金之助 三關 武治

人名錄

小林正五郎 西内寅吉
 鷺田彌太郎 樋口重藏
 伊藤作一 稻垣福松
 榊原直次郎 木内彌市
 橋本吉之助 中野常吉
 伊藤政榮 小森德次郎
 佐藤國次郎 藤田久藏
 田畑龜次郎 勝見直吉
 △廣島村 (村長)
 國田松一郎 山田爲吉
 長崎關太郎 山田伊太郎
 細川勝作 間野祐治
 坂井澤松 赤倉其次
 白崎房吉 高橋松三郎
 田中善作 湯淺久見
 國廣正一 大谷俊次郎
 小谷米造 大瀨戶國寶
 青山德一 吉田茂一
 △江別町 (町長)
 長谷川長太郎 坪松唯三郎
 長津吉太郎 桑原秀吉
 平本相吾 湯谷元藏
 加藤閑哉 河合才一郎
 佐藤北士 上出善松
 保倉又次郎 中山富造
 西山豐吉 菅原金郎
 泉拙藏 矢澤染太郎
 加賀魁太郎 山田朝三郎

大塚了 伊藤五郎右衛門
 上野孝義 松田清一
 梶野三郎 三好岩吉
 山口正 山口正
 △石狩町 (町長)
 堀部銀藏 高野金作
 鈴木信三 飯尾圓什
 石井立之進 山田義男
 松田恒義 嘉屋徳光
 清野孫市 横山玉太郎
 筒井豐次郎 青木政男
 關戶金三郎 加藤重郎
 栗生虎楠 金子清一郎
 吉田茂一 赤山岩吉
 △當別村 (村長)
 辻野辻太郎 白石俊夫
 横濱慶雄 松田忠太郎
 吾妻阿蘇男 松井繁次郎
 千葉好美 野尻清松
 鹿野惠造 倉知由秋
 向井澤 山田貞三郎
 山下繁 銀治銀二
 近藤角右衛門 吉野外治郎
 松岡安治 清野文之助
 水野龜次郎 森豐藏

小泉哲三 鹽野菊太郎
 山崎銀一 吉原兵次郎
 前田利雄 鈴木勝二
 高橋平次郎 宮本定吉
 △新篠津村 (村長)
 宮城源十郎 松永清次郎
 松本貞藏 横山權太郎
 北口與三右衛門 黒壁權次郎
 △厚田村 (村長)
 沖田重榮 西木次作
 國行爲助 宮岸仁三
 村本定三郎 笹川三三郎
 早川幸作 仲田實
 小笠原龍市 小濱益村 (村長)
 岸木巖雄 村岡民藏
 八木重太郎 内山末造
 越智正一 木村哲男
 池田佐吉 羽二生佐與吉

田邊周作 石丸彌榮
 東出太郎市 宮田一正
 市川末吉 西井忠次郎
 高田政吉 植島豐次郎
 松本長吉 友坂市太郎
 吉永雄亮 山本吉明
 藤林嘉悦 酒井寛道
 戸田善作 和泉留吉
 佐藤常三郎 澁谷甚太郎
 上野多市 熊谷常三郎
 眞田貞八 眞田文亮
 高田政次郎 佐々木與吉
 小里平三郎 岡崎直一

柴野八十八 高氏太吉
 △惠庭村 (村長)
 林愛助 田中菊治
 出倉平教 手谷川民治
 田中善松 赤崎政次郎
 河尻與九郎 玉川徳次郎
 淺野留次郎 嘉屋辰十郎
 福本豊一 北岡善作
 龜田榮次郎 福本磯次郎
 宮田早太郎 谷内惣次
 寺西伊三郎 溝新之助
 △千歳村 (村長)
 中川種次郎 山田定吉
 瀧川亮次 渡部榮藏
 安澤作次 高橋徳久
 關久五郎 廣重貞雄
 鈴木六三郎 清水市郎
 西野忠義 桑島與吉
 細川孫作 井上榮作
 新谷他人造 戸田平一
 谷本龜 吉田峯藏

○空知支廳
 △岩見澤町 (町長)
 横田安太郎 吉田清右衛門
 前田肇 菅野常一郎
 山口宗太郎 成瀬慶太郎
 河原吉太郎 橋本元藏
 金井友三郎 朝山和一郎

人名錄

武部豊次郎 吉井清吉
 山本三四郎 宮本仙松
 西村又次郎 庄野雪次郎
 長利卯之八 山根秀吉
 天野清信 莊司常吉
 津神忠義 萩原惣一郎
 西川直次郎 原田民藏
 菅善治 風間智恵
 荒井勝太郎 和田理吉
 靈山一宗 本間權平
 △北村 (村長)
 中川藤吾 池田慶造
 高田彦三郎 岩田龜吉
 三島實藏 平重藏
 崩山長藏 金森保太郎
 北村長藏 鳥井英一
 入谷藤市 小西四郎
 田中善作 淺野琴治
 星野貢 阪井久四郎
 片岸米吉 白戸慶次郎
 △栗澤村 (村長)
 有澤初太郎 富塚庫太郎
 山崎作之助 三澤清
 山田利忠 岩崎國治郎
 織田泰守 川森太郎
 植村貞吉 坂井忠
 柴辻五郎 本田榮三郎
 大越繁雄 有澤角次郎

櫻田總之丞 石田平三
 澤田權兵衛 小川英雄
 小松兵之丞 小幌向村 (村長)
 長谷川源之丞 佐藤藤吉
 南部誠七 前田平次郎
 多田等 小山兼一
 △三笠山村 (村長)
 須川甚松 原野米作
 森口福一 古田房之助
 松尾謙太郎 太田龜壽
 吉田勇 淺野爲吉
 德田稔 相澤留五郎
 山本清躬 谷口良平
 小原慶松 木村勘吉
 山貫松次 山貫松次

池田潜龍 房川喜代太郎
 嵯峨久藏 上北數榮
 赤松清一郎 大島立一
 大栗又吉 久保富太郎
 佐藤治朗 竹内乙藏
 野村宗太郎 川合重内
 村田要助 小林茂
 中島慶助 中村久吉
 高橋三郎 後藤三之助
 庵義太郎 更科熊治
 加藤岩雄 小林秀治
 相場春雄 横山巳代吉
 佐藤要藏 高橋喜太郎
 庄司末治 榎本金藏

△美唄町 (町長)
 柳瀬正光 小島豊作
 加藤軍司 齊藤眞一
 長内定吉 石谷壽子
 中野忠司 熊谷善次郎
 鈴木勝重 高橋吉次郎
 徳田康作 山田登
 加藤時藏 鈴木太藏
 田中要助 田中要助

△砂川町 (町長)
 西川伊三郎 窪田磯次
 北勝太郎 佐藤三太郎
 盛田孝作 山内喬
 山本政道 東宗吉
 松島善太郎 成田恒太
 酒谷正一 酒谷正一

本庄英次 谷本得正
 岩城邦平 池田千治
 坂東浩一 大西茂
 中野與作 村山宗次郎
 杉野竹次郎 土榮新助
 小林太惣二郎 吉澤喜惣次
 眞持寛一郎 山本浅吾
 諸留良助 佐藤伊久馬
 小林政利 大櫛順一
 長谷川長七 永井新吉
 川口常一 石丸茂
 山吹彌太郎 中村小佐
 倉本富四郎 齋藤外茂
 山口常作 山口常作

大西仲次 渡邊好
 寺山朝 赤澤徳藏
 △瀧川町 (町長)
 赤阪利作 山本庵
 寒河江巧 阪本茂
 石渡寛 龜谷虎藏
 小川政男 樋口隆治
 郷作太郎 吉倉常藏
 齊藤欣峰 吉田儀作
 △江部乙村 (村長)
 大崎恒吉 佐藤專之助
 高谷秀松 高谷宗三郎
 本所久太郎 成田甚作
 村上寅之進 村上寅之進
 松儀一男 村井安太郎
 △音江村 (村長)
 角島勇吉

杉本正平 依田卜次
 川崎浅八 工藤爲藏
 神部吉藏 前田秀彦
 次田信一 塚本信一
 浦部金藏 小林儀三郎
 柳井清太郎 柳井清太郎
 荒島柳市 荒島柳市
 染谷幸吉 細川寅平
 高橋與四藏 高橋與四藏
 奥山與作 奥山與作
 藤田利雄 藤田利雄
 山本宗平 山本宗平
 吉田元吉 吉田元吉
 三谷彌藏 三谷彌藏
 森浦牛之助 森浦牛之助
 吉本道良 吉本道良
 福永正賀 福永正賀
 角島勇吉 角島勇吉

人名錄

八木 隆 朝妻 勇吉 高橋 伸彰 高崎 丑治 林中 定吉 中出清太郎 廣瀬喜代三 石井 慎作 香川 嘉藏

△歌志内村(村長)
 村本 尚之 長谷 太二 山岸 圓次郎 齋藤 銜一 佐藤 鶴治 杉村 長吉 本庄 義敦 島内 種徳 大橋 庄藏 喜多 治平 信濃儀一郎 長尾 定義

△月形村(村長)
 清水彌惣平 本田 善作 新關 權一 西山 廣吉 星野 惣七 刈田政吉郎 長谷川長次郎 秋保 清作 神田吉三郎 浦白村(村長) 砂田 善藏

東 米作 井上 正男 小西 大三 本田伊太郎 後藤五郎治 林 彌太郎 大野 善七 住友 吉平 坂東 千二 朝倉 鴻一 足立 哲夫 村岡 甚助 村井 一郎 山田忠次郎 岡崎 兵夫 松尾竹次郎 高野幸治郎 桑原 羽介 西原 勉 松下 秀雄 塚田 次彦 宇田 耕一 豐嶋龜三郎 鈴木 蓮亮 杉森榮次郎 中内 光枝 前田次七郎 森川 殖

神田初次郎 大西駒太郎 齋藤 平作 多賀五三郎 廣島淺次郎 大橋 留吉 上野次郎吉 赤平村(村長) 瓜 吉太郎 萬井傳與門 白井徳次郎 神山 盛像 山田 謙吉 幸松 幸作 三上 貫一 三島 勇松 孫崎 義光 若林勝三郎 佐川貝治郎 佐藤 安平

△由仁村(村長)
 池田孫十郎 渡邊外次郎 小林 龍吉 三宅 助彌 早坂喜代右衛門 新田長一郎 龜淵 文平

大谷儀三郎 井川 常太 小塚源一郎 得原 範次 片岸増次郎 島津吳太郎 加藤 正博 河崎 八郎 瀧山修一郎 大久保米太郎 菊地 西吉 田湯 喜作 山田與三太郎 宮崎 清一 笹川喜代榮 島山寅之助 田中吉太郎 河西 達司 佐藤 正藏

△角田村(村長)
 本田 數馬 澤田 與吉 國廣 與吉 小林米三郎 鈴木 彦吉 山下 久七 池田 信孝 兩角 保次 中島太治郎 金森 兼吉 村井 孫次 寶田義三郎

板東徳次郎 田中 兵藏 小林 新吉 小川 榮吉 河崎 義雄 今井平次郎 谷田可思三 奧野徳次郎 白石源太郎 新井與志衛 干場清太郎 飯田 一郎

近藤 好松 篠田 良藏 土井 千海 太田 清義 萩野 藤太 大森 巳範

△納内村(村長)
 安藤 國助 竹田 榮松 古賀 要作 奥場松次郎 立石 利平 松元 長八

△多度志村(村長)
 岩寺 與一 中川 那藏 辻本 彌吉 狩野 卯吉 板垣 忠藏 尾崎秀三郎 長谷川長左衛門 桶谷 榮吉 池田藤次郎

△雨龍村(村長)
 石立 本治 後藤 喜男 山本 彌八 三宅 六郎

山口勇次郎 北村福太郎 宮田 貞吉 須田 悅次 平田乙次郎 山田 作次 太田誠八郎 吉岡 勳 中川 嘉一 村上 清孝 川西新太郎 鹽田 實 飯沼 一二 松實 菊治 伊藤重太郎 寺本仙次郎 潮見 務 押田 一畝 長谷部 清 中村 末吉 高桑 守儀 水谷 誓一 水田文太郎 阿部 秀雄 松平菊次郎 前川 正治 佐々木市五郎 伊藤 清藏

△夕張町(町長)
 三好定太郎 淺野吉太郎 菊池 庄吉 越田雪次郎 齋藤 秀次 武内 一 佐久間勘吉 石川 庄吉 江端 寅松 矢部 金作 坂本 初藏 兩角 嘉平 中倉 東策 岡本尙太郎 藤野 市藏

△月形村(村長)
 荒川 宗藏 山本 政藏 伊藤捨治郎 重木源左衛門 佐藤策五郎 奈良 坂盛 石田松四郎 大江 宅次 青山 薫 高橋 誠 岡本 幸信 佐藤 五老

近田留四郎 小西太一郎 能勢 莊吉 島山友次郎 中岡信四郎 矢島 家幸 草島善太郎 石井 安一 野崎 達雄 木村 武郎 橋内 治助 深澤 末松 鎌田 儀藏 芳川 信次 山岸延治郎 井若喜三郎 荒川 宗藏 山本 政藏 伊藤捨治郎 重木源左衛門 佐藤策五郎 奈良 坂盛 石田松四郎 大江 宅次 青山 薫 高橋 誠 岡本 幸信 佐藤 五老

人名錄

千田 二一 田村彦次郎 佐々木彦次郎 山岸 友吉 友成 又六 則本 正治 鎌田徳太郎 平井寅太郎

△新十津川村(村長)
 浦上 彰恭 鎌塚 清次 上谷 秀明 後木喜三郎 政所 延寛 田中 由忠 大西 善平 中垣 隆政 和久井武平 玉井 幸平 有馬 權太 井上 祐一

△深川町(町長)
 能登作次郎 村上儀三郎 栗原 貞治 森口 佐吉 船越宗太郎 坂本 長八

後藤 元吉 須藤 連治 岸 兵二郎 楠本米太郎 杉野 金藏 中村 喜作 笹木 與三 尾花 兵藏 宇城 義一 岡本 勝信 松重 和吉 前川 吉藏 上杉 秀雄 笹木 象雄 富久尾與市郎 高桑源次郎 山下文多郎 北澤 道 五十嵐小之助 平野 勇藏

山本 彦太 津田 源衛 福士邦三郎 市田重三郎 藤田 勘助 辰繁 又一 浦 三

齋藤 嘉繁 市橋 竹男 澤田石太郎 國吉 政一 田中 泰造

△妹香牛村(村長)
 丸岡久三郎 林 太治郎 中野竹次郎 川上亭四郎 稻本小千太 山本庄次郎 近藤 忠次 寺崎 直二

△秩父別村(村長)
 吉田美彌治 田中源太郎 稻場龍次郎 岡内 徳市 高崎助次郎 小原 明 川原 榮作 榎本 勳 西田 正一

△一巳村(村長)
 吉田 四郎 垣谷 玉吉 西村 茂勝

坂本 北夫 北本 順 清水治郎吉 土川鶴次郎 挽地儀三郎 細川 堅吉 山下 政吉 武田定次郎 遠藤庄次郎 杉村 政常 木澤佐之助 青木大次郎 小野魁之助

大西又五郎 造田 信夫 早川由太郎 佐々木 正 戸川 秀男 浦川 重雄 山崎 林藏 石山 孫作 伊藤 光治 橋本 岩應 竹原 岩吉 神野八右衛門 徳田 與吉 水谷伊三郎

近藤 好松 篠田 良藏 土井 千海 太田 清義 萩野 藤太 大森 巳範

山口勇次郎 北村福太郎 宮田 貞吉 須田 悅次 平田乙次郎 山田 作次 太田誠八郎 吉岡 勳 中川 嘉一 村上 清孝 川西新太郎 鹽田 實 飯沼 一二 松實 菊治 伊藤重太郎 寺本仙次郎 潮見 務 押田 一畝 長谷部 清 中村 末吉 高桑 守儀 水谷 誓一 水田文太郎 阿部 秀雄 松平菊次郎 前川 正治 佐々木市五郎 伊藤 清藏

前川健太郎 河野 義勝 樽野 正種 伊藤菊次郎 谷本佐次郎

△北龍村(村長)
 林 爲三郎 小松伊勢一 加地彦太郎 松本 勘次 横尾 熊六 渡部 仙吾 竹林 伊作 和泉才市郎 長澤 健吉

△沼田村(村長)
 宮脇 吉春 宮崎 友市 金山 義尾 黒瀬 正守 澤田太一郎 中島 定治 梁川源之助 柄田田之吉 青陽松太郎 生田原源平 田島五三郎 黒田 榮藏

岡部右太郎 宮西 延治 佐八木榮松 後藤 武雄 西尾幸太郎 佐々木幸男 神藤 惣助 木村 鼎一 細川政二郎 浅木 福松 沼田重次郎 村上 朝夫 新谷 政二 青木 新助 後藤三男八 諏訪六七郎 高石藤四郎 村上 保則 萩原 重男 稻垣 源一 渡邊 弘 三谷 義規 橋本木代松 稻田卯一郎 大西 瀧一 高橋 貞衛 高倉喜一郎 石井 賤驅

人名錄

△幌加内村(村長) 佐藤 伸昭
 内山 將夫 山崎久太郎
 長尾 宇八 名取 信吉
 玉置 竹松 山下與三郎
 新田 次郎 花輪留十郎
 鈴木 四郎 佐藤 初藏
 多田 東一 梅木 勝介
 古屋 作造 瀧谷 榮吉
 大福宜 半三郎 研谷 艶内
 高久保重一 鈴木安兵衛
 半澤 喜助 吉田 政吉
 森 春一 古屋筆二郎
 政本 雷 栗津 清藏

○上川支廳
 △東鷹栖村(村長) 武田信之助
 小林 松一 清水 兵作
 黒崎 平治 篠原常次郎
 上島安次郎 山本安次郎
 中山 傑 西下利三郎
 關 仁三郎 川島留五郎
 西田安太郎 大河原萬平
 青木 幸助 輻原 良夫
 鈴木 清藏 桑田 絹次
 鉢呂 千松 工藤 傳助
 △鷹栖村(村長) 本谷 英雄
 澤田仁三郎 山元仁太郎
 上谷 菊松 佐野 磯次
 谷口 由松 宮野金次郎

△江丹別村(村長) 永見 清藏
 本間 勇八 澤田作次郎
 丸山 虎治 小林慶次郎
 高瀬淺次郎 北野儀次郎
 △東旭川村(村長) 井原彦太郎
 土田松太郎 小岩 安美
 大崎 庄一 高垣 仙藏
 菊田 繁八 高橋甚四郎
 入江 卓爾 荒明丑太郎
 光澤 幸一 上代菊次郎
 小谷 勝治 廣田豐次郎
 金谷由次郎 木幡 元惠
 合田 清七 外山 與平
 鈴木 元藏 吉田 榮吉
 酒井 榮吉 谷村 實治
 山地 巖 中山喜次郎
 戸島 富松 安達利三郎
 △神樂村(村長) 富居 一江
 國澤美代次

△神居村(村長) 森 伊三郎
 坂上 貞吉 窪田由次郎
 昌山松次郎 吉本 文助
 相川 一吉 永山村(村長)
 武田 善藏 宮崎 清作
 山本儀十郎 山本儀十郎
 茨木 太郎 乾 咲次郎
 中橋 勇市 齋藤六三郎
 加藤徳太郎 竹田 二市

△比布村(村長) 鈴木貞三郎
 廣瀬滿壽喜 谷 一
 谷藤 國治 中野 仲治
 篠原 定吉 堀部美之助
 八卷 健吉 岡崎豐次郎
 △愛別村(村長) 丸山秀次郎
 鞠古常三郎 前佛 豊作
 船橋銀次郎 木村朝治郎
 岡木才二郎 田宮 只助

△當麻村(村長) 藤本 幸一
 木下六三郎 石王 理吉
 安藤 昇 長繩 佐一
 二瓶 清二 岸山甚兵衛
 廣瀬 徳藏 小坂橋靱負
 野口末太郎 比布村(村長)
 鈴木貞三郎 廣瀬滿壽喜
 谷藤 國治 中野 仲治
 篠原 定吉 堀部美之助
 八卷 健吉 岡崎豐次郎
 △愛別村(村長) 丸山秀次郎
 鞠古常三郎 前佛 豊作
 船橋銀次郎 木村朝治郎
 岡木才二郎 田宮 只助

△比布村(村長) 鈴木貞三郎
 廣瀬滿壽喜 谷 一
 谷藤 國治 中野 仲治
 篠原 定吉 堀部美之助
 八卷 健吉 岡崎豐次郎
 △愛別村(村長) 丸山秀次郎
 鞠古常三郎 前佛 豊作
 船橋銀次郎 木村朝治郎
 岡木才二郎 田宮 只助

△當麻村(村長) 藤本 幸一
 木下六三郎 石王 理吉
 安藤 昇 長繩 佐一
 二瓶 清二 岸山甚兵衛
 廣瀬 徳藏 小坂橋靱負
 野口末太郎 比布村(村長)
 鈴木貞三郎 廣瀬滿壽喜
 谷藤 國治 中野 仲治
 篠原 定吉 堀部美之助
 八卷 健吉 岡崎豐次郎
 △愛別村(村長) 丸山秀次郎
 鞠古常三郎 前佛 豊作
 船橋銀次郎 木村朝治郎
 岡木才二郎 田宮 只助

人名錄

植本 榮一 井口 寅一
 片山 増一 岡田 清實
 △上川村(村長) 中江庄三郎
 井上 信次 稻垣平太郎
 西本 嘉一 明石 幸輔
 辻井喜一郎 鶴野辨太郎
 大方 繁次 長谷岩次郎
 河野 判治 佐藤堅太郎
 坂本 西治 森瀨治之助
 橋脇助次郎 水野金次郎
 片岡 清吉 小關 妍
 瀧田 俊雄 北原 信實
 △東川村(村長) 佐藤政之輔
 米山三郎右衛門 宮野 清造
 山田孝太郎 小西 清藏
 山下麻次郎 太田 善助
 永江 天亮 松岡市四郎
 水野 要市 山下權太郎
 西原安太郎 石原 喜作
 洞 銀市 宮崎 筆一
 長谷川兵左衛門 杉原 廣吉
 寺岡茂治郎 東 元次郎
 △美瑛村(村長) 嵯城 甚平
 水上 源 黒松 秀夫
 井上 俊三 今城 政一
 山崎 梅吉 高橋重太郎
 保田 陸利 金屋 六助
 矢島谷之助 春日 一義

田村藤四郎 富樫龜之助
 三田 元由 山下 糸吉
 山岸 與松 大槻盛之助
 水口 市郎 堀田 末松
 菅野 義信 野村 鶴松
 馬場 孫作 大谷治三郎
 越智 市藏

△上富良野村(村長) 金子 浩
 西谷元右衛門 久保 米八
 久野 春吉 荻野 源作
 小林八百藏 手塚 新一
 古川古之助 山本 一郎
 四釜卯兵衛 松原 照七
 小川 總七 仲川善次郎
 白井 彌八 田中勝次郎
 岩田 長作 廣瀬七之丞
 金子 全一 北原 稔
 中澤 新松 芳賀吉太郎
 海江田武信 西條兵治郎
 福家 敏美 新井與市郎
 △中富良野村(村長) 安井 慎一
 岡田 長榮 松藤 宇吉
 泉 虎吉 太田金之丞
 松元 傳吉 山口源五郎
 内田 熊吉 坂本清太郎
 大瀧繁太郎 太田 熊吉
 北 太吉 磯山 秀夫
 幸田 太一 松永 定雄

安喰 彦六 松木 一安
 市村 邦二 野澤 正行
 △富良野町(町長) 松崎品次郎
 相田 長吉 堀田保太郎
 古東 久平 笠木 末吉
 田中 三三 兒玉 定一
 西村 准治 執行 藤洋
 唐澤 千尋 高橋 儀弘
 名取 孝 野口辰之助
 荻 茂雄 藤田喜代作
 中山 清一 泉 安郎
 梅下 勞助 植崎昇二郎
 平山 源彌 高見 仙助
 藤原 宗信 平嵐謙四郎
 長尾 政彌 山坂 準藏
 △山部村(村長) 奥山 萬藏
 根子孫次郎 松野 助八
 高橋卯之吉 西森 芳松
 植木吉太郎 榎本要之助
 鎌田 嘉壽 田中徳太郎
 田中松太郎 吉岡 春治
 松平 藤藏 岩出 義次
 地引 平吉 藤木巳三郎
 加茂 一雄 大屋 直市
 峰谷六之助 尖戸 三治
 △南富良野村(村長) 木造 右衛門
 定塚孫右衛門 伊藤 勇
 山田 久光 角谷辨次郎

佐野 茂康 佐藤市太郎
 湯原 榮吉 田中 文吾
 佐々木慶一 谷村 秀吉
 山名 林藏 磯江 仁平
 川島 房吉 堤 茂市
 中林 金作 高橋 一夫
 山田每四郎 今井 美之
 △占冠村(村長) 峰廻 英男
 板谷 新作 小林甚八郎
 堂坂 房吉 山崎 力太
 山内半次郎 木村 佐泰
 井田忠次郎 森 數三郎
 堤 仁八 伊藤喜久治
 山下 要助 岡田 基輔
 △和寒村(村長) 川越 武躬
 橋 八十八 阿部 清吉
 佐藤 勉 鷺見松右衛門
 海老原 武 淺野 義賀
 岡 傳四郎 二口佐太郎
 小島 圓 川島 衛三
 上田兵太郎 加藤 徳次
 田中久右衛門 小川 義雄
 乘田 新七 小笠原 福次郎
 舟橋 要 南雲深一郎
 △劍淵村(村長) 佐藤敬之助
 鳥本 慶一 保喜千代松
 眞鍋 榮作 阿部 銀一
 三野田照一 狩野 次郎
 中谷 壽 兒島 平吉

人名錄

佐々木市郎兵衛 淺井 秀藏
 原 芳太 吉野清治郎
 小沼 誠 小林 爲吉
 村岡 一郎 藤原 嘉平
 鎌谷熊五郎 笹島 敬助
 △溫根別村(村長) 東海林三郎
 宇部宮芳太郎 中村 清吉
 中山與四郎 田西由太郎
 野村代三郎 田中 舞吉
 市田 弘 高橋 三郎
 田中 智治 宮崎清治郎
 本田 次平 近藤 貞喜
 △土別町(町長) 伊藤仙五郎
 土山爲治郎 大城 開二
 濱下 市郎 渡邊喜惣壽
 山口 保吉 久光 鷹士
 藤野 長作 德長德三郎
 深澤 喜由 宮本今朝七
 安川 篤 千葉 正重
 高橋 役次 武山 東三
 田口 政信 北村 勇作
 永峯 只七 笠井庄太郎
 堀井 利夫 松川萬次郎
 清水 孫三 三浦 滿吉
 宮武 德平 館田賢次郎
 △上土別村(村長) 高橋 榮吉
 小野 幾太 岡 笹一
 岡崎 平藏 大原 北輝

伊藤留次郎 藤原 柳吉
 石川留太郎 千田 清
 川口卯太郎 谷内田昌夫
 乾 雄次郎 辻本 石松
 平嵐清之助 今西清一郎
 中谷 方久 堀田松五郎
 小西彦次郎 鈴木 新吉
 栗林 五作 菅野 昌吉
 織戸 三松 熊谷 直吉
 庄司 傳七 赤川千代松
 △多寄村(村長) 後藤 良作
 岡 千賀次 北野 作松
 岸梅 佳三 野原 甚吉
 古市新太郎 井口直次郎
 土橋 信江 近藤久太郎
 近藤峯三郎 近藤 門平
 上總 薫 松本 米吉
 △名寄町(町長) 石丸 瀧藏
 荒瀬 宗二 戸井 謙
 酒井榮太郎 米永 外二
 高橋啓次郎 今西 武
 岡田 新一 山本太之助
 有山庄太郎 入倉 又門
 神山 玉吉 大友 稱胖
 田中 文吾 名取 忠夫
 中島 長造 中本 三一
 片井 義人 石崎國三郎
 野坂清太郎 角館祥二郎

佐藤八太郎 加野島安太郎
 平間 庄八 茂木 清一
 △下川村(村長) 森岡 幸作
 水間 安造 村上貞次郎
 末武次郎吉 安原 丈平
 上村喜代松 山本 米藏
 神成 作治 今泉榮治郎
 星 西治 森 重孝
 藤原 吉藏 大内 要助
 高原佐太郎 吉井 純彌
 仲山 惣藏 丹野 助七
 △智惠文村(村長) 西村政次郎
 飯塚光太郎 清水 正直
 大和田善治 野原助太郎
 小泉卯三郎 北野七郎右衛門
 花井 石松 安東 利正
 熊谷 泰治 南原 百市
 高田 貞男 堀 捨次郎
 △美深町(町長) 谷口榮三郎
 久富 熊雄 十龜 善一
 上田 龜一 山村卯一郎
 宮原 玉一 原田 信夫
 蓮沼 靖 樋渡 秀雄
 宮原憲次郎 中村金太郎
 豐島 淺吉 元木松右衛門
 服部 鹿藏 坂井 春作
 重田 善作 十龜久五郎
 佐藤 養作

木下勇二郎 嵯城 追二
 池田 清治 藤守 德儀
 阿部 孟 越智甚兵衛
 △常盤村(村長) 早乙女 清
 山口 伊作 伊藤 源德
 宇佐見理兵衛
 石川 脩治 山下 清八
 代藏元次郎 西野治郎作
 小池 勝藏 藤岡軍太郎
 佐々木西松 奥村 繁吉
 △中川村(村長) 今江 武雄
 古田 紋吉 長屋 治平
 福本作二郎 小畑 與一
 佐藤 梅吉 吉田 榮造
 下村 常信 日置美濃助
 遠藤 嘉藏 石田袖次郎
 熊谷 清 佐々木與助
 吉田安太郎 福島 達雄
 佐藤 正夫 遠藤彦太郎
 松田 德松 小岩惠三郎

○後志支廳
 △朝里村(村長) 津田 運吉
 井口龜次郎 大野利八郎
 宮城 義雄 原田 源藏
 野邊地 務 藤村 龍造
 余湖 乙松 久末 末吉
 西川 政義 小松 市郎
 新谷久五郎 德光富太郎

人名錄

片岡 秀 竹内 義雄
 北田弘三郎 木下豊太郎
 吹田 止 藤平喜三郎
 △高島町(町長) 竹島武治郎
 小田 忠吉 茨木與八郎
 佐藤 寅吉 富樫松之助
 青山 民治 松田 重藏
 大江 鹿藏 柴田百合造
 上前吉太郎 内山 建作
 藤本 周一 播摩 三郎
 飯田 三吉 小畑 文吉
 鮎田宅次郎 渡邊 藤松
 本間 德松 龜山三代吉
 △鹽谷村(村長) 白石 武臣
 山吹 武一 川合 總七
 和田恒次郎 坂本 孝助
 堀内利兵衛 柴崎豊次郎
 金子儀三郎 志和 甚平
 大竹 文吉 久野吉三郎
 竹内傳次郎 木村 岩藏
 熊谷 作造 本間榮太郎
 北田繁次郎 島山 竹松
 中橋 駒吉 石原五郎松
 △余市町(町長) 笠島 貞治
 山田伊勢吉 梅津 淺吉
 北島 善吉 夏目三保次
 弘津 堯 東 秀夫
 澤田 誠二 久留宮新十郎

村山 吉次 藤田 淳一
 坂本角太郎 飯田虎太郎
 若林 種藏 江川福次郎
 真村總之助 吉田 増次
 福岡勘次郎 西谷 勇
 山田松太郎 阿部 鶴松
 中根金太郎 津田美津彦
 東谷 平八 津田美津彦
 △大江村(村長) 鹽谷 洋
 笠井 守 尾池 武吉
 井形喜平郎 安崎政之進
 野村 敬明 戸島 信雄
 山下 薫 中村 器昭
 島海 萬作 坂垣 勇
 東 政吉 小林齊三郎
 阿部 關 加藤 永治
 宮本 由吉 鈴木 駛郎
 渡邊 丈七 渡 與助
 △赤井川村(村長) 小田島嘉二郎
 片山 和利 齋藤惣二郎
 熊野茂太郎 岡 友一
 幡野 秀次 新見 善一
 阿部清次郎 岡西 貞平
 高橋 多助 米澤熊太郎
 茂内爲五郎 清水清二
 △古平町(町長) 一戸 孝
 田岸 藤吉 齋藤 林藏
 佐々木孝泰 種田健之丞

田中吉太郎 横山 隆起
 吉野 金治 山口 正治
 高野 平治 越中 庄七
 渡邊幸次郎 本間 愛藏
 梅野 富藏 中野 雅榮
 大澤吉三郎 藤田 秀雄
 木村誠四郎 齋藤兼太郎
 △美國町(町長) 福井石太郎
 磯野 定繁 尾本 繁
 長谷川拾吉 下潤 靜夫
 中谷菊次郎 梅野晴三郎
 福井重次郎 岩本龜次郎
 坂倉 穂松 中村 剛雄
 千葉 博 福井重次郎
 △入舸村(村長) 小林榮三郎
 原田 桂市 葛西 留藏
 今井利兵衛 逸見 寅藏
 羽根田和作 長濱己三郎
 曾我 忠藏 杉山 岩藏
 △余別村(村長) 山北 彦吉
 本間 一 相川 平三
 白方 與平 飯田 久治
 大川藏太郎 安部治三郎
 金杉瀧太郎 佐藤 由藏
 高橋 城造 畑中新三郎
 新谷藤三郎 服部重兵衛
 △神惠内村(村長) 圓子喜四郎
 北井 長作 小倉卯之助

本谷清太郎 稻葉光次良
 佐野川久吉 川島四五六
 萬壽 祐治 三上 丑松
 鈴木信太郎 千場 榮吉
 若林 岩藏 池田富太郎
 △泊村(村長) 栗城 三吉
 吉田 茂藏 酒本 賢作
 村田岩次郎 内田 利市
 金田 理平 金澤長太郎
 田原與之吉 伊藤又治郎
 武井熊之助 濱中 清作
 長岐儀四郎 井田北次郎
 小峰寅之助 西島羽久一
 安木甚太郎 葛間 悦郎
 福原 愷三 成田 幸一
 △島野村(村長) 三澤 武一
 齋藤 甚作 樋口 龜治
 佐々木泰助 中村 二三
 住吉力太郎 小塚長次郎
 小野寺武雄 金澤 菊松
 △岩内町(町長) 淺野目浦吉
 山谷養太郎 三輪喜知郎
 長谷川岩松 平澤 拙造
 本間 龜藏 萬谷 多吉
 三ツ野美之 合田作太郎
 福島 義雄 宮下 淺吉
 大村重次郎 澤口 復三
 川端 正吉 岩井治三郎

人名錄

佐藤 鐵松 瀧山 多市 勝浦 國藏 田中 廣藏 牛木 勝美 中川 幸次郎 丸田 輝夫 上田 彌太郎
 小川喜代治 黒田 東作 中岡 新藏 伊藤 榮作 行天慶太郎 藤田 秀太郎 村瀬 宇太郎
 櫻居 甚吉 橋本 謙 石田金次郎 高山 禎亮 伊藤 三夫 武重 徳次 石田留太郎 青山 友文
 森 與四郎 西村幸次郎 秦 俊市 木太 善吉 齋藤 權四郎 香川 政助 肥沼 正之 岩野 長藏 熊谷 勝三郎
 本間源次郎 萬谷周之助 山下 熊太 齋藤 義覺 古家 傳藏 鈴木 安次郎 友保 長吉 寺尾 源藏 今村 榮吉
 △前田村 (村長) 西田房四郎 山本 利平 伊達 吾次郎 鈴木 正一 宇田 正一 齊藤 恭三 村田 富太郎 岡村 省護
 上川庄次郎 下川 榮光 能登 庄吉 川崎 友吉 廣瀬 良馬 平尾 嘉太郎 仁司 榮 松本 松三郎 板本 喜作
 池田庄之輔 駒形 留吉 淺井 左門 永原 孝吉 三原 昇治郎 福島 新太郎 鈴木 仁治郎 村中 乙松 佐藤 文俊
 福谷 正一 岡田 由藏 高橋 住三郎 三原 昇治郎 福島 新太郎 鈴木 仁治郎 村中 乙松 佐藤 文俊
 安田 一也 岡田 由藏 高橋 住三郎 三原 昇治郎 福島 新太郎 鈴木 仁治郎 村中 乙松 佐藤 文俊
 木村 福松 西田 秀吉 名畑 長太 福島 新太郎 鈴木 仁治郎 村中 乙松 佐藤 文俊
 岩本 豐 木村 庄太郎 延川 賢太郎 樋口 七五郎 藤川 治平 村中 乙松 佐藤 文俊
 △發足村 (村長) 笹原喜四郎 谷 芳美 佐々木 覺美 秋山 勝祐 大西 佐源太 眞田 龜治郎 伊藤 義澄
 長尾 五六 古澤 又二 中尾 秀一 柴山 又吉 大沼 龍之助 伊藤 市太郎 小川 次郎 福島 新治郎
 奥 九一 三浦 榮三郎 小林 直次郎 賀川 仁郎 千葉 良内 丸山 喜代藏 藥袋 常太郎 柳田 元吉
 川上喜十郎 河野 熊助 村山 永藏 小川 直次郎 賀川 仁郎 千葉 良内 丸山 喜代藏 藥袋 常太郎 柳田 元吉
 酒井 犬市 長門 又一 賀川 仁郎 千葉 良内 丸山 喜代藏 藥袋 常太郎 柳田 元吉
 小田 庄市 松本 清一郎 賀川 仁郎 千葉 良内 丸山 喜代藏 藥袋 常太郎 柳田 元吉
 西島 金次郎 奥野 長太郎 賀川 仁郎 千葉 良内 丸山 喜代藏 藥袋 常太郎 柳田 元吉
 △小澤村 (村長) 若森 通 鎌田 春吉 丸山 喜代藏 藥袋 常太郎 柳田 元吉
 浦川喜三 齋藤 啓次郎 八木 大四郎 拜戸 誠一郎 天坂 正 野村 市太郎 廣川 惠藏
 池田 榮太郎 齋藤 啓次郎 八木 大四郎 拜戸 誠一郎 天坂 正 野村 市太郎 廣川 惠藏
 金澤 宇一 齋藤 啓次郎 八木 大四郎 拜戸 誠一郎 天坂 正 野村 市太郎 廣川 惠藏
 加藤 寅治 齋藤 啓次郎 八木 大四郎 拜戸 誠一郎 天坂 正 野村 市太郎 廣川 惠藏
 高橋 源太郎 齋藤 啓次郎 八木 大四郎 拜戸 誠一郎 天坂 正 野村 市太郎 廣川 惠藏
 宮澤 榮吉 齋藤 啓次郎 八木 大四郎 拜戸 誠一郎 天坂 正 野村 市太郎 廣川 惠藏
 △俱知安町 (町長) 廣川 惠藏 野村 市太郎 廣川 惠藏 野村 市太郎 廣川 惠藏 野村 市太郎
 阿部 半平 納田 助七 宮崎 彦三郎 新田 豊治

人名錄

水上喜一郎 鈴木 倉治 沼山 眞太郎 瀧谷 菊太郎 佐藤 由藏 大坂 石太郎
 △黒松内村 (村長) 増田 定衛 西島 牧村 (村長) 瀧谷 菊太郎 小川 九右衛門 飯田 富五郎
 高橋 千代吉 鈴木 四郎 大瀧 菊藏 渡邊 駒次郎 藤田 吉松 仁藤 富太郎 山崎 辰三郎
 高橋 榮治郎 名取 龍藏 藤田 吉松 仁藤 富太郎 山崎 辰三郎
 仁藤 總吾 小原 士磨 藤田 吉松 仁藤 富太郎 山崎 辰三郎
 留岡 壽衛 深森 豊吉 伊藤 傳八
 阿部 角太郎 二階堂 庄司 伊藤 傳八
 木村 博介 小山 藤治郎 伊藤 傳八
 △樽岸村 (村長) 橋村 誠 富田 伊三郎 能登 馨 堀井 安則
 古城 政一 越前 谷捨吉 高橋 兵市 堀井 安則
 寺岡 榮 金子 宥法 向山 長五郎 小梅 豊吉 田附 長五郎 辻 誠之 關川 嘉彦 古野 久治 武田 治三郎
 磯濱 才次郎 鹿内 爲次郎 青柳 久七 渡部 庄太郎 酒井 壽太郎 内山 喜兵衛 三原 安太郎 浦 角太郎 寺門 守治 齋藤 萬作 田中 鋤夫 志賀 勘治 金子 由太郎 川内 菊太郎 北見 甚吉 坪 三之助 三春 粕太郎
 成田 政吉 青柳 久七 渡部 庄太郎 酒井 壽太郎 内山 喜兵衛 三原 安太郎 浦 角太郎 寺門 守治 齋藤 萬作 田中 鋤夫 志賀 勘治 金子 由太郎 川内 菊太郎 北見 甚吉 坪 三之助 三春 粕太郎
 小林 太一 渡部 庄太郎 酒井 壽太郎 内山 喜兵衛 三原 安太郎 浦 角太郎 寺門 守治 齋藤 萬作 田中 鋤夫 志賀 勘治 金子 由太郎 川内 菊太郎 北見 甚吉 坪 三之助 三春 粕太郎
 △壽都町 (町長) 酒井 壽太郎 内山 喜兵衛 三原 安太郎 浦 角太郎 寺門 守治 齋藤 萬作 田中 鋤夫 志賀 勘治 金子 由太郎 川内 菊太郎 北見 甚吉 坪 三之助 三春 粕太郎
 安田 隆三 内山 喜兵衛 三原 安太郎 浦 角太郎 寺門 守治 齋藤 萬作 田中 鋤夫 志賀 勘治 金子 由太郎 川内 菊太郎 北見 甚吉 坪 三之助 三春 粕太郎
 畑 金吉 三原 安太郎 浦 角太郎 寺門 守治 齋藤 萬作 田中 鋤夫 志賀 勘治 金子 由太郎 川内 菊太郎 北見 甚吉 坪 三之助 三春 粕太郎
 上杉 六左衛門 寺門 守治 齋藤 萬作 田中 鋤夫 志賀 勘治 金子 由太郎 川内 菊太郎 北見 甚吉 坪 三之助 三春 粕太郎
 中村 久作 齋藤 萬作 田中 鋤夫 志賀 勘治 金子 由太郎 川内 菊太郎 北見 甚吉 坪 三之助 三春 粕太郎
 大野 三吉 田中 鋤夫 志賀 勘治 金子 由太郎 川内 菊太郎 北見 甚吉 坪 三之助 三春 粕太郎
 藤島 藤五郎 志賀 勘治 金子 由太郎 川内 菊太郎 北見 甚吉 坪 三之助 三春 粕太郎
 △東島牧村 (村長) 志賀 勘治 金子 由太郎 川内 菊太郎 北見 甚吉 坪 三之助 三春 粕太郎
 白杵 儀八 金子 由太郎 川内 菊太郎 北見 甚吉 坪 三之助 三春 粕太郎
 佐藤 伴次郎 川内 菊太郎 北見 甚吉 坪 三之助 三春 粕太郎
 四反田 久松 北見 甚吉 坪 三之助 三春 粕太郎
 藤田 寅之助 坪 三之助 三春 粕太郎
 千引 鶴松 坪 三之助 三春 粕太郎

人名錄

西本 善吉 牧口 文一
若山長次郎 下原 政雄
府金 謹彌 水野辰太郎
佐藤健太郎 柴野善一郎
太櫓村 (村長) 佐野 昌平
齋數 龍藏 日置寬左衛門
仁木 堯存 坂井悅次郎
大江信太郎 白川竹三郎
龜尾仁和太 粕谷寅太郎
宮本 數馬 田井重太郎
近藤甚右衛門

△瀨棚町 (町長) 宮下 和平
田中泰一郎 瀧澤 秀吉
宮下 和平 柴崎庄次郎
柴崎庄次郎 林 久三郎
桂田富太郎 河野 幸一
黑田昭太郎 清原 廣吉
結城竹太郎 守村龜治郎
神保 卯平 松本耕三郎
高橋 治平 秋谷 良吉

△東瀨棚村 (村長) 今 榮吉
中村 末吉 大關 榮
藤井庄一郎 岩原三太郎
安藤 勝次 大東 勝市
鹽田重太郎 犬塚 三平
吉田 彦吉 永山 省
椋本 市太 久米 萬吉

△利別村 (村長) 安部 義雄
加藤 五郎 阿部 竹二
狹間 新平 渡邊綱太郎
荒井 壽吉 河端五代松
後藤寅之助 河田 清一
今村藤次郎 岡部長太郎
高島三千三 湯元左馬之助
南川 松榮 鈴木幾太郎
及川 隆 鈴木 海造
野本 矩重 青山 繁
村上美三雄 瀧澤 領助
淺田武三郎 本田 清吉
古賀規矩之 藤倉久左衛門

○渡島支廳

△大島村 (村長) 山本 勇作
高橋梅太郎 北山松三郎
可香金太郎 田中 定三
中江久三郎 渡邊喜一郎
木村 力松 三上國太郎
長谷川 興三郎 林 松三郎
佐々木 重太郎 横山半次郎
佐々木 末松 佐々木 西松
佐々木 仁三郎 茅森榮太郎
齋藤 春吉 齋藤 領三郎
△小島村 (村長) 齋藤 照藏
川合多一郎 竹野 彌吉
堀川源三郎 川守田大作
藤田勘次郎 西村 賢藏

△湯川町 (町長) 辻松新左衛門
松田 知禮 松倉重次郎
岸井 辰男 坂田太七郎
深澤 福藏 渡部 鐵藏
大野岩次郎 三浦清一郎
小林 初藏 中野 幸吉
八戸 佐吉 渡邊 定吉
笠井卯之松 横岩 米藏
鮫川 松造 坂田 竹治
服部常次郎 三瓶 萬吉
△錢龜澤村 (村長) 宮島 與作
大瀧安兵衛 木村 豐吉
和泉 寅吉 九島喜代吉
澤田彌五郎 川村 澤藏
和泉吉三郎 川島 邦彦
福島平次郎 村田平太郎
中宮 龜吉 松井 菊松
岩田久次郎 山田德五郎
高野福三郎 澤田松之進
△戶井村 (村長) 砂子 賢造
永井 繁太 砂子 賢造
丹羽 和八 池田 六助
金澤 藤吉 奥野 兼藏
久米新次郎 佐々木 龜太郎
松田富三郎 岩川 親造
島本石五郎 岩館 兵吉

△尾札部村 (村長) 荒木 龜雄
古俣萬太郎 中村 忠作
長谷川 忠太郎 大宮善五郎
小納 與太 遠山 清治
内藤二太郎 藤本 種八
能戶 忠藏 竹原長太郎
土肥 岩藏 齋藤仁太郎
佐藤圓太郎 杉林 竹男

人名錄

中山乙次郎 南部 湧藏
△茂別村 (村長) 其田矢之八
箱崎小太郎 鈴木 彌七
降尾 寅藏 山本與太郎
菊地 佐助 野口 房吉
飯田 勝治 野口勇太郎
高島德三郎 安部 堅治
千田 勇藏 茶谷 幸一
△上磯町 (町長) 鈴木郁一郎
松田 常吉 廣部 太郎
金澤 武雄 澤田 藤吉
藤田幸右衛門 竹内 實
落合平三郎 吉田由之助
長谷 茂男 落合太一郎
磯田 敏男 高橋太一郎
根元 條二 木村竹太郎
長岡 玉吉 大村和志理
東 正義 杉山修次郎
時田磯右衛門 鍵谷 房藏
堀口宗一郎 福士銀三郎
鈴木 延平 端本市三郎
△大野村 (村長) 鍵谷萬次郎
野村淺五郎 小林 文作
高田 松藏 小林 萬次郎
武田 重吉 澤村吉三郎
仙庭 豐作 本村文太郎
松原孝太郎 吉田 勇藏
稻川 廣光

△湯川町 (町長) 横川 隼人
松田 知禮 松倉重次郎
岸井 辰男 坂田太七郎
深澤 福藏 渡部 鐵藏
大野岩次郎 三浦清一郎
小林 初藏 中野 幸吉
八戸 佐吉 渡邊 定吉
笠井卯之松 横岩 米藏
鮫川 松造 坂田 竹治
服部常次郎 三瓶 萬吉
△錢龜澤村 (村長) 宮島 與作
大瀧安兵衛 木村 豐吉
和泉 寅吉 九島喜代吉
澤田彌五郎 川村 澤藏
和泉吉三郎 川島 邦彦
福島平次郎 村田平太郎
中宮 龜吉 松井 菊松
岩田久次郎 山田德五郎
高野福三郎 澤田松之進
△戶井村 (村長) 砂子 賢造
永井 繁太 砂子 賢造
丹羽 和八 池田 六助
金澤 藤吉 奥野 兼藏
久米新次郎 佐々木 龜太郎
松田富三郎 岩川 親造
島本石五郎 岩館 兵吉

△尾札部村 (村長) 荒木 龜雄
古俣萬太郎 中村 忠作
長谷川 忠太郎 大宮善五郎
小納 與太 遠山 清治
内藤二太郎 藤本 種八
能戶 忠藏 竹原長太郎
土肥 岩藏 齋藤仁太郎
佐藤圓太郎 杉林 竹男

△大野村 (村長) 遠山 清治
藤本 種八
竹原長太郎
齋藤仁太郎
杉林 竹男

坂本 卯吉 杉林幸一郎
 小川 勇助 横山平治右衛門
 △白尻村(村長) 宇野與三五郎
 村井巳代松 北越 榮吉
 姥谷 金作 津田 辨吉
 吉田梅太郎 二本柳文平
 熊谷喜久造 中村 市藏
 成田大三郎 大塚政太郎
 △鹿部村(村長) 大角 武雄
 中村市五郎 川村太次郎
 大澤 與藏 田中 音藏
 小田 金藏 佐々木 力
 修理 良藏 長谷川孝治
 阿部平四郎 盛田 政雄
 渡邊 良吉
 △砂原村(村長) 井上 悟
 村上佐一郎 安藤 義衛
 武澤兵五郎 渡會 岩吉
 尾關 茂吉 河村 鶴松
 坂本吉三郎 木村 直作
 坂本 常作 島田 末吉
 小川利兵衛 加藤七五郎
 輪島 多吉 西村庄太郎
 中村吉三郎 岡本甚太郎
 角野 春吉 岩井久太郎
 △森町(町長) 宮内 三郎
 大野重太郎 佐藤 哲郎
 西川留三郎 金丸金三郎

藤崎 伊作
 磯谷三五郎
 岩田 留吉
 渡邊熊五郎
 池浦 清
 大場又二良
 三浦丑太郎
 長谷川茂太郎
 高橋 豊
 川上錠次郎
 △落部村(村長) 辻村 美矩
 長谷川信義 佐藤菊三郎
 角谷 作平 關口 幸吉
 瀨下 善一 岩間 勝三
 加藤 義春 林 政次郎
 羽賀 才吉 齋藤吉之丞
 野田悦太郎 林 兵造
 △八雲町(町長) 宇部貞太郎
 米澤 勇 跡邊 春吉
 小川 四郎 高見儀三郎
 河原 常二 熱田 美三
 川内松三郎 佐久間寅八郎
 渡邊 駒治 石原 留清
 齋藤鐵次郎 長谷川 鑑
 舟橋九右衛門 伊藤 義良
 金谷 繁一 齋藤 憲彰
 長谷川 三郎 馬場末三郎
 田邊 定治 溝口鎌太郎

東 初太郎
 久藏
 小坂 直藏
 服部 鍋吉
 落合藤太郎
 黒田與三郎
 吉田定太郎
 田中 常吉
 森 梅太郎

小栗 廣一
 山田虎之助
 △長萬部村(村長) 田中 作平
 田中 正則 富田岩三郎
 横野 壽吉 三木勝太郎
 清野 鶴藏 石川菊佐男
 圓城寺君治 今野 東平
 北之與三郎 逸見 銀藏
 清水富太郎 村上 德三
 近藤 豊吉 武田 吉郎
 野崎作太郎 堂下 二八
 吉田常三郎 阿部 仲治
 桑原 常吉 佐藤 光吉
 日沖 昇 金谷勝次郎
 片山政五郎 永井小四郎

高田 次郎
 △壯警村(村長) 伊藤 清吉
 阿野 常吉 三松 正夫
 香川 壽男 鎌田 國平
 坂爪 重治 木原 義作
 中村佐市郎 田村 久吉
 岩倉菊五郎 館崎 民彌
 荒井與三郎 野村 勝平
 込山 政一 南條喜三郎
 大野熊太郎 西島吉太郎
 △德舜警村(村長) 多羅尾政雄
 加藤直太郎 行澤 清美
 小田新之丞 松本勘太郎
 中山 高儀 渡邊 悟
 尾關 芳市 菊地鐵之助
 △洞爺村(村長) 二階堂信次
 小笠原繁雄 安藤 延市
 上野金五郎 宮田 三郎
 牧野 健市 根子森 繁
 大廣 嘉平 間山 茂
 根本 義男 石原 彌吉
 石原 求馬 大西 彌吉

倉淵 春平
 佐相 忠一
 加藤敏太郎
 佐々 三男
 川口 泰治

尾崎 新吾
 宮田 春一
 森本圓次郎
 中村 耕平
 久保田眞誠

△右左府村(村長) 小林 潤
 吉川 武敏 關本惣太郎
 松本 友吉 伊德 英治
 鹿島千代磨 小林喜代治
 矢野 豊吉 下苗 順吉
 櫻岡長次郎 本田 藤藏
 豐田太治馬 松浦熊三郎
 △平取村(村長) 石川 東馬
 櫻井 新八 菊地 虎雄
 五十嵐貞治 西尾高次郎
 船越 萬吉 石崎嘉一郎
 遠藤 一治 鳥野 貫一
 辻 彦次郎 川端 三郎
 奥村 助市 本庄 啓豊
 津川 貞一 仲山助十郎
 安田權兵衛 百瀬 鶴一
 清川 正七 田中鶴次郎
 △門別村(村長) 菊池 眞
 岩寺 長吉 矢野 茂平
 小倉 寛由 矢田與惣次郎
 武田 慶七 島田 庄作
 磯浪 新造 野崎 徳治

黒木 竹一 稻葉百太郎
 阿部 仲衛 田邊 義秋
 石原庄太郎 磯野實太郎
 阿部萬之助 酒田 鶴治
 △豊浦村(村長) 齋藤 益之
 板宮 善吉 松岡 與七
 大谷久米藏 藤川藤清治
 小川 徳彌 赤塚 秀元
 加藤惣之助 佐茂 菊藏
 横田 賢一 佐藤儀惣次
 高畑新五郎 三浦勇五郎
 村井權次郎 正源 次作
 草野善四郎 平井早太郎
 山木安次郎 文字常太郎
 △幌別村(村長) 渡邊 享
 平昌文次郎 志賀 裕
 南 恒平 古山田勝治
 前川善次郎 宮武忠兵衛
 井上 彦綱 赤樫 福平
 松浦治太郎 古山 安澄
 勝岡 留吉 香川 千治
 豊岡佐一郎 三浦彌代松
 岩倉 誠一 中牧 保
 南 清吉 日野 昇
 △白老村(村長) 對馬豊太郎
 鈴木源太郎 久保田仙治
 吉原 新七 上山 千吉
 横山 薫 加藤 常治

山手猪三郎
 油川 道彦
 太田律三郎
 塚見 瀧藏
 宮武藤之助
 三好 竹勇
 △苫小牧町(町長) 八卷 耕三
 苫野巳之吉 栗田 正巳
 高坂 永松 鳥越策次郎
 吉村 義一 柴田丈次郎
 茂呂 年 曾我部文三
 武 米吉 瀬戸 亮
 高橋龜太郎 近藤 武雄
 太田 武雄 長尾 信一
 坂本芳兵衛 澤野 信
 野中 豊作 小宮 良吉
 相武吉治郎 丸 武之助
 中島 誠次 横田 一義
 杉本 福松 北野 市藏
 中道 徳藏 山田佐右衛門
 渡邊 喜吉 高木鎌五郎
 △安平村(村長) 山田忠次郎
 佐々木潔隆 小野寺慶藏
 青木 又八 寺島 弘
 足利 健之 井森仙之助
 平野 仙松 大迫 春市
 小西 儀平 遠藤 善助
 河野 高慧 表 和作

長谷川駒藏
 森竹 竹市
 林 毅
 相吉 松吉
 吉田 與助
 伊東 軍治
 八卷 耕三
 栗田 正巳
 鳥越策次郎
 柴田丈次郎
 曾我部文三
 瀬戸 亮
 近藤 武雄
 長尾 信一
 澤野 信
 小宮 良吉
 丸 武之助
 横田 一義
 北野 市藏
 山田佐右衛門
 高木鎌五郎
 山田忠次郎
 小野寺慶藏
 寺島 弘
 井森仙之助
 大迫 春市
 遠藤 善助
 表 和作

林 秀吉
 谷田 正雄
 立花 人美
 △厚真村(村長) 龜井喜久太郎
 大岩信一郎 川上健次郎
 筒井 善七 長谷川宅藏
 谷内與三郎 里見 五佐
 畑島竹次郎 山川 新吉
 祖谷幸三郎 森田長次郎
 加賀谷與市 齋藤 辨吉
 澤田次四郎 清藤 健藏
 田中 幸安 上田 進
 清水 與八 今泉 武雄
 △鶴川村(村長) 武田才一郎
 古川 平一 篠崎 豊吉
 酒卷仁五郎 篠崎 豊吉
 牧田 耕三 根本 笑喜
 久保田勝雄 大川原コヒサトク
 貞廣 國義 古川 新吉
 島田 秀熙 池田 義章
 三上 蓮治 沼崎 一男
 中奥鐵太郎 近藤 又藏
 神野 政光 大江 虎一
 △穂別村(村長) 松田 尙二
 渡邊 大吉 横山梅太郎
 西尾爲次郎 長岡 谷吉
 武田 宇助 角張 吉次
 山岸 保軌 土居三五郎

高田 次郎
 △壯警村(村長) 伊藤 清吉
 阿野 常吉 三松 正夫
 香川 壽男 鎌田 國平
 坂爪 重治 木原 義作
 中村佐市郎 田村 久吉
 岩倉菊五郎 館崎 民彌
 荒井與三郎 野村 勝平
 込山 政一 南條喜三郎
 大野熊太郎 西島吉太郎
 △德舜警村(村長) 多羅尾政雄
 加藤直太郎 行澤 清美
 小田新之丞 松本勘太郎
 中山 高儀 渡邊 悟
 尾關 芳市 菊地鐵之助
 △洞爺村(村長) 二階堂信次
 小笠原繁雄 安藤 延市
 上野金五郎 宮田 三郎
 牧野 健市 根子森 繁
 大廣 嘉平 間山 茂
 根本 義男 石原 彌吉
 石原 求馬 大西 彌吉

倉淵 春平
 佐相 忠一
 加藤敏太郎
 佐々 三男
 川口 泰治

尾崎 新吾
 宮田 春一
 森本圓次郎
 中村 耕平
 久保田眞誠

△右左府村(村長) 小林 潤
 吉川 武敏 關本惣太郎
 松本 友吉 伊德 英治
 鹿島千代磨 小林喜代治
 矢野 豊吉 下苗 順吉
 櫻岡長次郎 本田 藤藏
 豐田太治馬 松浦熊三郎
 △平取村(村長) 石川 東馬
 櫻井 新八 菊地 虎雄
 五十嵐貞治 西尾高次郎
 船越 萬吉 石崎嘉一郎
 遠藤 一治 鳥野 貫一
 辻 彦次郎 川端 三郎
 奥村 助市 本庄 啓豊
 津川 貞一 仲山助十郎
 安田權兵衛 百瀬 鶴一
 清川 正七 田中鶴次郎
 △門別村(村長) 菊池 眞
 岩寺 長吉 矢野 茂平
 小倉 寛由 矢田與惣次郎
 武田 慶七 島田 庄作
 磯浪 新造 野崎 徳治

人名錄

藤田 義男 飯田外次郎
 大熊 梅吉 棚川 忠雄
 鹿戸 才斗 棚川 忠雄
 太田 弘道 松平市次郎
 笹山 榮一 清兼光太郎
 三輪 久藏 山本 瀧平
 佐々木文吉 濱本安次郎
 森永 新耕 宮坂進太郎
 △新冠村 (村長) 堂前吉之助
 中村與惣吉 武田 尙秀
 藤原初太郎 紙谷嘉太郎
 川越 和藏 我妻 勇作
 中地琴次郎 宮下丹次郎
 山藤 倉松 石田 常治
 田淵 米吉
 △靜内町 (町長) 吉田 貫一
 武岡 清 梅原巳之助
 岡田 康平 望月 六郎
 田代 喜八 高橋 勝藏
 藤原雅三郎 藤澤祥太郎
 土屋 仙吉 道上松太郎
 船越 和夫 飛野 嘉一
 神垣 萬一 橋本 丞一
 藤川仙次郎 曾我部齋治
 多田 頼一 神垣 政市
 富岡 政吉 吉田 傳吉
 宇部初太郎 鹿渡要太郎
 伊藤倉五郎 外山 春吉

△三石村 (村長) 松浦 作藏
 坂東 信之 中村 太七
 出口千代七 高野與次郎
 山村 信秀 堀 久太郎
 中村 信吉 林 末松
 澤口久太郎 原口 新藏
 住友 辰助 前川 正雄
 村中 俊松 廣田 安雄
 廣田 時治 伊地智祐吉
 竹林龜太郎 山腰 繁
 △荻伏村 (村長) 長岡 隆一
 澤 吉夫 古森 治作
 富岡 清 小池熊太郎
 所司寅之進 鈴木 彦次
 北村保右衛門 浦川 清
 中島 巖 小林善太郎
 梅田德五郎 三好俊五郎
 △浦河町 (町長) 荻 丹榮
 高津彌三吉 奥田惣兵衛
 岡本 吉平 久保佳次郎
 舛谷 樹藏 西口 右平
 濱田定次郎 網谷 安治
 本集 長平 田口忠之助
 田中 清三 本集宅次郎
 室田 末吉 谷 萬吉
 谷口由三郎 鎌田 三郎
 木村 秀重 關根 榮治
 齋藤 八郎 足利 平

松山 巖 熊谷翁太郎
 山本 傳吉 小林哲太郎
 △様似村 (村長) 大石 晃弘
 荒澤 定吉 藤原 重
 去問辨次郎 三上 重藏
 明井庄兵衛 工藤三太郎
 東田與太郎 小森 宗尾
 一山 廣治 酒井 徳松
 田中梅次郎 佐藤八三郎
 長森他三郎 高木鎌次郎
 笹島 連藏 高尾左太悦
 早坂 捨藏
 △梶泉村 (村長) 山村 鐵藏
 石井爲太郎 小笠原安太郎
 西川岩二郎 犬山澄治郎
 太田 修一 伊藤 新藏
 守田 重正 川村 重藏
 吉田勘之助 岩間幸次郎
 高松 勇策 神田三太郎
 林 清治 佐々木熊治
 中嶋伊三郎 在田 貫一
 中野三太郎 關根 健藏
 △大正村 (村長) 國上國太郎
 水崎 儀市 小出 忠作
 田中德次郎 梶 與三松
 直江 覽次 谷川 清助
 佐山 美雄 川口熊次郎

片岡増五郎 林中 佐市
 永井 永吉 鳥崎六次郎
 原 信夫 小原 三平
 藤田竹次郎 鳥崎 淺吉
 古川榮治郎 黒田 五郎
 平岡 久吉 佐藤 勝吉
 大田龜己治 川崎小太郎
 田中 多作 高島 益義
 荒 利意 楠木熊太郎
 △川西村 (村長) 窪田 四郎
 村元 勇造 池浦清次郎
 武田五三郎 森 長太郎
 藤田 要 八代 三郎
 佐藤 萬造 太田 吉郎
 奥山豊之助 駒場 丑松
 伊藤甚太郎 有城庄右衛門
 松原 滿芳 佐々木美夫
 八代 一衛 篠田 米司
 竹市 一巳 諸戸 義久
 △芽室村 (村長) 關 祐平
 泉 三郎 岩田 貞造
 伊東 新吉 廣山伊太郎
 竹川 正吉 堀江 鶴吉
 中田善右衛門 林 市作
 竹中吉十郎 横地豊三郎
 坂井幸太郎 高田 喜知
 前塚 茂一 後藤哲二郎
 弦卷 信義

人名錄

竹内 乙助 猪野毛高榮
 田島福次郎 平野 喜七
 吉井 吉藏 林 外松
 早川 孝吉 中村 豊助
 △御影村 (村長) 遠藤 義一
 安宅 平八 竹中 善助
 竹田 茂一 齋藤 兵吾
 森田鹿之助 乾川辰五郎
 吉田直次郎 竹田 謙二
 傳寶源一郎 勝尾爲三郎
 坪井 彌助 森 浪次郎
 △清水町 (町長) 近藤 義郎
 那須 修 大塚 善一
 佐久間久彌 田村 常平
 林 熊之助 松尾 源市
 藤井新太郎 土岐千代次
 西出 岩松 及川重次郎
 菅原 義雄 太田 利市
 吉野喜太郎 杉森 諭作
 馬場 竹司 松平 信介
 高薄 常次 喜多見福吉
 松山金次郎 坂上 民造
 村中健次郎 兒玉文兵衛
 赤堀慶次郎 太田 季三
 △新得町 (町長) 小崎 榮吉
 杉本 義行 乾 範治
 和庄次郎 今井 啓治
 高井 善一 安田 喜一

辻村鐵太郎 高橋 慶吾
 松本 政則 高橋藤次郎
 古川 懷政 金澤 亮
 石畑 久成 湯淺 貢
 宗像 宣幸 鹽見 直平
 森 清次 岩野淺次郎
 △鹿追村 (村長) 高橋 武松
 石塚 長藏 本田 捨吉
 日下 儀平 高橋兵太郎
 宮本 爲八 松岡 正志
 北川與惣吉 堀川 五作
 榊田與次郎 海野 爲吉
 竹原 西右 木幡 宏亮
 菅野 祐喜 坂東 春吉
 白川 昇 岡本丑太郎
 △土幌村 (村長) 上達小二郎
 岡部 金吾 増田 龜三
 齋藤 信敬 森本芳兵衛
 出村 庄助 山本 孝作
 小椋 國藏 森本 捨吉
 富重 辨治 吉田 周作
 川崎 平内 吉田市太郎
 波多野銀市 後藤 貞吉
 伊藤久三郎 香澤伊勢藏
 堀部與三藏 部田德次郎
 △上土幌村 (村長) 門傳 金治
 西川 豊 工藤 勇作

小椋 兼松 西川久四郎
 木呂子敬一 鈴木 恭助
 濱名 齋治 奥野富太郎
 阿部 豐藏 佐々木佐武郎
 片寄 甚作 吉田武一郎
 山内 欣治 寺門小太郎
 堀口順太郎 青山 久吾
 日野 正義 渡部 辰衛
 △音更村 (村長) 土井 廣助
 蓬佛 常藏 清野 廣松
 福田 金六 岸 太六
 久保 田平 浦野儀三郎
 澤田太七郎 相庭 重助
 氏 藤太郎 飯島 種助
 杉山榮太郎 石田 音松
 小高 春雄 黒田久太郎
 白木 文松 山川 森吉
 田中 音吉 山角 信次
 脇原 清一 洞田 静一
 三浦 多八 上村 吉藏
 平尾楨太郎 猫山常太郎
 △幕別村 (村長) 池下 常太
 長尾 所縁 高山 徳藏
 小野 民平 加藤 唯藏
 吉田 太吉 笹々島喜八郎
 吉田菊太郎 金澤 空覺
 笹々井四郎 彌忠田榮吉

谷地田忠松 山川角次郎
 島山 與作 横山平兵衛
 須田 幸逸 鎌田 直治
 久保豊四郎 矢野 幸作
 高島 伴吉 足立 弘
 △池田町 (町長) 那須 正夫
 山本與七郎 本田 譽一
 高森與三吉 鎌田 佐七
 高野清次郎 山尾菊太郎
 坂本 源祐 上野源太郎
 坂本 榮一 本郷 勇吉
 鹿草 龜次 新津信四郎
 佐藤三四八 富山像次郎
 山田榮五郎 山内 義行
 △本別町 (町長) 大橋 佐七
 作間勝三郎 町田 稔
 佐々木吉藏 荒 深四郎
 武田 鳥藏 竹原善次郎
 高岡武一郎 高 定次郎
 井上 菊也 翠 治太郎
 福家 仁龍 倉崎 克己
 森 平治 伊藤 知治
 中澤仙太郎 小須田左馬祐
 笠原 萩吉 野村 幸助
 天野 晴清 上原 福一
 荒木 辰造 森 三郎
 鈴木勝太郎 古山 佐作

人名錄

石川 恒市 柱 藤吉
 新沼彌五郎 山本雄四郎
 松岡八百藏 大浦 剛
 川上 貞通 常丸 又吉
 板倉勘右衛門 澁田 榮
 羽磨卯吉郎 梅森和志利乙
 大竹口勝孝 板東 萬吉
 岡崎 光三 石橋 德藏
 遠國 三郎 方川 三平
 大貫 宗平
 △豐頃村 (村長) 林 勉
 風 伊作 渡邊 英綱
 館盛吉次郎 大江 流
 軍司 翼 種川權次郎
 石田 平藏 吉川 治平
 山保源次郎 種田小三郎
 小西 義清 磐井 辰吉
 井村 宗吾 吉村孝次郎
 川向 利作 櫻井 忠
 △浦幌村 (村長) 野澤 文治
 中川 健藏 小川吉次郎
 谷田 健兒 後藤 仙桂
 四方 武 飛田辰次郎
 北村 甚太 彌津 淺治
 森 信貞 高丸專太郎
 川畑 市松 西田幸次郎
 森 直樹 君 貞次
 小林 得人 木下 德松

△大津村 (村長) 山口 要助
 水澤 一郎 塚越力次郎
 堺 哲彌 五十嵐外三郎
 堂嶽 芳太 出村 清吉
 米澤 喜藏 白石東右衛門
 大井 富藏 江田清太郎
 大西 昌一 井下 一
 山垣 留吉
 △廣尾村 (村長) 小池 清治
 元野 元吉 干場 徹郎
 橋 仁三松 今野 吾助
 高松彦三郎 勝見 幸吉
 菅原 吉松 中川 文藏
 橋 政一 來海 邦衛
 小堀 鐵藏 坂本 順三
 堀田 毅 釜石與三郎
 △大樹村 (村長) 竹内 宇作
 寶泉吉次郎 大戸 昇六
 藤原八百八 鳥井卯三郎
 田中 清介 後藤久四郎
 小松 玉吉 吉田 與市
 二口 久三 内田 省三
 西田 徳市 深澤 有國
 三島 新市 遠藤 清作
 一圓 長三 木幡 長助
 今村 勇作 鈴木 幹彌
 島田 高平 堀川 吉藏
 木村 鶴吉 及川 靜

△根室支廳
 △根室町 (町長) 松尾 豐次
 高坂 勝三 野田 鐵馨
 田中 敬義 佐藤 薰明
 富山 政吉 木村兵右衛門
 田中 謙治 延原 重男
 伊香榮次郎 小野寺六郎
 熊谷 近吉 稻垣 文夫
 山本國之助 佐藤 政吉
 野口 次作 古澤幸右衛門
 碓氷勝三郎 中西 清松
 佐藤 正吉 齋藤 與作

△和利村 (村長) 石井 政治
 中山 一郎 村上 敏
 竹原平太郎 石橋榮之助
 齊藤 宗一 稻葉 房吉
 平野 定一 守谷金次郎
 △和田村 (村長) 西田 豐平
 佐々木成三 田中多三郎
 狩野 金藏 松浦 左忠
 能戶直太郎 澤井市太郎
 菊地 清藏 丸勢善一郎
 天野九十九 横濱 與吉
 千田 兵吉 山下喜久藏
 △齒舞村 (村長) 廣瀬 圓藏
 多田善三郎 干場 庄吉
 小野寺 勇 河合 米次
 内海千代志 宮島 榮藏
 田村福太郎 惣萬淺次市
 舛濱喜一郎 柿本 要松
 舛濱 周吉 武隈米次郎
 大高傳之助 鳥作 次郎
 山崎庄五郎 竹内 運吉
 竹脇 吉榮 高橋熊太郎
 △別海村 (村長) 原 熊一
 森川 太郎 山口 常壽
 中尾 明 木島 凌
 石田 四郎 榎田 新一
 光延清一郎 平井 清壽
 菊地 喜平 長谷川善四郎

人名錄

石澤 一生 田村 富治
 △標茶村 (村長) 廣瀬榮佐吉
 北村休二郎 阿部清右衛門
 今野熊次郎 田中 又八
 曾我 秀明 大橋 虎雄
 安部重左衛門 石川 慶祐
 内谷權一郎 堀田初太郎
 渡部 榮次 鎌田秀之助
 中野渡末吉 原田 常春
 木下 勇 小城 博彦
 佐藤 正男 大屋四郎兵衛
 △弟子屈村 (村長) 青木 貞行
 今泉福太郎 土沼 助吉
 横山 留吉 三浦 末松
 西澤政次郎 伊藤 義雄
 大坂 純三 磯田 卯吉
 千葉 文七 齋藤 昇
 中野 高十 岩澤與太郎
 佐藤 精 加藤 正春
 羽田喜一郎 貝塚 秋三
 切原 大藏 小濱 豐藏
 △阿寒村 (村長) 服部増太郎
 土田 耕助 山浦 庄助
 安藤力次郎 大森 春治
 木村竹四郎 阿部 剛三
 後藤 東一 曾我部友市
 小松榮一郎 眞壁 巖
 内田 與市 伊藤 秀雄

野澤定太郎 武隈作右衛門
 原 香松 吉田 武男
 高橋 淺吉 堀田 龜作
 △鶴居村 (村長) 小畑 鶴之介
 黒田權兵衛 和田 信
 細沼子之松 河原 静太
 松林 慶藏 植田 薫明
 小田 義正 及川 清作
 渡部佐一郎 野本喜四郎
 保田 諒庵 瀬川 壽雄
 △白糠村 (村長) 赤根喜四郎
 岩淵 勇 黒木 俊吾
 對木龜次郎 棚野 嘉吉
 山本政次郎 中島 憲治
 坂本 正能 結城 四郎
 宮崎 利基 細谷金太郎
 大石 實秀 荒磯 敏仰
 木原 周藏 川瀬善太郎
 山崎 五郎 前川 政吉
 和田 軍治 尾田八右衛門
 △音別村 (村長) 川口 正義
 青田 清 徳地 種吉
 大石儀平治 相澤三五郎
 松本龜之助 菅原竹之助
 瀧山新太郎 竹村 通顯
 吾妻 卯吉 佐藤辰五郎
 小野重二郎 河合太三郎
 宮崎 武美 水野 準治

△昆布森村 (村長) 日裏庄太郎
 遠藤 一郎 川田專次郎
 片野 泰 富樫克三郎
 能登嘉一郎 梶川 民三
 紺野 三吉 谷口 次作
 新保 鶴松 内海榮太郎
 加藤 清吉 木下林四郎
 △厚岸町 (町長) 齊藤 齊市

△根室支廳
 △根室町 (町長) 松尾 豐次
 高坂 勝三 野田 鐵馨
 田中 敬義 佐藤 薰明
 富山 政吉 木村兵右衛門
 田中 謙治 延原 重男
 伊香榮次郎 小野寺六郎
 熊谷 近吉 稻垣 文夫
 山本國之助 佐藤 政吉
 野口 次作 古澤幸右衛門
 碓氷勝三郎 中西 清松
 佐藤 正吉 齋藤 與作

△和田村 (村長) 石井 政治
 中山 一郎 村上 敏
 竹原平太郎 石橋榮之助
 齊藤 宗一 稻葉 房吉
 平野 定一 守谷金次郎
 △和田村 (村長) 西田 豐平
 佐々木成三 田中多三郎
 狩野 金藏 松浦 左忠
 能戶直太郎 澤井市太郎
 菊地 清藏 丸勢善一郎
 天野九十九 横濱 與吉
 千田 兵吉 山下喜久藏
 △齒舞村 (村長) 廣瀬 圓藏
 多田善三郎 干場 庄吉
 小野寺 勇 河合 米次
 内海千代志 宮島 榮藏
 田村福太郎 惣萬淺次市
 舛濱喜一郎 柿本 要松
 舛濱 周吉 武隈米次郎
 大高傳之助 鳥作 次郎
 山崎庄五郎 竹内 運吉
 竹脇 吉榮 高橋熊太郎
 △別海村 (村長) 原 熊一
 森川 太郎 山口 常壽
 中尾 明 木島 凌
 石田 四郎 榎田 新一
 光延清一郎 平井 清壽
 菊地 喜平 長谷川善四郎